Roland

V31

リファレンス・マニュアル

目次

準備編 4

V31の概要 4

ドラム・キットとインストゥルメント 4

インストゥルメント・エクスパンション 5

キット・パック 6

ラックとスロット 6

メモリーについて 9

奏法について 10

パッド 10

ハイハット 12

シンバル 13

各部の名称とはたらき 15

トップ・パネル 15

サイド・パネル／フロント・パネル 17

ボトム・パネル 19

リア・パネル（接続する） 19

電源を入れる／切る 20

電源を入れる 21

電源を切る 21

一定時間が経つと自動で電源が切れるようにする（AUTO OFF） 22

ハイハットの設定をする 22

例）VH-10の設定をする 23

基本操作 25

演奏編 27

ドラム・キットを選ぶ 27

KIT画面について 27

KIT画面から操作できる機能 29

ドラム・キットの音を確認する（キット・フレーズ） 29

リストからドラム・キットを選ぶ 29

インストゥルメント・エクスパンション／キット・パックのドラム・キットを読み込む 30

インストゥルメント・エクスパンション／キット・パックを自動的にスロットにロードする（Auto Slot Load） 32

鳴っている演奏音をすべて停止する（ALL SOUND OFF） 33

クリックを鳴らす 34

クリックをオン／オフする 34

テンポを変更する 34

拍子の設定を変更する 35

クリックの設定を変更する 35

コーチ・モードで練習する 35

フレーズに合わせて正確に叩く（PHRASE TRAINER） 35

ビートに合わせて正確に叩く（TIME CHECK） 37

身体でテンポを覚える（QUIET COUNT） 40

変化するテンポに合わせて叩く（AUTO UP/DOWN） 42

一定の強さで叩く（STROKE MONITOR） 44

強く速く叩く（BLAST BEAST） 45

曲に合わせて演奏する 47

スマートフォンの曲に合わせて演奏する 47

V31のソングに合わせて演奏する 49

指定した区間を繰り返し再生させる（A-Bリピート） 51

ソングごとの設定を変更する／情報を見る 53

オーディオ・ファイルをクリックとして再生する（クリック・トラック） 54

お気に入りのドラム・キットを登録する／呼び出す 55

お気に入りに登録する 55

登録したドラム・キットを呼び出す 56

ボタンの誤操作を防ぐ（セーフティー・モード） 57

セーフティー・モードを解除する 59

セーフティー・モード中にできる操作 59

録音編 60

演奏を録音する 60

SMF録音する（DRUM REC） 60

オーディオ録音する（AUDIO REC） 62

ソングに合わせて演奏を録音する 66

DRUM RECの録音データに名前を付ける 67

DRUM RECの録音データをSDカードにエクスポートする（SONG EXPORT） 68

パソコンと接続して録音する 70

ドラム・キット・カスタマイズ編 71

ドラム・キットを簡単にエディットする（EZ EDIT） 71

インストゥルメントを選ぶ 71

設定するパッドを選ぶ 72

チューニングをする 72

マフリング（ミュート）の設定をする 73

インストゥルメントやパッドの音量を調節する 74

ドラム・キットを細かくエディットする（KIT EDIT） 74

インストゥルメントをエディットする（INSTRUMENT） 75

パッドの音量やパンを設定する（PAD VOL） 88

パッドの音質を調節する（PAD EQ） 90

パッドの音量変化を調節する（PAD COMP） 91

演奏する場所の残響を再現する（AMBIENCE） 91

ドラム・キットの音量を設定する（KIT VOL） 94

キットの音質を調節する（KIT EQ） 95

キットの音量変化を調節する（KIT COMP） 96

エフェクトをかける（BUS FX） 96

ドラム・キットに関するさまざまな設定をする（KIT OPTIONS） 99

クロス・スティックの設定をする（XSTICK） 100

ブラシの設定をする（BRUSH） 101

スネアへの共鳴の設定をする（BUZZ） 102

ストレイナーの設定をする（STRAINER） 103

ドラム・キットの名前を変更する（KIT NAME） 106

ボタンの点灯色を設定する（KIT COLOR） 107

KIT画面の背景や文字サイズを設定する（KIT VIEW） 108

V31全体で共通のテンポを使用する（KIT TEMPO） 110

現在選んでいるドラム・キットでフレーズを再生する（KIT PHRASE） 111

パッドを叩いたときに特定のパッドの音をミュートする（MUTE GROUP） 112

パッドごとにMIDI送受信の設定をする（KIT MIDI） 113
音色の変化をコントロールする（POS/PEDAL） 115
インストゥルメント・エクスパンション／キット・パックの設定をする 117
ラックのインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックをスロットに読み込む（LOAD TO SLOT） 118
ドラム・キットに不足しているインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックをロードする.....119
インストゥルメント・エクスパンション／キット・パックの割り当てを解除する（REMOVE） 120
スロットの領域を最適化する（OPTIMIZE） 122
インストゥルメント・エクスパンション／キット・パックの並び順を変える（SORT BY...） 122
インストゥルメント・エクスパンション／キット・パックをアンインストールする（UNINSTALL） 123
オーディオ・ファイルを取り込む／鳴らす（USER SAMPLE） 124
オーディオ・ファイルを取り込む.....124
ユーザー・サンプルをインストゥルメントに割り当てる／鳴らす 126
ユーザー・サンプルの発音方法を設定する 127
ユーザー・サンプルを編集する（EDIT） 128
ユーザー・サンプルを整理する.....128
エディット前のドラム・キットと聴き比べをする／エディット前に戻す（SNAPSHOT） 130
バーチャル・パッドを使う.....132

ユーティリティー編 134
パソコンやスマートフォンと接続して使う.....134
USBドライバーの設定をする.....134
パソコンでエディター・アプリ「V31 Editor」を使う.....135
USBオーディオの出力を設定する.....136
USBオーディオの入力を設定する.....137
USBオーディオの経路を設定する（ROUTING） 139
設定をコピーする（COPY） 141
例1）ドラム・キットをコピーする（KIT） 143
例2）複数のインストゥルメントをセットでコピーする（INST SET） 145
ドラム・キットを順番に呼び出す（SET LIST） 149
セット・リストを作る 150
セット・リストを使う 152

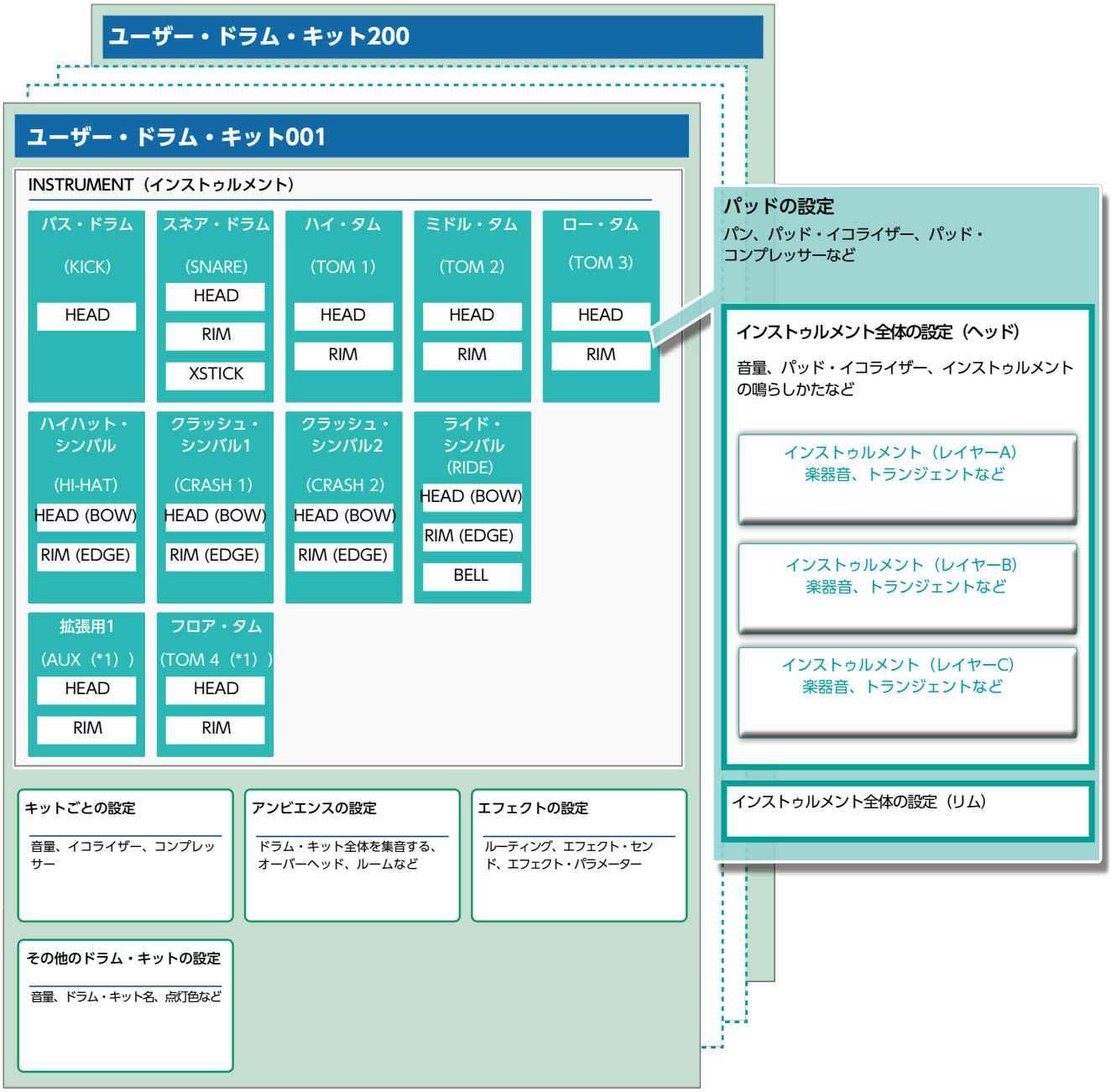
設定編 154
トリガーの設定.....154
パッドの種類を設定する.....154
デジタル接続対応パッド（別売）の設定をする 155
パッドの感度を個別に調整する.....161
ハイハットの設定をする.....164
トリガーを細かく設定する.....164
TRIGGER IN端子（AUX/TOM4）の設定をする 165
デジタル接続対応パッドを細かく設定する 165
各パッドのトリガー情報を見る.....166
他のパッドの振動による誤発音を防ぐ（クロストーク・キャンセル） 166
V31とV-Drumsパッドをワイヤレス接続する.....168
DH-10とWT-10をペアリングする.....168
パッドのトリガーを設定する 173
V31とパッドのペアリングを解除する（アンペアリング） 181
DH-10やWT-10のファームウェア・アップデート....182
V31でDWeパッドを使う 182
セットアップ手順.....183
1. V31にDWe DrumLink™ハブを接続する.....184
2. DrumLink™ハブとDWeパッドをペアリングする.184
3. DWeパッドのアサインを設定する 185
4. DWeパッドのキャリブレーションをする.....186
5. DWeパッドの感度を調節する 194
V31とDWeパッドのペアリングを解除する（アンペアリング） 200
DWe DrumLink™ハブや各パッドのファームウェア・アップデート.....201
SDカードを初期化する.....202
データをバックアップする（BACKUP） 203
SDカードのフォルダー構成.....204
SDカードにバックアップする（SAVE） 204
バックアップ・データをSDカードから読み込む（LOAD） 206
SDカードにドラム・キットをバックアップする（SAVE 1 KIT） 210
キット・バックアップ・データをSDカードから読み込む（LOAD 1 KIT） 211
バックアップ・データをSDカードから削除する（DELETE／DEL 1 KIT） 215
SDカードの使用状況を確認する（INFO） 217
V31全体の設定をする（SYSTEM） 217
Roland Cloud ConnectアプリとWi-Fiで接続する（Wi-Fi） 218
MIX IN端子とBluetoothオーディオの入力音量を設定する（AUDIO IN） 219
MIDIの設定をする（MIDI） 219
音の出力先を設定する（OUTPUT） 220
その他の設定（OPTION） 224
V31本体に関する情報を表示する（INFO） 225
Wi-Fi経由でV31本体をアップデートする.....226
工場出荷時の設定に戻す.....228
ドラム・キットを工場出荷時の設定に戻す.....230
Roland Cloudのライセンス情報も含めて工場出荷状態に戻す 232

資料編 234
表示されるメッセージ一覧.....234
エラー・メッセージ一覧.....234
その他のメッセージ.....237
トラブルシューティング.....237
主な仕様.....239
使用上のご注意.....241

V31の概要

ドラム・キットとインストゥルメント

V31では、各パッドを叩いたときに鳴る音色を「インストゥルメント」と呼びます。各パッドに割り当てた音（インストゥルメント）のセットを「ドラム・キット」と呼びます。



メモ

- ドラム・キットの設定を変更すると、変更した設定が自動的に保存されます。
- ドラム・キットの詳しいパラメーター構成については、『データ・リスト』（Web）をご覧ください。

*1　：AUXとTOM4は同時に使用することはできません。TRIGGER IN端子（AUX/TOM4）に接続したパッドでどちらを鳴らすか設定することができます。

➡「TRIGGER IN端子（AUX/TOM4）の設定をする（P.165）」

インストゥルメント

スネア・ドラム、キック・ドラムなどの楽器音のことを「インストゥルメント」といいます。

各パッドの「ヘッド」と「リム」など、叩き分ける箇所それぞれにインストゥルメントが割り当てられています。各パッドのインストゥルメントは、最大3つ（レイヤーA～C）を重ねて鳴らすことができます（レイヤー）。

各インストゥルメントの設定を変更することで、自分の好みの音にすることもできます。インストゥルメントは、ドラムの胴の深さによる音色変化を再現したり、トランジェントの効果などをかけたりすることもできます。

➡「インストゥルメントをエディットする（INSTRUMENT）（P.75）」

インストゥルメントは、プリセット（本体内蔵）以外に、以下をインストゥルメントとして鳴らすことができます。

- V31のスロットに読み込んだインストゥルメント・エクスパンションやキット・パックのインストゥルメント。
  ➡「インストゥルメント・エクスパンション（P.5）」
- パソコンなどで作成したオーディオ・ファイル（ユーザー・サンプル機能）
  ➡「オーディオ・ファイルを取り込む／鳴らす（USER SAMPLE）（P.124）」

キットごとの設定

キットごとの音量、音量変化（キット・コンプレッサー）、音質（キット・イコライザー）を調節することができます。

アンビエンス

演奏する場所の残響音を再現するエフェクトのことを「アンビエンス」といいます。

オーバーヘッド・マイク（ドラム・キット全体を集音）、ルーム・アンビエンスやリバーブ（部屋の種類や大きさ、残響音など）を調整することができます。

アンビエンスはドラム・キットごとに効果をかけることができます。また、パッドごとに効果をどれくらいかけるかを設定することができます。

➡「演奏する場所の残響を再現する（AMBIENCE）（P.91）」

エフェクト

パッドごとにさまざまなエフェクトをかけることができます。

バス（音声の通り道）に割り当てるエフェクトやルーティング（接続順）を設定することができます。

➡「エフェクトをかける（BUS FX）（P.96）」

インストゥルメント・エクスパンション

「インストゥルメント」や「ドラム・キット」は、本体内蔵（プリセット）に加えて、「インストゥルメント・エクスパンション」で提供されるものがあります。

インストゥルメント・エクスパンションは、複数の「ドラム・キット」と、サンプル波形を含む高度なモデリング音色である「インストゥルメント」のパッケージです。

Roland Cloudから、以下のようなインストゥルメント・エクスパンションが提供されます。

- DWをはじめとするドラムの名器
- 過去のV-Drumsフラッグシップ・モデルのサウンド
- アーティストとコラボレーションしたサウンド

インストゥルメント・エクスパンション

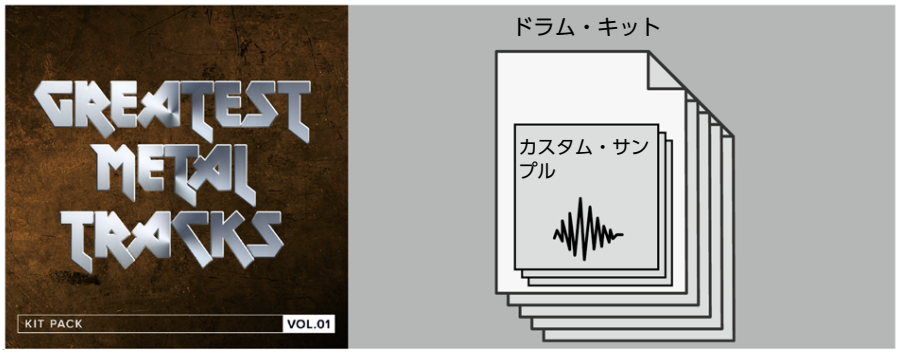
キット・パック

キット・パックは、オーディオ・エンジニアが制作したカスタム・サンプルを使用し、プロ・ドラマーが完成させたドラム・キットのパッケージです。

Roland Cloudから、以下のようなキット・パックが提供されます。

- ロックやポップスなどの名曲を再現したドラム・キット

キット・パック

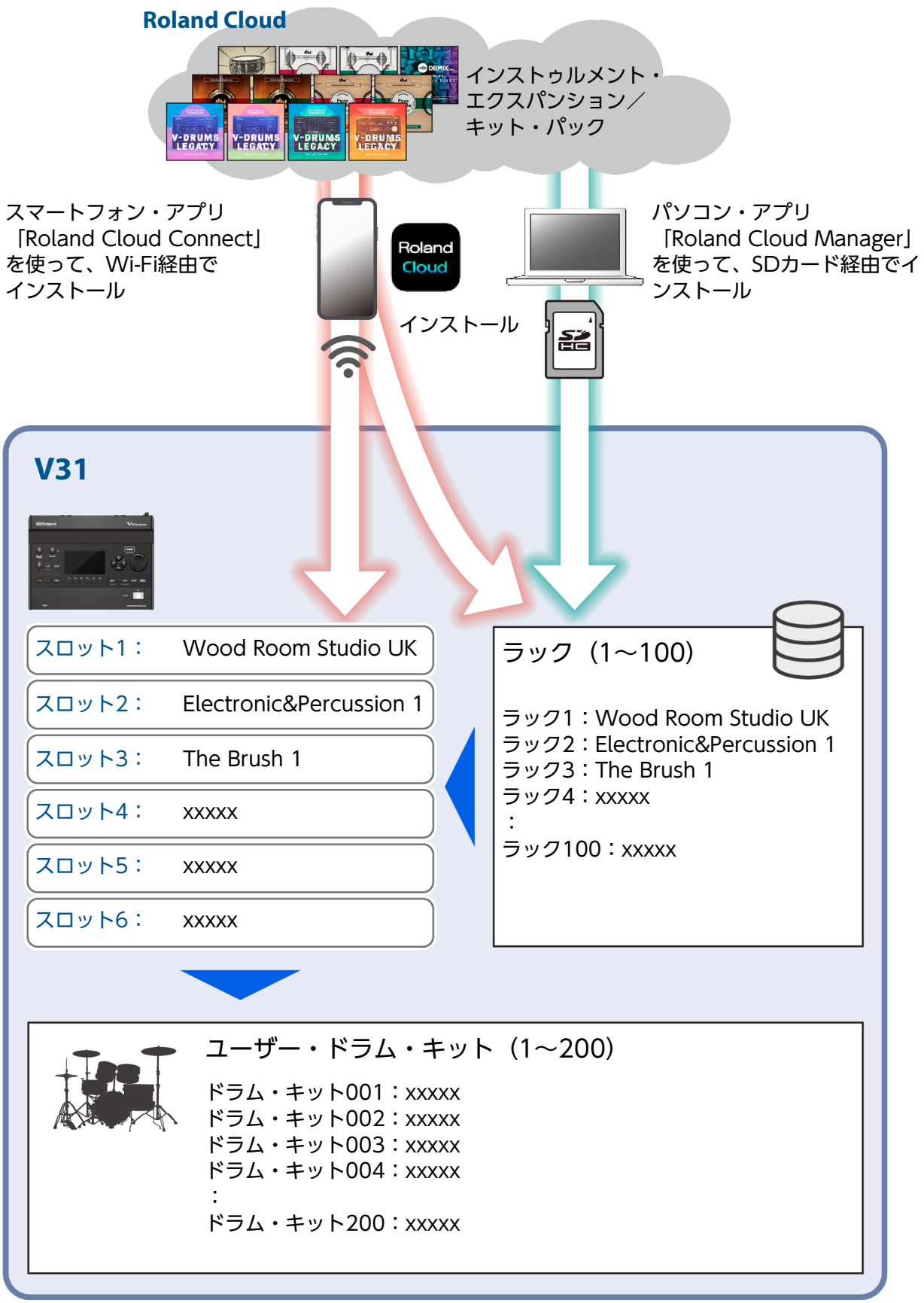


※キット・パックは、特定のドラム・サウンドをローランドが独自に再現したものです。
楽曲の所有者とローランドとの間に提携関係やライセンス契約等は一切ありません。

ラックとスロット

Roland Cloudから、さまざまなインストゥルメント・エクスパンションやキット・パックが提供されます。

Roland Cloudから提供されるインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックは、スマートフォンのアプリ「Roland Cloud Connect」またはパソコンのアプリ「Roland Cloud Manager」を通じて、V31の「ラック」にインストールし、「スロット」に読み込むことができます。

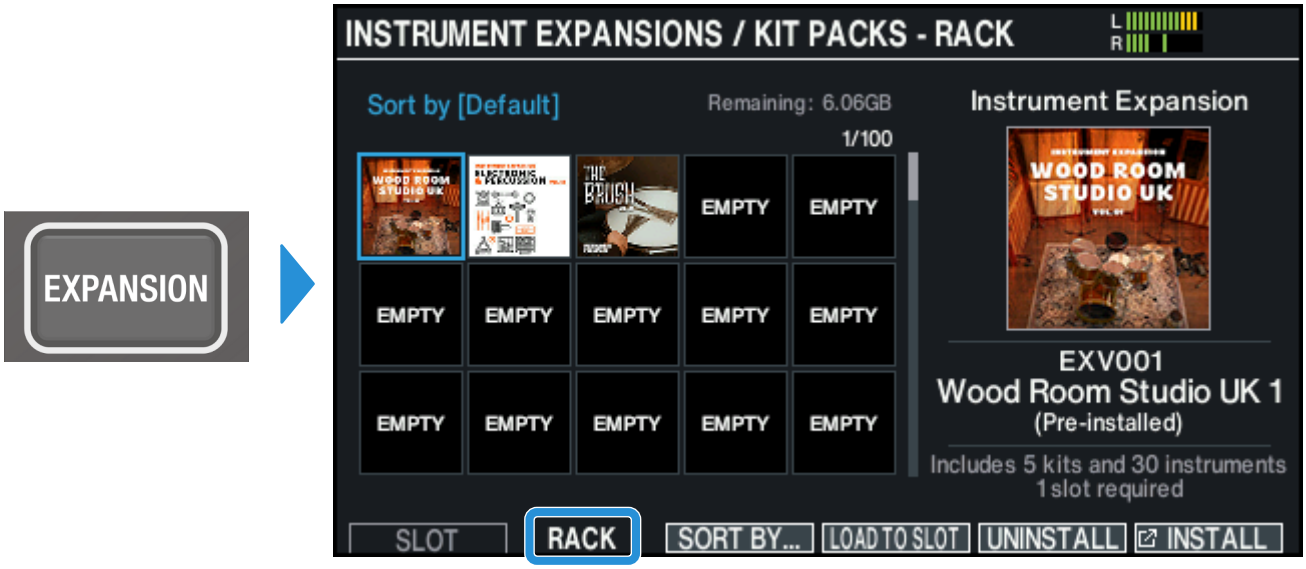


メモ

- スマートフォン・アプリ「Roland Cloud Connect」を使ったインストール方法については、別紙『Roland Cloud Connectセットアップ・ガイド』をご覧ください。
- パソコン・アプリ「Roland Cloud Manager」を使ったインストール方法については、『Roland Cloudご利用ガイド』（Web）をご覧ください。

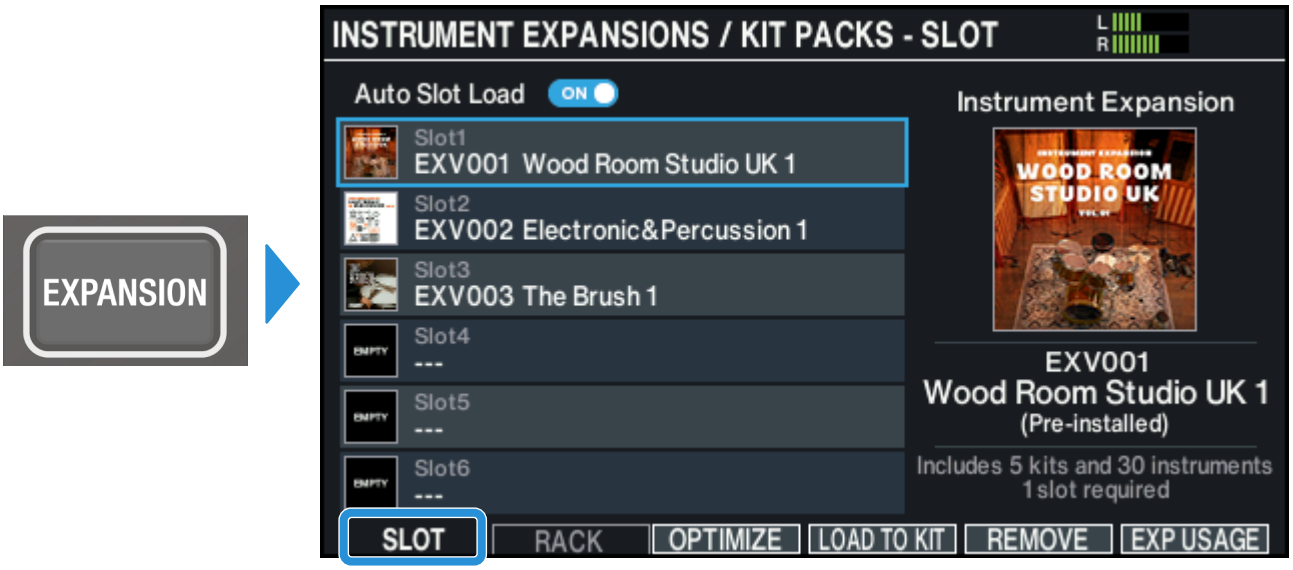
ラック（1～100）

「ラック」は最大100個のインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックをインストールすることができる保存エリアです。



スロット（1～6）

ラックにインストールしたインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックは「スロット」に読み込むことで演奏できるようになります。スロット1～6は、最大6個のインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックを読み込むことができます。



メモ

ラックとスロットの1～3には工場出荷時からインストゥルメント・エクスパンションが読み込まれています。

➡「ラックのインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックをスロットに読み込む（LOAD TO SLOT）（P.118）」

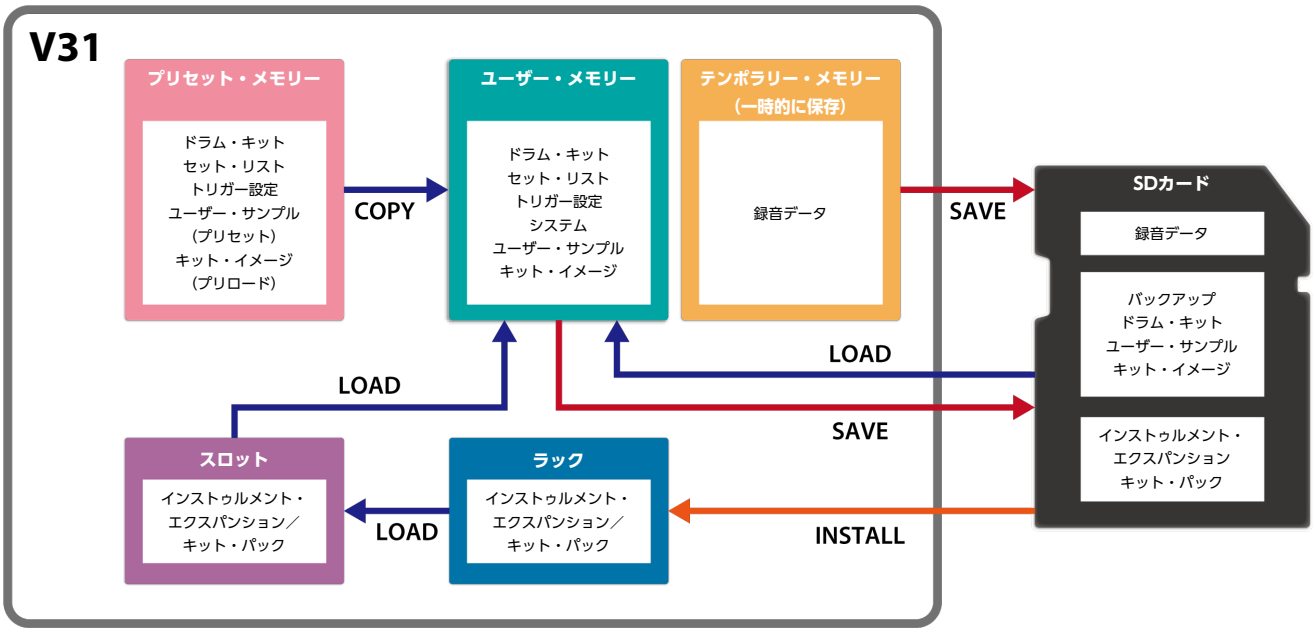
ユーザー・ドラム・キット（001～200）

スロット1～6にあるインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックの中のドラム・キットは、ユーザー・ドラム・キット001～200にロードすることで、［KIT］ボタンやキット・リストからすぐに呼び出して演奏することができます。

※工場出荷時のドラム・キットに上書きして保存することができます。工場出荷時のドラム・キットに戻したい場合は、一括またはドラム・キット単位で戻すことができます。
詳しくは「工場出荷時の設定に戻す（P.228）」、「ドラム・キットを工場出荷時の設定に戻す（P.230）」をご覧ください。

メモリーについて

ドラム・キットやトリガー設定などの設定が記憶（保存）されている場所を、「メモリー」と呼びます。



プリセット・メモリー

工場出荷時の設定が記憶されています。

プリセット・メモリーのデータは、ユーザー・メモリーにコピーして工場出荷時の設定に戻すことができます。

➡「工場出荷時の設定に戻す（P.228）」

以下の設定が、プリセット・メモリーに記憶されています。

- ドラム・キット（P.27）
- セット・リスト（P.149）
- トリガー設定（P.154）
- ユーザー・サンプル（P.124）（プリセット）
- キット・イメージ（P.109）（プリロード）

※ユーザー・サンプル（プリセット）はコピーできません。また、ファクトリー・リセットを実行することで、ユーザー・メモリーのユーザー・サンプルを工場出荷時の状態に戻すことができます。

ユーザー・メモリー

エディットや演奏に使用する設定が記憶されます。

SDカードやプリセット・メモリーのデータを読み込む、またはコピーすることもできます。

➡「データをバックアップする（BACKUP）（P.203）」

以下の設定が、ユーザー・メモリーに保存されています。

- ドラム・キット（P.27）
- セット・リスト（P.149）
- トリガー設定（P.154）
- システム
- ユーザー・サンプル（P.124）
- キット・イメージ（P.109）

テンポラリー・メモリー（一時的に保存）

V31で録音したデータ（1曲）を、本体の一時的なエリアに記憶します。

テンポラリー・メモリーの録音データは、SDカードに保存したり、オーディオ・ファイル（WAV）やSMFでSDカードにエクスポートしたりすることができます。

※ 電源を切ると、テンポラリー・メモリーに録音したデータは消去されます。

➡「SMF録音する（DRUM REC）（P.60）」
➡「オーディオ録音する（AUDIO REC）（P.62）」
➡「DRUM RECの録音データをSDカードにエクスポートする（SONG EXPORT）（P.68）」

ラック、スロット

インストゥルメント・エクスパンション／キット・パックを記憶します。

➡「インストゥルメント・エクスパンション／キット・パックの設定をする（P.117）」

SDカード

SDカードには、ユーザー・メモリーに保存されている設定を1セットとして、99セットまで保存（バックアップ）しておくことができます。

バックアップとは別に、ドラム・キットを999個保存することができます。

V31の演奏も、SDカードに直接録音することができます。

また、ユーザー・サンプル、キット・イメージとして取り込む画像、パソコン・アプリ「Roland Cloud Manager」からダウンロードしたインストゥルメント・エクスパンションは、SDカード経由でV31に取り込みます。

メモ

- SDカードに保存したデータは、ユーザー・メモリーにロードまたはコピーすることができます。詳しくは「SDカードにバックアップする（SAVE）（P.204）」をご覧ください。
- SDカードのフォルダー構成については、「SDカードのフォルダー構成（P.204）」をご覧ください。

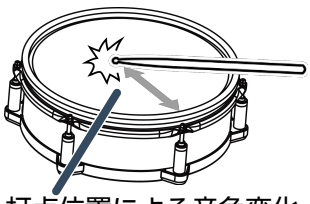
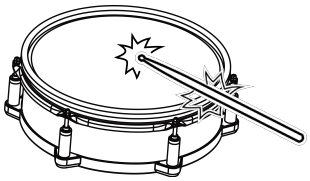
奏法について

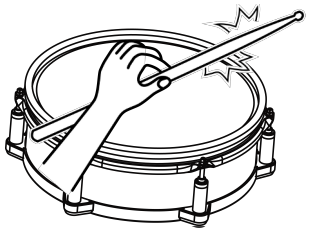
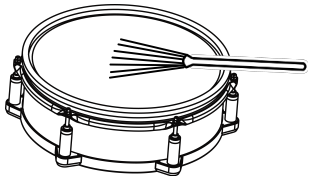
V31は、アコースティック・ドラム同様、さまざまな奏法に対応しています。

注意

- 木製や樹脂製のスティックをお使いください。カーボン製や金属製のスティックを使うと、センサーが誤動作することがあります。
- ナイロン製のブラシをお使いください。金属製のブラシを使うと、センサーが誤動作したりパッドを傷付けたりすることがあります。

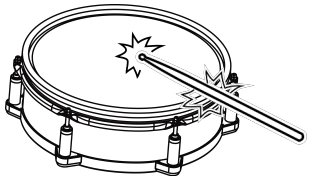
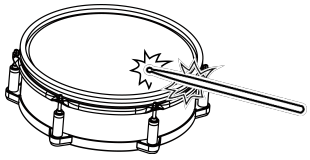
パッド

ヘッド・ショット  打点位置による音色変化	ヘッド部を叩きます。 特定のスネア音色／パッド（PD-12Pなど）では、ヘッドの中心から外周部にかけて叩いた位置の違いによる自然な音色変化が得られます。
リム・ショット 	ヘッド部とリム部を同時に叩きます。 ヘッド・ショット時とは異なる音色（リム音色）が鳴ります。

クロス・スティック奏法 	ヘッドに触れないようにリム部のみを叩きます。 リム・ショット奏法時にはリム音色、クロス・スティック奏法時にはクロス・スティック音色というように、各奏法に対応した音色を鳴らし分けることができます。 リム・ショット奏法に対応するパッド（PD-12Pなど）を専用接続ケーブルの「SN」に接続するか、クロス・スティック奏法が可能なデジタル接続対応のパッド（PD-14DSX、PD-140DSなど）を接続して、スネアに割り当てます。 PD-14DSX、PD-140DSでは、ヘッドに手を置きながらリム部を叩きます。
ブラシ奏法 	ブラシでこする表現（ブラシ・スイープ奏法）ができます。 専用接続ケーブルの「SN」にメッシュ・ヘッドのパッド（PD-12Pなど）を接続するか、デジタル接続対応のパッド（PD-14DSX、PD-140DSなど）を接続して、スネアに割り当てます。 ※ スネアのブラシ音色がアサインされたドラム・キットで、Brush Switchが「ON」のときにブラシ・スイープ奏法をすることができます。 ➡「ドラム・キットに関するさまざまな設定をする（KIT OPTIONS）（P.99）」

リム・ショットのニュアンスによる音色変化

特定のスネア音色／パッド（PD-12Pなど）では、リム・ショットの微妙な叩きかたの違いによって音色のニュアンスが変化します。

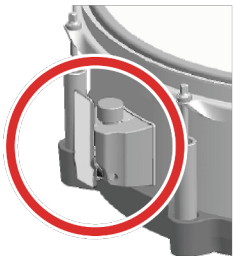
通常のリム・ショット （オープン・リム・ショット） 	ヘッド中心部とリム部を同時に叩きます。
浅いリム・ショット （シャロウ・リム・ショット） 	ヘッドのリムに近い部分とリム部を同時に叩きます。 タム音色はシャロウ・リム・ショットに対応していません。

ストレイナーの操作（PD-14DSX）

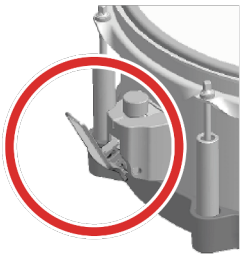
ストレイナー機能付きのスネア（PD-14DSX）の場合、ストレイナーのレバーを操作して、特定のスネア音色のスネア・ワイヤー（響き線）をスネア・サイド（裏面）に付けたり（オン）離したり（オフ）することができます。

レバーを操作する速度に応じて、操作音の音量が変化します。また、スネア・ワイヤーの操作以外にも、エフェクトのコントロール機能などもアサインすることができます。

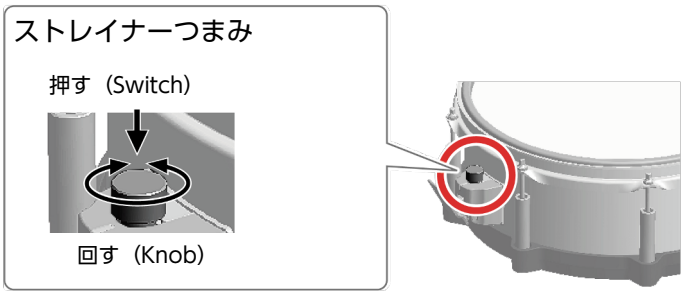
オン



オフ



ストレイナーつまみを回して、特定のスネア音色のスネア・ワイヤーの張り具合の調節をしたり、つまみを押してソングの再生／停止をしたりと、さまざまな機能をアサインすることができます。



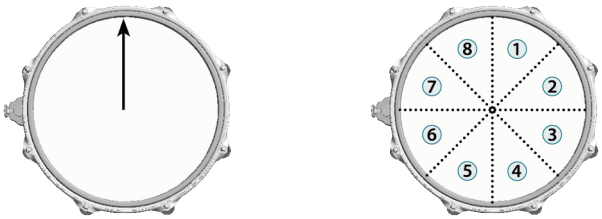
➡詳しくは「ストレイナーの設定をする（STRAINER）（P.103）」をご覧ください。

デジタル・ドラムの打点位置検出について

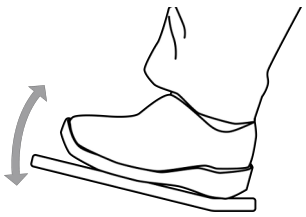
デジタル接続対応のパッドでは、パッドのどの部分を叩いたのか位置を検出しています（打点位置検出）。

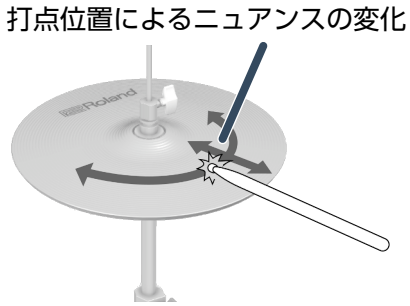
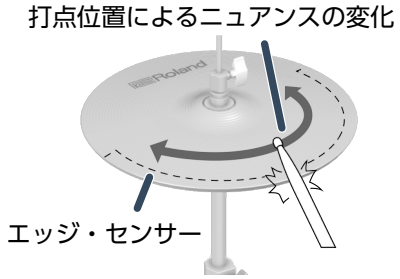
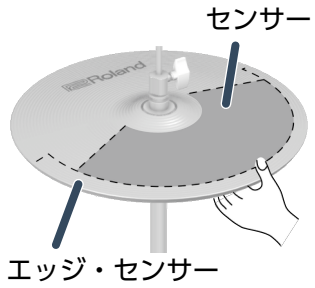
たとえば、打面の中心または端、打面の右側または左側など、打点位置に応じてスネア音色が変化します。

打面の中心か端か　　打面のどの位置を叩いているか

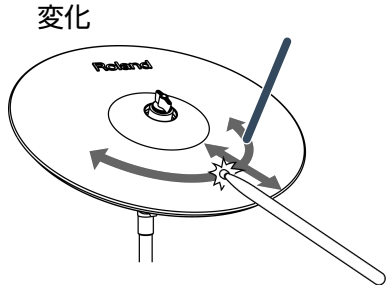


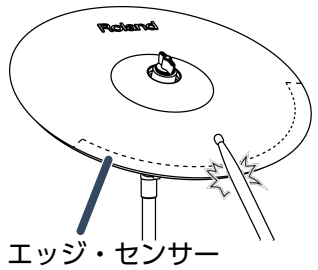
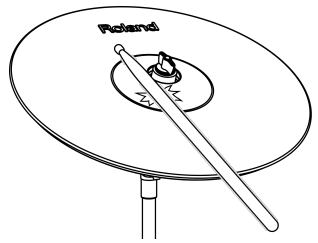
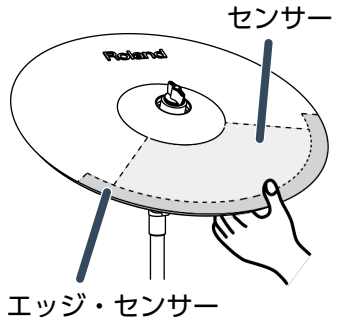
ハイハット

オープン／クローズ 	ハイハット・スタンドのペダルの踏み込み具合により、オープンからクローズまでハイハットの音色が連続的に変化します。 フット・クローズ（ペダルを踏み込んで鳴らす）やフット・スプラッシュ（ペダルを踏み込んで瞬時にオープンして鳴らす）も可能です。
プレッシャー （VH-14D、VH-13） 	クローズ状態からさらにペダルを踏み込んでハイハットを叩くと、踏み込む強さに応じて変化したクローズの音色を鳴らすことができます。 VH-11、VH-10、FD-9、FD-8はプレッシャーに対応していません。

ボウ・ショット  	トップ・シンバルの打面を叩く奏法です。 接続したトリガー・インプットのヘッド側の音色が鳴ります。 打点位置検出が可能なパッド（VH-14Dなど）を使用すると、特定のハイハット音色では、ボウ部の打点に応じて音色のニュアンスが変化します。
エッジ・ショット  	トップ・シンバルのエッジ（端）をスティックのショルダー部で叩く奏法です。図のエッジ・センサーの位置が叩かれたときに、接続したトリガー・インプットのリム側の音色が鳴ります。 エッジを真横から叩いても正しく鳴りません。図のように叩いてください。 打点位置検出が可能なパッド（VH-14Dなど）を使用すると、特定のハイハット音色では、エッジ部の打点に応じて音色のニュアンスが変化します。
チョーク奏法  	ハイハットを叩いたあと、エッジ・センサーを手でチョークする（つかむ）と、音が止まります。 VH-14Dは、センサーの感知する範囲に手を置いても、音が止まります（ミュート）。 チョークやミュート状態で叩くと、音が短く鳴ります。

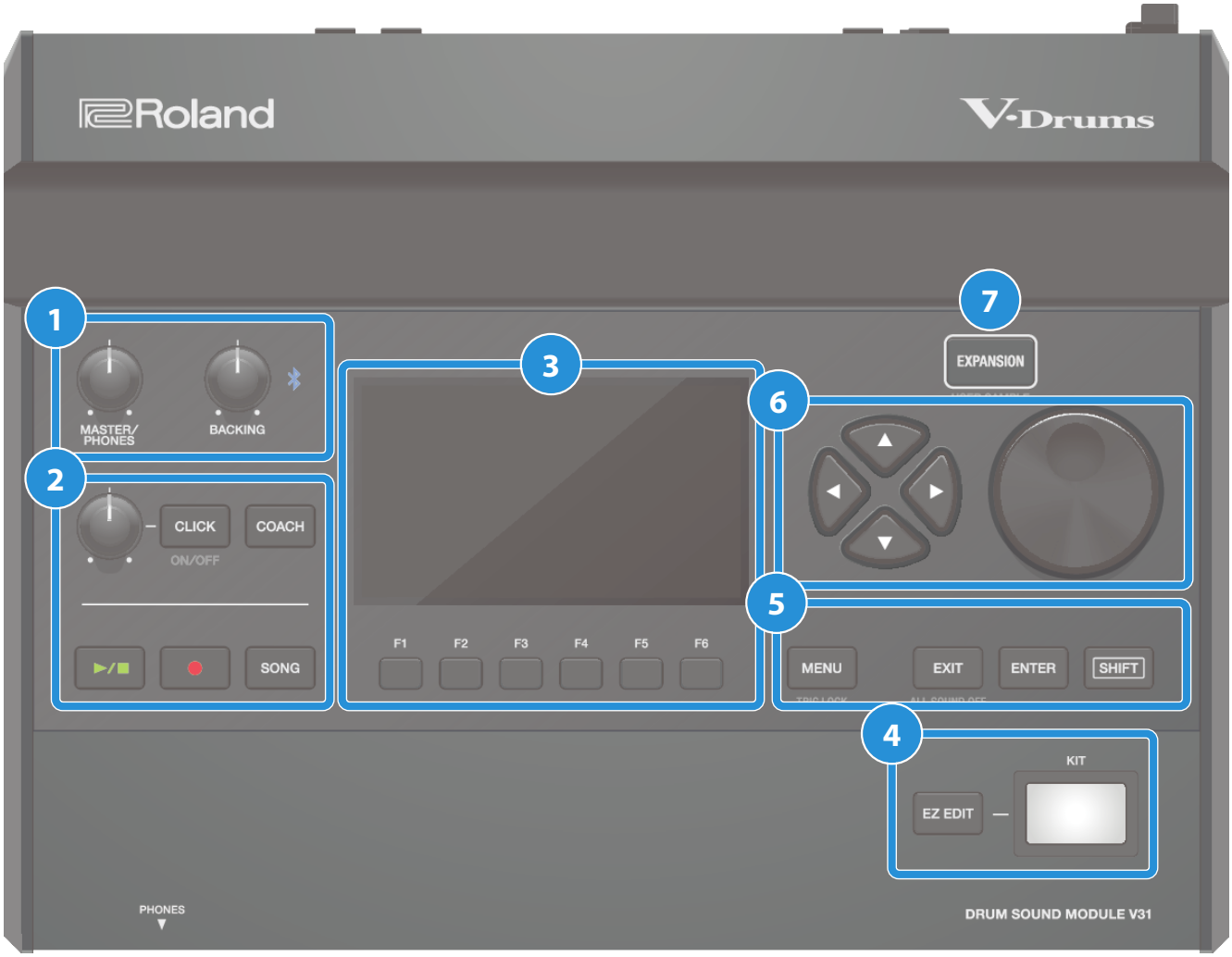
シンバル

ボウ・ショット  	シンバルの打面を叩く最も一般的な奏法です。接続したトリガー・インプットのヘッド側の音色が鳴ります。 特定のライド音色では、ボウ部の打点位置に応じて音色のニュアンスが変化します。

エッジ・ショット  	エッジ（シンバルの端）をスティックのショルダー部で叩く奏法です。図のエッジ・センサーの位置が叩かれたときに、接続したトリガー・インプットのリム側の音色が鳴ります。 エッジを真横から叩いても正しく鳴りません。図のように叩いてください。 打点位置検出が可能なパッド（CY-18DRなど）を使用すると、特定のシンバル音色では、エッジ部の打点に応じて音色のニュアンスが変化します。
ベル・ショット 	ベル部を叩く奏法です。図のベル部が叩かれたときにベルの音色が鳴ります。 専用接続ケーブルの「RD」と「RDB」にライド・3ウェイ・トリガーに対応したパッド（CY-14R-Tなど）を接続するか、ベル・ショット奏法が可能なデジタル接続対応のパッド（CY-18DRなど）を接続して、ライドに割り当てます。
チョーク奏法  	シンバルを叩いたあと、エッジ・センサーを手でチョークする（つかむ）と、音が止まります（ミュート）。 CY-18DRは、センサーの感知する範囲に手を置いても音が止まります。 チョークやミュート状態で叩くと、音が短く鳴ります。

各部の名称とはたらき

トップ・パネル

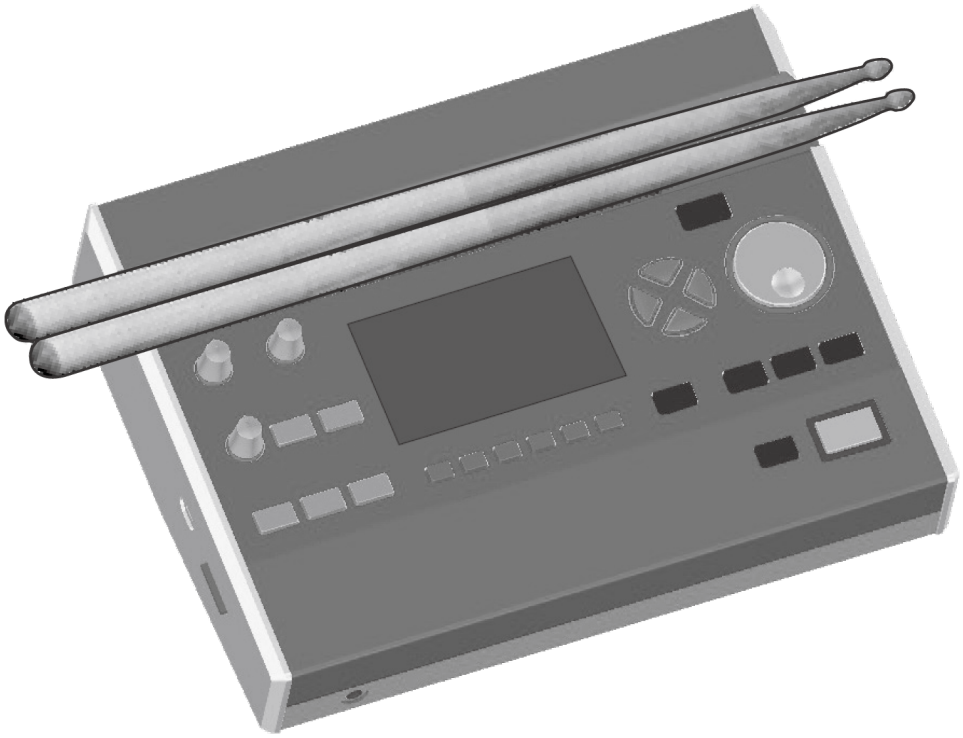


番号	項目	説明
1	［MASTER/PHONES］つまみ	MASTER OUT端子とPHONES端子から出力される音量を調節します。 メモ MASTER OUT端子の出力音量を一定に固定することができます。 ➡「音の出力先を設定する（OUTPUT）（P.220）」
	［BACKING］つまみ	ソング（オーディオ・ファイル）、MIX IN端子（ステレオ）の入力音量、Bluetooth®オーディオの音量を調節します。 ※内蔵ソングのドラム演奏音や、録音したドラムの演奏音には効きません。
	⁕（Bluetooth）インジケーター	Bluetooth機能でペアリングが完了すると点灯します。 ➡「スマートフォンの曲に合わせて演奏する（P.47）」

番号	項目	説明
2	［CLICK］つまみ	クリックの音量を調節します（P.19）。
	［CLICK］ボタン	クリックを鳴らしたり、テンポやクリックの設定をしたりします。 また、［SHIFT］ボタンを押しながら［CLICK］ボタンを押すと、クリックのオン／オフができます。
	［COACH］ボタン	コーチ・モードでトレーニングをするときに押します。 ➡「コーチ・モードで練習する（P.35）」 スピードのコントロール能力や、精度、持久力を鍛えることができます。
	［▶/■］ボタン	ソングや録音したデータを再生／停止します。 ➡「曲に合わせて演奏する（P.47）」
	［●］ボタン	録音モードに入ります。 ➡「演奏を録音する（P.60）」
	［SONG］ボタン	SONG画面を表示します。ソングや録音したデータの再生や、ソングに関する設定をするときに押します。 ➡「V31のソングに合わせて演奏する（P.49）」
3	［F1］～［F6］ボタン（ファンクション・ボタン）	ディスプレイの表示によって機能が変わるボタンです。ディスプレイの下部に表示されている機能を設定します。
	ディスプレイ	操作に応じて、いろいろな情報が表示されます。
4	［EZ EDIT］ボタン	EZ EDITを使って、ドラム・キットを簡単にエディットすることができます。 ➡「ドラム・キットを簡単にエディットする（EZ EDIT）（P.71）」
	［KIT］ボタン	KIT画面が表示されます。 ➡「KIT画面について（P.27）」
5	［MENU］ボタン	MENU画面が表示されます。 また、［SHIFT］ボタンを押しながら［MENU］ボタンを押すと、パッドを叩いても、設定するパッドが切り替わらなくなります（トリガー・ロック）。フレーズを演奏しながら設定するときに便利です。
	［EXIT］ボタン	一度押すと、1つ上の階層の画面に戻ります。続けて何度か押すと、最終的にKIT画面に戻ります。 また、［SHIFT］ボタンを押しながら［EXIT］ボタンを押すと、発音しているすべての音を止める（消音する）ことができます（ALL SOUND OFF（*1））。多くのループ・フレーズを一度に停止させるときに便利です。 *1　：エフェクトの残響音、ソング、クリックは停止しません。
	［ENTER］ボタン	値の確定や操作を決定するときに押します。
	［SHIFT］ボタン	他のボタンと組み合わせて使います。このボタンを押している間、他のボタンの機能が変わります。
6	［▼］［▲］［◀］［▶］ボタン（カーソル・ボタン）	カーソルを移動します。
	ダイヤル	ドラム・キットや設定値を変更します。 また、［SHIFT］ボタンを押しながらダイヤルを回すと、値の変化量を大きくすることができます。
7	［EXPANSION］ボタン	Roland CloudからV31にインストールしたインストゥルメント・エクスパンション（ドラム・キットとインストゥルメントのパッケージ）、キット・パック（ドラム・キットとカスタム・サンプルのパッケージ）を設定します。 ➡「インストゥルメント・エクスパンション／キット・パックの割り当てを解除する（REMOVE）（P.120）」 また、［SHIFT］ボタンを押しながら［EXPANSION］ボタンを押すと、ユーザー・サンプル機能を使うことができます。 ➡「オーディオ・ファイルを取り込む／鳴らす（USER SAMPLE）（P.124）」

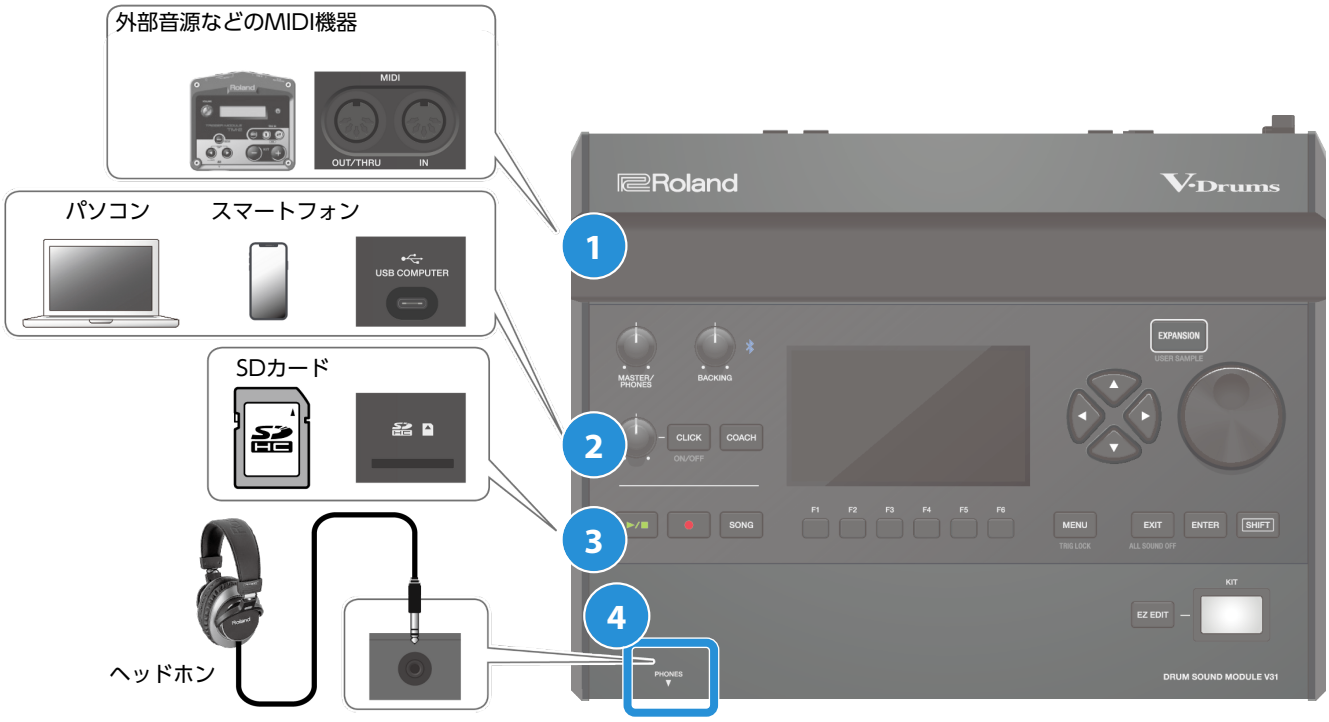
スティック・トレーにドラム・スティックを置く

トップ・パネルのスティック・トレーに、ドラム・スティックを置くことができます。
本機を操作するときにドラム・スティックを置くと便利です。



※スティック・トレーにドラム・スティック以外のもの（スマートフォンやタブレットなど）を置かないでください。置いたものが落下する恐れがあります。

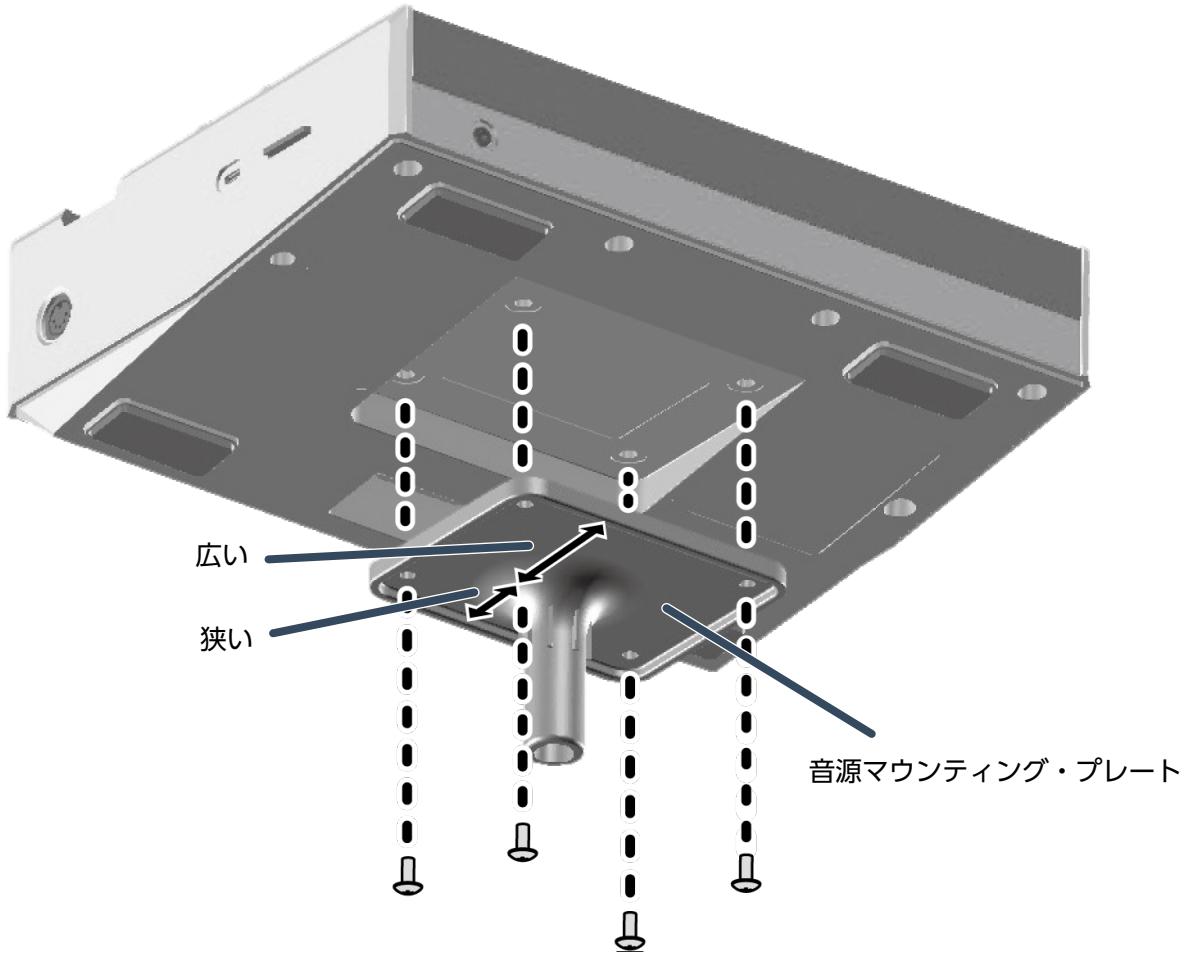
サイド・パネル／フロント・パネル



番号	項目	説明
1	MIDI端子	外部音源などのMIDI機器を接続します。
2	USB COMPUTER端子	V31とパソコンやスマートフォンをUSBケーブルで接続します。DAWソフトウェアを使って、V31の演奏をオーディオやMIDIで録音したり、パソコンで再生した音をV31で鳴らしたりすることができます。 ➡ 「パソコンやスマートフォンと接続して使う（P.134）」 また、エディター・アプリ「V31 Editor」を使ってパソコンでドラム・キットをエディットできます。 ➡ 「パソコンでエディター・アプリ「V31 Editor」を使う（P.135）」 ※ 充電専用のUSBケーブルは使用しないでください。データ通信ができません。
3	SDカード・スロット	市販のSDカード（SDHCカード（32GB）まで対応）を挿入します。 SDカードには、ソングやV31のデータを保存することができます。また、ユーザー・サンプルの取り込みや、録音したソングのエクスポートなどにも使います。 初めてSDカードを使うときは、本機でSDカードを初期化（フォーマット）してください。 ➡ 「SDカードを初期化する（P.202）」 ※ 画面に「Processing...」と表示されている間は、絶対に電源を切ったり、SDカードを抜いたりしないでください。 ※ メモリー・カードのメーカーや種類によっては、本機で正しく録音や再生ができないことがあります。
4	PHONES端子	ヘッドホンを接続します。 ヘッドホンを接続しても、アウトプットの各端子からは音が出力されます。

ボトム・パネル

ドラム・スタンドに取り付ける



付属の音源マウンティング・プレートを使って、V31をドラム・スタンドに取り付けます。

V31の底面にあるネジを使って、図のように取り付けてください。

※ 取り付けには、ネジのサイズに合ったプラス・ドライバー（サイズ：#2）をご用意ください。

※ V31の底面にあるネジ以外は使わないでください。故障の原因になります。

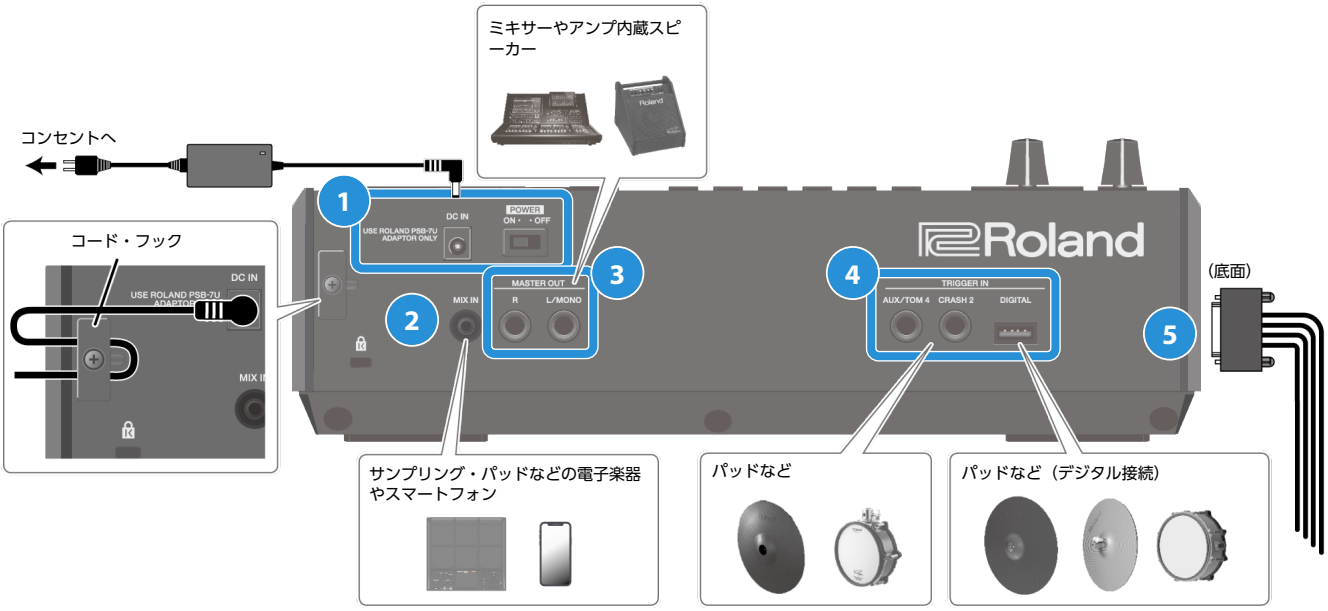
※ V31の取り付けに、別売りのオール・パーパス・クランプ（APCシリーズ）は使用できません。

※ 本機を裏返すときは、破損を防ぐためボタンやつまみなどを保護してください。また、落下や転倒を引き起こさないよう取り扱いに注意してください。

※ 取り付けパイプ使用時は、可動部と本体の間に指をはさまないように注意してください。お子様のいる場所で使用する場合は、必ず大人のかたが監視／指導してください。

リア・パネル（接続する）

※ 他の機器と接続するときは、誤動作や故障を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞り、すべての機器の電源を切ってください。



番号	項目	説明
1	［POWER］スイッチ	電源をオン／オフします。
	DC IN端子	付属のACアダプターを接続します。 ※ ACアダプターのコードは、図のようにコード・フックを使って固定してください。
2	MIX IN端子	サンプリング・パッドなどの電子楽器やスマートフォンなどに接続します。
3	MASTER OUT端子	ミキサーやアンプ内蔵スピーカーや録音機器などに接続します。 モノで出力したいときは、MASTER OUT端子のL／MONOのみに接続してください。
4	TRIGGER IN端子	別売りのパッドを増設することができます。 **AUX/TOM 4** パッドを増設するときに接続します。 **CRASH 2** クラッシュ・シンバル用のパッドを接続します。 **DIGITAL** デジタル接続対応のパッド（PD-14DSX、CY-18DR、VH-14Dなど）を接続します。 また、別売りのDWe DrumLink™ハブを使って、ワイヤレスでパッドを接続することができます。 ➡「V31でDWeパッドを使う（P.182）」
5	TRIGGER INPUT端子（底面）	付属の専用接続ケーブルを取り付けて、パッドやペダルを接続します。パッドやペダルは別売りです。

電源を入れる／切る

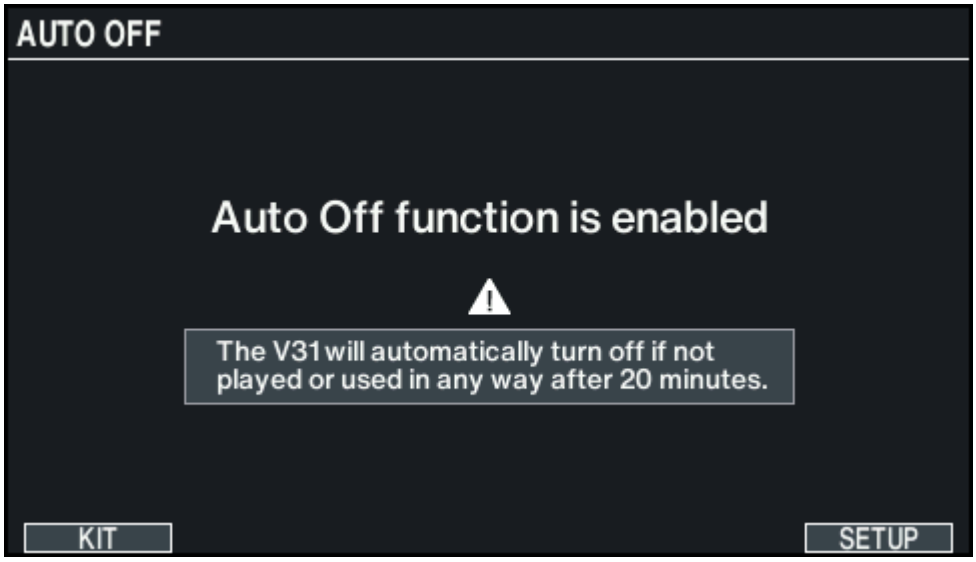
※ 電源を入れる／切るときは、音量を絞ってください。音量を絞っても電源を入れる／切るときに音がすることがありますが、故障ではありません。

電源を入れる

1 V31と接続した機器の音量を最小にします。

2 V31の［POWER］スイッチを「ON」にします。

電源を入れると、以下の画面が表示されます。



メモ

- Auto Off機能を「OFF」に設定していると、この画面は表示されません。
- Auto Off機能の設定を変更する場合は、［F6］（SETUP）ボタンを押します。
  ➡「一定時間が経つと自動で電源が切れるようにする（AUTO OFF）（P.22）」

3 ［KIT］ボタンを押して、KIT画面に戻ります。

4 接続した機器の電源を入れ、音量を調節します。

電源を切る

注意

V31で変更した値は、電源を切るときにも保存されます。必ず［POWER］スイッチを「OFF」にして、電源を切るようにしてください。

1 V31と接続した機器の音量を最小にします。

2 接続した機器の電源を切ります。

3 V31の［POWER］スイッチを「OFF」にします。

「Please wait. Now saving...」と表示され、設定が保存されると電源が切れます。

一定時間が経つと自動で電源が切れるようにする（AUTO OFF）

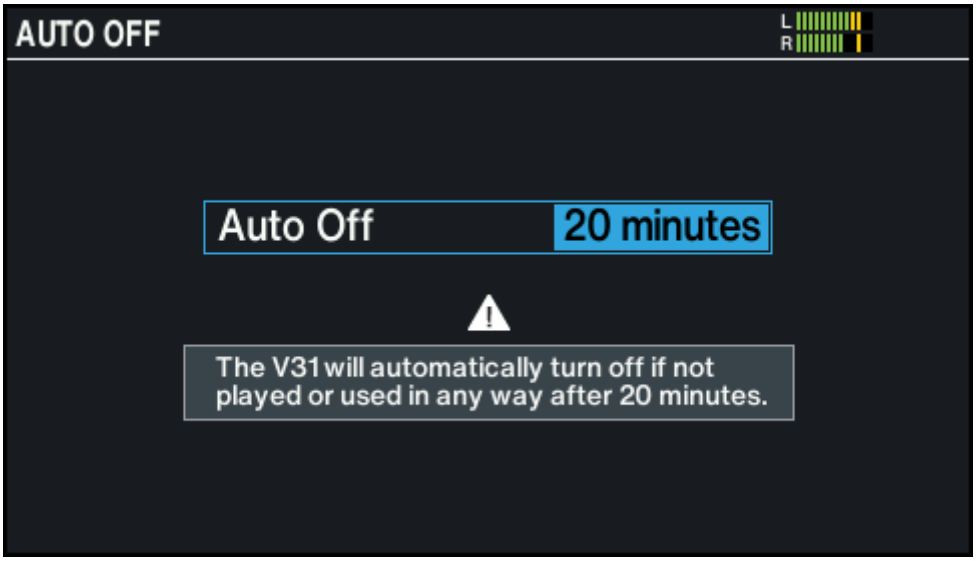
本機は、演奏や操作をやめてから一定時間（初期値：20分）が経過すると、省エネルギーのため自動的に電源が切れます。

- 自動的に電源が切れないようにするには、設定をオフにしてください。ただし設定をオフにすると、消費電力量の増加につながります。
- 自動的に切れた電源を再び入れるときは、本機の電源を入れ直してください。

1 ［MENU］ボタンを押します。

2 カーソル・ボタンで「SYSTEM」→「AUTO OFF」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

AUTO OFF画面が表示されます。



3 ダイヤルでオート・オフ機能を設定します。

設定値	説明
OFF	電源は自動的に切れません。
20 minutes（初期値）	一定時間（20分または4時間）以内にパッドを叩かなかったり何も操作をしなかったりすると、自動的に電源が切れます。
4 hours	

メモ

「20 minutes」以外を選ぶと、確認画面が表示されます。「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

4 ［KIT］ボタンを押して、KIT画面に戻ります。

メモ

Auto Off機能を「20 minutes」または「4 hours」に設定していると、電源が切れる10分前（20 minutes）または30分前（4 hours）に、電源が切れるまでの時間が表示されます。

ハイハットの設定をする

Vハイハット（VH-10など）を使うときは、V31でオフセットの調整をしてください。

オープン、クローズやペダルの動きを正しく検出するために必要です。

例）VH-10の設定をする

メモ

VH-14Dなど、その他のVハイハットのオフセット調整方法については、各製品の取扱説明書をご覧ください。

1 **ハイハットがモーション・センサー・ユニットから完全に離れた状態で、本機の電源を入れます。**

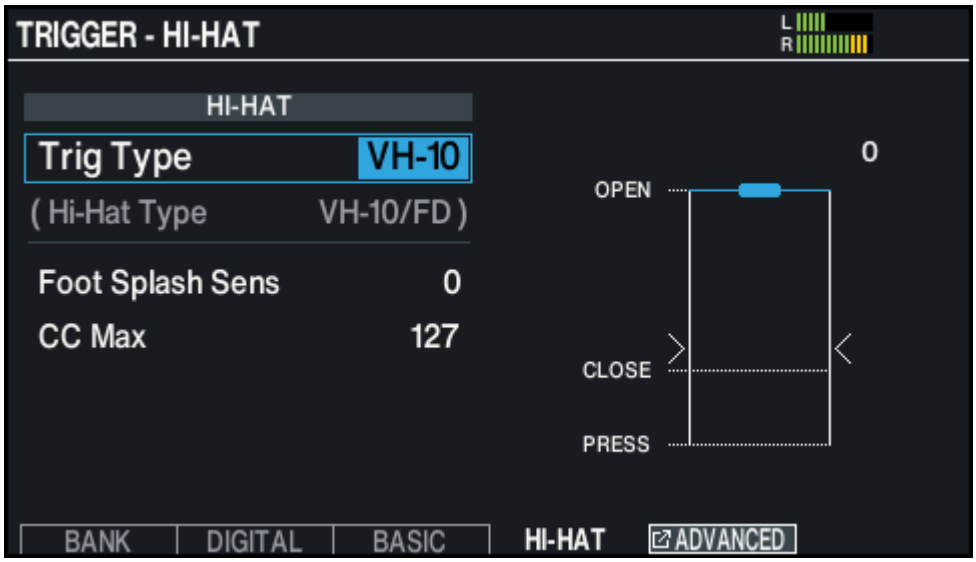
2 **VH-10のクラッチ・スクリューを緩め、ハイハットをモーション・センサー・ユニットの上に自然に置いた状態にします。**

3 **［MENU］ボタンを押します。**

4 **カーソル・ボタンで「SYSTEM」→「TRIGGER」を選び、［ENTER］ボタンを押します。**

5 **［F4］（HI-HAT）ボタンを押します。**

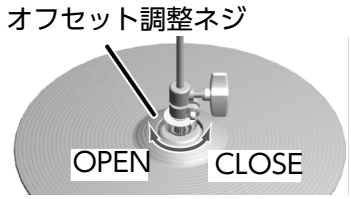
TRIGGER - HI-HAT画面が表示されます。

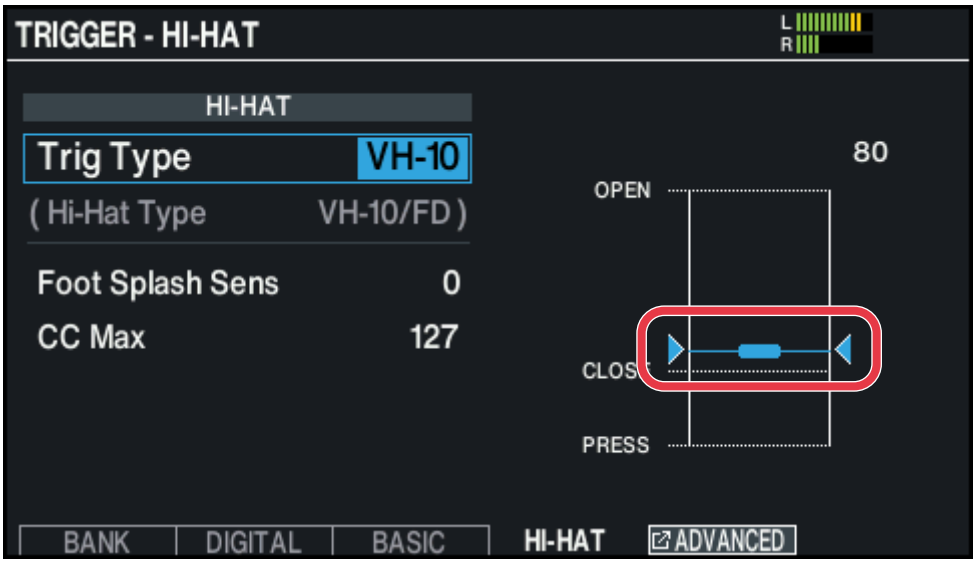


6 **ダイヤルでTrig Typeを「VH-10」に設定します。**

7 画面右側に表示されるメーターを見ながらVH-10のオフセット調整ネジを回して調整します。

メーターに▶ ◀マークが表示されるように調整します。





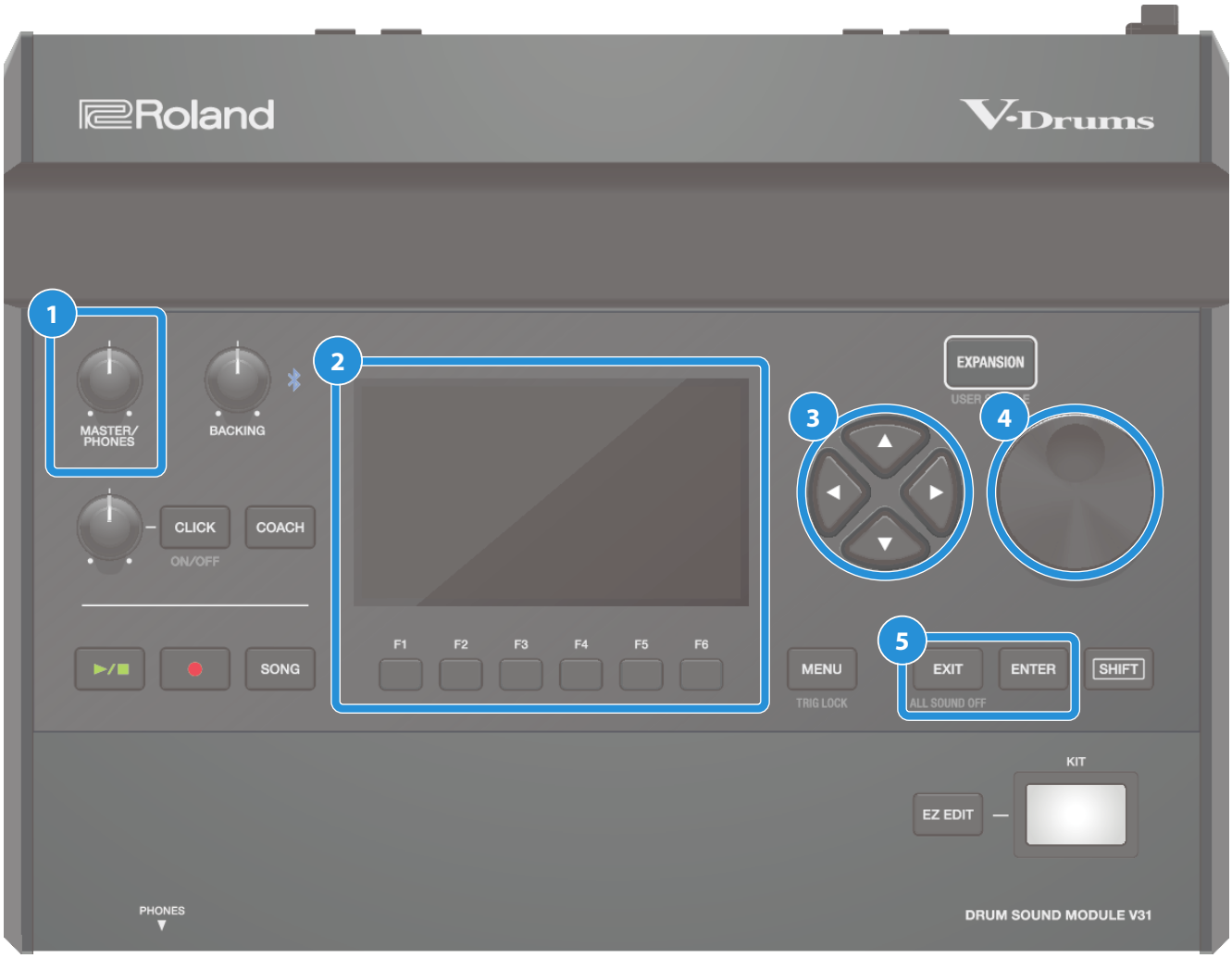
8 叩いたときにハイハットが自然に揺れる位置で、クラッチ・スクリューを締めます。

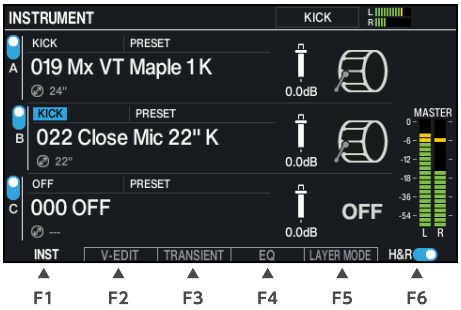
9 ［KIT］ボタンを押して、KIT画面に戻ります。

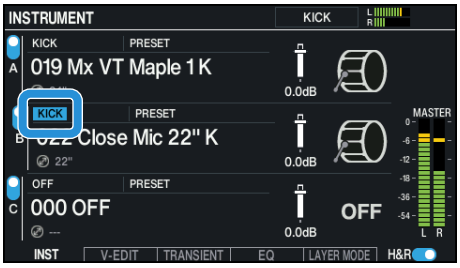
必要に応じて、パラメーターを微調整します。

➡『データ・リスト』（Web）

基本操作



番号	操作	説明
1	全体の音量を調節する（［MASTER/PHONES］つまみ）	［MASTER/PHONES］つまみを使って、MASTER OUT端子から出力される音量とヘッドホンの音量を調節します。
2	タブを切り替える、機能を設定する（［F1］～［F6］ボタン）	［F1］～［F6］ボタンを使って、ディスプレイ下部に表示されているタブを切り替えたり、ディスプレイの下部に表示されている機能を設定したりできます。  	

番号	操作	説明
3	カーソルを移動する（カーソル・ボタン）	カーソルは、画面上の設定可能な部分を反転表示します。画面の中に設定する内容がいくつかあるときは、カーソル・ボタンを押して設定したいところにカーソルを合わせます。 
4	値を変える（ダイヤル）	カーソルで反転表示された値を変更するには、ダイヤルを使います。また、［SHIFT］ボタンを押しながら操作すると、値の変化量が大きくなります。
5	1つ前の画面に戻る（［EXIT］ボタン）	前の画面に戻りたいときは、［EXIT］ボタンを押します。
	操作を決定する（［ENTER］ボタン）	値の確定、操作の実行、またはリストを表示するときに使います。

演奏編

ドラム・キットを選ぶ

1 ［KIT］ボタンを押します。

KIT画面が表示されます。

2 ダイヤルでドラム・キットを選びます。

KIT画面について

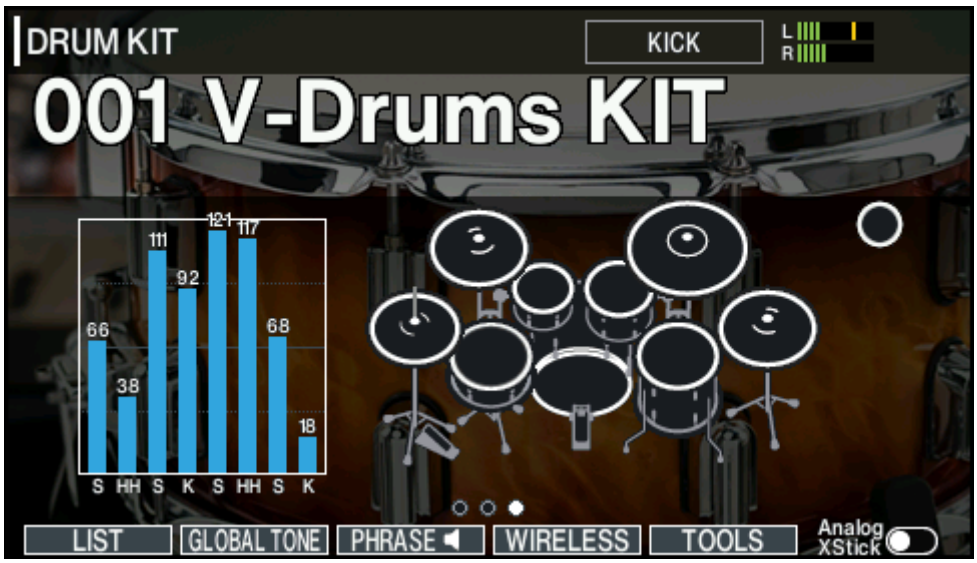
この画面は、［KIT］ボタンを押すと表示される、V31の基本となる画面です。

番号	項目	説明
1	現在時刻	Wi-Fi接続時に表示

番号	項目	説明
2	お気に入りアイコン	お気に入りに登録しているドラム・キットを選んでいるときに表示 ➡「お気に入りのドラム・キットを登録する／呼び出す（P.55）」
3	テンポ	キット・テンポが「ON」のときに表示
4	ブラシ・アイコン	Brush Switchが「ON」のときに表示
5	ユーザー・サンプル・アイコン	ユーザー・サンプルを使っているドラム・キットを選んでいるときに表示 ➡「オーディオ・ファイルを取り込む／鳴らす（USER SAMPLE）（P.124）」
6	エクスパンション・アイコン	インストゥルメント・エクスパンションのインストゥルメントを使っているドラム・キットを選んでいるときに表示 ➡「インストゥルメント・エクスパンション（P.5）」
7	現在選んでいるパッド	
8	MASTER OUT出力の音量	
9	Bluetoothアイコン	Bluetooth接続時に表示
	Wi-Fiアイコン	Wi-Fi接続時に表示
10	ドラム・キットの番号	
11	ドラム・キット名	

メモ

KIT画面で［◀］［▶］ボタンを押すと、KIT画面に出力音量やトリガー信号のレベル・メーターを表示させることができます。



KIT画面から操作できる機能

KIT画面で［F1］～［F6］ボタンを使って、ディスプレイ下部に表示されている機能を設定することができます。

ボタン	説明
［F1］（LIST）ボタン	リストからドラム・キットを選ぶことができます。
［F2］（GLOBAL TONE）ボタン	すべてのドラム・キットにかかる、アンビエンスやイコライザーを調節することができます。
［F3］（PHRASE）ボタン	現在選んでいるドラム・キットでフレーズを再生し、音を確認することができます。
［F4］（WIRELESS）ボタン	ワイヤレス（BluetoothとWi-Fi）のオン／オフの状態を確認／変更することができます。
［F5］（TOOLS）ボタン	ドラム・キットのコピーやバックアップなど、便利な機能にアクセスすることができます。
［F6］（Analog XStick）スイッチ	デジタル・パッド（スネア）が未接続のときに、アナログ・パッドでクロス・スティック音を鳴らすか（ON）／鳴らさないか（OFF）を設定します。

ドラム・キットの音を確認する（キット・フレーズ）

KIT画面で［F3］（PHRASE）ボタンを押すと、現在選んでいるドラム・キットでフレーズを再生して音を確認することができます（キット・フレーズ）。

フレーズを停止するには、もう一度［F3］（PHRASE）ボタンを押します。

キット・フレーズはドラム・キットごとに設定することができます。

➡「現在選んでいるドラム・キットでフレーズを再生する（KIT PHRASE）（P.111）」

リストからドラム・キットを選ぶ

KIT画面で［F1］（LIST）ボタンを押すと、KIT LISTウィンドウが表示され、一覧からドラム・キットを選ぶことができます。

インストゥルメント・エクスパンション／キット・パックのドラム・キットを読み込む

スロット1〜3には工場出荷時からインストゥルメント・エクスパンションが読み込まれています。

ここでは、インストゥルメント・エクスパンションのドラム・キットを読み込む手順を例に説明します。

キット・パックのドラム・キットも同じ手順で読み込むことができます。

1 [EXPANSION] ボタンを押します。

メモ

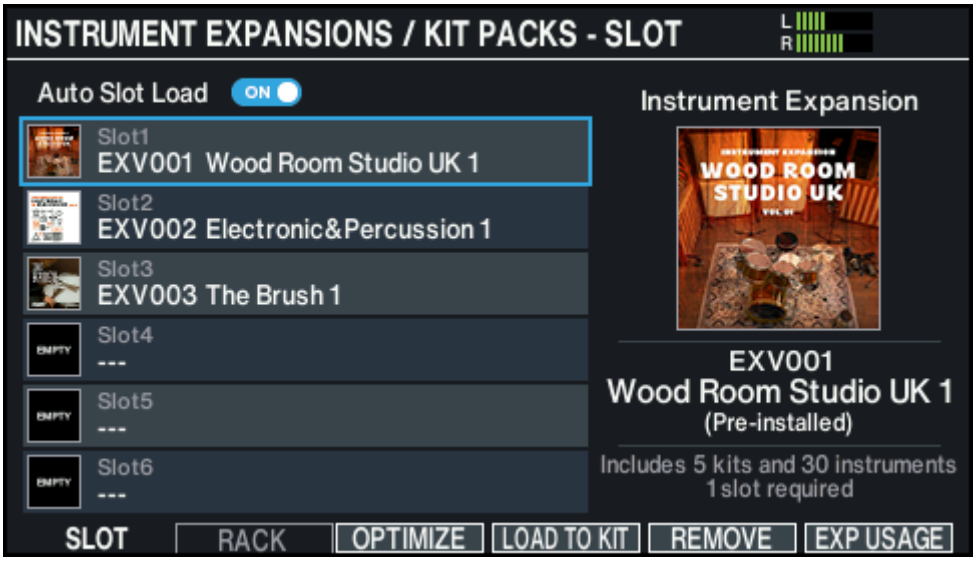
初回はRoland Cloudの紹介画面が表示されます。『Roland Cloud Connectセットアップ・ガイド』（別紙）に記載の手順でRoland Cloudに接続してください。

あとで設定する場合は、［F6］（SKIP）ボタンを押します。

※ ［F1］ボタンを押すと、今後この画面は表示されなくなります。再び画面を表示したい場合は、INSTRUMENT EXPANSIONS / KIT PACKS画面で［SHIFT］ボタンを押しながら［F5］ボタンを押してください。

2 [F1] （SLOT）ボタンを押します。

INSTRUMENT EXPANSIONS / KIT PACKS - SLOT画面が表示されます。



3 **ロードしたいインストゥルメント・エクスパンションにカーソルを合わせ、［F4］（LOAD TO KIT）ボタンを押します。**

［F5］（PREVIEW）ボタンを押すと、ロードする前にドラム・キットの音を確認することができます。

4 **ロードしたいインストゥルメント・エクスパンションのドラム・キットにカーソルを合わせ、［F6］（LOAD）ボタンを押します。**

メモ

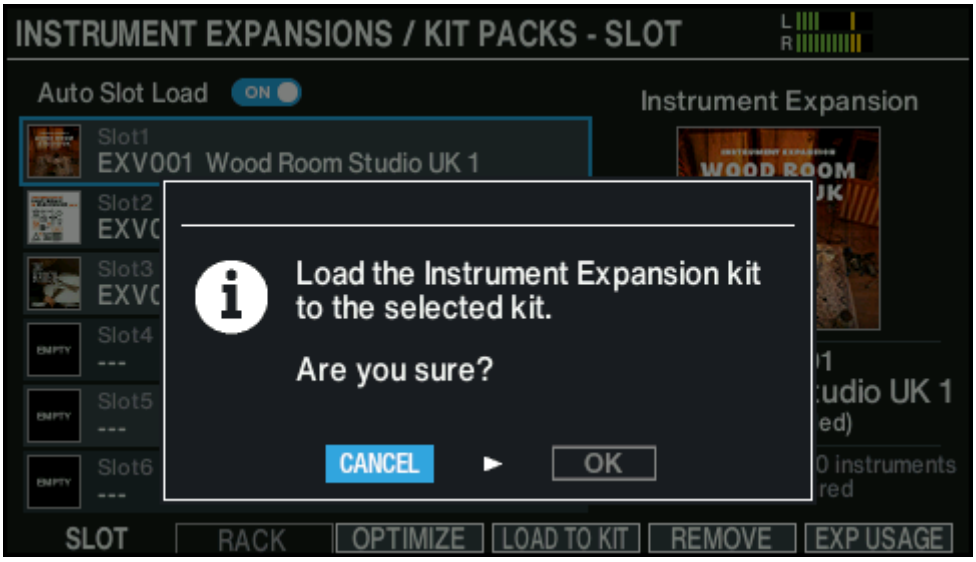
［F3］（LOAD ALL）ボタンを押すと、インストゥルメント・エクスパンション／キット・パックに含まれるすべてのドラム・キットをまとめてロードすることができます。

※ この機能はVer.2.00より対応します。

5 **ダイヤルでロード先のドラム・キットを選びます。**

6 ［F6］（LOAD）ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



7 「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

ドラム・キットのロードが実行されます。

メモ

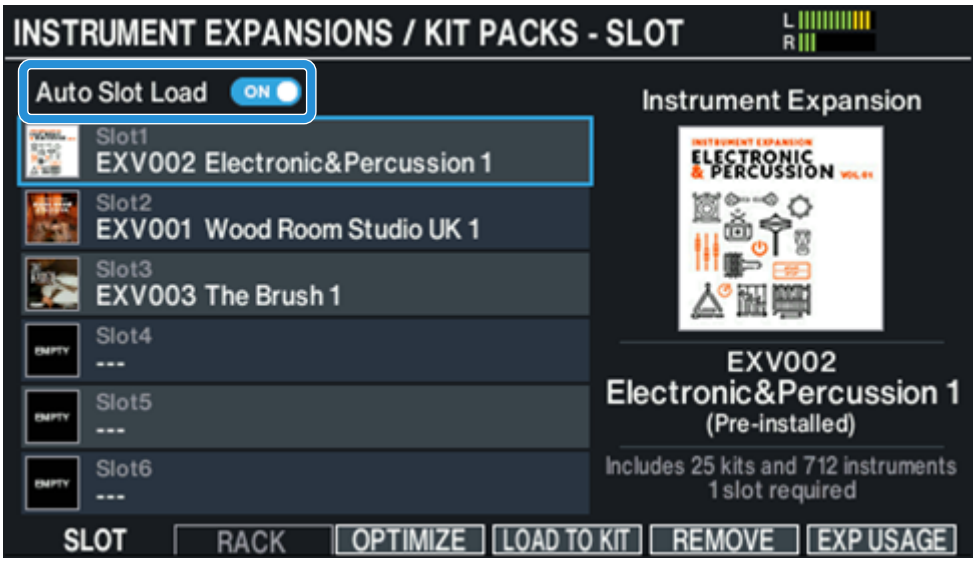
Roland Cloudからインストゥルメント・エクスパンションをインストールする方法については、別紙『Roland Cloud Connectセットアップ・ガイド』をご覧ください。

インストゥルメント・エクスパンション／キット・パックを自動的にスロットにロードする（Auto Slot Load）

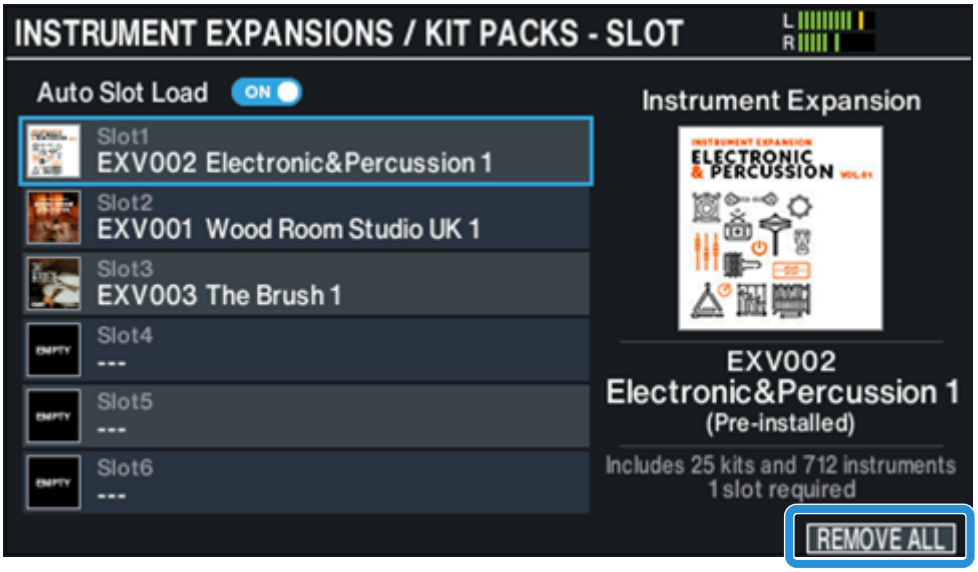
この機能はVer.2.00より対応します。

ドラム・キットを切り替えたとき、ドラム・キットで使っているインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックを自動的にスロットにロードする機能です。ドラム・キットごとに使用するインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックを変えたい場合に便利です。

- Auto Slot LoadモードはINSTRUMENT EXPANSIONS / KIT PACKS - SLOT画面で切り替えることができます。



- インストゥルメント・エクスパンション／キット・パックをスロットにロードしている間は、発音中のインストゥルメントは消音されます。ロードが完了するまでは、パッドを叩いても発音しません。
- Auto Slot Loadモードは、工場出荷時は「ON」になっています。また、Ver.2.00にアップデートすると「ON」に設定されます。
- Auto Slot Loadモードが「ON」のときは、インストゥルメント・エクスパンション／キット・パックをスロットにロードするため、その分だけドラム・キットを切り替える時間が長くなります。「OFF」のときは、ドラム・キットで使っているインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックは自動的にスロットにロードされません。ドラム・キットの切り替え時間を延ばしたくない場合は、Auto Slot Load モードを「OFF」にしてください。
- INSTRUMENT EXPANSIONS / KIT PACKS - SLOT画面で、［SHIFT］ボタンを押しながら［F6］ボタンを押して「REMOVE ALL」を実行すると、すべてのスロットを空にすることができます。



鳴っている演奏音をすべて停止する（ALL SOUND OFF）

発音中のドラムの演奏音、再生中のキット・フレーズ音、ユーザー・サンプル（P.124）の演奏音を停止します。

※エフェクトの残響音、ソング、クリックは停止しません。

1 **鳴っている演奏音を止めたいときに、［SHIFT］ボタンを押しながら［EXIT］ボタンを押します。**

クリックを鳴らす

クリックをオン／オフする

1 ［CLICK］ボタンを押します。

CLICK画面が表示されます。

2 ［F6］ボタンを押します。

クリックが鳴ります。

［CLICK］つまみで、クリックの音量を調節することができます。

3 もう一度、［F6］ボタンを押します。

クリックが止まります。

メモ

- ［SHIFT］ボタンを押しながら［CLICK］ボタンを押して、クリックをオン／オフすることもできます。
- ヘッドホンだけにクリックを出力することもできます。
  ➡「音の出力先を設定する（OUTPUT）（P.220）」

テンポを変更する

※V31全体で共通のテンポです。

1 CLICK画面で「Tempo」を選び、ダイヤルでテンポを変更します。

メモ

- ［SHIFT］ボタンを押しながらダイヤルを回すと、小数点以下の値を変更することができます。
- ［F4］（TAP TEMPO）ボタンを押す間隔で、テンポを設定できます（タップ・テンポ）。
- ドラム・キットごとにテンポを設定することができます。
  ➡「ドラム・キットに関するさまざまな設定をする（KIT OPTIONS）（P.99）」

拍子の設定を変更する

1 CLICK画面で「Beat」を選び、ダイヤルで拍子を変更します。

パラメーター	設定値	説明
Tempo	20.0～260.0	テンポ
Beat	1～9	クリックの拍子（1小節の拍数）
Template	QTR NOTES、 8TH NOTES、UPBEATS、 16TH NOTES、 3 OVER 2、 8TH NOTE TRIPLETS	クリックの各タイミングの音量をテンプレートから選べます。
Accent、♩～♫	OFF、1～9、MAX	クリックの各タイミングの音量

クリックの設定を変更する

1 CLICK画面で［F2］（SETUP）ボタンを押します。

2 カーソル［▼］［▲］ボタンでパラメーターを選び、ダイヤルで設定を変更します。

パラメーター	設定値	説明
SOUND		
Sound	METRONOME、CLICK、VOICE、BEEP 1、BEEP 2、TEK CLICK、STICKS、CLAVES、WOOD BLOCK、COWBELL、AGOGO、TRIANGLE、TAMBOURINE、MARACAS、CABASA	メトロノームの音色を選びます。
Level	-INF～+6.0dB	クリックの音量を調節します。
Pan	L30～CENTER～R30	クリックの定位を設定します。
OTHERS		
LED Reference	OFF、ON	クリックに合わせて［CLICK］ボタンを点滅させるか（ON）／させないか（OFF）を設定します。
Tap Pad Switch	OFF、ON	Tap Padで設定したパッドを叩く間隔で、テンポを設定できます（タップ・テンポ）。
Tap Pad	KICK～AUX RIM	タップ・テンポの設定に使うパッドを選びます。

コーチ・モードで練習する

本機には、練習効果を最大限に引き出す「コーチ・モード」が搭載されています。

スピードのコントロール能力や、精度、持久力を鍛えるとともに、タイミングをうまくとる練習に適しています。

コーチ・モードには、調整できるパラメーターがいくつか用意されているため、それぞれのレベルに応じた練習をすることができます。

フレーズに合わせて正確に叩く（PHRASE TRAINER）

フレーズに合わせて、正確に叩く練習をするモードです。

V31には、練習に適したさまざまなフレーズが内蔵されています。

1 ［COACH］ボタンを押します。

2 カーソル・ボタンまたはダイヤルで「PHRASE TRAINER」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

3 練習するフレーズを選びます。

カテゴリーの選択：［◀］［▶］ボタンまたは［F1］（CATEGORY）ボタン
フレーズの選択：［▼］［▲］ボタンまたはダイヤル

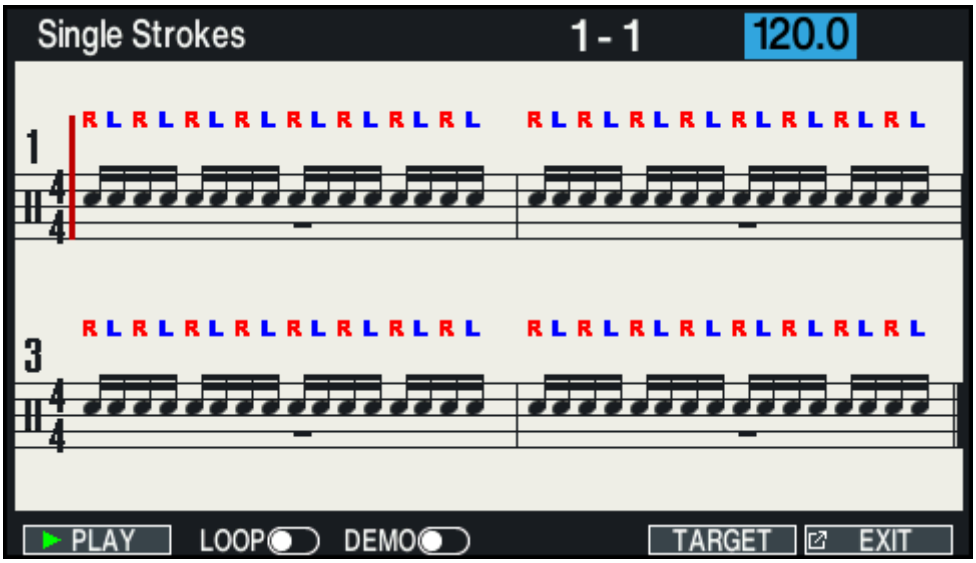
カテゴリー	説明
Exercises	基礎練習に適したフレーズです。
Grooves & Fills	リズム・パターンとフィルの練習に適したフレーズです。

メモ

- ［F4］（PREVIEW）ボタンを押すと、選んでいるフレーズをプレビュー再生することができます。
- ［F3］（SETUP）ボタンを押すと、どのドラム・キットでフレーズを練習するかや、結果を表示するマークを選ぶことができます。
- ［F5］（CLICK）ボタンを押すと、クリックの設定をすることができます。
➡「クリックを鳴らす（P.34）」

4 ［F6］（START）ボタンを押します。

フレーズの譜面が表示されます。



メモ

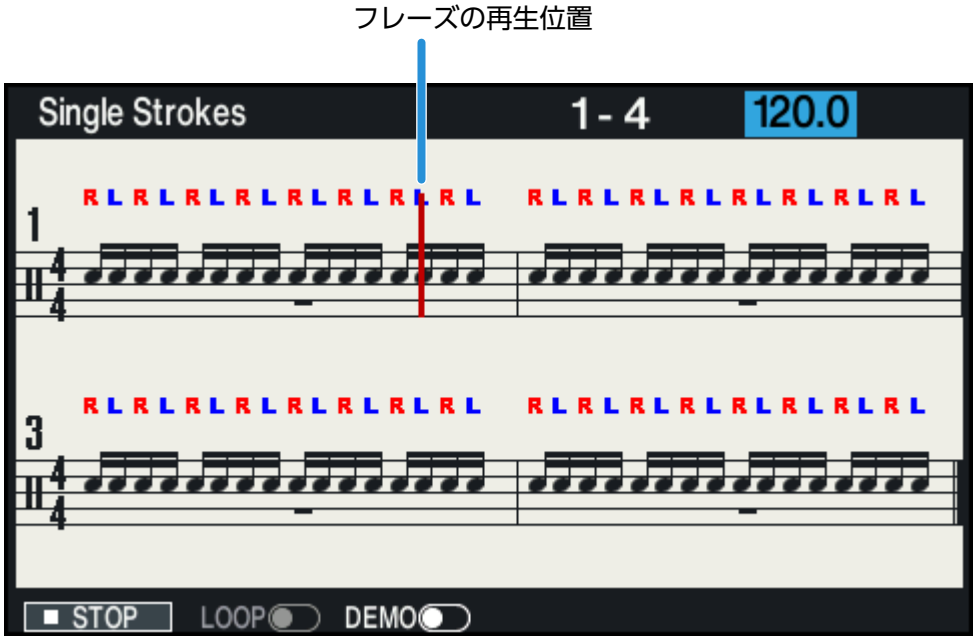
- 停止中に［F2］（LOOP）ボタンを押してオンにすると、フレーズを繰り返し練習する（ループ再生）ことができます。
- ［F3］（DEMO）ボタンを押してオンにすると、再生中にフレーズのデモ演奏を鳴らすことができます。デモ演奏中は叩いた音は鳴りません。
- ［F5］（TARGET）ボタンを押すと、練習するパッドを選ぶことができます。
- ダイヤルで練習するテンポを変えることができます。

5 ［F1］（▶ PLAY）ボタンを押して、開始します。

メモ

- 練習を途中で終了するときは、［F1］（■ STOP）ボタンを押します。
- ［▶/■］ボタンでも再生／停止の操作ができます。

6 フレーズに合わせてパッドを叩きます。



フレーズの再生が終わると、どれだけ正確にフレーズを叩いたかの結果が表示されます。
ループ再生していると結果は表示されません。

7 ［F6］（EXIT）ボタンを押して、終了します。

ビートに合わせて正確に叩く（TIME CHECK）

クリックに合わせて、正確にタイミングよく叩く練習をするためのモードです。

1 ［COACH］ボタンを押します。

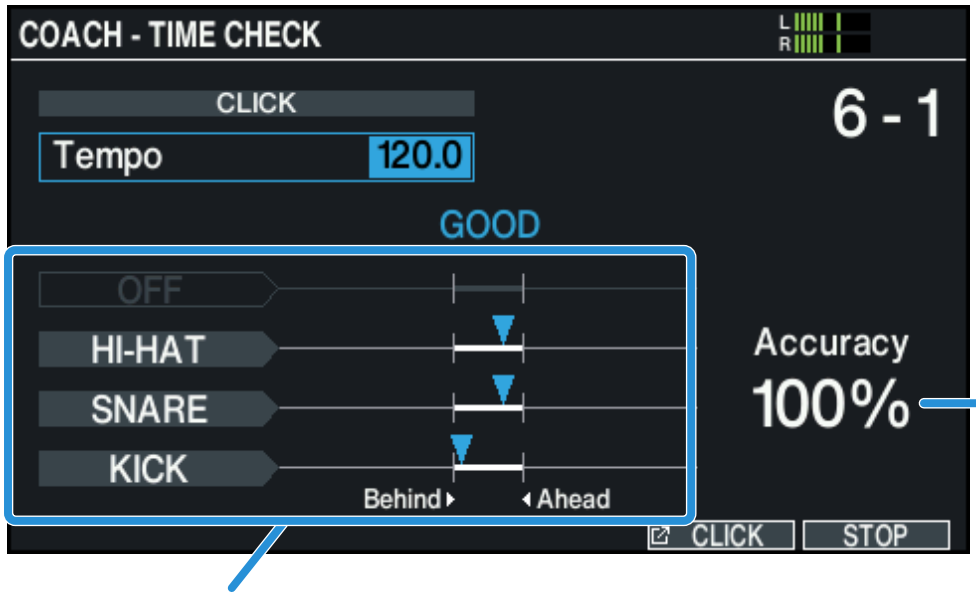
2 カーソル・ボタンまたはダイヤルで「TIME CHECK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

COACH - TIME CHECK画面が表示されます。

3 ダイヤルでテンポを変更します。

4 ［F6］（START）ボタンを押して、開始します。

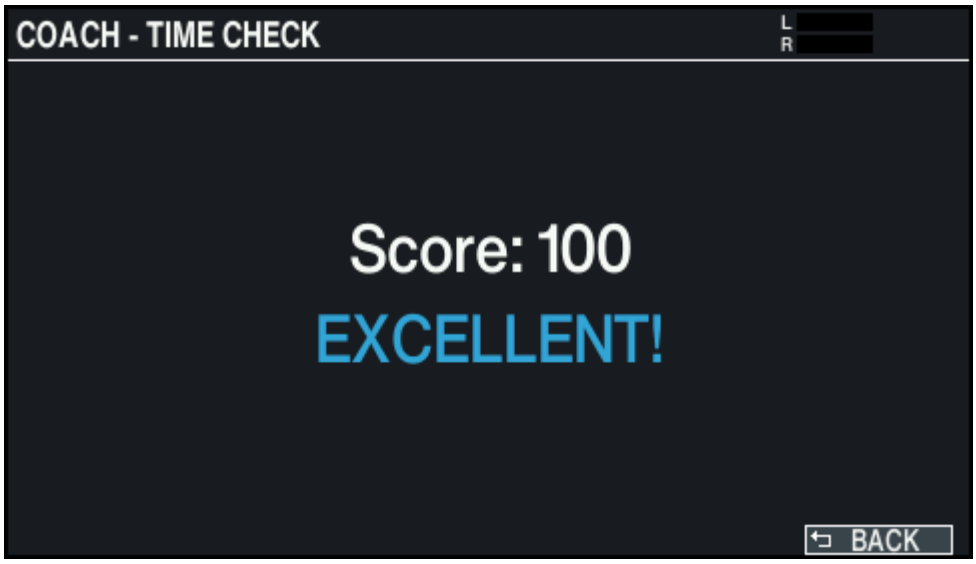
5 クリックに合わせてパッドを叩きます。



正確なタイミングで叩いた割合が「%」で表示されます。

パッドを叩いたタイミングがクリックに合っているかどうかを、画面に表示します。
Behind：遅い
Ahead：早い

クリックの再生が終わると、どれだけ正確にフレーズを叩いたかの結果が表示されます。



メモ

練習を途中で終了するときは、［F6］（STOP）ボタンを押します。

6 ［F6］（BACK）ボタンを押して、終了します。

TIME CHECKの設定（SETUP）

練習するパッドの種類や、練習する小節数などを変更することができます。

パラメーター	設定値	説明
Length	4、8、16、32 meas、INF	練習する小節数を設定します。 「INF」に設定すると、［F6］（STOP）ボタンを押すまで止まりません。
Difficulty	評価基準を設定します。	
	EASY	標準
	HARD	より厳しくタイミングをチェックします。
Pad 1〜4	練習するパッドの種類を選びます。 最大4種類まで設定することができます。	
Graph Direction	BEHIND-AHEAD	タイミング・グラフの左がBEHIND（遅い）で表示されます。
	AHEAD-BEHIND	タイミング・グラフの左がAHEAD（早い）で表示されます。

メモ

［F5］（CLICK）ボタンを押すと、クリックの設定をすることができます。
➡「クリックを鳴らす（P.34）」

身体でテンポを覚える（QUIET COUNT）

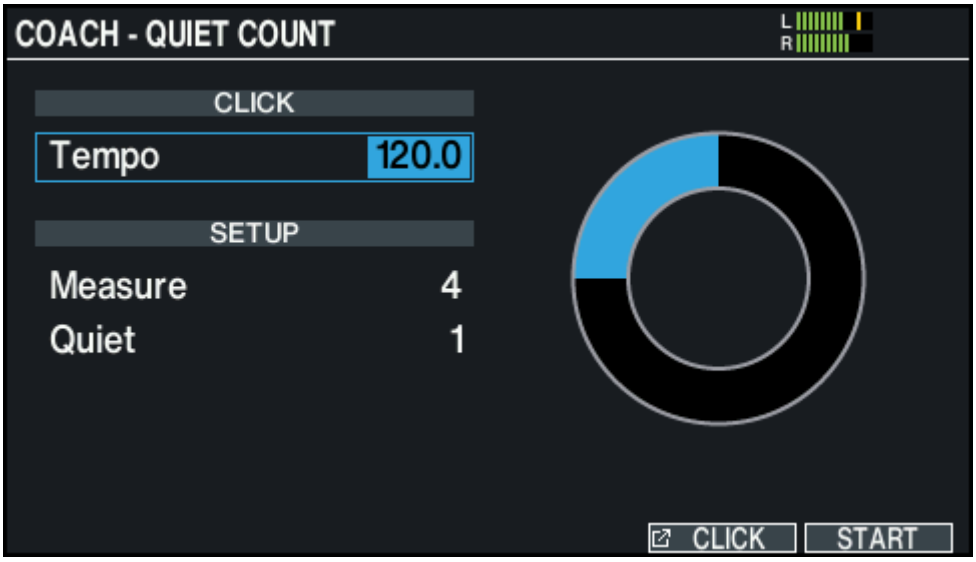
テンポをキープして叩く練習をするモードです。

最初の数小節は設定された音量でクリックが鳴りますが、次の数小節のクリックは鳴りません。停止させるまで、この数小節間隔のサイクルが続きます。

1 **［COACH］ボタンを押します。**

2 **カーソル・ボタンまたはダイヤルで「QUIET COUNT」を選び、［ENTER］ボタンを押します。**

COACH - QUIET COUNT画面が表示されます。

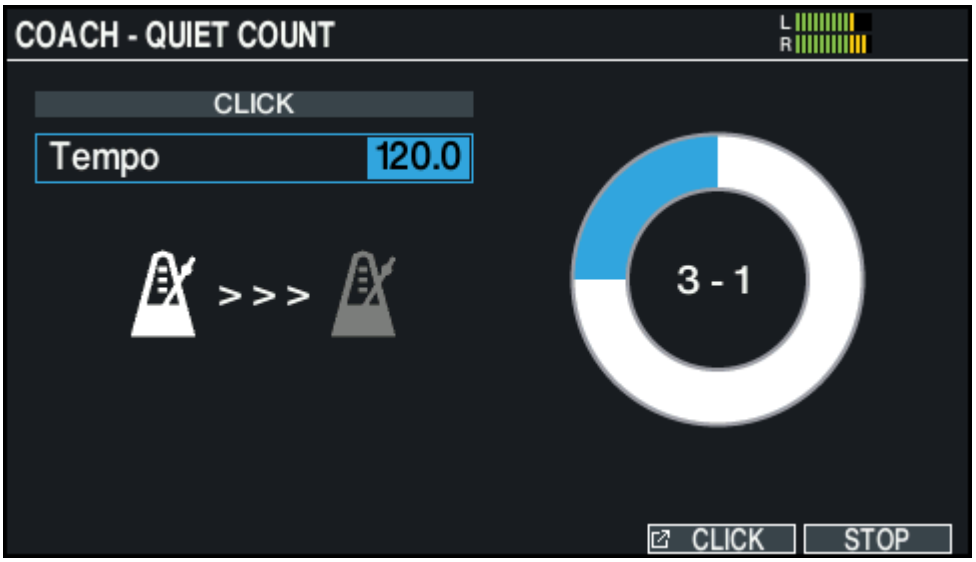


3 **ダイヤルでテンポを変更します。**

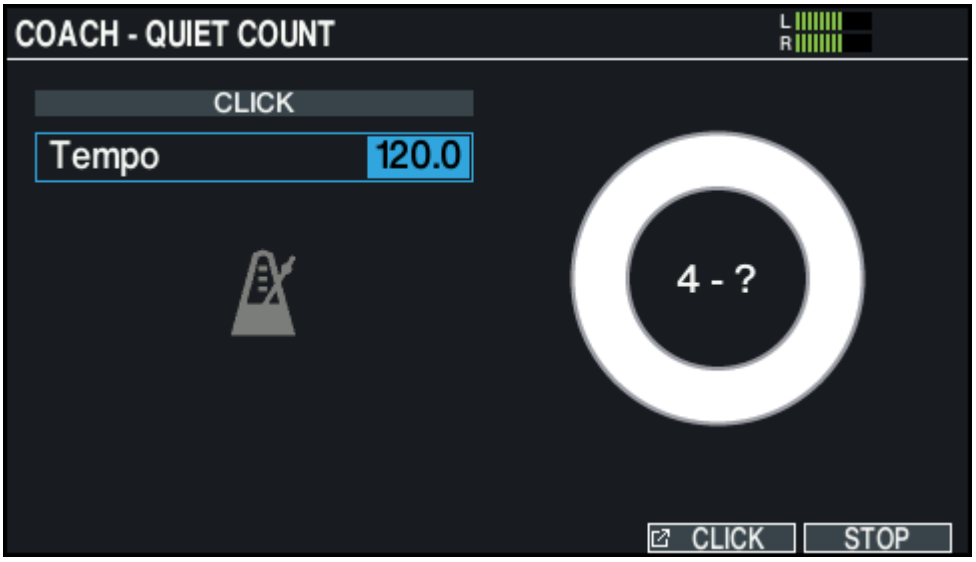
4 **［F6］（START）ボタンを押して、開始します。**

5 **クリックのテンポに合わせて、パッドを叩きます。**

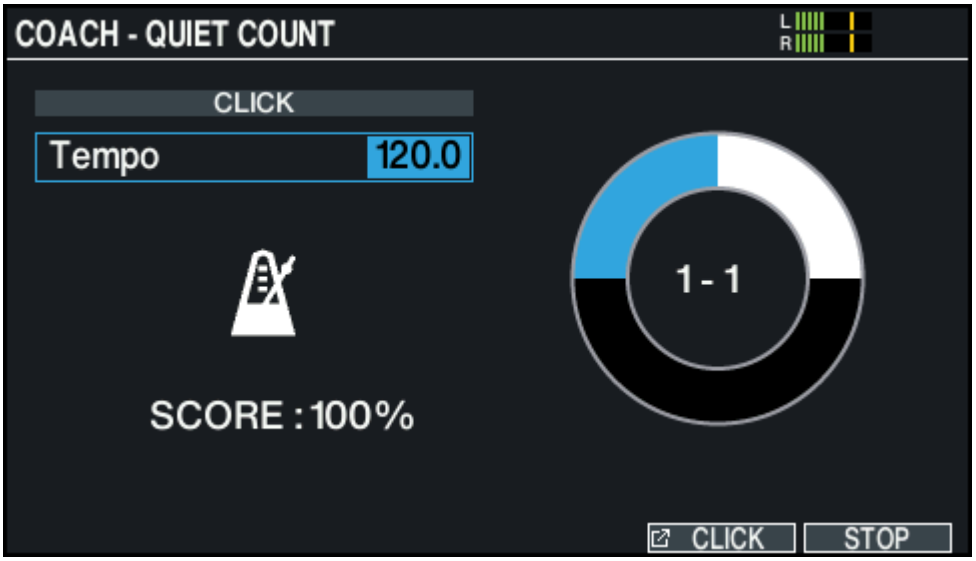
- 最初の数小節は画面に「 」が表示され、クリックが鳴ります。クリックが発音する最後の小節になると、画面に「 >>> 」が表示されます。



- クリックが鳴り終わると、画面の表示が「 」に変わります。この間もパッドを叩き続けます。



- Quietの区間のあと、正確なテンポで叩いた割合が「%」で表示されます。



6 [F6] （STOP）ボタンを押して、終了します。

QUIET COUNTの設定（SETUP）

練習する小節数などを変更することができます。

パラメーター	設定値	説明
Measures	2、4、8、16（小節）	「クリック発音」と「Quiet」の繰り返し区間の長さ（小節）を設定します。
Quiet	Measuresで設定した小節のうち、Quietにする小節の長さを設定します。	
	RANDOM	Quietの区間が毎回ランダムに設定されます。
	1、2、4	設定した長さ（小節）がQuietの区間に設定されます。 ※Measuresで設定した値の半分より大きい値を設定することはできません。

メモ

［F5］（CLICK）ボタンを押すと、クリックの設定をすることができます。
➡「クリックを鳴らす（P.34）」

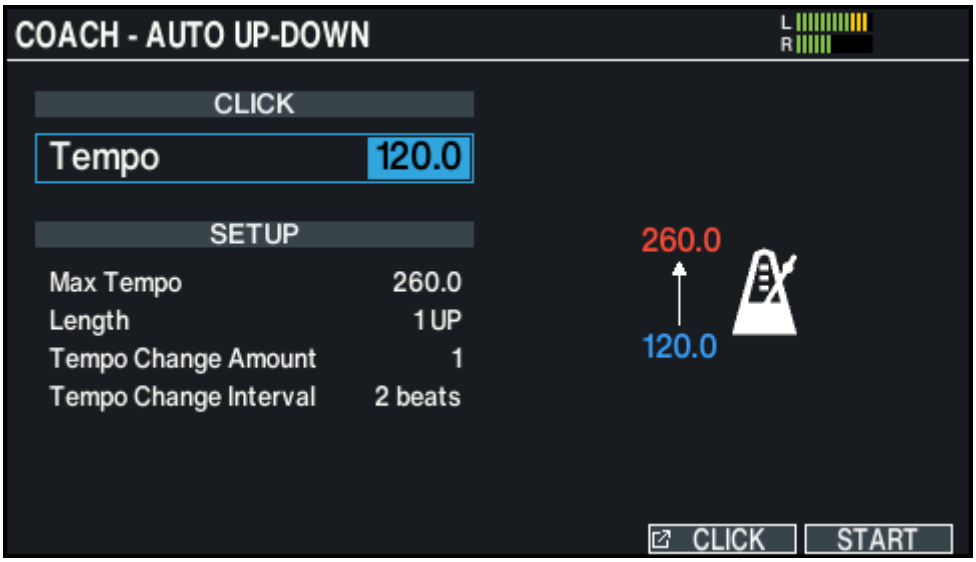
変化するテンポに合わせて叩く（AUTO UP/DOWN）

変化するテンポに合わせて叩く練習をするモードです。

1 [COACH] ボタンを押します。

2 カーソル・ボタンまたはダイヤルで「AUTO UP/DOWN」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

COACH - AUTO UP/DOWN画面が表示されます。

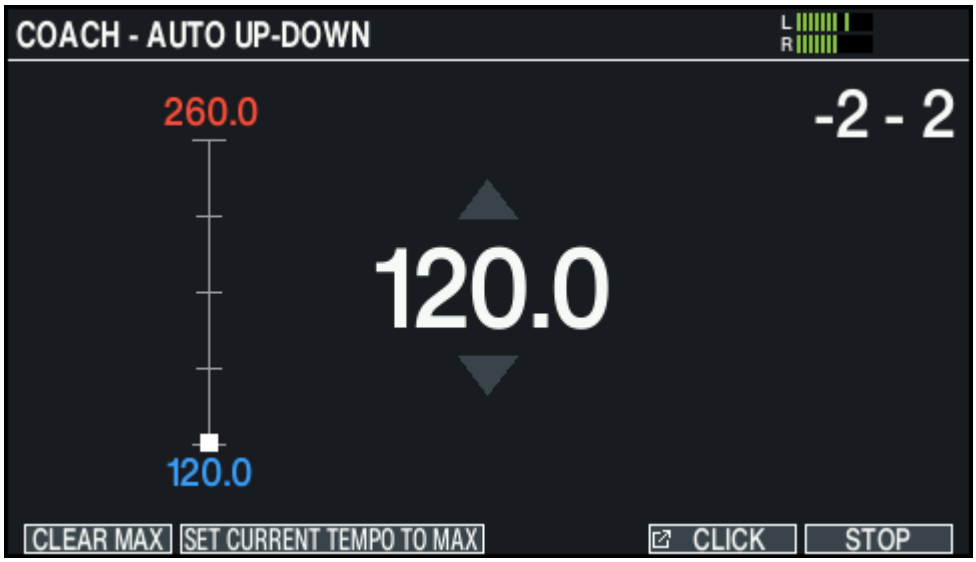


3 ダイヤルで、練習開始時のテンポ（開始テンポ）を設定します。

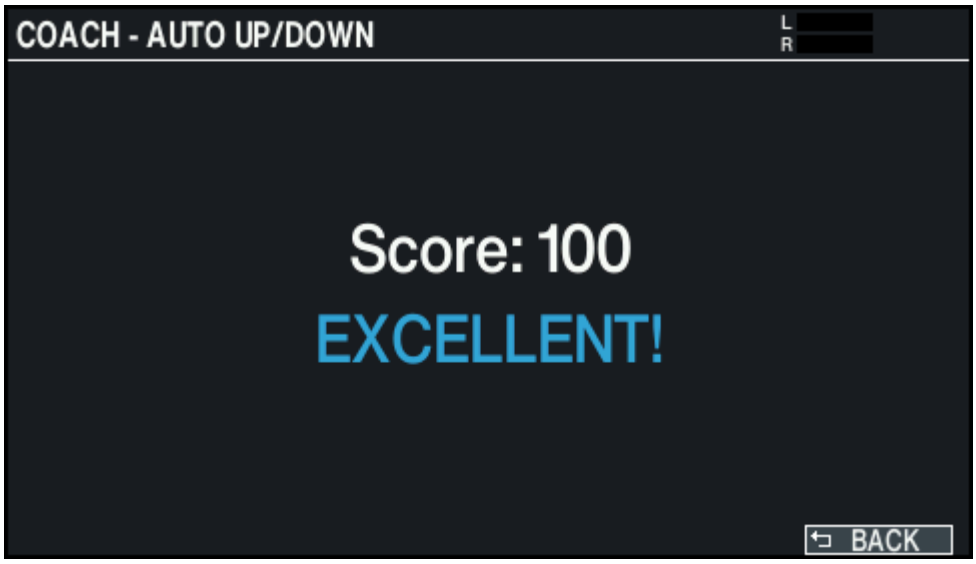
4 [F6] （START）ボタンを押して、開始します。

5 変化するテンポに合わせて、パッドを叩きます。

Lengthの設定に従って、開始テンポ → 最大テンポの間でテンポが変化します。
➡ 「AUTO UP/DOWNの設定（SETUP）（P.43）」



練習が終わると、どれだけ正確に叩いたかの結果が表示されます。



メモ

- 練習を途中で終了するときは、［F6］（STOP）ボタンを押します。
- 最大テンポは、テンポの変化を確認しながら設定することができます。［F1］（CLEAR MAX）ボタンを押して最大テンポを260.0（最大値）にして練習を始め、希望する最大テンポになったときに［F2］（SET CURRENT TEMPO TO MAX）ボタンを押します。

6 ［F6］（BACK）ボタンを押して、終了します。

AUTO UP/DOWNの設定（SETUP）

練習する小節数などを変更することができます。

パラメーター	設定値	説明
Max Tempo	20.0～260.0	最大テンポ ※開始テンポより小さい値を設定することはできません。
Length	テンポの変化のしかたを設定します。	
	1UP	開始テンポ→最大テンポで変化します。
	1UP-DOWN	開始テンポ→最大テンポ→開始テンポで変化します。
	3UP-DOWN	開始テンポ→最大テンポ→開始テンポを3回繰り返します。
	INF	［F6］（STOP）ボタンを押すまで、開始テンポ→最大テンポ→開始テンポを繰り返します。
Tempo Change Amount	1、4、5、8、10、20	テンポが変化する大きさを設定します。
Tempo Change Interval	2 beats、1、2、4、8、16 meas	テンポを変化させる間隔を設定します。

メモ

［F5］（CLICK）ボタンを押すと、クリックの設定をすることができます。
➡「クリックを鳴らす（P.34）」

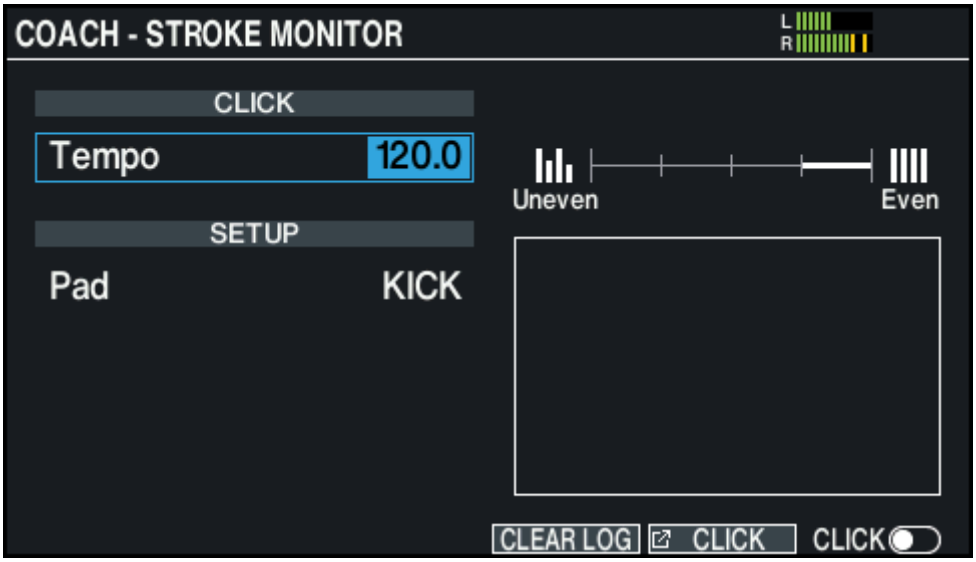
一定の強さで叩く（STROKE MONITOR）

パッドを叩いたときの強さを確認することで、一定の強さで叩く練習をするモードです。
左右の手で叩いた強さや、ツイン・ペダル使用時に左右の足で踏んだ強さのばらつきなどを確認するのに便利です。

1 ［COACH］ボタンを押します。

2 カーソル・ボタンまたはダイヤルで「STROKE MONITOR」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

COACH - STROKE MONITOR画面が表示されます。



3 カーソル・ボタンとダイヤルで、練習の設定をします。

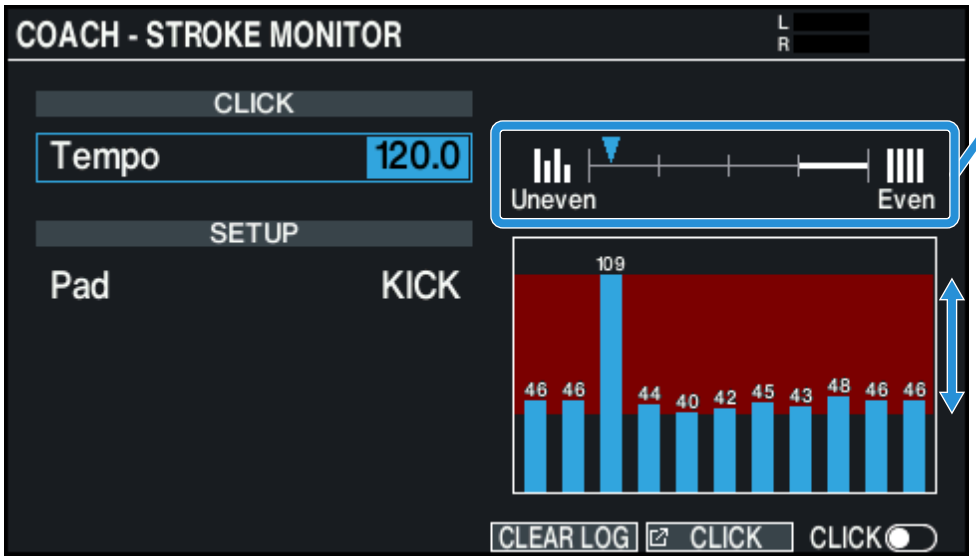
パラメーター	設定値	説明
Tempo	20.0～260.0	クリックのテンポを設定します。 クリックを鳴らしたいときは、［F6］（CLICK）ボタンでオンにします。
Pad	練習するパッドを選びます。	

メモ

［F5］（CLICK）ボタンを押すと、クリックの設定をすることができます。

➡「クリックを鳴らす（P.34）」

4 一定の強さになるように、パッドを叩きます。



一定の強さで叩くほど、画面のメーターが「Even」に近づきます。

一定の強さで叩くほど、赤いラインが狭くなります。

メモ

［F4］（CLEAR LOG）ボタンを押すと、表示をクリアーすることができます。

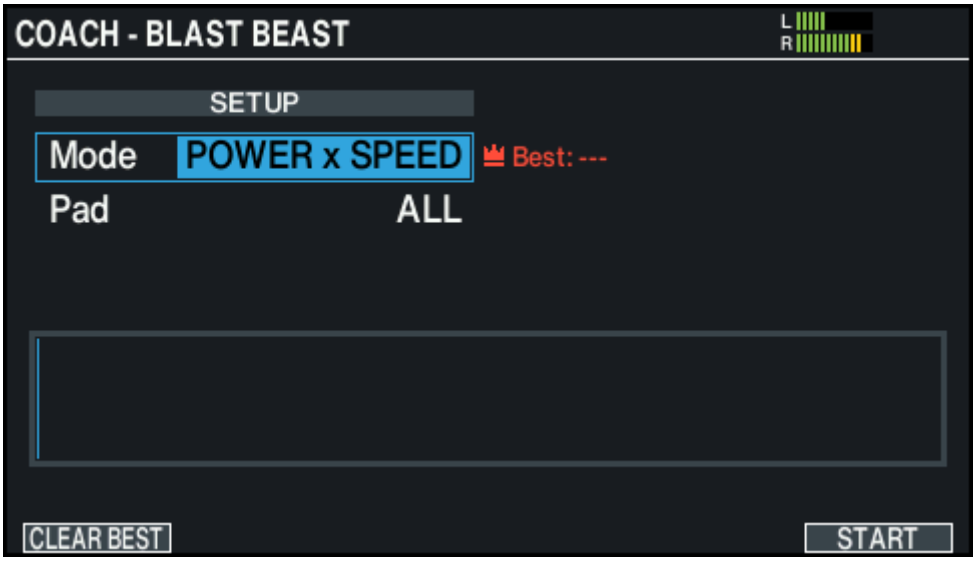
強く速く叩く（BLAST BEAST）

パッドをできるだけ強く、かつ速く叩き、10秒間でどれだけ叩けたか確認するモードです。

1 ［COACH］ボタンを押します。

2 カーソル・ボタンまたはダイヤルで「BLAST BEAST」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

COACH - BLAST BEAST画面が表示されます。



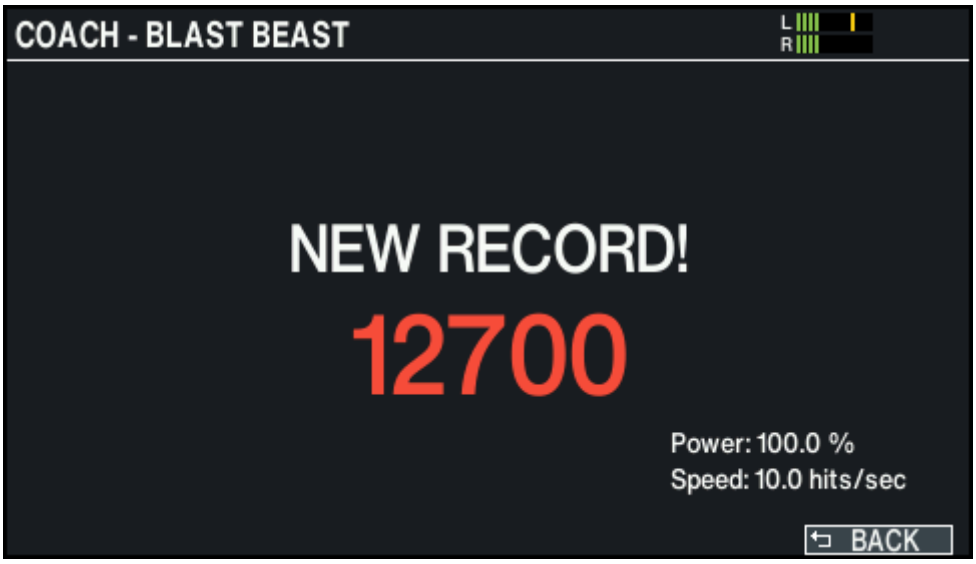
3 カーソル・ボタンとダイヤルで、練習の設定をします。

パラメーター	設定値	説明
Mode	練習のモードを選びます。	
	POWER x SPEED	パッドを叩く強さと速度で練習します。
	SPEED	パッドを叩く速度で練習します。
Pad	練習するパッドを選びます。	

4 ［F6］（START）ボタンを押して、練習を開始します。

5 できるだけ強く速く10秒間パッドを叩きます。

練習を開始してから10秒後、どれだけ強く速く叩いたかの結果が表示されます。



メモ

- 練習を途中で終了するときは、［F6］（STOP）ボタンを押します。
- ［F1］（CLEAR BEST）ボタンを押すと、過去の最高点数をクリアーすることができます。

曲に合わせて演奏する

スマートフォンに入っている曲や本機で再生できるソングに合わせて、ドラム演奏を楽しむことができます。

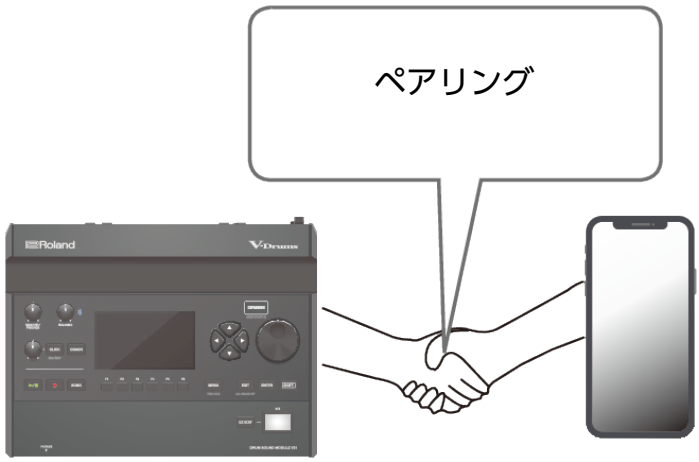
スマートフォンの曲に合わせて演奏する

スマートフォンの曲を本機で鳴らしながら演奏することができます。

スマートフォンとBluetooth接続する

スマートフォンと本機をBluetooth機能で無線接続するには、スマートフォンに本機を登録する（お互いを認証する）ための「ペアリング」が必要です。

ここでは、例としてiPhoneを使った設定方法を紹介します。



※本機とのペアリングが済んだスマートフォンは、再度ペアリングする必要はありません。「ペアリング済みのスマートフォンを接続する（P.48）」の手順をご覧ください。

スマートフォンを登録する（ペアリング）

1 **接続したいスマートフォンを、V31周辺に置きます。**

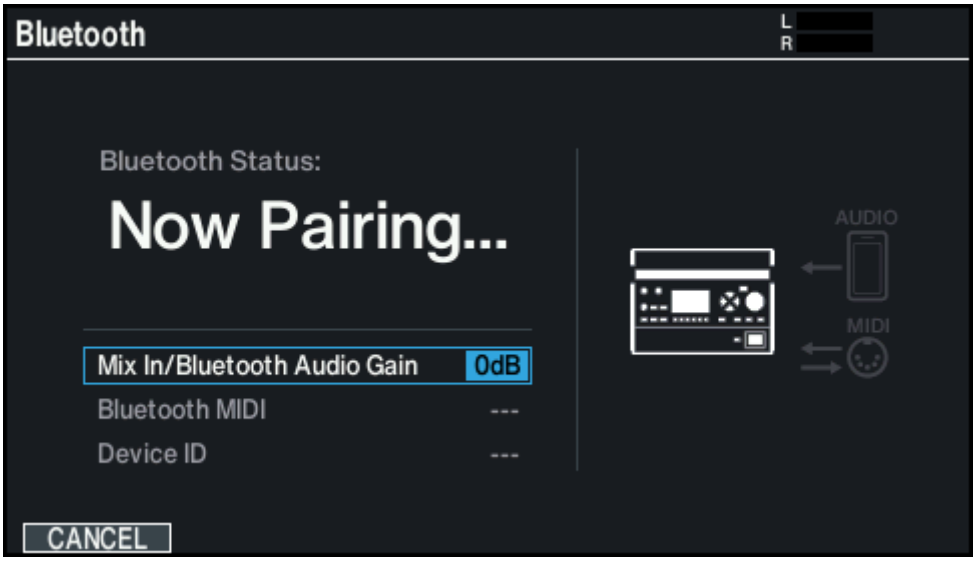
2 **［MENU］ボタンを押します。**

3 **カーソル・ボタンで「SYSTEM」→「Bluetooth」を選び、［ENTER］ボタンを押します。**

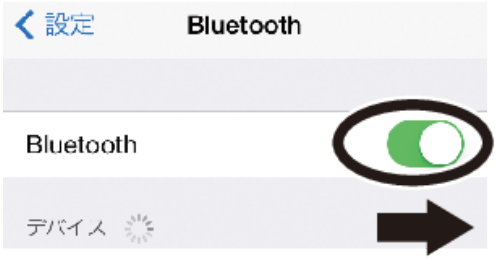
4 **［F6］（Bluetooth）ボタンを押して、Bluetooth Switchを「ON」にします。**

5 [F1] （PAIRING）ボタンを押します。

「Now Pairing...」と表示され、V31はモバイル機器からの応答を待ちます。



6 スマートフォンの設定で、Bluetooth機能をオンにします。



7 スマートフォンのBluetooth「デバイス」欄に表示される「V31 AUDIO」をタップします。

本機とスマートフォンがペアリングされます。ペアリングが完了すると、以下のように表示されます。

スマートフォン	「自分のデバイス」欄に「V31 AUDIO」が追加され、「接続済み」と表示される
V31	「Connected（AUDIO）」と表示される

8 [KIT] ボタンを押して、KIT画面に戻ります。

ペアリング済みのスマートフォンを接続する

1 スマートフォンの設定で、Bluetooth機能をオンにします。

スマートフォンと本機がBluetoothで接続されます。

※ 上記の操作で接続ができなかった場合は、スマートフォンの「デバイス」欄に表示されている「V31 AUDIO」をタップしてください。

スマートフォンの曲を再生する

スマートフォンで曲を再生すると、本機に接続したヘッドホンやアンプ内蔵スピーカーから音が鳴ります。
曲の音量は、本機の［BACKING］つまみ、Mix In/Bluetooth Audio Gain、またはスマートフォン側で調節してください。
また、Bluetooth画面で、本機からスマートフォンの曲を操作することができます。

操作子	機能
［F2］（⏮）ボタン	曲の先頭／前の曲に移動
［F3］（▶/■）ボタン	曲の再生／停止
［F4］（⏭）ボタン	次の曲に移動

※スマートフォンや音楽再生アプリによっては、V31から曲の操作ができない場合があります。

メモ

- スマートフォンで再生した曲は、V31の演奏音と一緒に録音することができます。
- MIX IN端子（ステレオ）にスマートフォンを接続して、スマートフォンの曲を本機で鳴らしながら演奏することもできます。

Bluetooth MIDI機能を使う

V31とモバイル機器の間でMIDIデータの送受信をする設定をします。

1 **［MENU］ボタンを押します。**

2 **カーソル・ボタンで「SYSTEM」→「Bluetooth」を選び、［ENTER］ボタンを押します。**

3 **Bluetooth MIDIにカーソルを合わせ、ダイヤルで「ON」にします。**

4 **モバイル機器のBluetooth機能をオンにします。**

5 **音楽アプリの設定画面で「V31 MIDI」を選び、接続します。**

詳しくは、音楽アプリの取扱説明書をご覧ください。

※モバイル機器のBluetooth設定から「V31 MIDI」に接続すると、正しく動作しない場合があります。

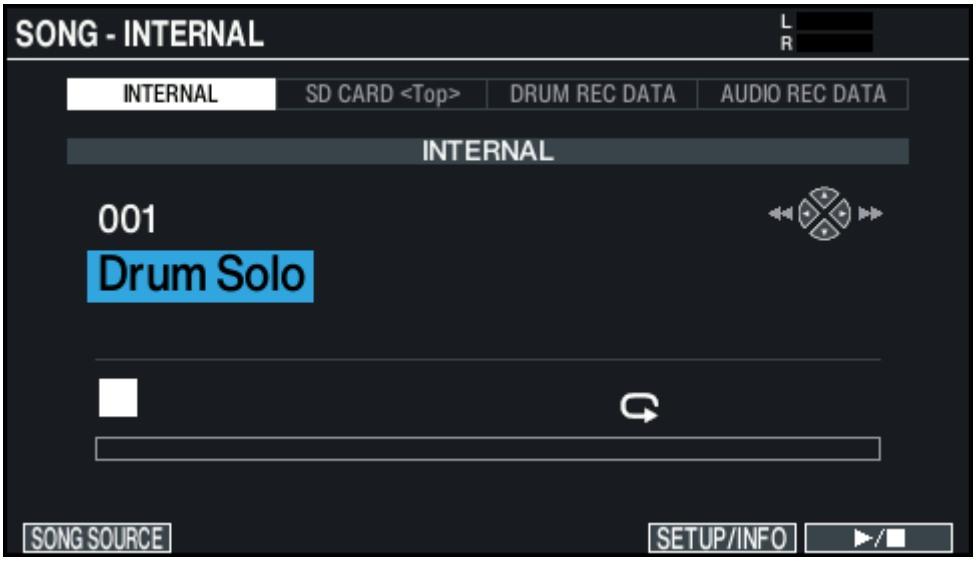
V31のソングに合わせて演奏する

本機は、いろいろなジャンルの曲（ソング）を内蔵しています。

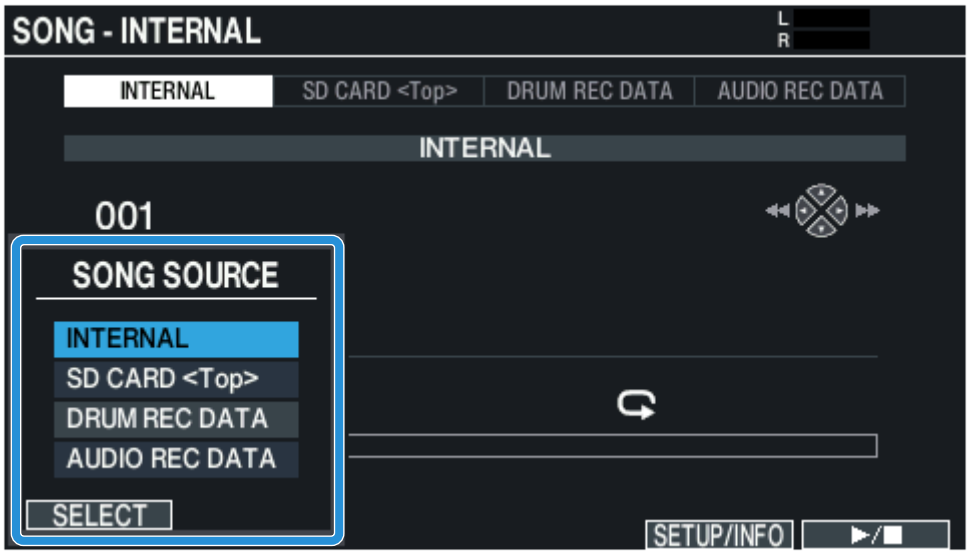
内蔵ソングには、オーディオ・データのものと、ドラム演奏を録音したもの（MIDIデータ）があります。また、SDカードに入れたオーディオ・ファイル（WAV／MP3）をソングとして再生することができます。

1 ［SONG］ボタンを押します。

SONG画面が表示されます。

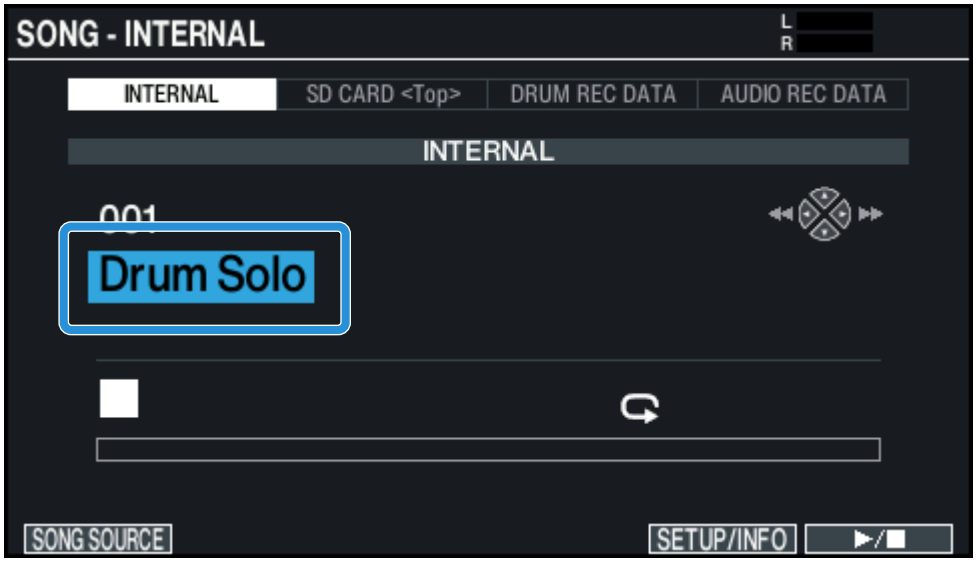


2 ［F1］（SONG SOURCE）ボタンを押してSONG SOURCEリストを表示し、［F1］（SELECT）ボタンを押して再生するソングの種類を選びます。



ソングの種類	説明
INTERNAL	内蔵ソング
SD CARD<Top>	SDカードのソング
DRUM REC DATA	本機で録音したドラム演奏データのソング
AUDIO REC DATA	本機で録音したオーディオ・データのソング

3 ソングにカーソルを合わせ、ダイヤルでソングを選びます。



4 ［▶/■］ボタンを押します。

選んだソングが再生されます。

メモ

［F6］（▶/■）ボタンでも再生／停止の操作ができます。

操作子	機能
［▶/■］ボタン、 ［F6］（▶/■）ボタン	ソングの再生／停止（*1）
［SHIFT］＋［◀］ボタン	ソングの先頭に移動（*1）
［SHIFT］＋［▶］ボタン	ソングの末尾に移動（*1）
［◀］ボタン	ソングの早戻し（*1）
［▶］ボタン	ソングの早送り（*1）
ダイヤル	ソングの早戻し、ソングの早送り（*1、*2）
［BACKING］つまみ	ソング（オーディオ・ファイル）の音量調節（*3）

*1　：ソングの種類によっては、無効になることがあります。

*2　：シーク・バー（再生位置を示すバー）にカーソルがあるときに有効です。

*3　：内蔵ソングのドラム演奏音や、録音したドラムの演奏音には効きません。

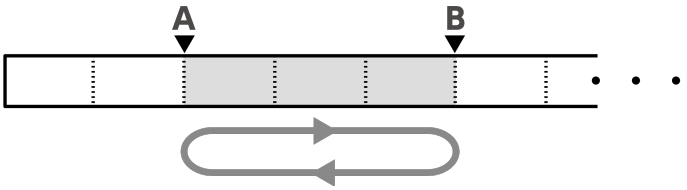
メモ

- ソング全体を繰り返して再生したり、一定区間を繰り返して再生したりすることができます。
- SDカードのオーディオ・ファイルをクリック・トラックとして出力することで、ソングに合わせてクリックを鳴らすことができます。
  ➡「オーディオ・ファイルをクリックとして再生する（クリック・トラック）（P.54）」

指定した区間を繰り返し再生させる（A-Bリピート）

ソングの一部区間をリピートすることができます。

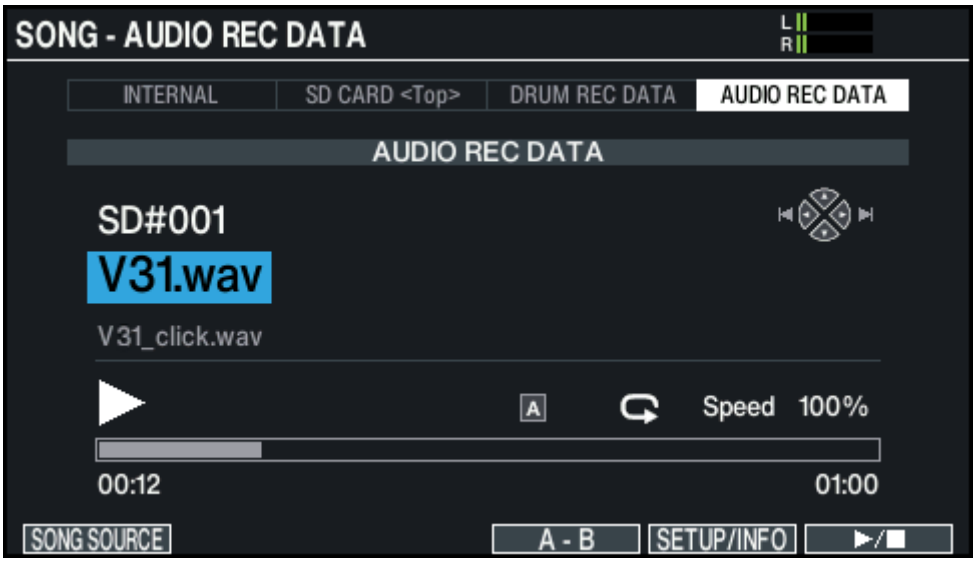
※ドラム演奏の内蔵ソングや、録音したドラム演奏データのソング（DRUM REC DATA）は、A-Bリピートは設定できません。



1 ソングを選んで再生します。

2 SONG画面で、リピートを開始したい位置で、［F4］（A - B）ボタンを押します。

「A」の文字が表示されます。

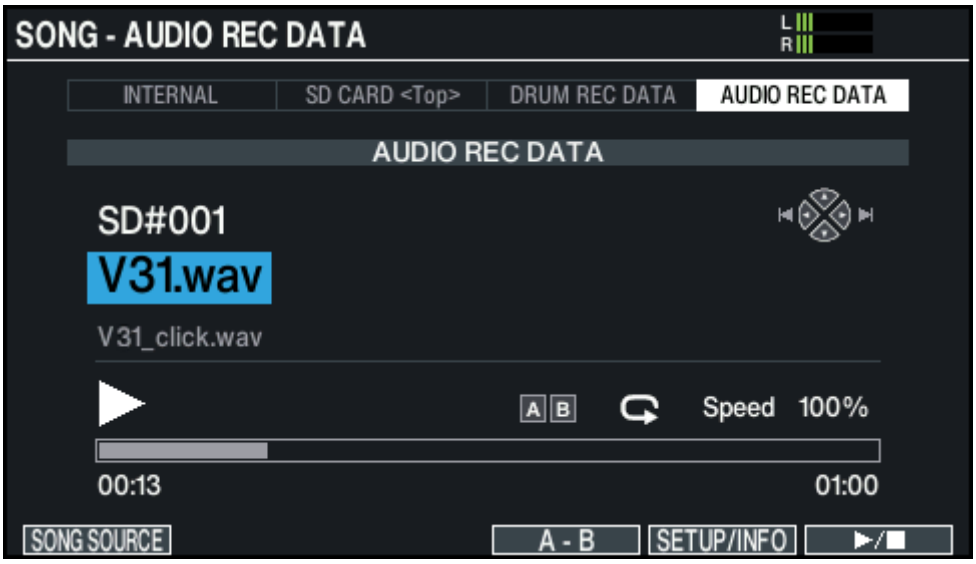


メモ

［◀］（◀◀）／［▶］（▶▶）ボタンで、5秒戻し／5秒送りができます。長押しすると、早戻し／早送りができます。

3 リピートを終了したい位置で、［F4］（A - B）ボタンを押します。

「B」の文字が表示され、ソングのAとBの間が繰り返し再生されます。



繰り返し再生中に［F4］（A - B）ボタンを押すと、通常の再生に戻ります。

ソングごとの設定を変更する／情報を見る

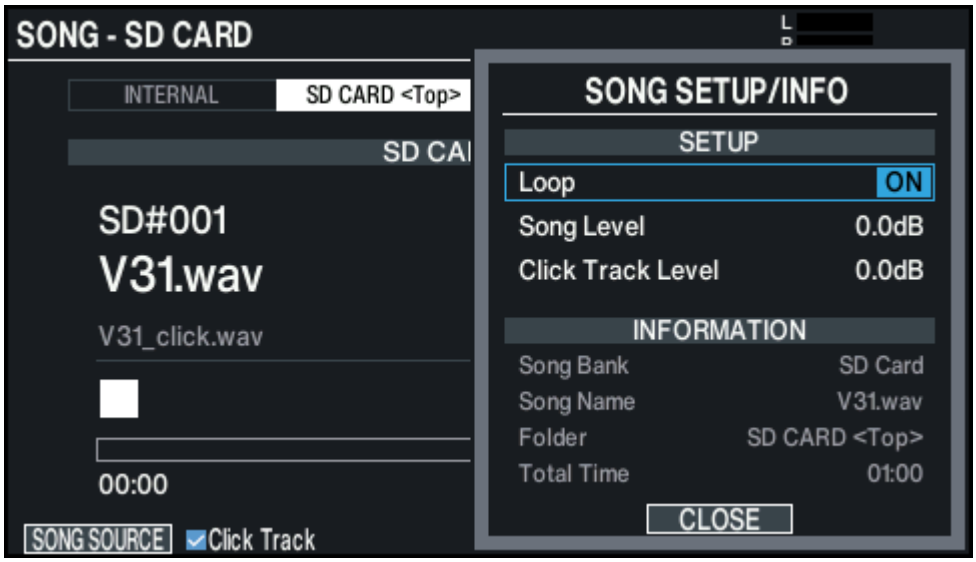
ソングの音量や再生のしかたを設定できます。また、ソングの情報を確認することもできます。

1 SONG画面で、ソングを選びます。

➡「V31のソングに合わせて演奏する（P.49）」

2 [F5]（SETUP/INFO）ボタンを押します。

SONG SETUP/INFOウィンドウが表示されます。



パラメーター	設定値	説明
SETUP		
Loop	OFF	1度だけ再生して、停止します。
	ON	繰り返し再生します。
Song Level	-INF～+12.0dB	ソングの音量
Click Track Level		クリック・トラックの音量 ※ソングに対応するクリック・トラックがある場合のみ
INFORMATION		
Song Bank	ソングの保存場所（本体の一時的なエリアまたはSDカード）	
Song Name	ソングの名前	
Folder	SDカード上の保存場所	
Total Time	曲の演奏時間 ※ドラム演奏だけのソングでは、表示されません。	

3 [F5]（CLOSE）ボタンを押します。

パソコンからSDカードにオーディオ・ファイルを保存するときは

SDカードのトップ・ディレクトリー（一番上の階層）に保存されたオーディオ・ファイルを再生することができます。

※1つのフォルダーに保存するファイルは200個以内にしてください。

※ソングの長さは、1ファイルが1時間以内になるようにしてください。

メモ

詳しくは「SDカードのフォルダー構成（P.204）」をご覧ください。

V31で再生できるオーディオ・ファイル

	WAVファイル	MP3ファイル
形式（拡張子）	WAV（.wav）	MP3（.mp3）
サンプル・レート	44.1kHz	44.1kHz
ビット数	16、24ビット	64～320kbps

※ 16文字以上のファイル名やフォルダー名は、正しく表示されません。また、2バイト文字を使ったファイルやフォルダーには対応していません。

オーディオ・ファイルをクリックとして再生する（クリック・トラック）

ソングとは別に、クリック用のオーディオ・ファイル（WAVファイル）を用意することで、クリック音の代わりに再生することができます（クリック・トラック）。

クリック・トラックは、ソングと同時に再生することができるため、ソングに合わせた好みのクリック音を再生したいときに便利です。

※ クリック・トラックを再生するには、必ずWAVファイル形式のソングとクリック用のオーディオ・ファイルを用意してください。MP3ファイルには対応していません。

クリック・トラックのオーディオ・ファイルを準備する

1 クリック・トラックとして再生するオーディオ・ファイル（WAVファイル）を用意します。

2 手順1で用意したファイルのファイル名を、パソコンで編集します。

クリック・トラックとして再生するオーディオ・ファイルのファイル名を、「ソングのファイル名+_Click」にします。

例）

「V31.wav」というソングに合わせてクリック・トラックを再生するときは、クリックのオーディオ・ファイルのファイル名を「V31_Click.wav」にします。

3 クリックのオーディオ・ファイルを、SDカードのソングと同じくルート・ディレクトリー（一番上の階層）に保存します。

例）の場合では、「V31.wav」と「V31_Click.wav」をルート・ディレクトリーに保存します。

ソングに合わせてクリック・トラックを再生する

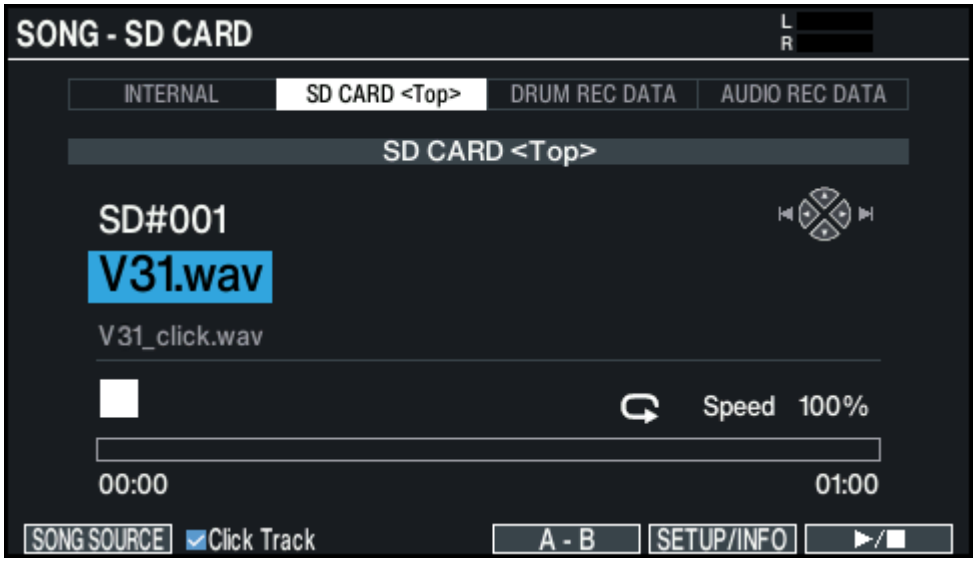
1 SONG画面で［F1］（SONG SOURCE）ボタンを押して、SONG SOURCEに「SD CARD<Top>」を選びます。

➡「V31のソングに合わせて演奏する（P.49）」

2 ダイヤルで、クリック・トラックと一緒に再生するソングを選びます。

例）の場合では、ソングに「V31.wav」を選びます。

3 ［F2］ボタンを押して、「Click Track」にチェックを入れます。



4 ［▶/■］ボタンを押します。

ソングの再生と同時に、クリック・トラックも再生されます。

クリック・トラックの音量を調節するときは、［CLICK］つまみを回します。

メモ

- クリック・トラックをミュートするときは、［F2］ボタンを押して「Click Track」のチェックをはずします。
- ヘッドホンだけにクリック・トラックを出力することもできます。
  ➡「音の出力先を設定する（OUTPUT）（P.220）」

お気に入りのドラム・キットを登録する／呼び出す

お気に入りのドラム・キットを登録しておくと、即座に呼び出すことができます。

お気に入りに登録する

1 KIT画面（P.27）で、［F1］（LIST）ボタンを押します。

KIT LISTウィンドウが表示されます。

2 カーソル［▼］［▲］ボタンまたはダイヤルで、登録するドラム・キットにカーソルを合わせます。

3 [F2] （★）ボタンを押します。

ドラム・キットに「★」マークが付き、お気に入りのドラム・キットに登録されました。

メモ

お気に入りに登録したドラム・キットを解除するときは、［F2］（★）ボタンを押して「★」マークを非表示にします。

登録したドラム・キットを呼び出す

1 KIT画面（P.27）で、［F1］（LIST）ボタンを押します。

2 [F4] （▸ALL ★）ボタンを押します。

お気に入りに登録したドラム・キットの一覧が表示されます。

3 カーソル［▼］［▲］ボタンまたはダイヤルでドラム・キットを選びます。

4 [KIT] ボタンを押して、KIT画面に戻ります。

ボタンの誤操作を防ぐ（セーフティー・モード）

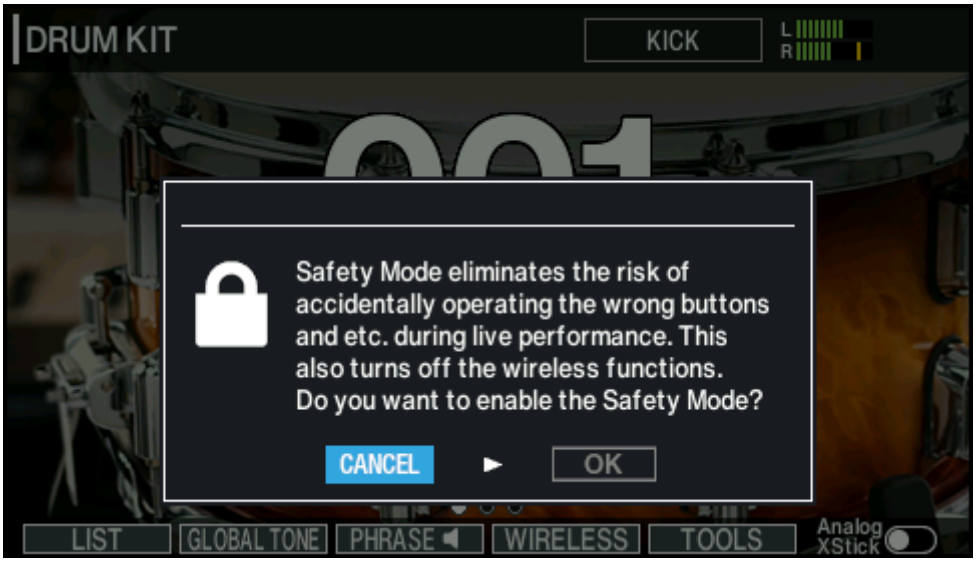
ボタンの操作を無効にして、誤操作を防ぐことができます（セーフティー・モード）。
ライブ中に使う特定の機能以外は、操作ができなくなります。また、無線機能（Wi-Fi、Bluetooth）も無効になります。

1 KIT画面（P.27）で、［F5］（TOOLS）ボタンを押します。

または［SHIFT］ボタンを押しながら［KIT］ボタンを押して、手順3に移ります。

2 カーソル・ボタンで「SAFETY MODE」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

3 カーソル・ボタンで「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

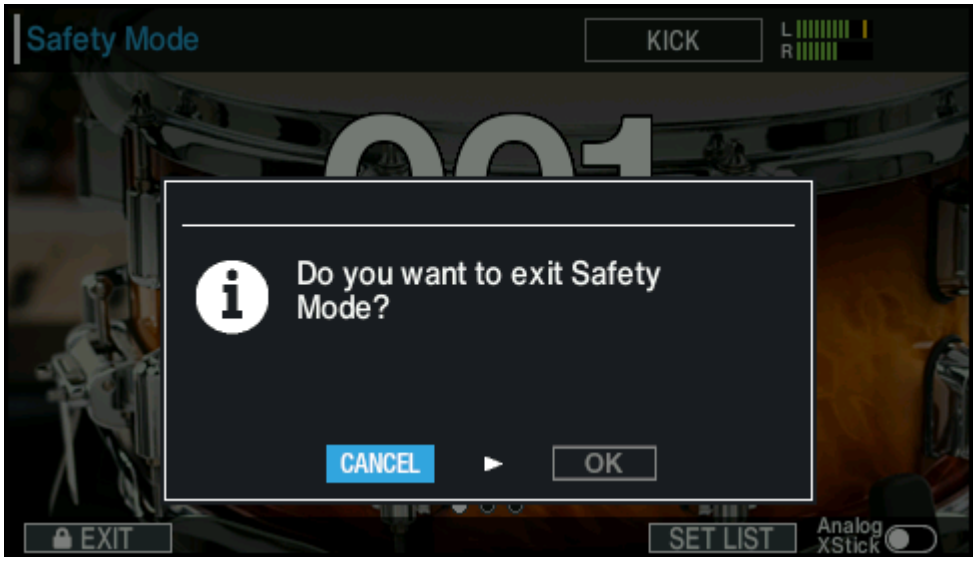


セーフティー・モードがオンになると、以下の画面が表示されます。

セーフティー・モードを解除する

1 **［F1］（EXIT）ボタンを押します。**

または［SHIFT］ボタンを押しながら［KIT］ボタンを押します。



2 **カーソル・ボタンで「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。**

セーフティー・モード中にできる操作

- ドラム・キットの切り替え
- セット・リストのオン／オフと切り替え
- つまみを使った音量調節
- ALL SOUND OFF
- クリックのオン／オフ（［SHIFT］ボタン+［CLICK］ボタンのショートカット）
- PD-14DSXのSTRAINER LEVERの操作
- PD-14DSXの一部のStrainer SWITCH/KNOBの操作

  Strainer Sw Funcのパラメーター
  - OFF
  - DISPLAY STRAINER KNOB FUNC
  - CLICK PLAY/STOP
  - ALL SOUND OFF

  Strainer Knob Funcのパラメーター
  - 有効な機能はありません。

録音編

演奏を録音する

自分の演奏を簡単に録音して、再生することができます。

録音の種類

本機では、以下の2つの録音方法があります。

DRUM REC	SMFデータ（MIDI）として録音します。
AUDIO REC	オーディオ・データ（WAV）として録音します。

※SDカードに録音する場合は、あらかじめSDカードを挿入しておきます。

SMF録音する（DRUM REC）

演奏をSMFデータ（MIDI）として録音します。

1 **［●］ボタンを押します。**

REC画面が表示され、録音のスタンバイ状態になります。

メモ

クリックに合わせて録音したいときは、クリックを鳴らします。

➡「クリックを鳴らす（P.34）」

2 ［F1］（REC MODE）ボタンを押して、REC MODEウィンドウを表示します。

3 カーソル［▼］［▲］ボタンまたはダイヤルで「DRUM REC」を選び、［F1］（SELECT）ボタンを押します。

REC - DRUM REC画面が表示されます。

4 カーソル・ボタンとダイヤルで、録音の設定をします。

パラメーター	設定値	説明
Rec Number	TEMPORARY	本体の一時的なエリアに録音します（1曲）。
	SD#01～99	SDカードに録音します（99曲）。 V31にSDカードを挿入していないと、選ぶことはできません。

注意

TEMPORARYに録音したデータは、電源を切ると消去されます。必要なデータは、必ずSDカードにエクスポートしてください。

➡「DRUM RECの録音データをSDカードにエクスポートする（SONG EXPORT）（P.68）」

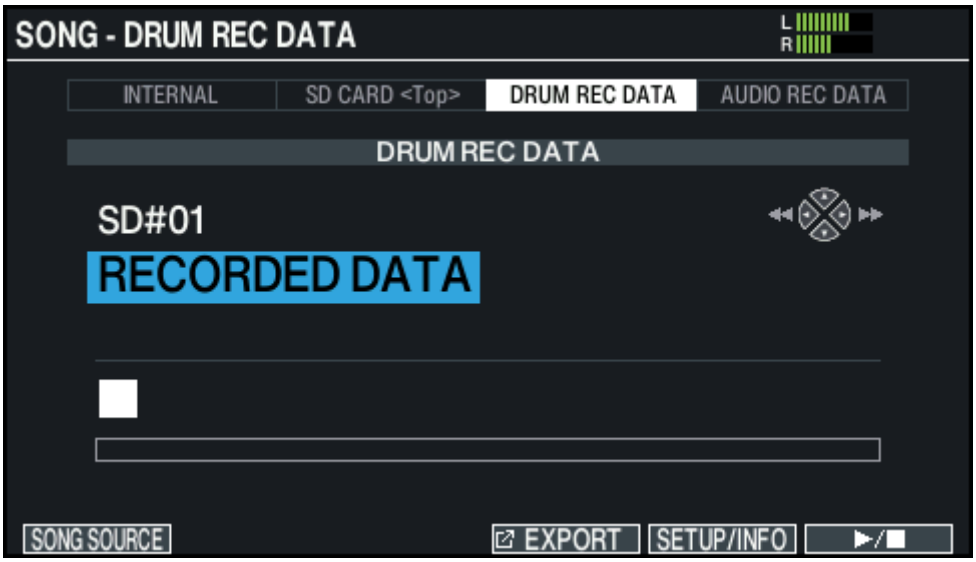
メモ

録音データのある録音先に上書きしてもよい場合は、［F6］（Overwrite）ボタンを押して「Overwrite」にチェックを入れておきます。チェックをはずしておくと、誤って録音データが上書きされることがないため便利です。

5 ［▶/■］ボタンを押して、録音を始めます。

6 ［▶/■］ボタンを押して、録音を終了します。

SONG - DRUM REC DATA画面が表示されます。



7 ［▶/■］ボタンを押して、再生を開始します。

録音した演奏が再生されます。

メモ

ダイヤルを回して、他の録音したソングを選ぶこともできます。

8 ［▶/■］ボタンを押して、再生を終了します。

メモ

- 録音したデータは、エクスポートすることができます。
  ➡「DRUM RECの録音データをSDカードにエクスポートする（SONG EXPORT）（P.68）」
- ソングに合わせて演奏を録音することもできます。
  ➡「ソングに合わせて演奏を録音する（P.66）」

オーディオ録音する（AUDIO REC）

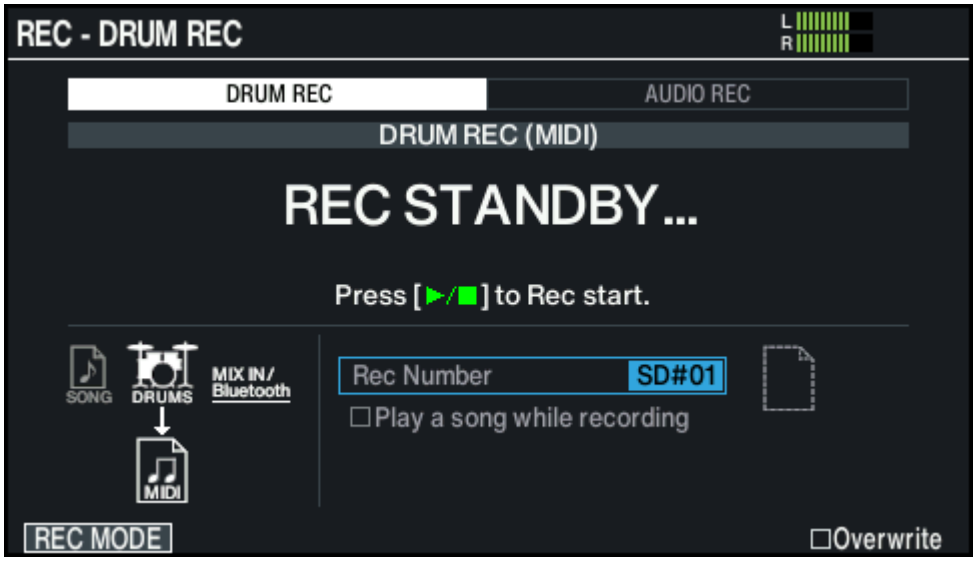
演奏をオーディオ・データ（WAV）として録音します。

注意

AUDIO RECで録音すると、録音終了後のAUDIO REC PLAYBACK画面を抜けると、録音データは消去されます。
必要なデータは、必ずSDカードに保存してください。

1 ［●］ボタンを押します。

REC画面が表示され、録音のスタンバイ状態になります。



メモ

クリックに合わせて録音したいときは、クリックを鳴らします。

➡「クリックを鳴らす（P.34）」

2 ［F1］（REC MODE）ボタンを押して、REC MODEウィンドウを表示します。

3 カーソル［▼］［▲］ボタンまたはダイヤルで「AUDIO REC」を選び、［F1］（SELECT）ボタンを押します。

REC - AUDIO REC画面が表示されます。

4 カーソル・ボタンとダイヤルで、録音の設定をします。

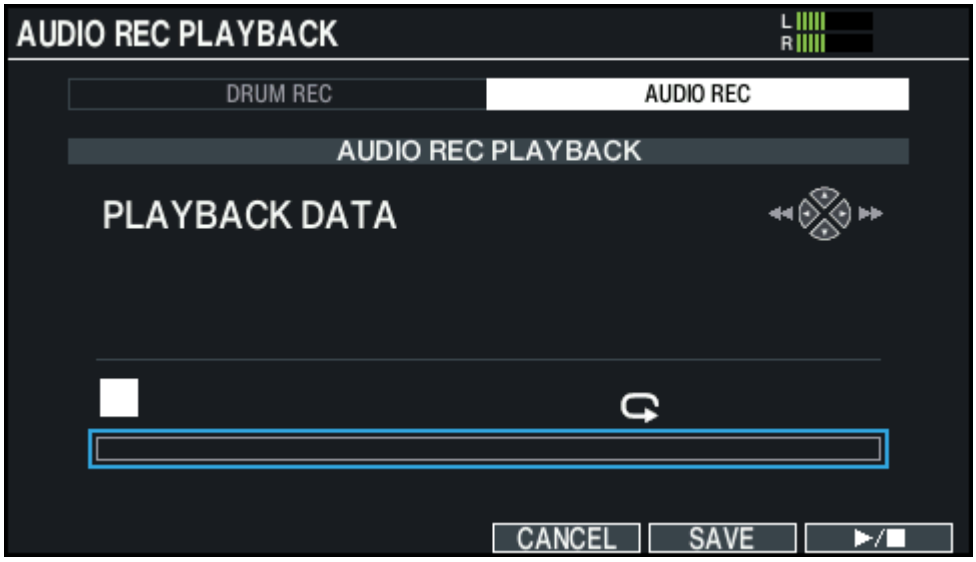
パラメーター	設定値	説明
Rec Number（*1）	TEMPORARY	本体の一時的なエリアに録音します。最大約1分録音できます。 ※V31にSDカードを挿入していないときに選ばれます。
	SD#001～200	SDカードに録音します。最大約60分録音できます。 ※V31にSDカードを挿入しているときに選ばれます。
Rec Target	ALL	ドラム演奏に加え、MIX IN（STEREO）端子からの入力音やBluetooth接続したスマートフォンの再生音も録音します。
	DRUMS ONLY	ドラム演奏のみ録音します。
Rec Gain	-24～+24dB	録音の音量を調節します。 録音開始前にレベル・メーターを見ながら調節してください。

*1：Rec Numberは自動的に設定されます。

5 ［▶/■］ボタンを押して、録音を始めます。

6 ［▶/■］ボタンを押して、録音を終了します。

AUDIO REC PLAYBACK画面が表示されます。



7 ［▶/■］ボタンを押して、再生を開始します。

録音した演奏が再生されます。

8 ［▶/■］ボタンを押して、再生を終了します。

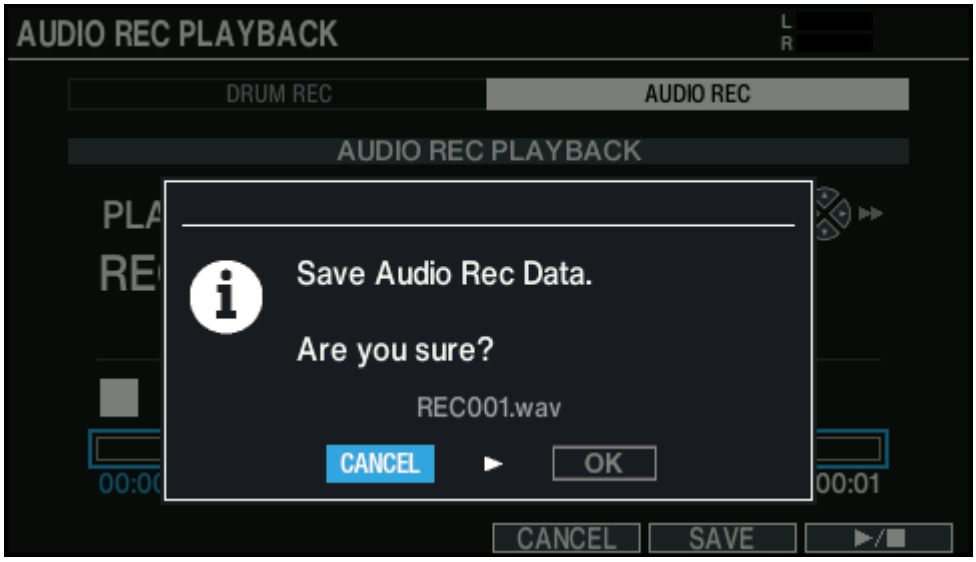
メモ

［F6］（▶/■）ボタンでも再生／停止の操作ができます。

録音データを保存しないときは、［F4］（CANCEL）ボタンを押して録音を終了します。

9 録音データを保存するときは、［F5］（SAVE）ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは、「CANCEL」を選んで［ENTER］ボタンを押します。

10 「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

録音データがSDカードに保存されます。

メモ

ソングに合わせて演奏を録音することもできます。

➡「ソングに合わせて演奏を録音する（P.66）」

ソングに合わせて演奏を録音する

オーディオ・データのソングに合わせてドラムを録音することができます。

DRUM RECで録音する

1 オーディオ・データのソングを選びます。

➡「V31のソングに合わせて演奏する（P.49）」

※ 内蔵ソング（INTERNAL）のオーディオ・データには、ソング名の末尾に「(AUDIO)」が入っています。

2 ［●］ボタンを押します。

REC画面が表示され、録音のスタンバイ状態になります。

3 録音の種類に「DRUM REC」を選びます。

➡「SMF録音する（DRUM REC）（P.60）」

4 カーソル・ボタンとダイヤルで、「Play a song while recording」にチェックを入れます。

5 ［▶/■］ボタンを押して、録音を始めます。

録音の開始と同時に、ソングが再生されます。

6 ［▶/■］ボタンを押して、録音を終了します。

7 録音した演奏を再生します。

※ ソングに合わせてクリック・トラック（P.54）を再生しながら録音した場合、録音した演奏を再生するときにはクリック・トラックは再生されません。

8 ［▶/■］ボタンを押して、再生を終了します。

9 必要に応じて、ソングをエクスポートします。

➡「DRUM RECの録音データをSDカードにエクスポートする（SONG EXPORT）（P.68）」

AUDIO RECで録音する

1 オーディオ・データのソングを選びます。

➡「V31のソングに合わせて演奏する（P.49）」

※ 内蔵ソング（INTERNAL）のオーディオ・データには、ソング名の末尾に「(AUDIO)」が入っています。

2 ［●］ボタンを押します。

REC画面が表示され、録音のスタンバイ状態になります。

3 録音の種類に「AUDIO REC」を選びます。

➡「オーディオ録音する（AUDIO REC）（P.62）」

4 Rec Targetを「ALL」に設定します。

5 カーソル・ボタンとダイヤルで、「Play and record a song」にチェックを入れます。

6 ［▶/■］ボタンを押して、録音を始めます。

録音の開始と同時に、ソングが再生されます。

7 ［▶/■］ボタンを押して、録音を終了します。

8 録音した演奏を再生します。

※ ソングに合わせてクリック・トラック（P.54）を再生しながら録音した場合、録音した演奏を再生するときにはクリック・トラックは再生されません。

9 ［▶/■］ボタンを押して、再生を終了します。

10 必要に応じて、ソングをSDカードに保存します。

➡「オーディオ録音する（AUDIO REC）（P.62）」

DRUM RECの録音データに名前を付ける

DRUM RECで録音したデータの名前を変更します。

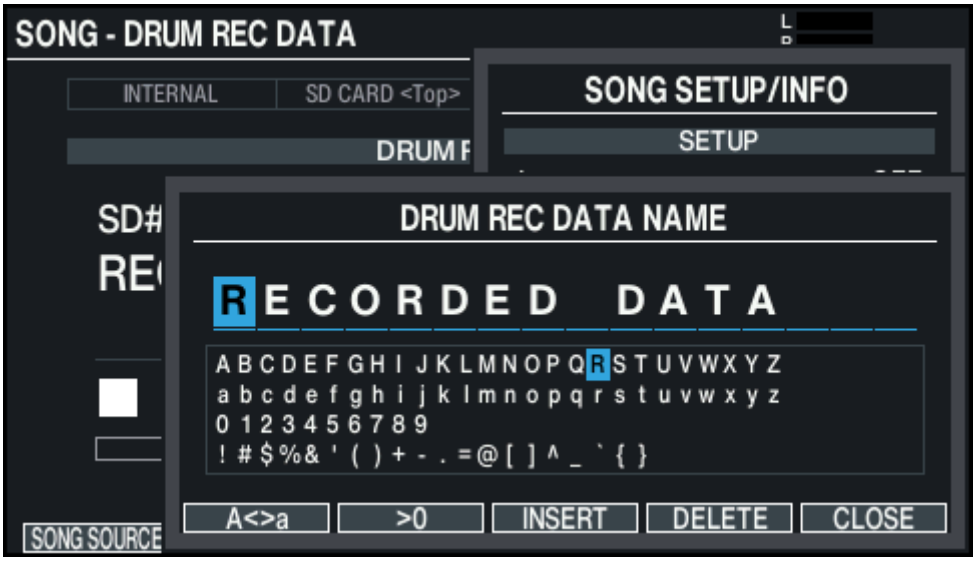
1 SONG画面で、ソングを選びます。

➡「V31のソングに合わせて演奏する（P.49）」

2 ［F5］（SETUP/INFO）ボタンを押します。

3 [F6] （RENAME）ボタンを押します。

DRUM REC DATA NAMEウィンドウが表示されます。



4 名前を変更します。

録音データの名前は16文字まで入力できます。

➡「ドラム・キットの名前を変更する（KIT NAME）（P.106）」

5 [F6] （CLOSE）ボタンを押して、DRUM REC DATA NAMEウィンドウから抜けます。

6 [F5] （CLOSE）ボタンを押して、SONG SETUP/INFOウィンドウから抜けます。

DRUM RECの録音データをSDカードにエクスポートする（SONG EXPORT）

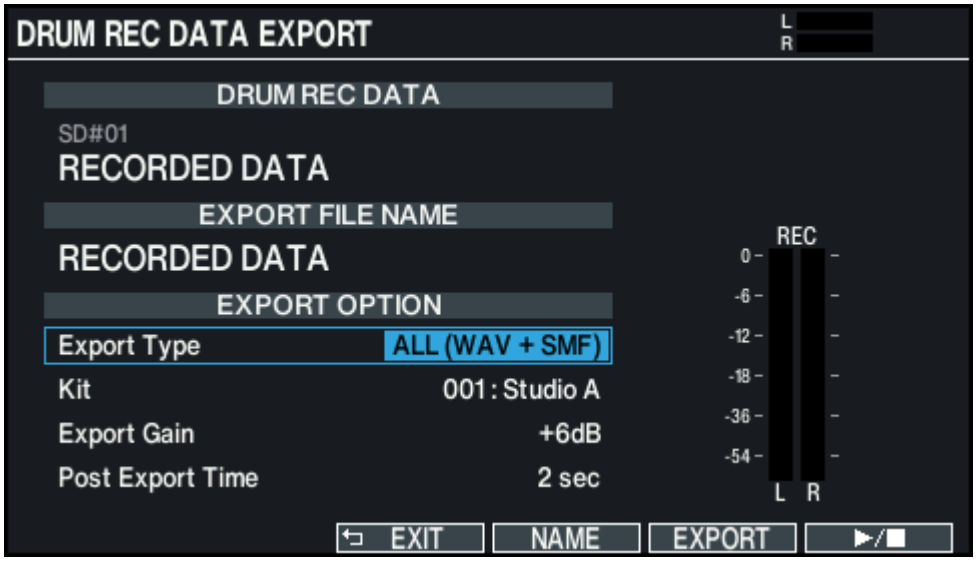
DRUM RECで録音したデータを、オーディオ・ファイル（WAV）やSMFで、SDカードにエクスポートすることができます。

1 SONG画面で、ソングを選びます。

➡「V31のソングに合わせて演奏する（P.49）」

2 ［F4］（EXPORT）ボタンを押します。

DRUM REC DATA EXPORT画面が表示されます。



3 カーソル［▼］［▲］ボタンでパラメーターを選び、ダイヤルで設定を変更します。

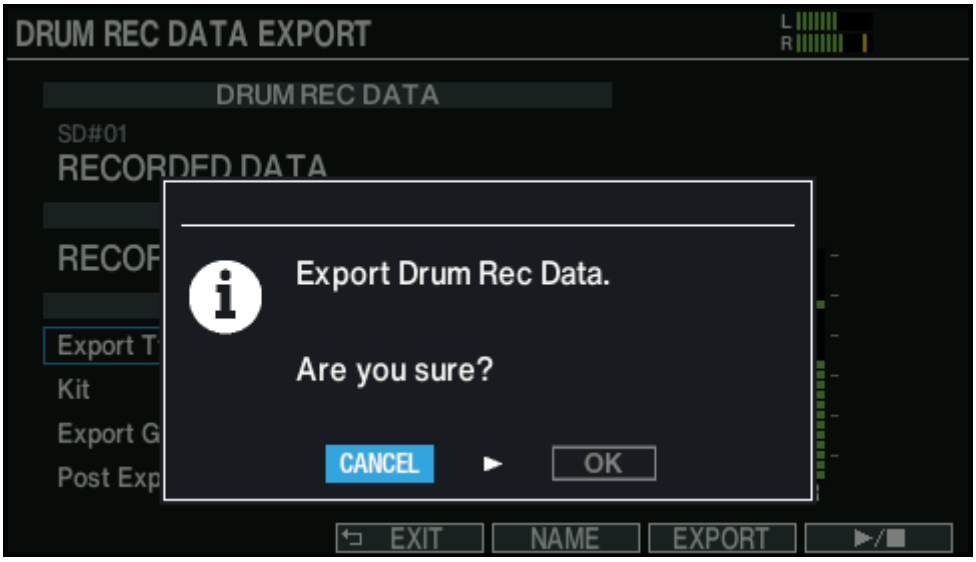
パラメーター	設定値	説明
Export Type	SMF	ドラムの演奏音を、SMFでエクスポートします。
	WAV（Drums）	ドラムの演奏音を、オーディオ・ファイルでエクスポートします。
	WAV（Drums with song）	ドラムの演奏音とソングの音を、オーディオ・ファイルでエクスポートします。 ※「DRUMS ONLY」で録音した録音データの場合は選べません。
	SMF + WAV	ドラムの演奏音を、オーディオ・ファイルとSMFでエクスポートします。
Kit	001～200	選んだドラム・キットの音で、オーディオ・ファイルがエクスポートされます。
Export Gain	0～+24dB	［F6］（▶/■）ボタンを押すと、エクスポート結果の録音データをプレビュー再生することができます。出力レベル・メーターを参考に、オーディオ・ファイルの音量を調節します。＋の値にすると音量が大きくなります。
Post Export Time	0～10 sec	書き出したオーディオ・ファイルの、最後の音の余韻が切れてしまう場合があります。そのようなとき、この値を大きくすると、余韻を切れるのを防ぐことができます。

メモ

［F4］（NAME）ボタンを押して、エクスポートするファイルの名前を付けることができます。

4 ［F5］（EXPORT）ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは、「CANCEL」を選んで［ENTER］ボタンを押します。

5 「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

エクスポートを開始します。

エクスポートしたデータは、「EXPORTフォルダー」に保存されます。

注意

エクスポート中は、絶対に以下の操作はしないでください。録音データがすべて失われることがあります。

- 電源を切る
- SDカードを抜く
- パッドを叩く

メモ

- 同じ名前のエクスポート・データがある場合は、「Duplicate file name! / Overwrite?」のメッセージが表示されます。上書きしてもよい場合は、「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。中止するときは、「CANCEL」を選び［ENTER］ボタンを押して、名前を変えてからエクスポートしてください。
- エクスポートを途中で中止したいときは、［F6］（CANCEL）ボタンを押します。
- ドラムの演奏をSMFでエクスポートすると、ドラム・キットやSETUPのMIDI設定に応じたノート・ナンバーで出力されます。詳しくは『データ・リスト』（Web）をご覧ください。

パソコンと接続して録音する

パソコンと接続して、DAWへ30chのマルチ・トラックでオーディオ録音したり、MIDIで録音したりすることができます。

➡ 詳しくは「パソコンやスマートフォンと接続して使う（P.134）」をご覧ください。

ドラム・キット・カスタマイズ編

V31では、ヘッドの種類やシェルの深さなどドラム自体のカスタマイズから残響の調節まで、幅広い音作りができます。

設定の保存

V31では、変更した値は自動的に保存されるため、設定を保存する操作は必要ありません。

また、電源をオフにするときも設定が保存されます。

メモ

- エディット中のドラム・キットを一時的に保存しておき、現在の設定と聴き比べながらエディットすることができます。
  ➡「エディット前のドラム・キットと聴き比べをする／エディット前に戻す（SNAPSHOT）（P.130）」
- エディットしたドラム・キットを元の状態に戻したいときは、「ドラム・キットを工場出荷時の設定に戻す（P.230）」をご覧ください。

ドラム・キットを簡単にエディットする（EZ EDIT）

V31では、EZ EDITを使ってインストゥルメントを簡単に調整することができます。

EZ EDITでは、ヘッドの設定に合わせて自動的にリムの設定も調整されます。

インストゥルメントを選ぶ

スネア・ドラム、キック・ドラムなど、それぞれのインストゥルメント（楽器音）を設定します。

メモ

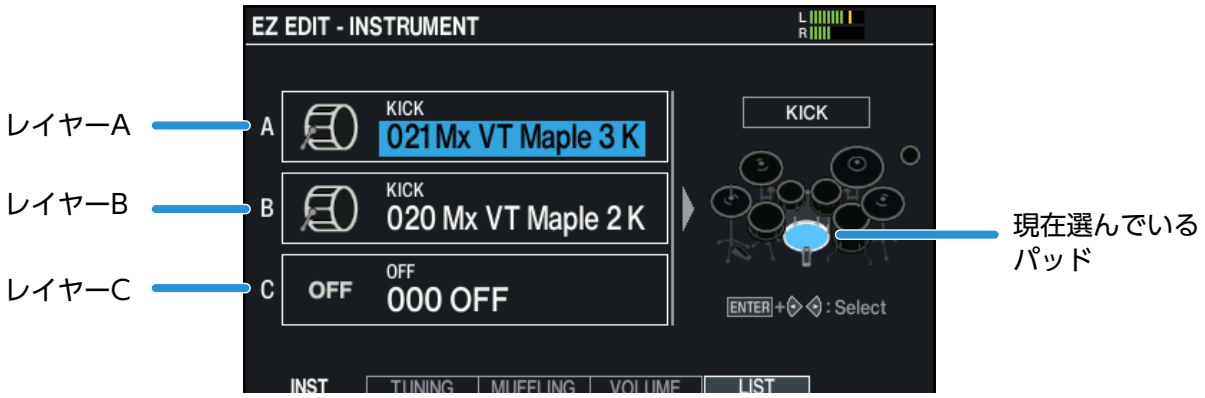
V31では、パッド（ヘッドやリムなどの各トリガー）ごとに最大3つのインストゥルメント（レイヤーA～C）を重ねることができます。

➡選べるインストゥルメントについては、『データ・リスト』（Web）をご覧ください。

1 **［EZ EDIT］ボタンを押します。**

2 **［F1］（INST）ボタンを押します。**

EZ EDIT - INSTRUMENT画面が表示されます。



3 **設定するパッドを選びます。**

➡「設定するパッドを選ぶ（P.72）」

4 **カーソル・ボタンを押して、インストゥルメントにカーソルを合わせます。**

5 **ダイヤルでインストゥルメントを選びます。**

メモ

- ［ENTER］ボタンを押して、リストからインストゥルメントを選ぶこともできます。
- ［F6］（UNDO）ボタンを押すと、画面に入ったときの設定に戻すことができます。

6 **［KIT］ボタンを押して、KIT画面に戻ります。**

設定するパッドを選ぶ

パッドを叩いて選ぶ

各パッドの設定をするときは、設定するパッドを叩いて選びます。

パッドのリム側を選ぶときは、リムを叩きます。

［ENTER］ボタンを押しながら［◀］［▶］ボタンを押して、パッドを選ぶ

［ENTER］ボタンを押しながら［◀］［▶］ボタンを押して、設定するパッドを選ぶこともできます。

メモ

- ［SHIFT］ボタンを押しながら［MENU］ボタンを押すと、パッドを叩いても、設定するパッドが切り替わらなくなります。フレーズを演奏しながら設定するときに便利です（トリガー・ロック）。
- EZ EDITでは、ヘッド／リムを個別にエディットすることはできません。KIT EDIT（P.74）でヘッド／リムを個別に設定するなど、より細かくドラム・キットをエディットすることができます。EZ EDIT以外では、［ENTER］ボタンを押しながら［▼］［▲］を押して、パッドのヘッド／リムを選ぶことができます。

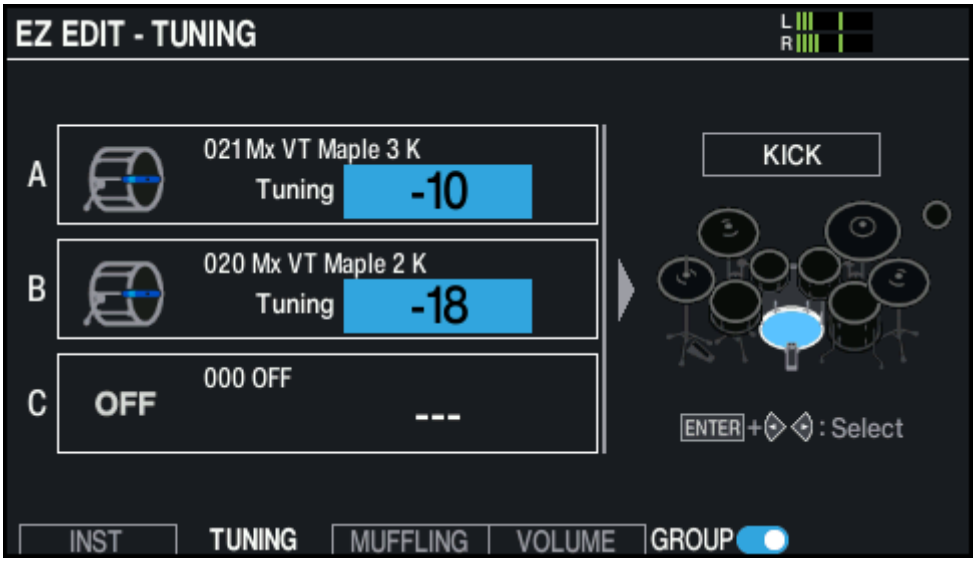
チューニングをする

ヘッドのチューニングをしたり、シンバルのサイズを選んだりすることができます。

1 **［EZ EDIT］ボタンを押します。**

2 **［F2］（TUNING）ボタンを押します。**

EZ EDIT - TUNING画面が表示されます。



3 **設定するパッドを選びます。**

➡「設定するパッドを選ぶ（P.72）」

4 ダイヤルで値を変更します。

メモ

- [F5] (GROUP) ボタンを押して、インストゥルメント（レイヤーA〜C）をセットで設定するか（オン）／個別に設定するか（オフ）を選ぶことができます。
- [F6] (UNDO) ボタンを押すと、画面に入ったときの設定に戻すことができます。

5 [KIT] ボタンを押して、KIT画面に戻ります。

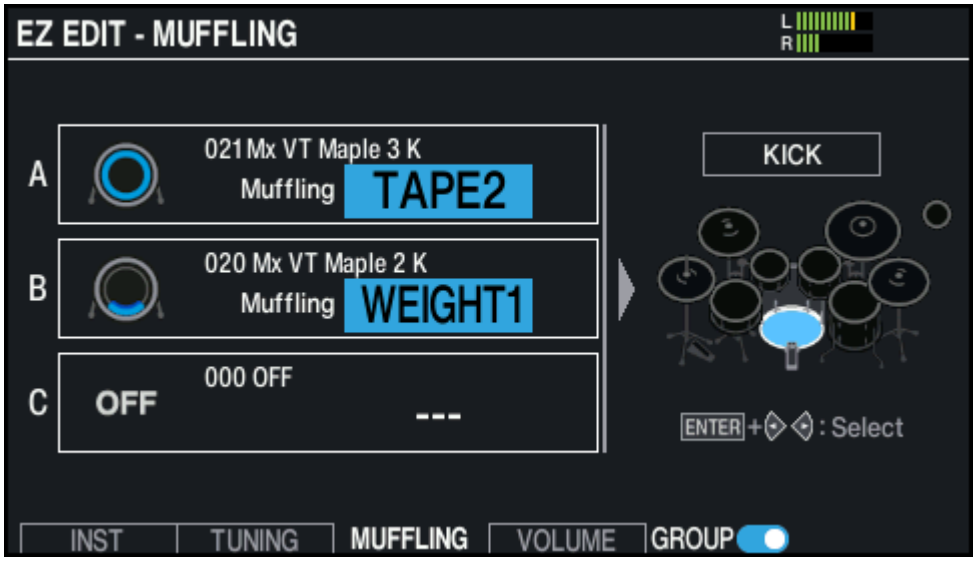
マフリング（ミュート）の設定をする

マフリング（ミュート）のしかたを設定することができます。

1 [EZ EDIT] ボタンを押します。

2 [F3] (MUFFLING) ボタンを押します。

EZ EDIT - MUFFLING画面が表示されます。



3 設定するパッドを選びます。

➡「設定するパッドを選ぶ（P.72）」

4 ダイヤルで値を変更します。

メモ

- [F5] (GROUP) ボタンを押して、インストゥルメント（レイヤーA〜C）をセットで設定するか（オン）／個別に設定するか（オフ）を選ぶことができます。
- [F6] (UNDO) ボタンを押すと、画面に入ったときの設定に戻すことができます。

5 [KIT] ボタンを押して、KIT画面に戻ります。

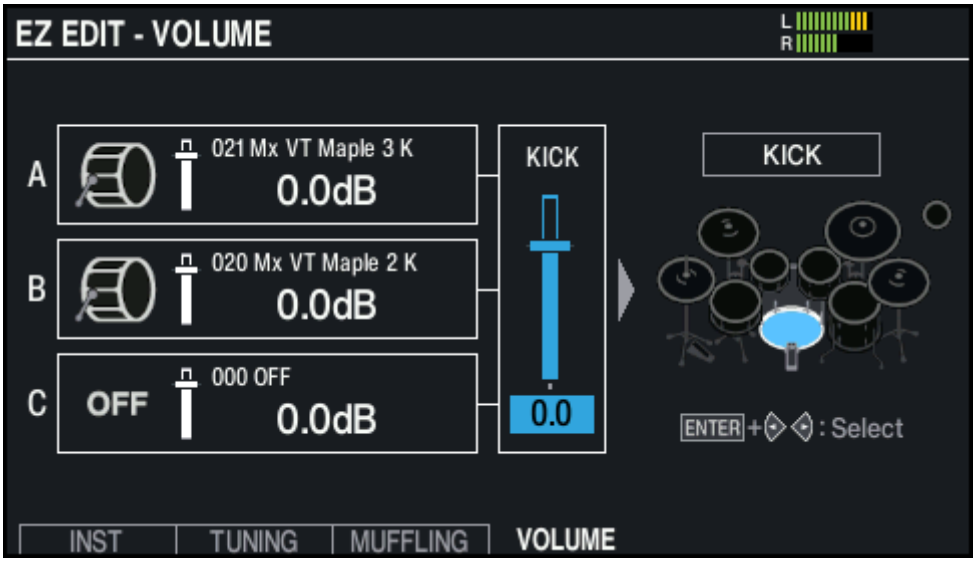
インストゥルメントやパッドの音量を調節する

インストゥルメントやパッドの音量を調節します。

1 **[EZ EDIT] ボタンを押します。**

2 **[F4] (VOLUME) ボタンを押します。**

EZ EDIT - VOLUME画面が表示されます。



3 **設定するパッドを選びます。**

➡「設定するパッドを選ぶ (P.72)」

4 **カーソル・ボタンでパラメーターを選び、ダイヤルで値を変更します。**

メモ

[F6] (UNDO) ボタンを押すと、画面に入ったときの設定に戻すことができます。

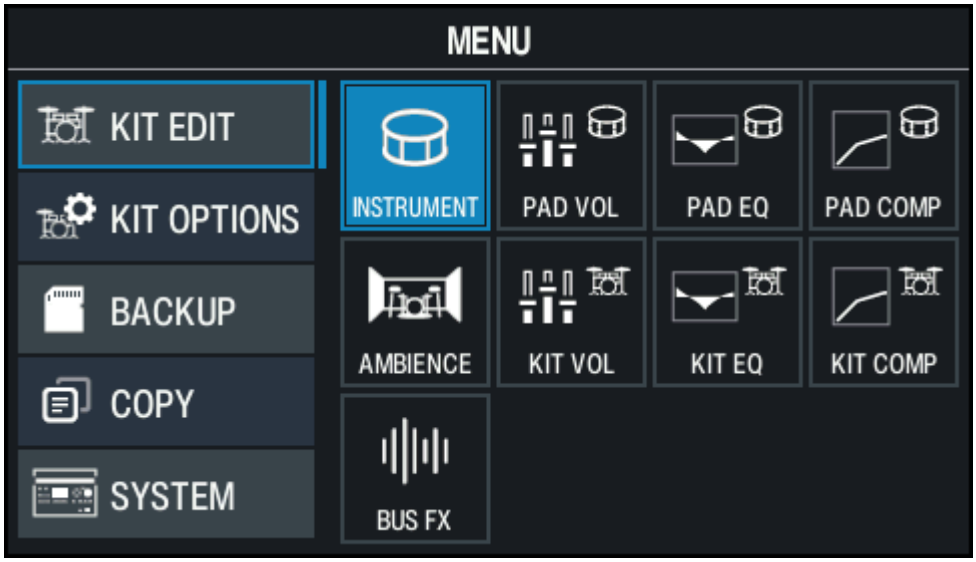
ドラム・キットを細かくエディットする (KIT EDIT)

インストゥルメントやパッドごとの音量の設定など、ドラム・キットを細かくエディットすることができます。

➡設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』(Web) をご覧ください。

1 **[MENU] ボタンを押します。**

2 カーソル・ボタンで「KIT EDIT」を選びます。



3 カーソル・ボタンまたはダイヤルで設定したいメニューを選び、［ENTER］ボタンを押します。

メニュー	説明
INSTRUMENT	インストゥルメントをエディットします。
PAD VOL	パッドごとに音量とパン（定位）を設定します。
PAD EQ	パッドごとに音質（パッド・イコライザー）を設定します。
PAD COMP	パッドごとの音量変化（パッド・コンプレッサー）を設定します。
AMBIENCE	ドラムを演奏する場所の残響や鳴りかたを再現します。
KIT VOL	ドラム・キットやハイハットなどの音量を設定します。
KIT EQ	ドラム・キット全体にかかる音質（キット・イコライザー）をキットごとに設定します。
KIT COMP	ドラム・キット全体の音量変化（キット・コンプレッサー）をキットごとに設定します。
BUS FX	パッドごとにさまざまなエフェクトをかけます。

4 選んだメニューに応じて、設定を変更します。

5 ［KIT］ボタンを押して、KIT画面に戻ります。

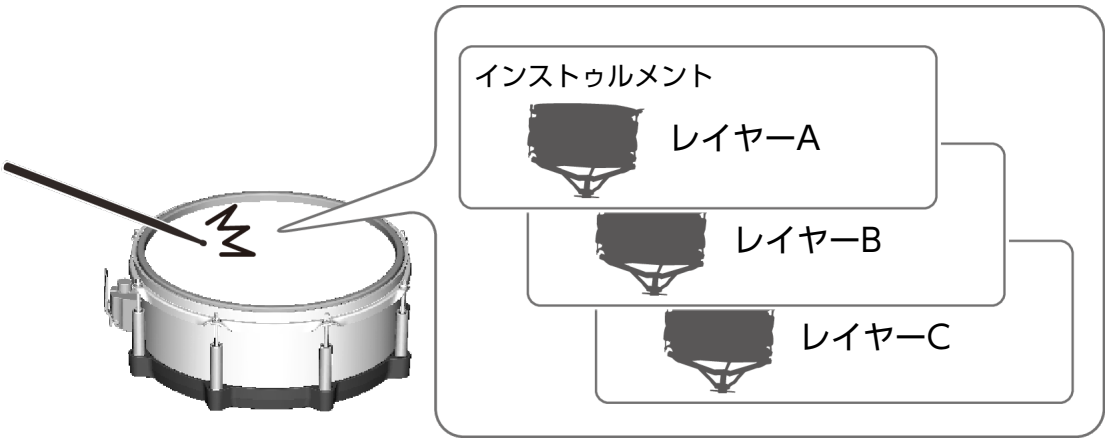
インストゥルメントをエディットする（INSTRUMENT）

スネア・ドラム、キック・ドラムなど、それぞれのインストゥルメント（楽器音）をエディットします。

V31では、パッド（ヘッドやリムなどの各トリガー）ごとに最大3つのインストゥルメント（レイヤーA～C）を重ねることができます。

インストゥルメントの設定（インストゥルメントの選択、V-EDIT、トランジェント、EQ）を、レイヤーごとにエディットすることができます。

➡「インストゥルメントを重ねて鳴らす（レイヤー）（P.83）」



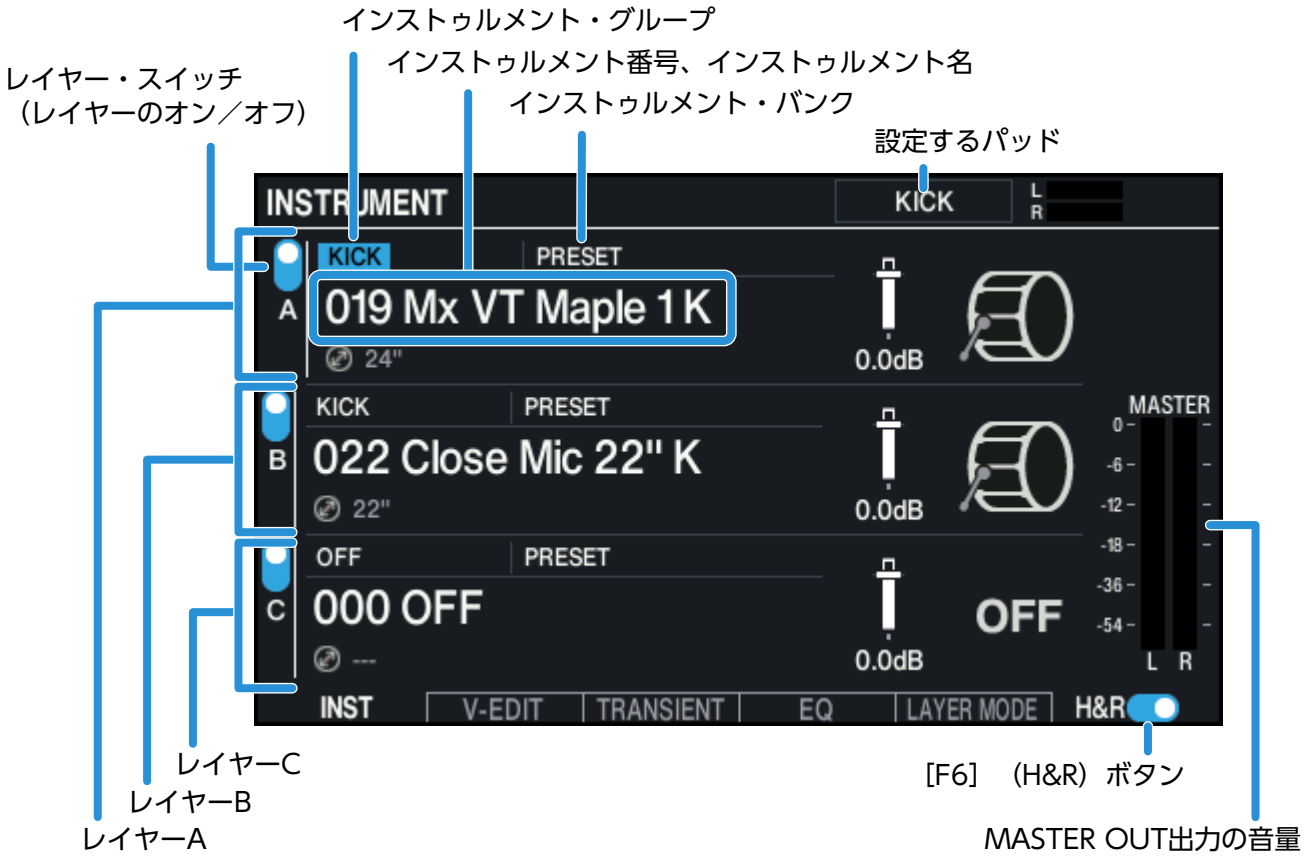
インストゥルメントを選ぶ

1 **[MENU] ボタンを押します。**

2 **カーソル・ボタンで「KIT EDIT」→「INSTRUMENT」を選び、[ENTER] ボタンを押します。**

3 **[F1] (INST) ボタンを押します。**

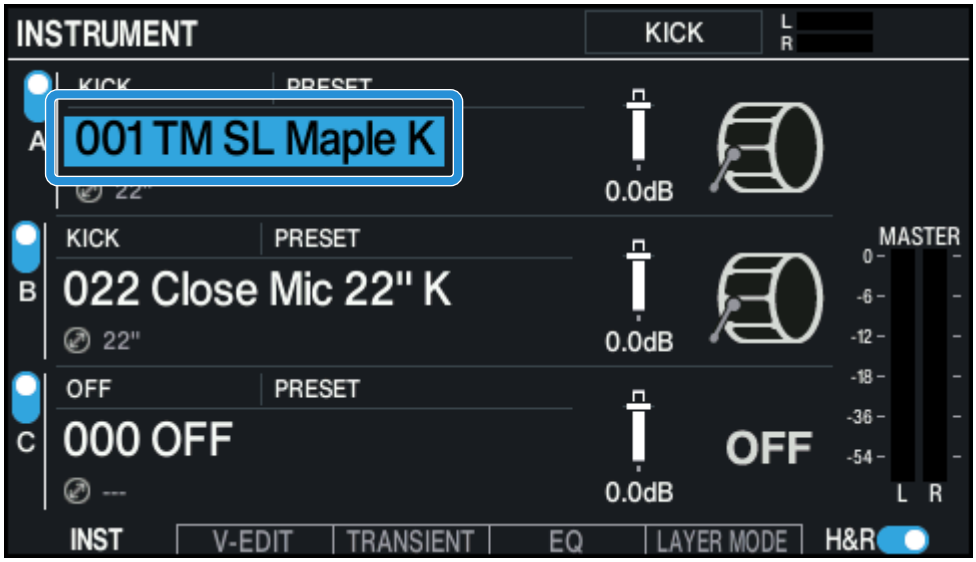
INSTRUMENT画面が表示されます。



4 **設定するパッドを選びます。**

➜「設定するパッドを選ぶ (P.72)」

5 カーソル・ボタンを押して、インストゥルメントにカーソルを合わせます。



6 ダイヤルでインストゥルメントを選びます。

※ 鳴らしたいインストゥルメントのレイヤー・スイッチがオフの場合は、レイヤー・スイッチをオンにします。

➡「インストゥルメントを重ねて鳴らす（レイヤー）（P.83）」

メモ

- ［ENTER］ボタンを押して、リストからインストゥルメントを選ぶこともできます。
- インストゥルメントを重ねて鳴らしたり、叩く強さに応じて切り替えたりできます。
  ➡「レイヤーの鳴らしかたを設定する（LAYER MODE）（P.84）」
- インストゥルメント・グループからインストゥルメントを選ぶこともできます。
- 選べるインストゥルメントについては、『データ・リスト』（Web）をご覧ください。
- ［SHIFT］ボタンを押しながら［F4］（EXP INFO）ボタンを押すと、インストゥルメント・エクスパンション／キット・パックに含まれるインストゥルメントが使用されているかを確認することができます。

7 ［KIT］ボタンを押して、KIT画面に戻ります。

叩く場所ごとにインストゥルメントを選ぶ（［F6］（H&R）ボタン）

［F6］（H&R）ボタンで、ヘッド部とリム部などのインストゥルメントを、セットで選ぶ（ON）か独立して選ぶ（OFF）かを切り替えることができます。

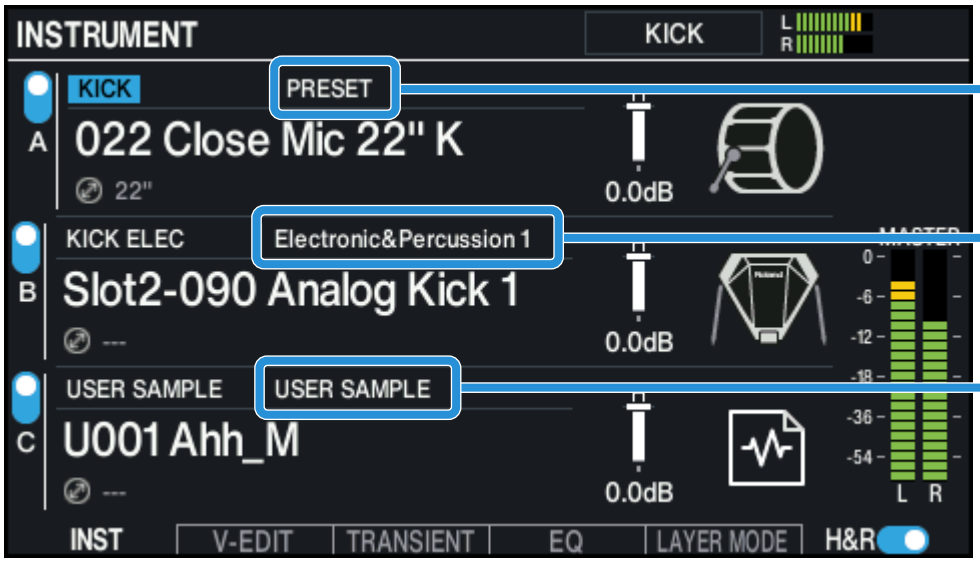
［F6］（H&R）ボタン	説明
ON	ヘッド部とリム部などのインストゥルメントを、セットで選びます。 選んだインストゥルメントに応じて、推奨のインストゥルメントがセットで選ばれます。 ※ セットで選ばれたインストゥルメント内で同じパラメーターがある場合は、自動的に同じ値に設定されます。 ※ インストゥルメントによっては、ヘッド部とリム部などに、すべて同じインストゥルメントが選ばれることがあります。
OFF	ヘッド部やリム部など、叩く場所ごとにインストゥルメントを選びます。

選べるインストゥルメントについて

インストゥルメントは、以下のカテゴリー（インストゥルメント・バンク）の中から選ぶことができます。

- プリセット（本体内蔵）
- インストゥルメント・エクスパンション
- ユーザー・サンプル（P.124）

INSTRUMENT画面には、選んでいるインストゥルメントのインストゥルメント・バンクが表示されます。



インストゥルメント・エクスパンションやキット・パックに含まれるインストゥルメントが使用されているか確認する

選択中のキットで、インストゥルメント・エクスパンションやキット・パックに含まれるインストゥルメントが使用されているか確認することができます。スロットを入れ替えるときなどに便利です。

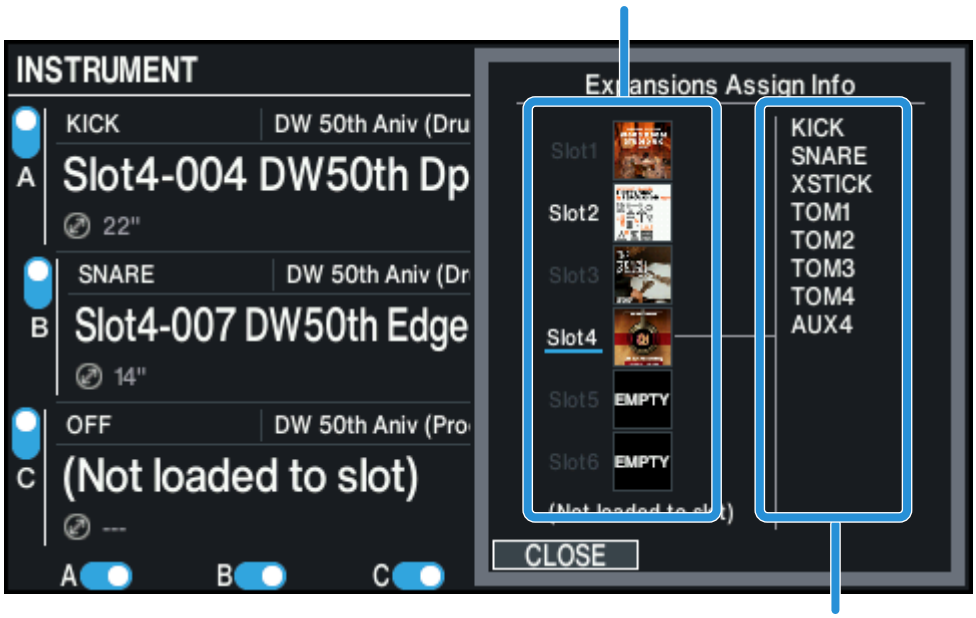
1 **INSTRUMENT画面（P.71）を表示させます。**

2 **［SHIFT］ボタンを押しながら［F4］（EXP INFO）ボタンを押します。**

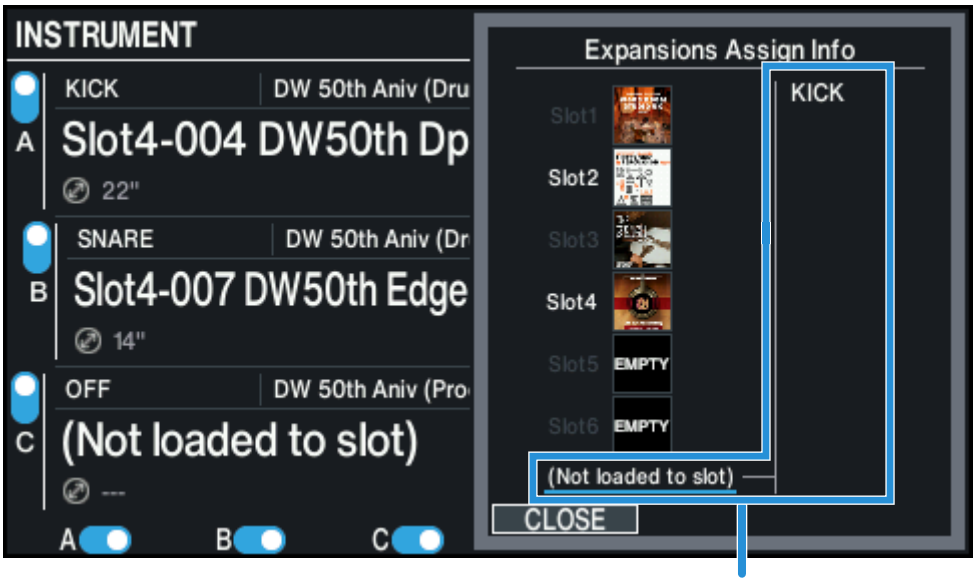
Expansions Assign Infoウィンドウが開きます。

3 **カーソル［▼］［▲］ボタンまたはダイヤルで、確認したいスロットまたは「Not loaded to slot」を選びます。**

Slot1～6に割り当てられているインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックが表示されます。
現在のキットで使用されていないスロットはグレーで表示されます。



インストゥルメントがアサインされているパッド一覧
（図はSlot4の例）



ラックにインストールされていても、スロットに割り当てられていないインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックのインストゥルメントが使用されているパッドを調べることができます（何も表示されないときは、該当するインストゥルメントはありません）。
この例では、スロットからはずされたインストゥルメントがキックにアサインされていることがわかります。

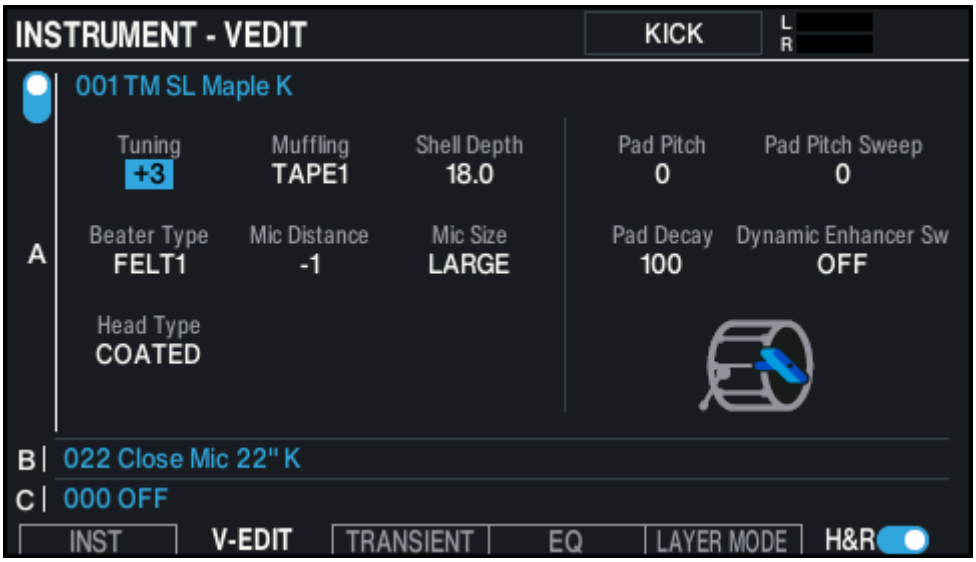
インストゥルメントを細かくエディットする（V-EDIT）

V-EDITでは、好みのヘッドを選んでチューニングをしたり、マフリング（ミュート）を取り付けたりするなど、アコースティック・ドラムと同じ感覚で音作りをすることができます。

➡ 設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』（Web）をご覧ください。

1 INSTRUMENT画面（P.76）で、［F2］（V-EDIT）ボタンを押します。

INSTRUMENT - V-EDIT画面が表示されます。



2 設定するパッドを選びます。

➡「設定するパッドを選ぶ（P.72）」

3 カーソル・ボタンでパラメーターを選び、ダイヤルで値を変更します。

メモ

- カーソル［▼］［▲］ボタンを数回押すことで、設定するレイヤーに移動することができます。また、［SHIFT］ボタンを押しながらカーソル［▼］［▲］ボタンを押して、設定するレイヤーにジャンプすることもできます。
- ［SHIFT］ボタンを押しながら［F4］（RESET V-EDIT）ボタンを押すと、現在選んでいるレイヤーのV-EDITの設定を初期値に戻すことができます。

4 ［KIT］ボタンを押して、KIT画面に戻ります。

アタックやリリースを調節する（TRANSIENT）

アタックやリリースを、インストゥルメントごとに調節することができます（トランジェント）。

※インストゥルメントやUSER SAMPLEの設定によっては設定できません。

1 INSTRUMENT画面（P.76）で、［F3］（TRANSIENT）ボタンを押します。

INSTRUMENT - TRANSIENT画面が表示されます。

2 設定するパッドを選びます。

➡「設定するパッドを選ぶ（P.72）」

3 カーソル・ボタンでパラメーターを選び、ダイヤルで値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
Transient Switch	OFF、ON	トランジェントの効果をオン／オフします。

パラメーター	設定値	説明
Type	（Preset）、Type 1〜4	USER SAMPLEにトランジェントを適用するときの効果を設定できます（内蔵音色の場合は（Preset）と表示され変更できません）。
Attack Time	1〜10	アタックが変化する時間
Attack Depth	-100〜+100	アタックの調節
Attack Type	NORMAL、WIDE 1、WIDE 2	「NORMAL」は常にトランジェントのアタック効果がかかります。 「WIDE 1」または「WIDE 2」に設定すると、弱く叩いたときのAttackの効果が弱まります。強く叩いたときに徐々にアタックを効かせたいときなどに有効です。
Release Depth	-100〜+100	リリースの調節
Gain	-12.0〜+6.0dB	トランジェント調節後の音量

メモ

［SHIFT］ボタンを押しながら［F4］（Transient）ボタンを押すと、現在選んでいるレイヤーのトランジェントをオン／オフすることができます。

4 **［KIT］ボタンを押して、KIT画面に戻ります。**

インストゥルメントの音質を調節する（EQ）

インストゥルメントのイコライザー（音質）を調節します。

1 **INSTRUMENT画面（P.76）で、［F4］（EQ）ボタンを押します。**

INSTRUMENT - EQ画面が表示されます。

2 **設定するパッドを選びます。**

➡「設定するパッドを選ぶ（P.72）」

3 **カーソル・ボタンでパラメーターを選び、ダイヤルで値を変更します。**

パラメーター	設定値	説明
EQ Switch	OFF、ON	イコライザーの効果をオン／オフします。
LOW Freq	20～1k（Hz）	低域の基準周波数
LOW Gain	-24～+24dB	低域の増幅／減衰量
MID Freq	20～16k（Hz）	中域の基準周波数
MID Q	0.5～16.0	周波数帯の幅 値を大きくするほど幅が狭くなります。
MID Gain	-24～+24dB	中域の増幅／減衰量
HIGH Freq	1k～16k（Hz）	高域の基準周波数
HIGH Gain	-24～+24dB	高域の増幅／減衰量

メモ

［SHIFT］ボタンを押しながら［F4］（EQ）ボタンを押すと、現在選んでいるレイヤーのイコライザーをオン／オフすることができます。

4 **［KIT］ボタンを押して、KIT画面に戻ります。**

インストゥルメントを重ねて鳴らす（レイヤー）

パッド（ヘッドやリムなどの各トリガー）ごとに最大3つのインストゥルメント（レイヤーA～C）を重ねて鳴らすことができます。

1 **INSTRUMENT画面（P.76）を表示させます。**

2 **設定するパッドを選びます。**

➡「設定するパッドを選ぶ（P.72）」

3 カーソル・ボタンを押して、レイヤーA～Cのインストゥルメントにカーソルを合わせます。

4 ダイヤルでインストゥルメントを選びます。

5 レイヤー・スイッチにカーソルを合わせ、ダイヤルでオン／オフを切り替えます。

メモ

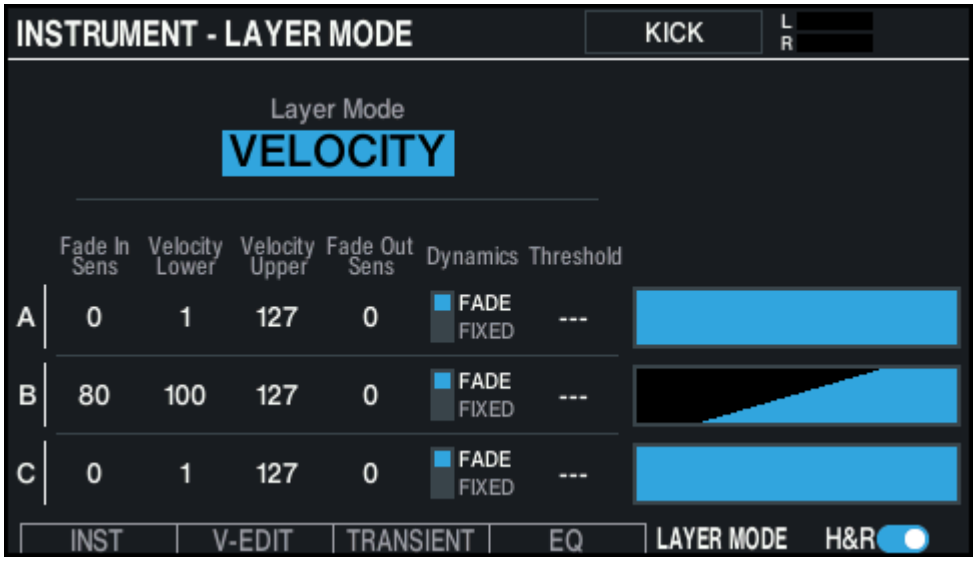
各INSTRUMENT画面で、［SHIFT］ボタンを押しながら［F1］（A）～［F3］（C）ボタンを押して、各レイヤーをオン／オフすることもできます。

レイヤーの鳴らしかたを設定する（LAYER MODE）

叩く強さに応じて鳴らすレイヤーを切り替えたり、バランスを変化させたりすることもできます。

1 INSTRUMENT画面（P.76）で、［F5］（LAYER MODE）ボタンを押します。

INSTRUMENT - LAYER MODE画面が表示されます。



2 設定するパッドを選びます。

➡「設定するパッドを選ぶ（P.72）」

3 カーソル・ボタンでパラメーターを選び、ダイヤルで値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
Layer Mode	MIX	レイヤー・スイッチがオンになっているレイヤーのインストゥルメントを重ねて鳴らします。
	VELOCITY	各レイヤーのインストゥルメントを、ベロシティーに応じてどのように発音させるか設定します。
	HI-HAT（*1）	ハイハット・オープン時にインスレイヤーA、ハイハット・クローズ時にレイヤーB、フット・クローズ時にレイヤーCのインストゥルメントを鳴らします。
Layer Mode=VELOCITYのとき		
Fade In Sens（*2）	0〜127	インストゥルメントが鳴り始めるときの、パッドの叩く強さに対する音量変化を設定します。
Velocity Lower（*2）	1〜127	インストゥルメントを鳴らし始める打撃の強さを設定します。
Velocity Upper（*2）	1〜127	インストゥルメントが鳴り終わる打撃の強さを設定します。
Fade Out Sens（*2）	0〜127	設定以上の強さで叩くと、Velocity Upperの設定に応じてインストゥルメントの音が小さくなっていきます。

パラメーター	設定値	説明
Dynamics	FADE	叩く強さに応じてインストゥルメントを鳴らします。
	FIXED	「Threshold」の設定以上の強さで叩いたとき、叩く強さに関係なく一定の音量で鳴ります。
Threshold	1〜127	Dynamicsが「FIXED」のときに鳴らし始める打撃の強さを設定します。

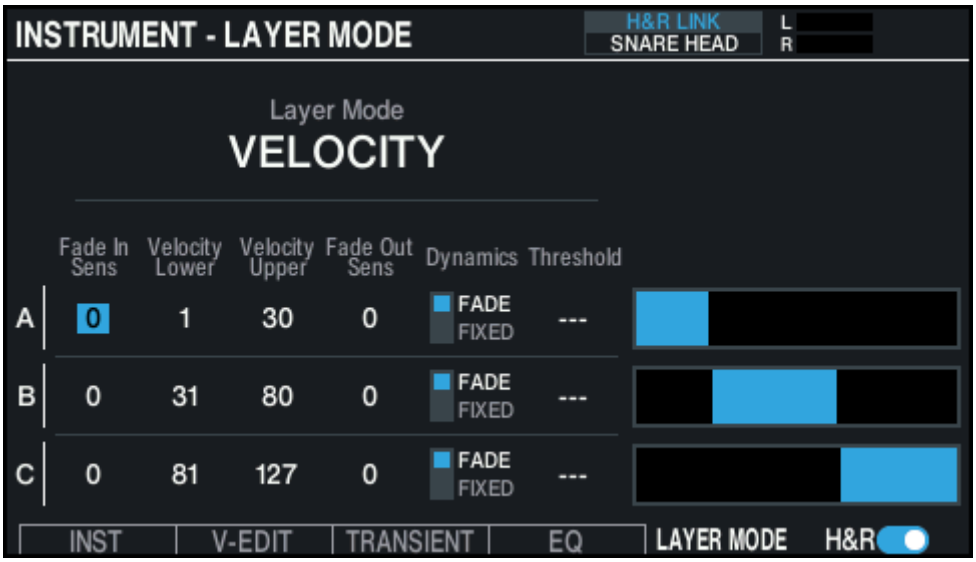
*1：設定するパッドがハイハットで、インストゥルメントにSYNTH WAVEまたはUSER SAMPLE（Play Type ＝ ONE SHOT）のときに有効です。

*2：Dynamicsが「FADE」のときに有効です。

4 **[KIT] ボタンを押して、KIT画面に戻ります。**

LAYER MODEの設定例

叩く強さに応じて、レイヤーA→B→Cの順に切り替えて鳴らす。



レイヤーの設定をコピー／入れ替える（LAYER COPY）

レイヤーの設定を別のパッド（ヘッドやリムなどの各トリガー）のレイヤーにコピー／入れ替えることができます。

1 **INSTRUMENT画面（P.76）を表示させます。**

2 ［SHIFT］ボタンを押しながら［F6］（LAYER COPY）ボタンを押します。

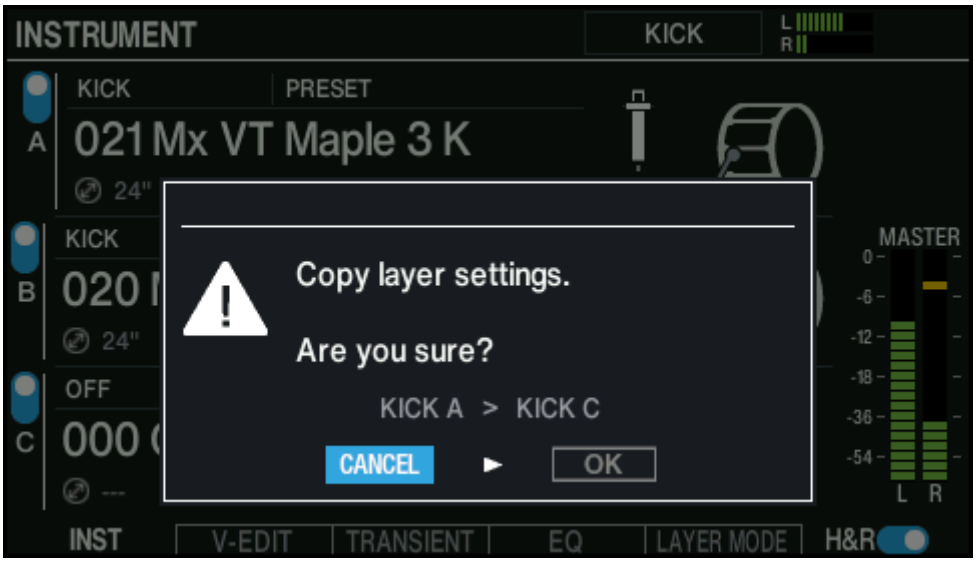
LAYER COPYウィンドウが表示されます。

3 カーソル・ボタンとダイヤルで、コピー／入れ替えの設定をします。

4 コピーするときは［F4］（COPY）ボタンを、入れ替えるときは［F3］（EXCHANGE）ボタンを押します。

確認画面が表示されます。

例）COPYのとき



中止するときは、「CANCEL」を選んで［ENTER］ボタンを押します。

5 「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

レイヤーがコピーまたは入れ替わります。

パッドの音量やパンを設定する（PAD VOL）

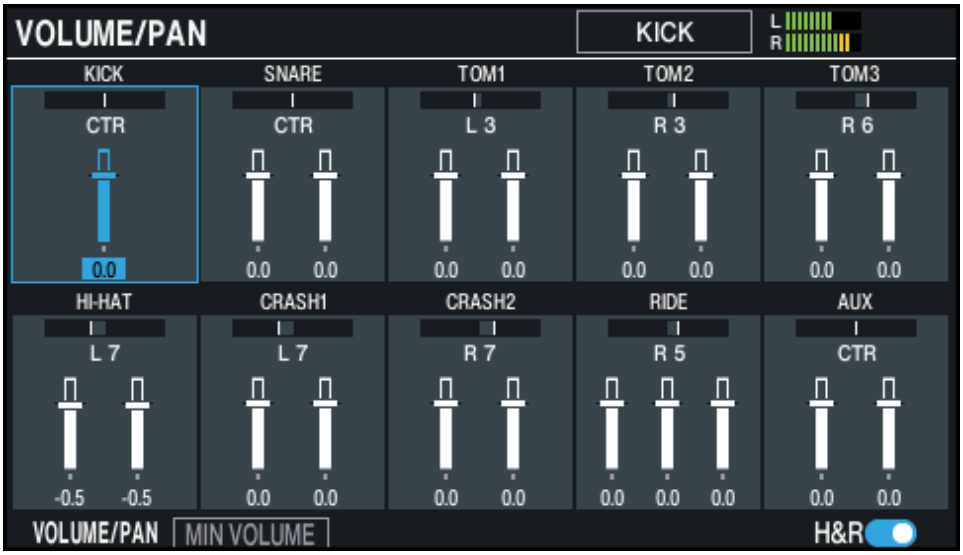
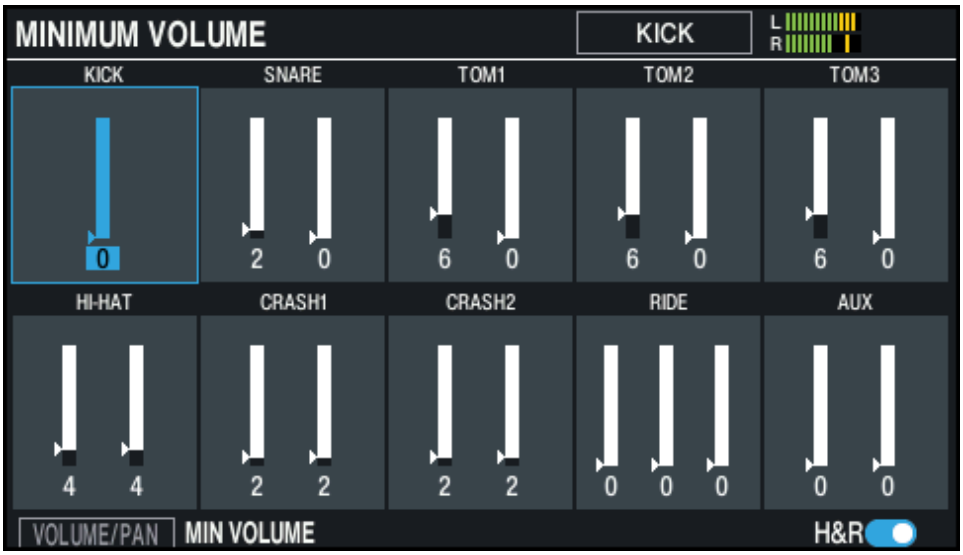
パッドごとに音量とパン（定位）を設定します。

➡設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』（Web）をご覧ください。

1 ［MENU］ボタンを押します。

2 カーソル・ボタンで「KIT EDIT」→「PAD VOL」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

3 ファンクション・ボタンを押して、設定画面を表示させます。

画面	説明
VOLUME/PAN画面	各パッドの音量やパンを設定します。 
MINIMUM VOLUME画面	各パッドの最小音量を設定します。 

4 設定するパッドを選びます。

➡「設定するパッドを選ぶ（P.72）」

カーソル・ボタンで選ぶこともできます。

5 カーソル・ボタンでパラメーターを選び、ダイヤルで値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
VOLUME/PAN画面		
Volume	-INF～+6.0dB	各パッドの音量
Pan	L30～CTR（CENTER）～R30	各パッドの定位
MINIMUM VOLUME画面		

パラメーター	設定値	説明
Min Volume	0〜15	各パッドの最小音量 強打時の音量を保ったまま弱打時の音量を大きくすることができます。スネアのゴースト・ノートやライド・シンバルのレガート音を、より聴こえやすくすることができます。

6 ［KIT］ボタンを押して、KIT画面に戻ります。

メモ

- ［F6］（H&R）ボタンを押して「ON」にすると、ヘッド部とリム部などを同時に設定することができます。
- VOLUME/PANの設定をコピーすることができます。
  ➡「設定をコピーする（COPY）（P.141）」

パッドの音質を調節する（PAD EQ）

パッドごとに音質（パッド・イコライザー）を設定します。

➡ 設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』（Web）をご覧ください。

1 ［MENU］ボタンを押します。

2 カーソル・ボタンで「KIT EDIT」→「PAD EQ」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

PAD EQ画面が表示されます。

3 設定するパッドを選びます。

➡「設定するパッドを選ぶ（P.72）」

4 ［F1］（PadEQ）ボタンを押して、パッド・イコライザーのオン／オフを切り替えます。

5 パッド・イコライザーの設定を変更します。

ヘッドとリムをそれぞれで設定することができます。

メモ

［F6］（RESET EQ）ボタンを押すと、イコライザーの設定を初期値に戻すことができます。

6 **［KIT］ボタンを押して、KIT画面に戻ります。**

パッドの音量変化を調節する（PAD COMP）

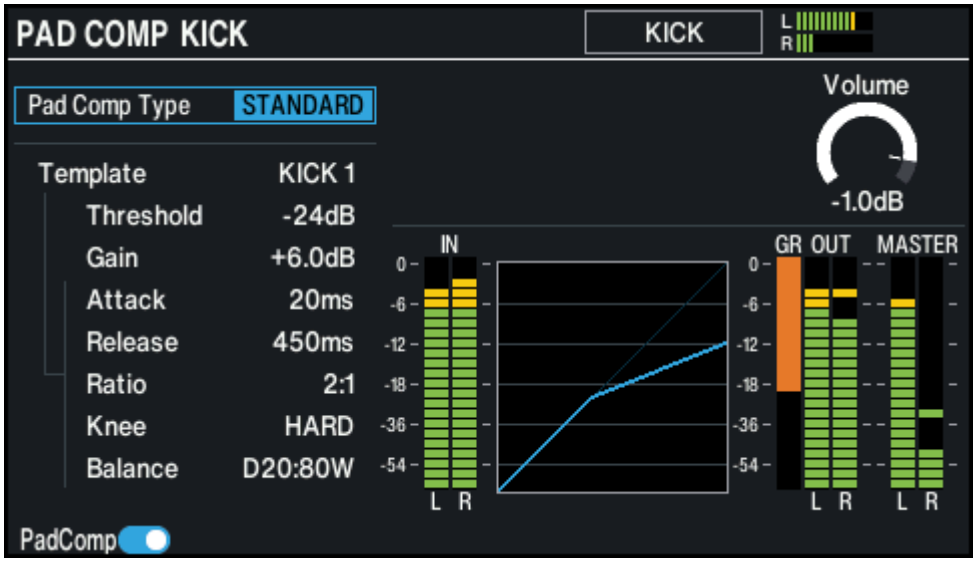
パッドごとの音量変化（パッド・コンプレッサー）を設定します。

➡ 設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』（Web）をご覧ください。

1 **［MENU］ボタンを押します。**

2 **カーソル・ボタンで［KIT EDIT］→［PAD COMP］を選び、［ENTER］ボタンを押します。**

PAD COMP画面が表示されます。



3 **設定するパッドを選びます。**

➡「設定するパッドを選ぶ（P.72）」

4 **［F1］（PadComp）ボタンを押して、パッド・コンプレッサーのオン／オフを切り替えます。**

5 **パッド・コンプレッサーの設定を変更します。**

6 **［KIT］ボタンを押して、KIT画面に戻ります。**

演奏する場所の残響を再現する（AMBIENCE）

ドラム・キット全体を集音するオーバーヘッド・マイクや、ドラムを演奏する場所の残響、鳴りかたを再現します（アンビエンス）。

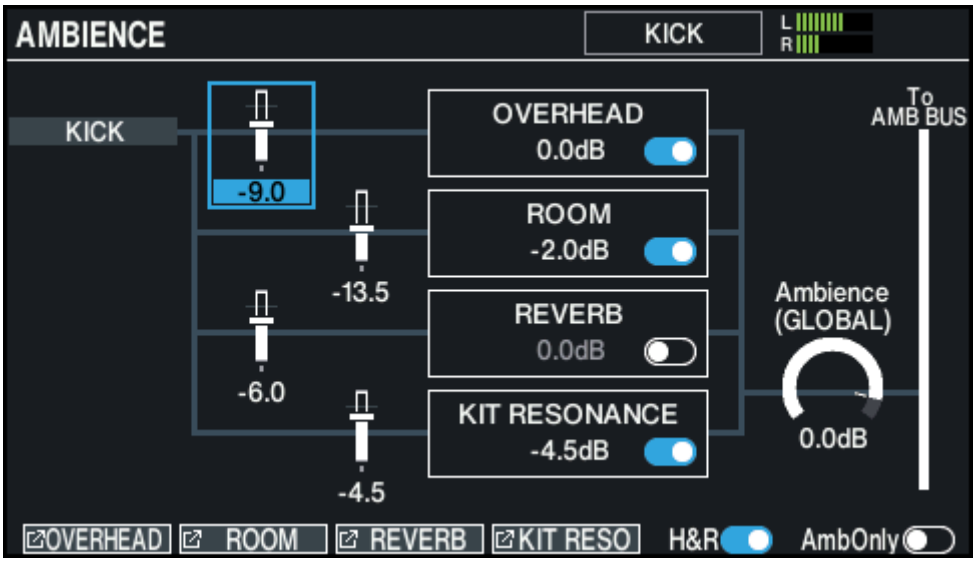
オーバーヘッド・マイクの音や、部屋の種類、大きさ（ルーム・アンビエンス）、残響音（リバーブ）などを調節することで、より自然で臨場感のあるドラム・サウンドが得られます。

➡設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』（Web）をご覧ください。

1 ［MENU］ボタンを押します。

2 カーソル・ボタンで［KIT EDIT］→［AMBIENCE］を選び、［ENTER］ボタンを押します。

AMBIENCE画面が表示されます。

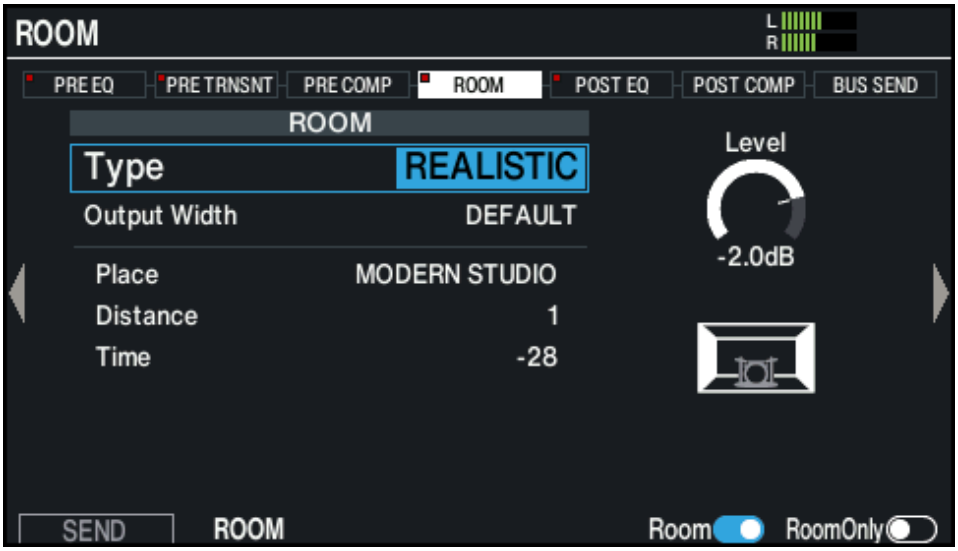
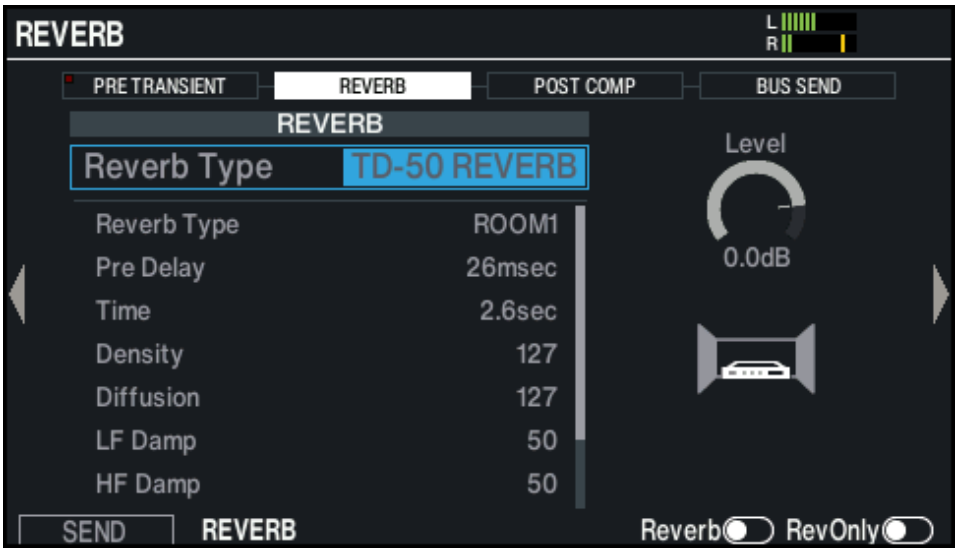
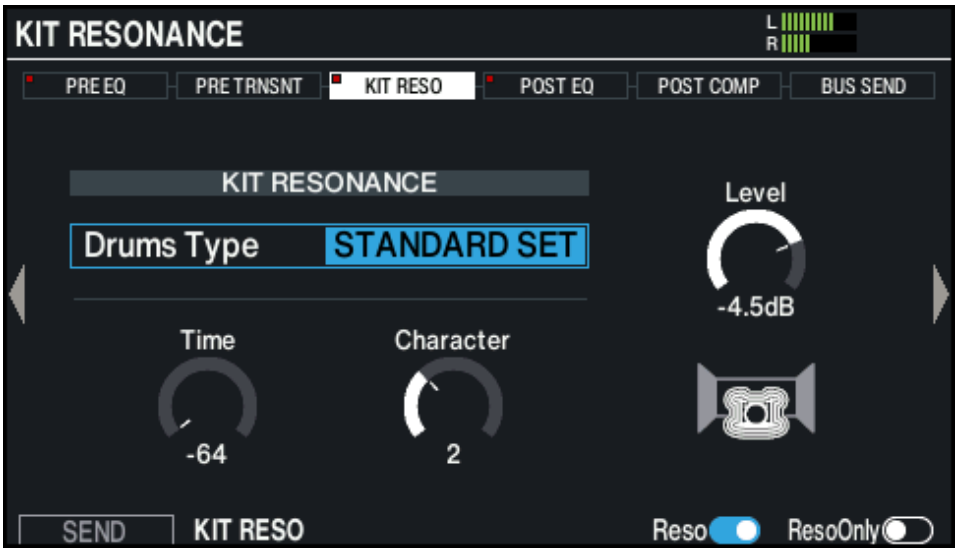


メモ

［F6］（AmbOnly）ボタンを押してオンにすると、アンビエンス音のみを聞くことができます。

3 ファンクション・ボタンを押して、設定画面を表示させます。

画面	説明
OVERHEAD - MIC画面	オーバーヘッド・マイクを設定します。

画面	説明
ROOM画面	ルーム・アンビエンスを設定します。 
REVERB画面	リバーブを設定します。 
KIT RESONANCE画面	ドラム・キット全体の共鳴の度合いを設定します。 

4 アンビエンスの設定を変更します。

5 各画面で、アンビエンスのオン／オフを切り替えます。

メモ

アンビエンスの各画面で、［F6］ボタンが表示されているときは、現在設定している画面の音のみを聞くことができます。

6 ［KIT］ボタンを押して、KIT画面に戻ります。

ドラム・キットの音量を設定する（KIT VOL）

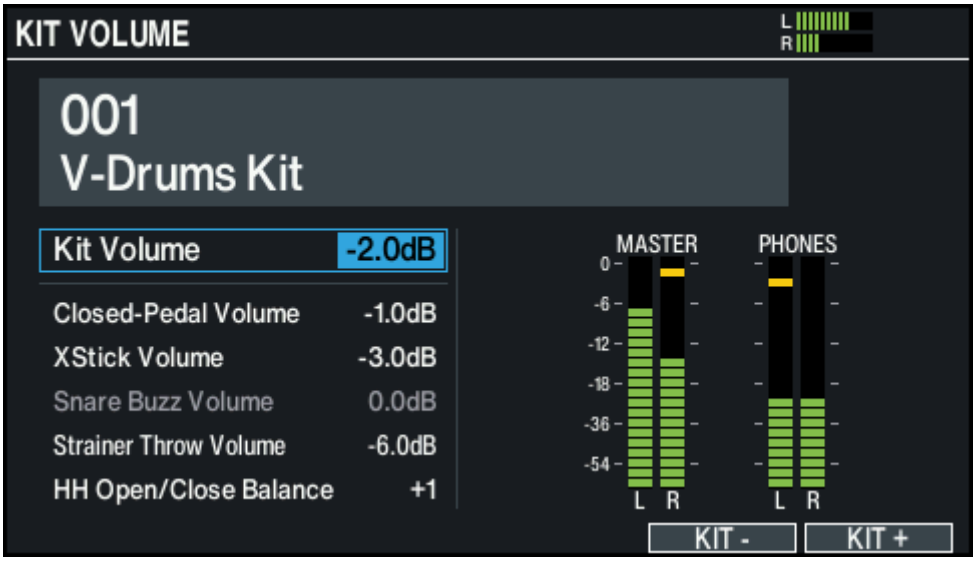
ドラム・キットやハイハットなどの音量を設定します。

➡ 設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』（Web）をご覧ください。

1 ［MENU］ボタンを押します。

2 カーソル・ボタンで「KIT EDIT」→「KIT VOL」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

KIT VOLUME画面が表示されます。



3 カーソル・ボタンでパラメーターを選び、ダイヤルで値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
Kit Volume	-INF～+6.0dB	ドラム・キットの音量
Closed-Pedal Volume		ペダル・ハイハットの音量
XStick Volume		クロス・スティックの音量
Snare Buzz Volume（*1）		スネアの共鳴の音量
Strainer Throw Volume		ストレイナーのレバーを上下したときに発音する音の音量

パラメーター	設定値	説明
HH Open/Close Balance	-5〜+5	オープン／クローズの音量バランス 値を小さくすると、ハイハットがオープンのときに演奏する音量がクローズのときに演奏する音量よりも小さくなります。値を大きくすると、ハイハットがオープンのときに演奏する音量がクローズのときに演奏する音量よりも大きくなります。
[F5]　(KIT -) ボタン [F6]　(KIT +) ボタン	設定するドラム・キットを切り替えます。 ドラム・キットごとの音量を確認したいときに便利です。	

*1：SNARE BUZZ（P.102）のBuzz Switchが「ON」のときに有効です。

4　**[KIT] ボタンを押して、KIT画面に戻ります。**

キットの音質を調節する（KIT EQ）

ドラム・キット全体の音質（キット・イコライザー）をキットごとに設定します。

➡設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』（Web）をご覧ください。

1　**[MENU] ボタンを押します。**

2　**カーソル・ボタンで「KIT EDIT」→「KIT EQ」を選び、[ENTER] ボタンを押します。**

KIT EQ画面が表示されます。

3　**[F1]（KitEQ）ボタンを押して、キット・イコライザーのオン／オフを切り替えます。**

4　**キット・イコライザーの設定を変更します。**

メモ

[F6]（RESET EQ）ボタンを押すと、イコライザーの設定を初期値に戻すことができます。

5　**[KIT] ボタンを押して、KIT画面に戻ります。**

キットの音量変化を調節する（KIT COMP）

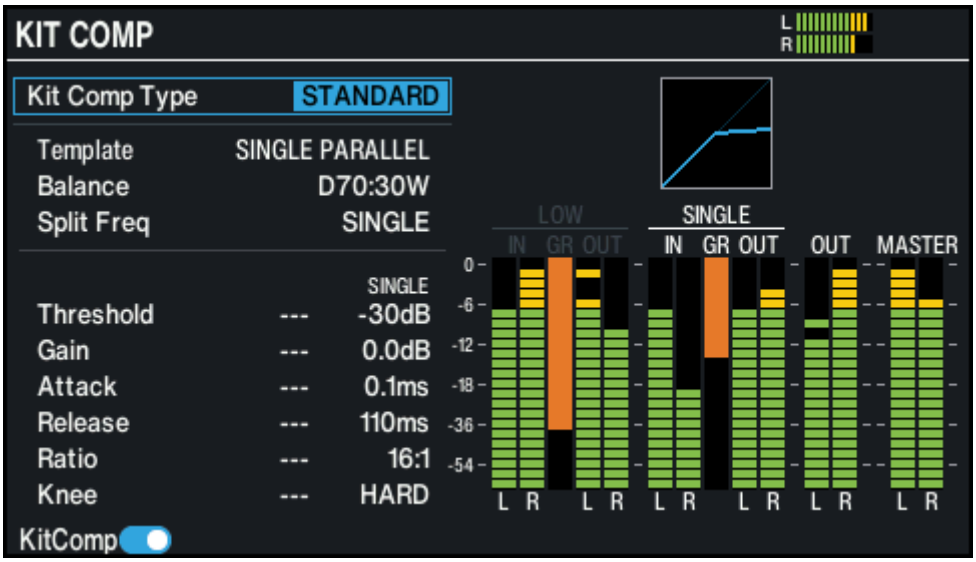
ドラム・キット全体の音量変化（キット・コンプレッサー）をキットごとに設定します。

➡設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』（Web）をご覧ください。

1 **［MENU］ボタンを押します。**

2 **カーソル・ボタンで「KIT EDIT」→「KIT COMP」を選び、［ENTER］ボタンを押します。**

KIT COMP画面が表示されます。



3 **［F1］（KitComp）ボタンを押して、キット・コンプレッサーのオン／オフを切り替えます。**

4 **キット・コンプレッサーの設定を変更します。**

5 **［KIT］ボタンを押して、KIT画面に戻ります。**

エフェクトをかける（BUS FX）

パッドごとにさまざまなエフェクトをかけることができます。

バス（音声の通り道）に割り当てるエフェクトやルーティング（接続順）を設定します。

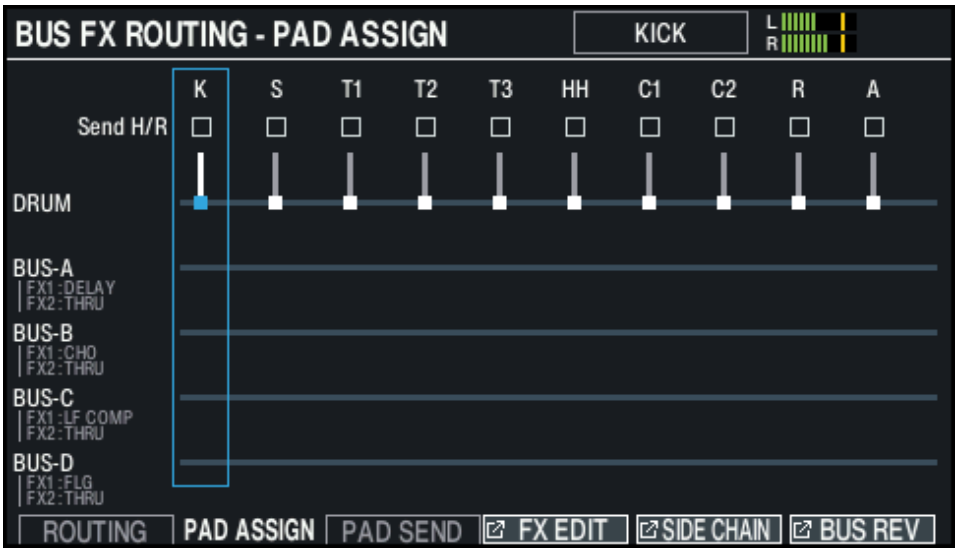
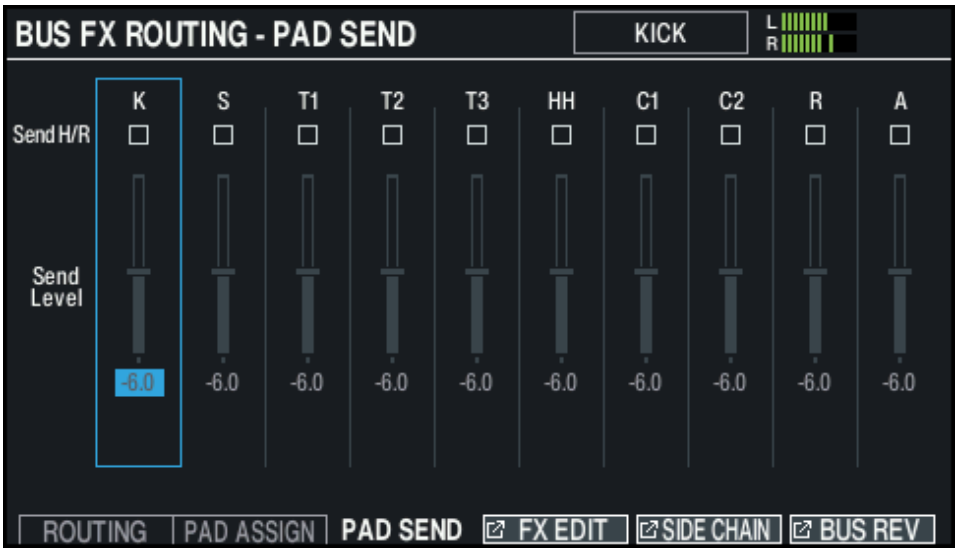
バスは4つ（BUS-A～D）あり、それぞれに2つのエフェクト（FX1、FX2）を設定することができます。

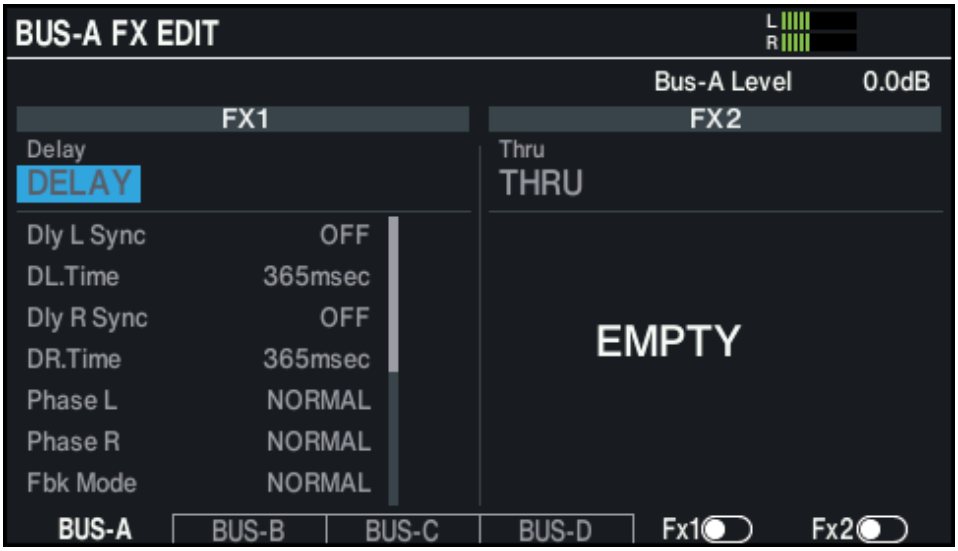
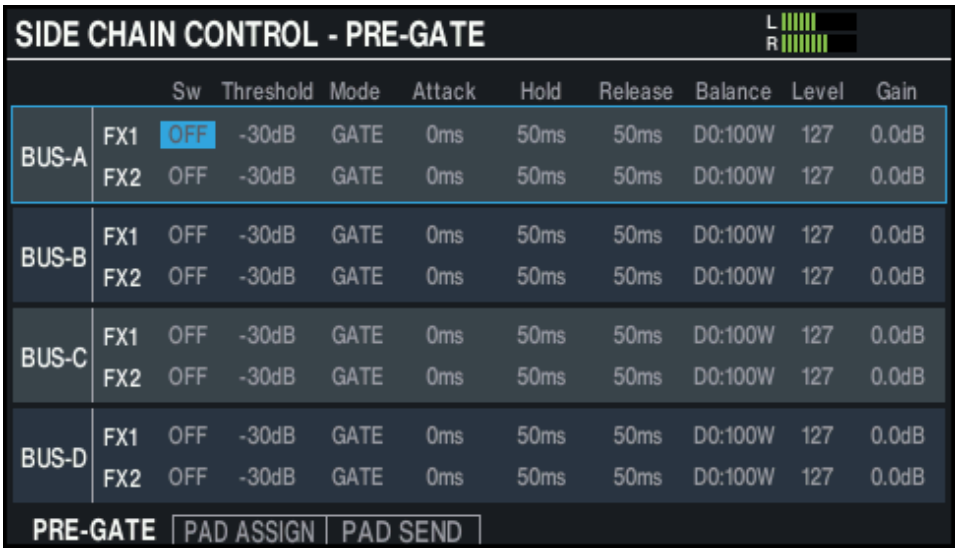
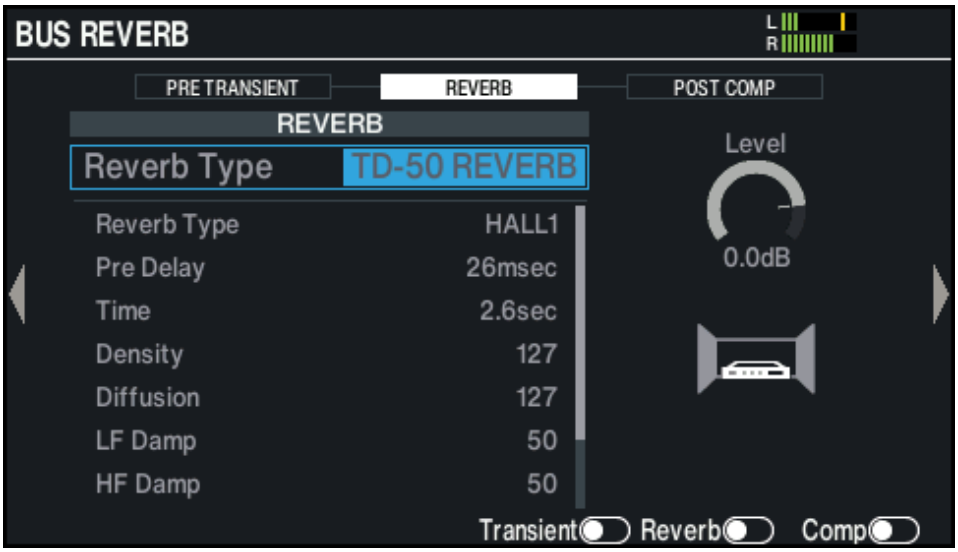
➡設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』（Web）をご覧ください。

1 **［MENU］ボタンを押します。**

2 **カーソル・ボタンで「KIT EDIT」→「BUS FX」を選び、［ENTER］ボタンを押します。**

3 **ファンクション・ボタンを押して、設定画面を表示させます。**

画面	説明
ROUTING画面	パッドやバスのルーティングを設定します。
PAD ASSIGN画面	各パッドのルーティングを一覧で設定します。 
PAD SEND画面	各パッドのバスFXのセンド量を設定します。 

画面	説明
FX EDIT画面	BUS-A～Dの、FX1／FX2のエフェクトを設定します。 
SIDE CHAIN画面	サイド・チェインを設定します。 
BUS REVERB画面	バスにかけるリバーブを設定します。 

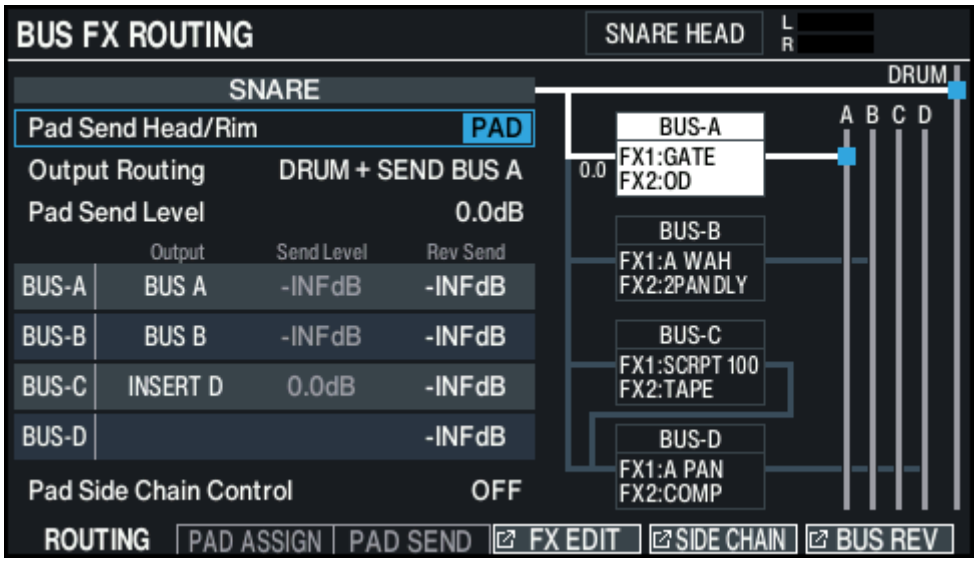
4 **エフェクトの設定を変更します。**

5 **［KIT］ボタンを押して、KIT画面に戻ります。**

ルーティングの設定例

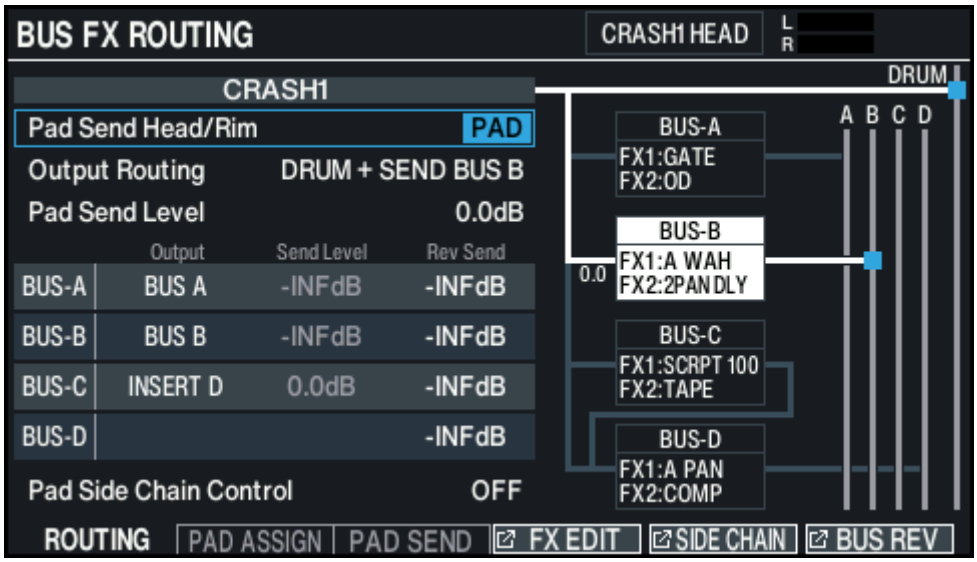
例1）GATE → OVERDRIVE

GATEをかけた音をOVERDRIVEに入力します。GATEを通過した音のみ歪ませることができます。
キックやスネアに適用すると、強く打撃した音のみ歪ませることができます。



例2）AUTO WAH → 2TAP PAN DELAY

ワウをかけた音をディレイに入力することで、特徴的なディレイ音になります。



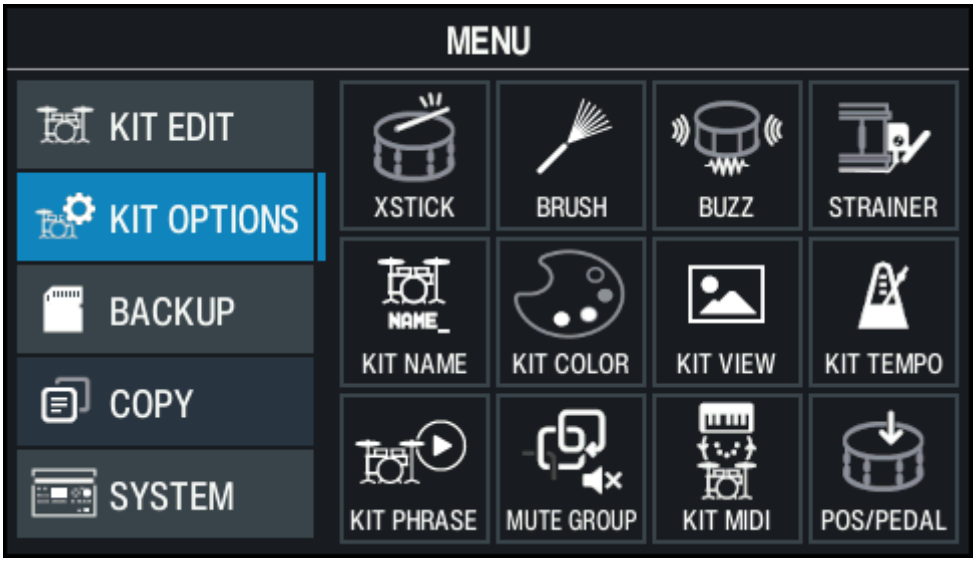
ドラム・キットに関するさまざまな設定をする（KIT OPTIONS）

ドラム・キットの名前や操作子の点灯色など、ドラム・キットに関するさまざまな設定をします。

➡ 設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』（Web）をご覧ください。

1 **［MENU］ボタンを押します。**

2 カーソル・ボタンで「KIT OPTIONS」を選びます。



3 カーソル・ボタンまたはダイヤルで設定したいメニューを選び、［ENTER］ボタンを押します。

メニュー	説明
XSTICK	クロス・スティックの設定をします。
BRUSH	ブラシの設定をします。
BUZZ	スネアへの共鳴の設定をします。
STRAINER	ストレイナーの設定をします。
KIT NAME	ドラム・キットの名前を変更します。
KIT COLOR	［KIT］ボタンの点灯色を設定します。
KIT VIEW	KIT画面で表示する背景や文字サイズを設定します。
KIT TEMPO	ドラム・キットのテンポを設定します。
KIT PHRASE	現在選んでいるドラム・キットでフレーズを再生し、音を確認することができます。
MUTE GROUP	ミュート・グループの設定をします。
KIT MIDI	ドラム・キットのMIDIに関する設定をします。
POS/PEDAL	打点位置やリム・ショットによる音色変化のオン／オフの設定、打点位置のエリアの調整、ハイハット・ペダルを踏み込んだときのピッチの変化量を調節します。

選んだメニューに応じて、設定を変更します。

4 ドラム・キットの設定を変更します。

5 ［KIT］ボタンを押して、KIT画面に戻ります。

クロス・スティックの設定をする（XSTICK）

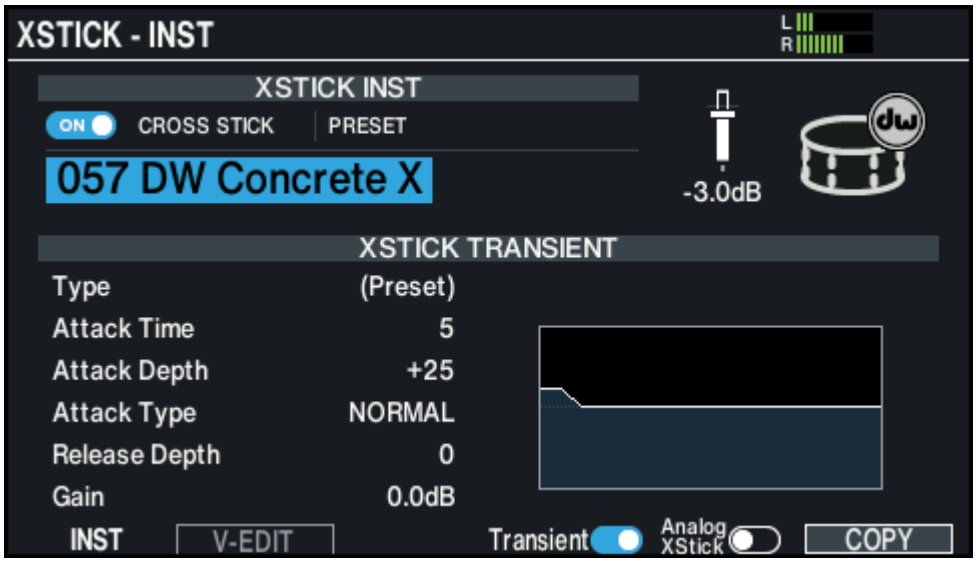
クロス・スティック奏法したときのクロス・スティック音のインストゥルメントを設定します。

➡ 設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』（Web）をご覧ください。

1 ［MENU］ボタンを押します。

2 カーソル・ボタンで「KIT OPTIONS」→「XSTICK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

XSTICK - INST画面が表示されます。



3 インストゥルメントにカーソルを合わせ、ダイヤルでインストゥルメントを選びます。

4 カーソル・ボタンでパラメーターを選び、ダイヤルで値を変更します。

5 ［KIT］ボタンを押して、KIT画面に戻ります。

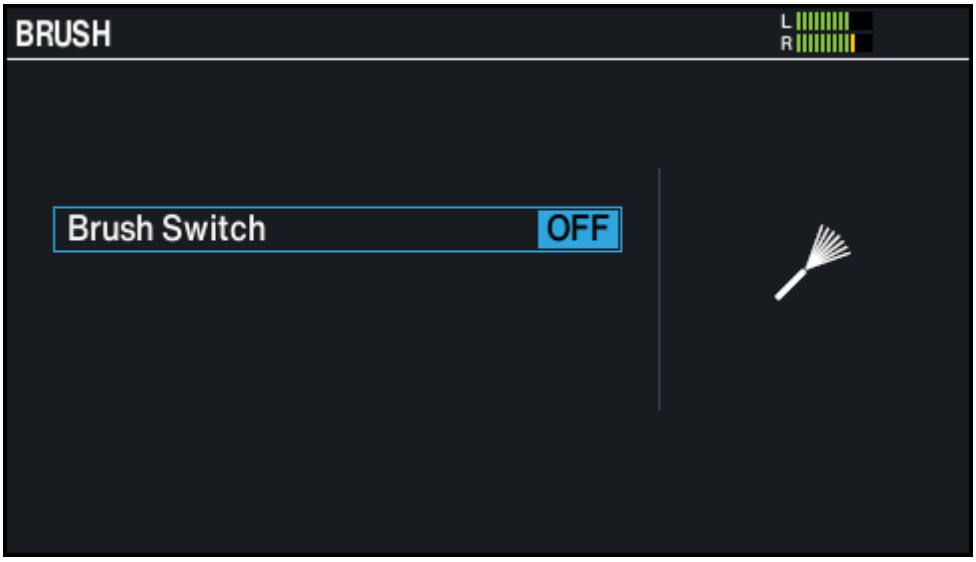
ブラシの設定をする（BRUSH）

スティックとブラシのどちらで演奏するかを設定します。

1 ［MENU］ボタンを押します。

2 **カーソル・ボタンで「KIT OPTIONS」→「BRUSH」を選び、［ENTER］ボタンを押します。**

BRUSH画面が表示されます。



3 **ダイヤルでオン／オフを切り替えます。**

4 **［KIT］ボタンを押して、KIT画面に戻ります。**

スネアへの共鳴の設定をする（BUZZ）

パッドを叩いたときのスネアへの共鳴音を設定します。

➡ 設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』（Web）をご覧ください。

1 **［MENU］ボタンを押します。**

2 **カーソル・ボタンで「KIT OPTIONS」→「BUZZ」を選び、［ENTER］ボタンを押します。**

SNARE BUZZ画面が表示されます。

3 **カーソル・ボタンでパラメーターを選び、ダイヤルで値を変更します。**

4 **［KIT］ボタンを押して、KIT画面に戻ります。**

ストレイナーの設定をする（STRAINER）

PD-14DSXのストレイナーのレバーを操作して、特定のスネア音色のスネア・ワイヤー（響き線）をスネア・サイド（裏面）に付けたり（オン）離したり（オフ）することができます。

レバーを操作する速度に応じて、操作音の音量が変化します。また、スネア・ワイヤーの操作以外にも、エフェクトのコントロール機能などもアサインすることができます。

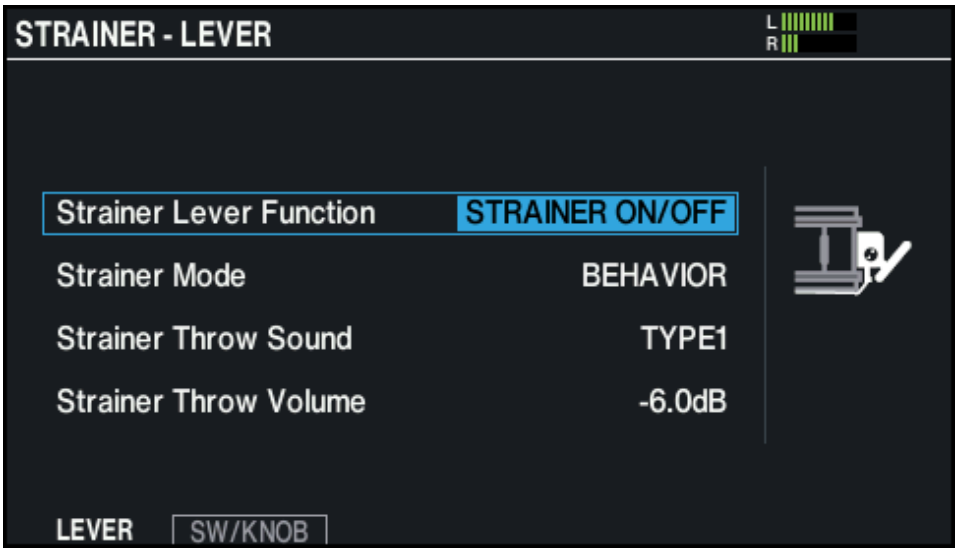
また、ストレイナーつまみを回して、特定のスネア音色のスネア・ワイヤーの張り具合の調節をしたり、つまみを押してソングの再生／停止をしたりと、さまざまな機能をアサインすることができます。

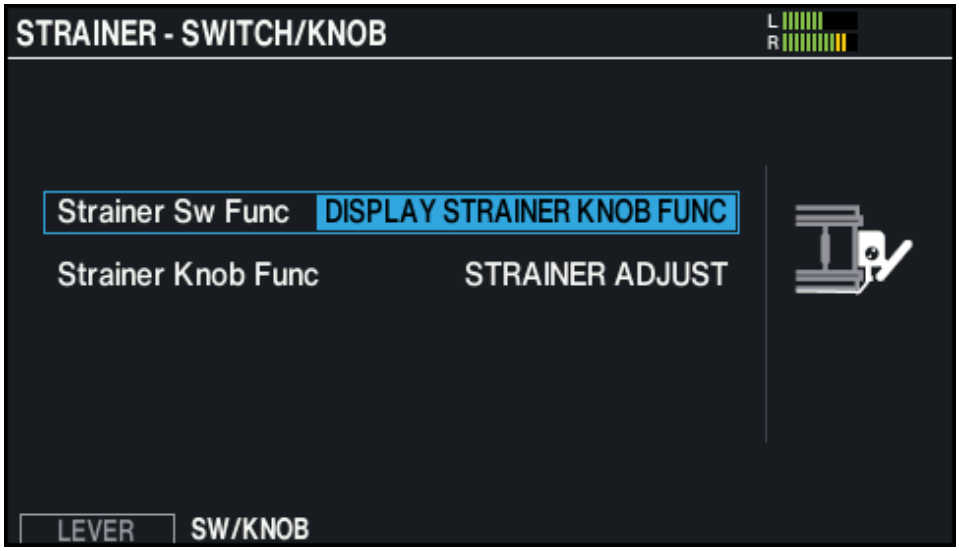
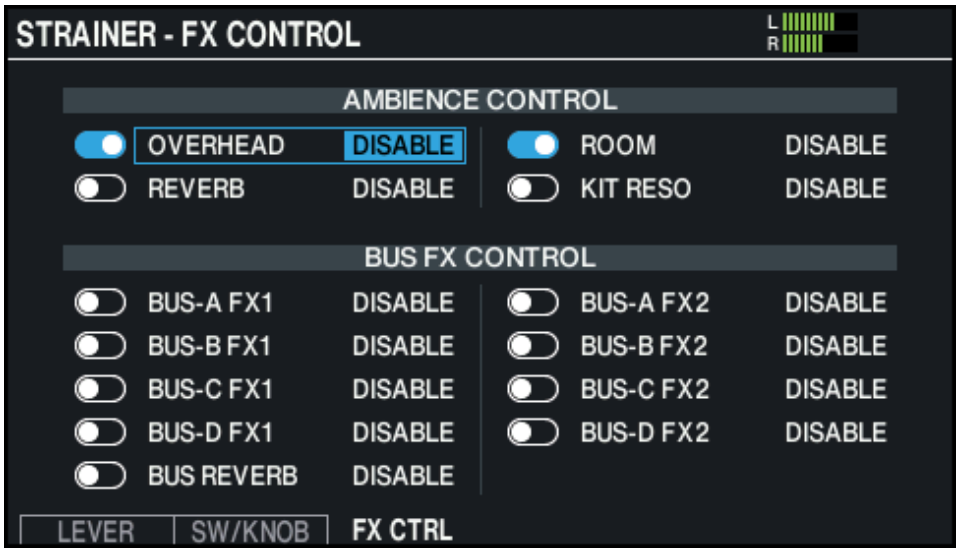
➡ 設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』（Web）をご覧ください。

1 **［MENU］ボタンを押します。**

2 **カーソル・ボタンで「KIT OPTIONS」→「STRAINER」を選び、［ENTER］ボタンを押します。**

3 **ファンクション・ボタンを押して、設定画面を表示させます。**

画面	説明
STRAINER - LEVER画面	ストレイナーのレバーを操作したときの設定をします。 

画面	説明
STRAINER - SWITCH/KNOB画面	ストレイナーのつまみを操作したときの設定をします。 
STRAINER - FX CONTROL画面	ストレイナーのレバーにエフェクトのコントロール（FX CONTROL）をアサインしたときのエフェクトを設定します。 

4 **カーソル・ボタンでパラメーターを選び、ダイヤルで値を変更します。**

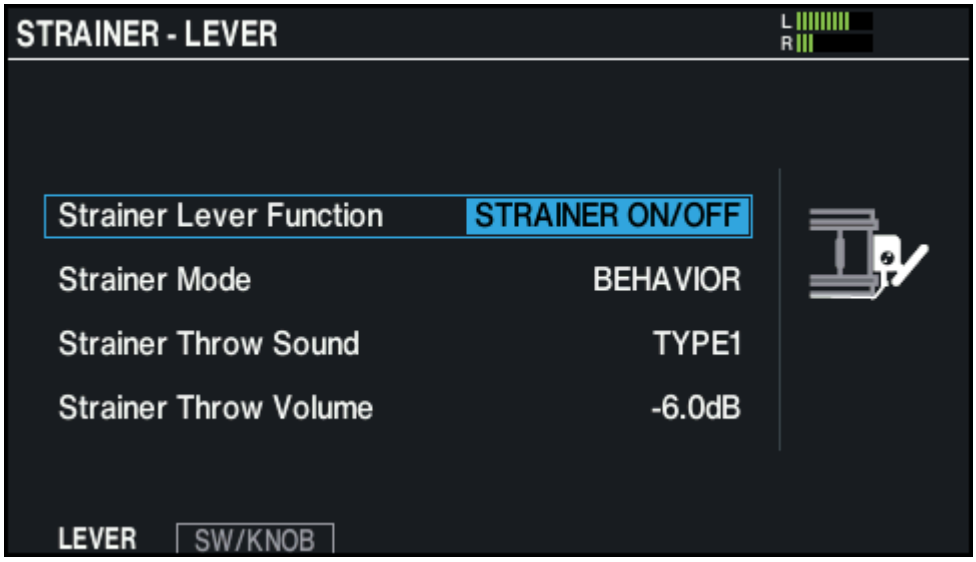
5 **［KIT］ボタンを押して、KIT画面に戻ります。**

エフェクト・コントロールの設定をする

1 **STRAINER画面（P.103）を表示させます。**

2 ［F1］（LEVER）ボタンを押します。

STRAINER - LEVER画面が表示されます。



3 Strainer Lever Functionにカーソルを合わせ、ダイヤルで「FX CONTROL」を選びます。

4 ［F3］（FX CTRL）ボタンを押します。

STRAINER - FX CONTROL画面が表示されます。

メモ

スイッチの表示は、現在のエフェクトのオン／オフ状態を示しています。

5 カーソル・ボタンでパラメーターを選び、ダイヤルで値を変更します。

設定値	説明
DISABLE	エフェクトをコントロールしません。

設定値	説明
LEVER ON	ストレイナーのレバーをオンにすると、エフェクトがオンになります。
LEVER OFF	ストレイナーのレバーをオフにすると、エフェクトがオンになります。

コントロールできるエフェクト

パラメーター	説明
AMBIENCE CONTROL	
OVERHEAD	オーバーヘッド・マイク
ROOM	ルーム・アンビエンス
REVERB	リバーブ
KIT RESO	キット・レゾナンス
BUS FX CONTROL	
BUS-A FX1	BUS-A FX1のエフェクト
BUS-A FX2	BUS-A FX2のエフェクト
BUS-B FX1	BUS-B FX1のエフェクト
BUS-B FX2	BUS-B FX2のエフェクト
BUS-C FX1	BUS-C FX1のエフェクト
BUS-C FX2	BUS-C FX2のエフェクト
BUS-D FX1	BUS-D FX1のエフェクト
BUS-D FX2	BUS-D FX2のエフェクト
BUS REVERB	バスにかけるリバーブ

6 **[KIT] ボタンを押して、KIT画面に戻ります。**

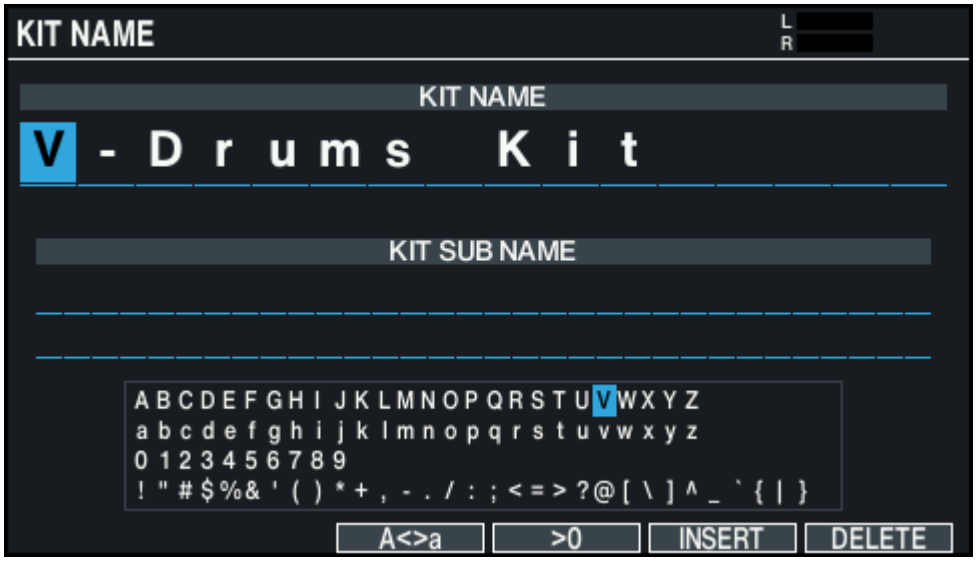
ドラム・キットの名前を変更する（KIT NAME）

現在選んでいるドラム・キットの名前を変更します。

1 **[MENU] ボタンを押します。**

2 カーソル・ボタンで「KIT OPTIONS」→「KIT NAME」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

KIT NAME画面が表示されます。



3 名前を変更します。

キット・ネーム（上段）は16文字、サブ・ネーム（下段）は64文字まで入力できます。

操作子	説明
カーソル・ボタン	変更する文字にカーソルを合わせます。
ダイヤル	文字を変更します。
［F3］（A<>a）ボタン	大文字／小文字を切り替えます。
［F4］（>0）ボタン	数字を選びます。
［F5］（INSERT）ボタン	カーソル位置に空白を挿入します。
［F6］（DELETE）ボタン	カーソル位置の文字を削除します。

4 ［KIT］ボタンを押して、KIT画面に戻ります。

ボタンの点灯色を設定する（KIT COLOR）

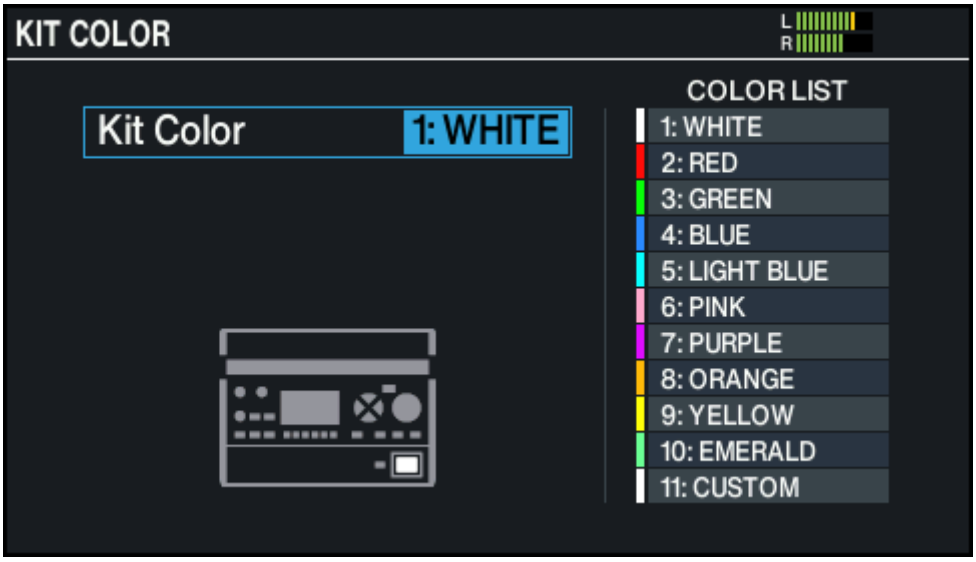
ドラム・キットごとに、［KIT］ボタンやストレイナー・インジケーターの点灯色を変えることができます。

ドラム・キットのジャンルに合わせて点灯色を変えたり、インストゥルメントの作り込みの目安にしたりするなど、識別したいときに便利です。

1 ［MENU］ボタンを押します。

2 カーソル・ボタンで「KIT OPTIONS」→「KIT COLOR」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

KIT COLOR画面が表示されます。



3 ダイヤルで点灯色を選びます。

メモ

「11:CUSTOM」を選ぶと、RGBを調整してお好みの点灯色にすることができます。

4 ［KIT］ボタンを押して、KIT画面に戻ります。

KIT画面の背景や文字サイズを設定する（KIT VIEW）

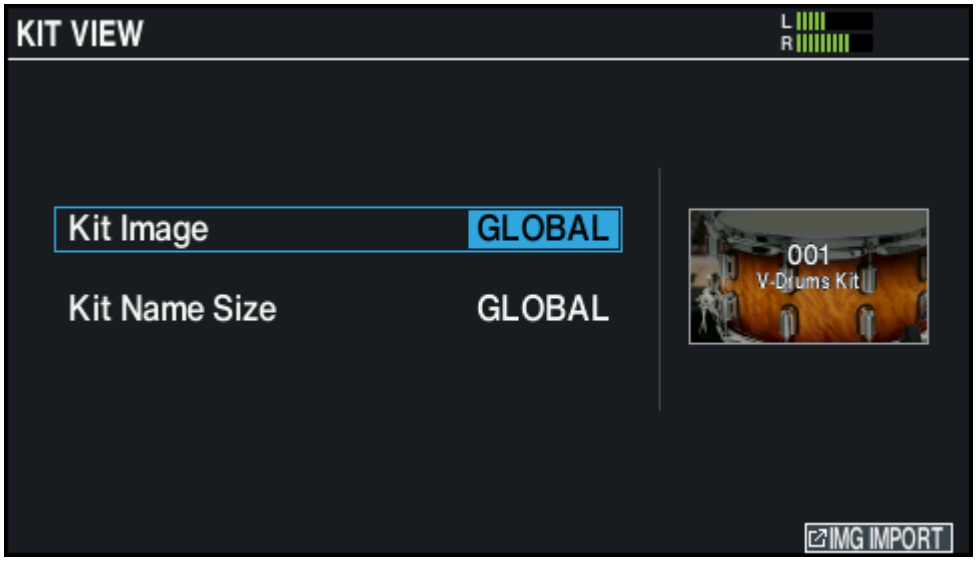
KIT画面で表示する背景や文字サイズを設定します。

➡ 設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』（Web）をご覧ください。

1 ［MENU］ボタンを押します。

2 **カーソル・ボタンで「KIT OPTIONS」→「KIT VIEW」を選び、［ENTER］ボタンを押します。**

KIT VIEW画面が表示されます。



3 **カーソル・ボタンでパラメーターを選び、ダイヤルで値を変更します。**

4 **［KIT］ボタンを押して、KIT画面に戻ります。**

お好みの画像をKIT画面の背景にする（キット・イメージ）

V31にKIT画面の背景用の画像をインポートすることができます。ご自身のドラム・キットを選びやすくしたいときに便利です。SDカード経由やV31 Editorからインポートすることができます。

メモ

取り込める画像ファイルの形式：「.png」

※インターレース方式で保存されたPNGファイルには対応していません。

1 **背景にしたい画像ファイルをSDカードに保存します。**

2 **SDカードをV31に挿入します。**

➡「サイド・パネル／フロント・パネル（P.17）」

3 **KIT VIEW画面（P.108）を表示させます。**

4 **Kit Imageにカーソルを合わせ、ダイヤルで「ON」を選びます。**

メモ

「GLOBAL」にすると、OPTION→KIT VIEW（GLOBAL）で設定した、V31全体で共通のキット・イメージの設定に従います。
➡「その他の設定（OPTION）（P.224）」

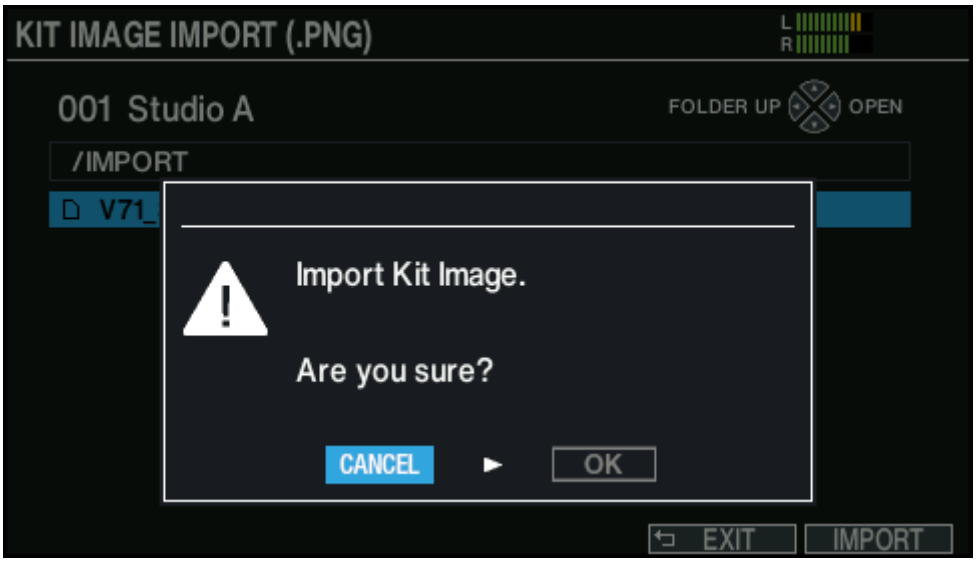
5 [F6] （IMG IMPORT）ボタンを押します。

カーソル・ボタンで画像ファイルを選び、［F6］（IMPORT）ボタンを押します。

カーソル・ボタン	機能
［▲］ボタン	カーソルの移動（上）
［▼］ボタン	カーソルの移動（下）
［◀］ボタン	フォルダーを抜ける
［▶］ボタン	フォルダーに入る

6 [F6] （IMPORT）ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは、「CANCEL」を選んで［ENTER］ボタンを押します。

7 「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

画像ファイルが取り込まれます。

8 [KIT] ボタンを押して、KIT画面に戻ります。

V31全体で共通のテンポを使用する（KIT TEMPO）

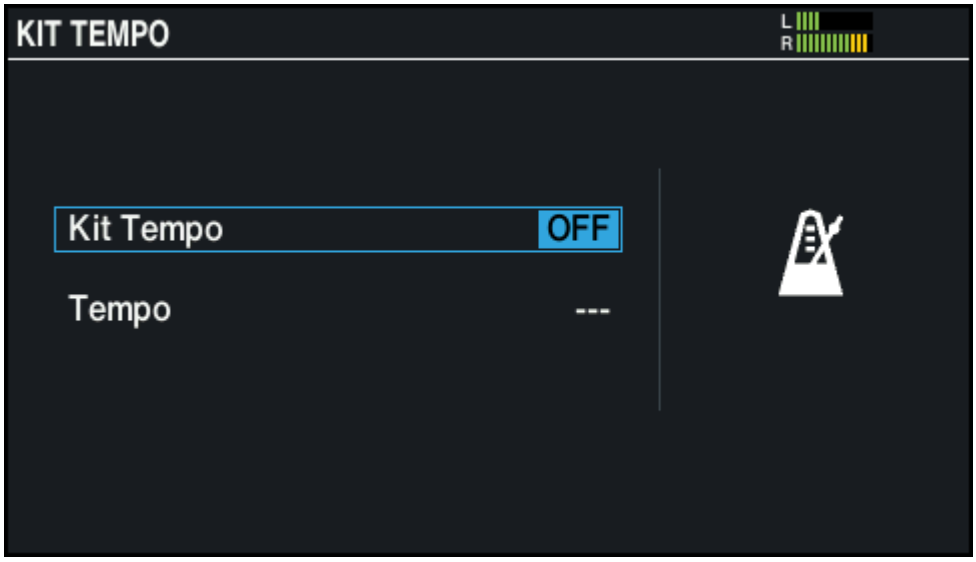
ドラム・キットを選んだとき、ここで設定したテンポが自動的にセットされます。

➡ 設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』（Web）をご覧ください。

1 [MENU] ボタンを押します。

2 **カーソル・ボタンで［KIT OPTIONS］→［KIT TEMPO］を選び、［ENTER］ボタンを押します。**

KIT TEMPO画面が表示されます。



3 **カーソル・ボタンでパラメーターを選び、ダイヤルで値を変更します。**

4 **［KIT］ボタンを押して、KIT画面に戻ります。**

現在選んでいるドラム・キットでフレーズを再生する（KIT PHRASE）

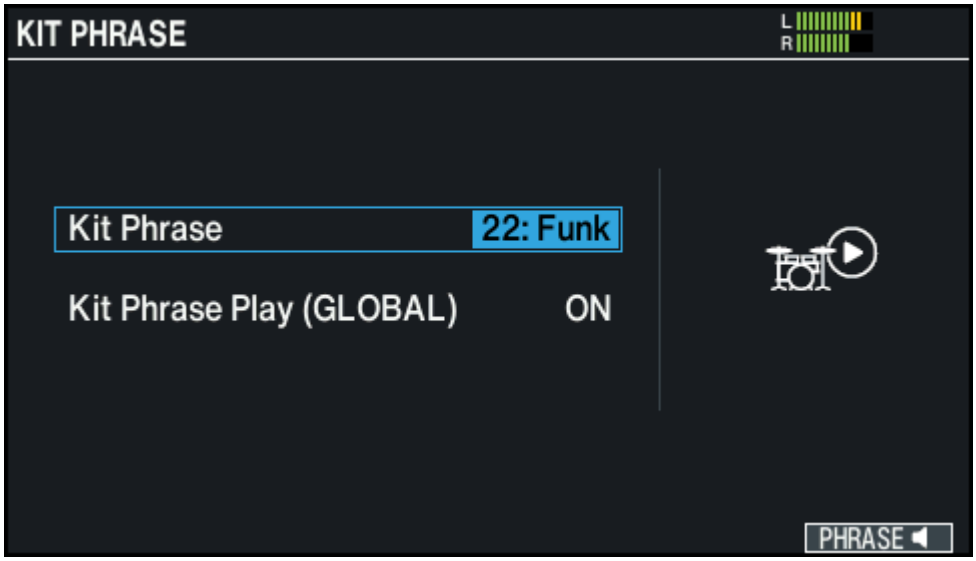
現在選んでいるドラム・キットでフレーズを再生し、音を確認することができます。

➡ 設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』（Web）をご覧ください。

1 **［MENU］ボタンを押します。**

2 **カーソル・ボタンで［KIT OPTIONS］→［KIT PHRASE］を選び、［ENTER］ボタンを押します。**

KIT PHRASE画面が表示されます。



3 **カーソル・ボタンでパラメーターを選び、ダイヤルで値を変更します。**

4 **［KIT］ボタンを押して、KIT画面に戻ります。**

パッドを叩いたときに特定のパッドの音をミュートする（MUTE GROUP）

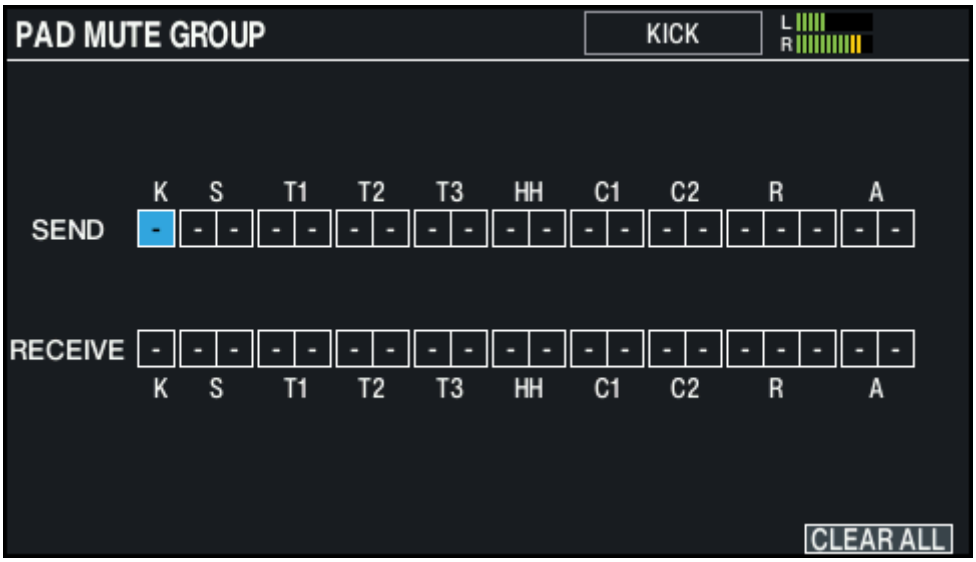
ミュート・グループを設定すると、パッドを叩いたときに、同じミュート・グループに設定した別のパッドをミュート（消音）することができます。

たとえば、各パッドのインストゥルメントにユーザー・サンプルを割り当て、ミュート・グループの設定をすると、パッドを叩いてユーザー・サンプルを切り替えながら鳴らすといった使いかたができます。

1 **［MENU］ボタンを押します。**

2 **カーソル・ボタンで「KIT OPTIONS」→「MUTE GROUP」を選び、［ENTER］ボタンを押します。**

PAD MUTE GROUP画面が表示されます。



3 **設定するパッドを選びます。**

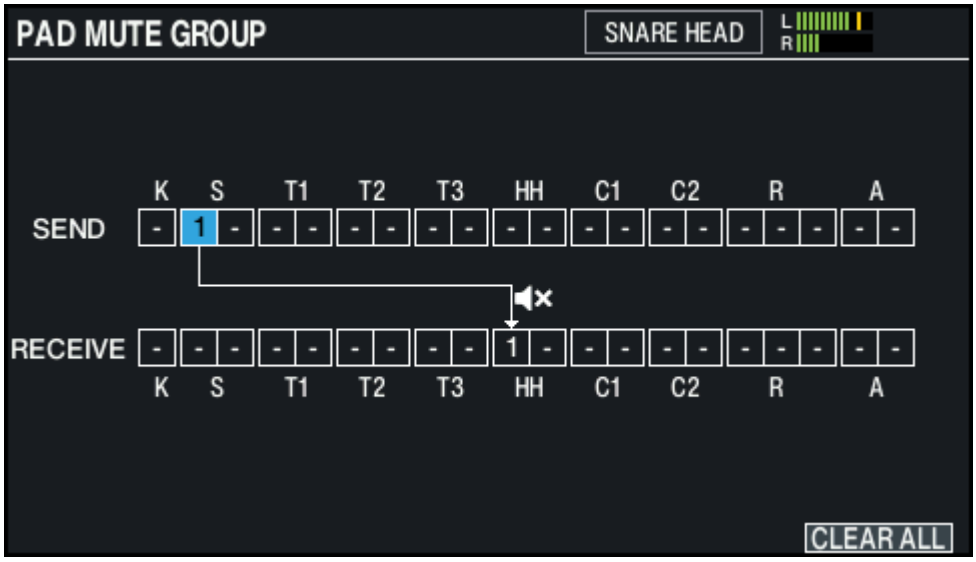
➡「設定するパッドを選ぶ（P.72）」

カーソル・ボタンで選ぶこともできます。

4 **カーソル・ボタン／ダイヤルで、ミュート・グループを設定します。**

パラメーター	設定値	説明
SEND	–（OFF）、1〜8	ミュート・グループ番号を設定します。 SENDで設定した番号のパッドを叩くと、RECEIVEで同じ番号に設定したパッドの音がミュートされます。 ※SENDとRECEIVEに同じトリガー（パッドや叩く場所）を設定しても、ミュートされません。
RECEIVE		

ミュート・グループを設定すると、選択中のパッドを叩いたときにミュートするパッドや、どのパッドを叩いたときに選択中のパッドがミュートされるかが、矢印で示されます。



メモ

すべてのミュート・グループを解除するときは、［F6］（CLEAR ALL）ボタンを押します。

5 **［KIT］ボタンを押して、KIT画面に戻ります。**

パッドごとにMIDI送受信の設定をする（KIT MIDI）

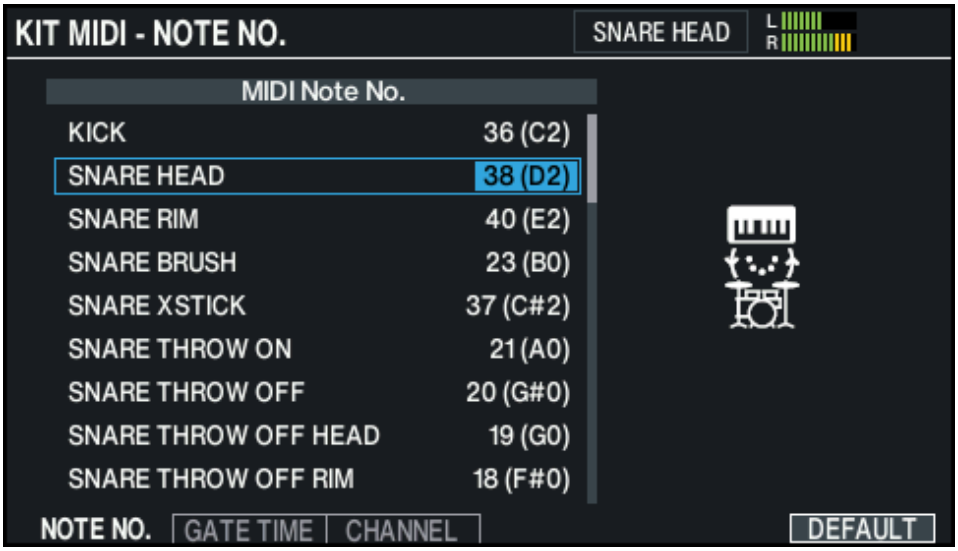
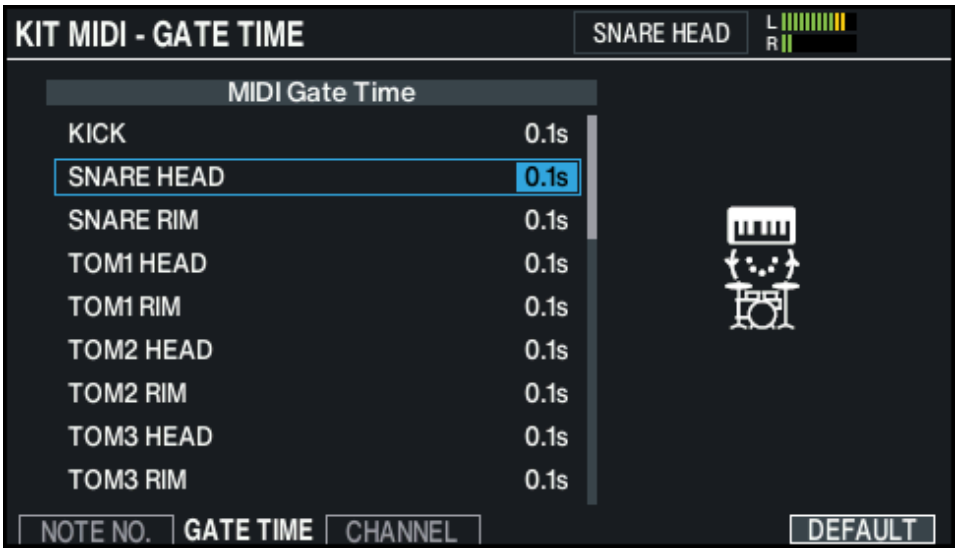
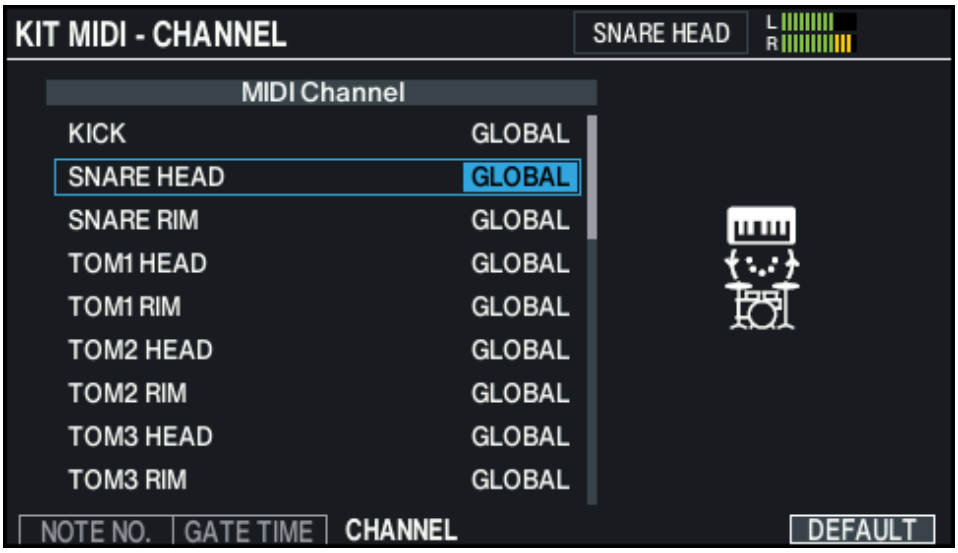
パッドを叩いたときに送受信するMIDI情報の設定をすることができます。

➡ 設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』（Web）をご覧ください。

1 **［MENU］ボタンを押します。**

2 **カーソル・ボタンで「KIT OPTIONS」→「KIT MIDI」を選び、［ENTER］ボタンを押します。**

3 **ファンクション・ボタンを押して、設定画面を表示させます。**

画面	説明
KIT MIDI - NOTE NO.画面	各パッドが送受信するMIDIノート・ナンバーを設定します。 
KIT MIDI - GATE TIME画面	各パッドが送信する、ノートの鳴る長さを設定します。 
KIT MIDI - CHANNEL画面	各パッドのノート・メッセージを送受信するMIDIチャンネルを設定します。 

4 カーソル・ボタンでパラメーターを選び、ダイヤルで値を変更します。

メモ

初期値に戻すときは、［F6］（DEFAULT）ボタンを押します。

※ 外部MIDI機器からパッドを鳴らす場合、鳴らすパッドのMIDIノート・ナンバーとMIDIチャンネルを合わせる必要があります。

5 ［KIT］ボタンを押して、KIT画面に戻ります。

音色の変化をコントロールする（POS/PEDAL）

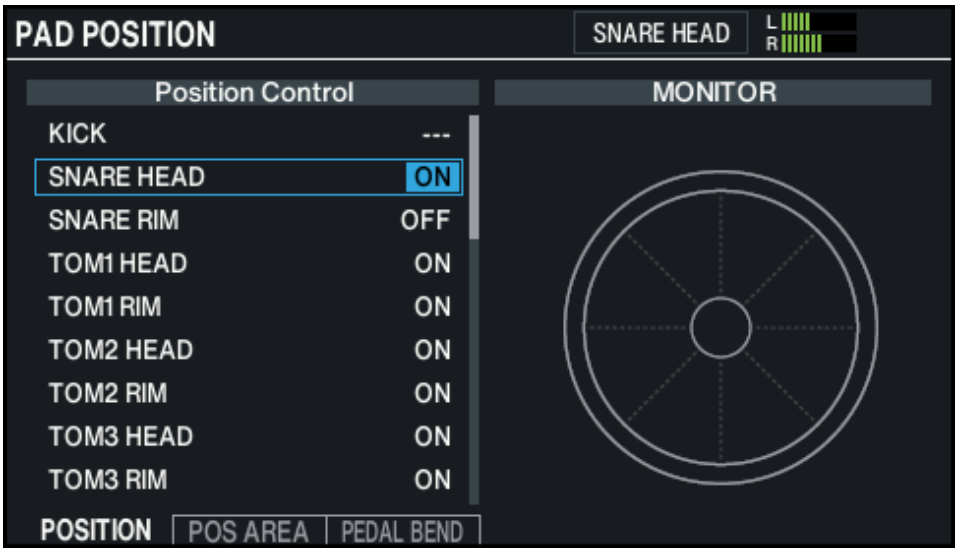
ペダルでピッチを変化させたり、パッドのポジションに応じた音色を調整したりできます。

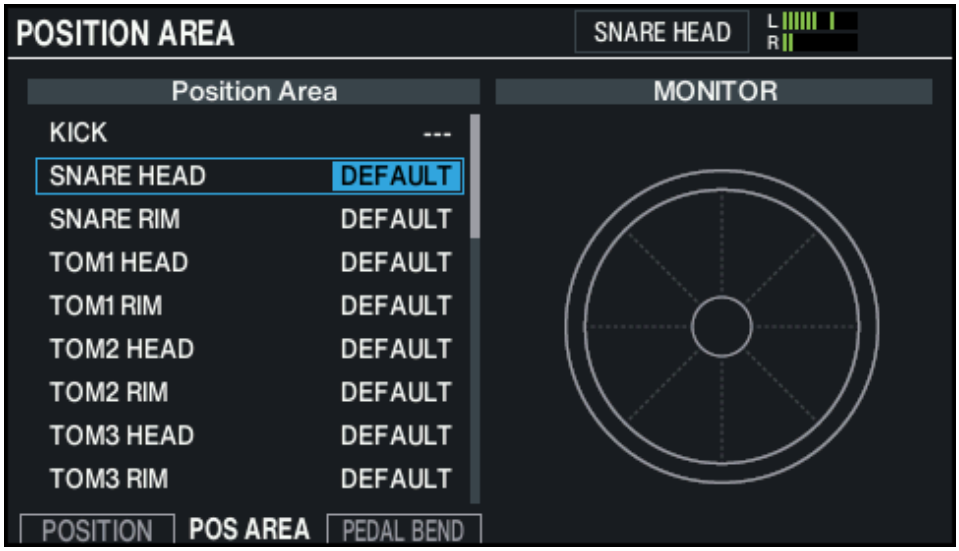
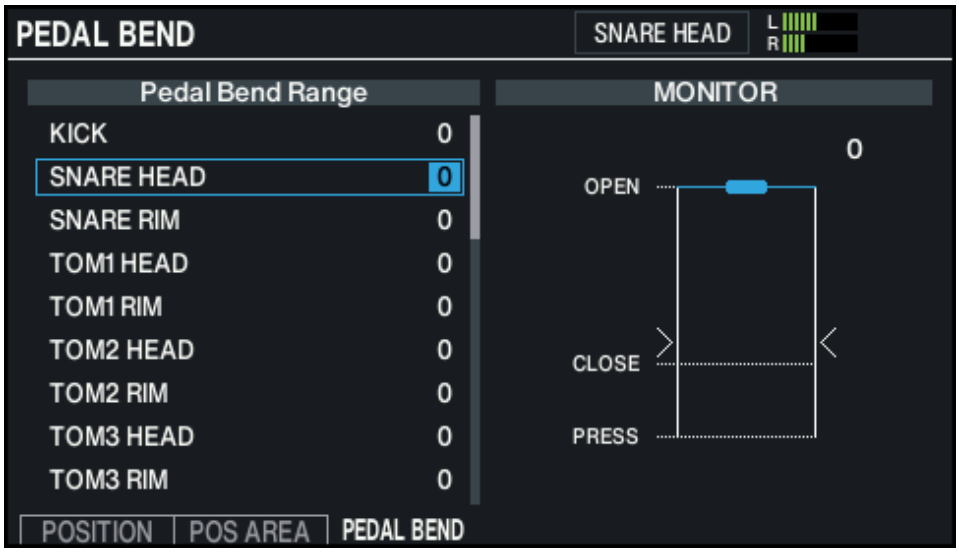
➡設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』（Web）をご覧ください。

1 ［MENU］ボタンを押します。

2 カーソル・ボタンで「KIT OPTIONS」→「POS/PEDAL」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

3 ファンクション・ボタンを押して、設定画面を表示させます。

画面	説明
PAD POSITION画面（*1）	打点位置やリム・ショットのニュアンスによる音色変化をオン／オフすることができます。 

画面	説明
POSITION AREA画面（*1）	ヘッド部とリム部などの打点位置のエリアを設定します。 
PEDAL BEND画面	ハイハット・ペダルの踏み込み量によるピッチの変化量を設定します。 

*1：以下のトリガー・インプットに対応しています。

- SNARE
- TOM1～3
- HI-HAT（VH-14Dをトリガー・インプット-ハイハットにアサイン時のみ）
- RIDEのボウ（ヘッド）、エッジ（リム）
- AUX

※ 接続しているパッドや、選んでいるインストゥルメントによっては、効果が得られないことがあります。

4 設定するパッドを選びます。

➡「設定するパッドを選ぶ（P.72）」

5 カーソル・ボタンでパラメーターを選び、ダイヤルで値を変更します。

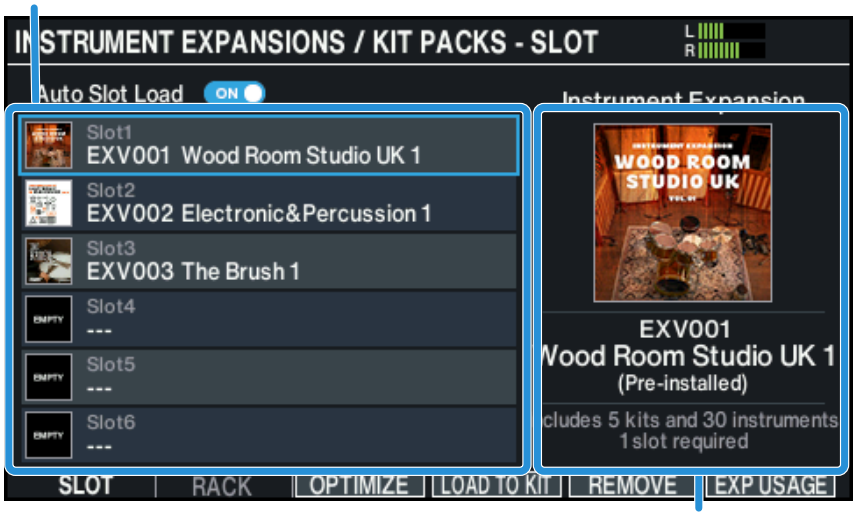
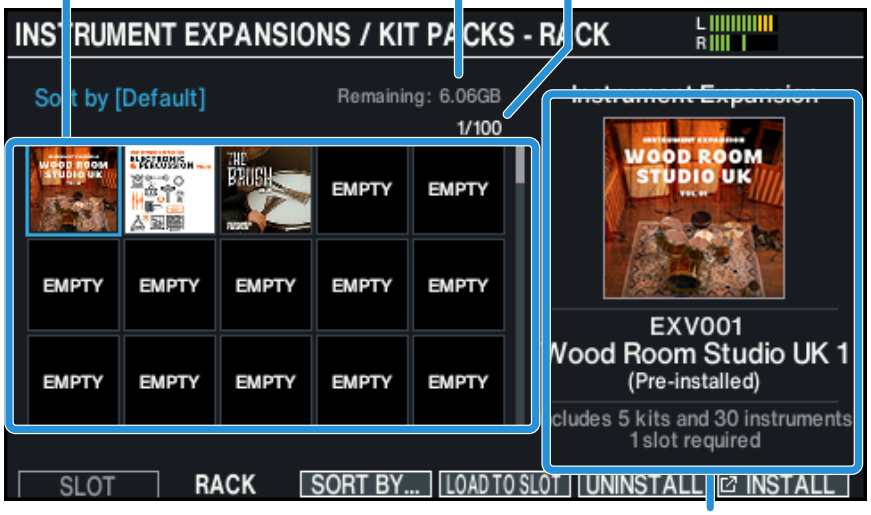
6 ［KIT］ボタンを押して、KIT画面に戻ります。

インストゥルメント・エクスパンション／キット・パックの設定をする

Roland Cloudからインストールしたインストゥルメント・エクスパンション（ドラム・キットとインストゥルメントのパッケージ）、キット・パック（ドラム・キットとカスタム・サンプルのパッケージ）を設定します。

1 ［EXPANSION］ボタンを押します。

2 ファンクション・ボタンを押して、設定画面を表示させます。

画面	説明
SLOT画面	Slot1～6に割り当てられているインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックを管理します。 スロットのインストゥルメント・エクスパンション／キット・パック  選んでいるインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックの情報
RACK画面	Roland Cloudからインストールしたインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックを管理します。 ラックのインストゥルメント・エクスパンション／キット・パック ラック領域の残量　ラック内の番号  選んでいるインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックの情報

3 **インストゥルメント・エクスパンション／キット・パックの設定を変更します。**

4 **［KIT］ボタンを押して、KIT画面に戻ります。**

Roland Cloudからドラム・キットやインストゥルメントを取り込む

以下の2つの方法で、Roland Cloudからインストゥルメント・エクスパンション（ドラム・キットとインストゥルメントのパッケージ）、キット・パック（ドラム・キットとカスタム・サンプルのパッケージ）をV31にインストールすることができます。

- スマートフォン・アプリ「Roland Cloud Connect」とV31をWi-Fiで接続し、Wi-Fi経由でインストールする
  ➡ 別紙『Roland Cloud Connectセットアップ・ガイド』をご覧ください。
- パソコン・アプリ「Roland Cloud Manager」からインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックをSDカードに保存して、SDカード経由でインストールする
  ➡ 『Roland Cloudご利用ガイド』（Web）をご覧ください。

ラックのインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックをスロットに読み込む（LOAD TO SLOT）

ラックにインストールされたインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックをスロットにロードします。

ここでは、インストゥルメント・エクスパンションのドラム・キットを読み込む手順を例に説明します。

キット・パックのドラム・キットも同じ手順で読み込むことができます。

1 **RACK画面（P.8）で、スロットにロードするインストゥルメント・エクスパンションを選びます。**

※ すでにスロットにロードされているインストゥルメント・エクスパンションは、別のスロットにロードできません。

2 **［F4］（LOAD TO SLOT）ボタンを押します。**

LOAD TO SLOTウィンドウが表示されます。

中止するときは［F4］（CLOSE）ボタンを押します。

3 **ダイヤルを回して、ロード先のスロットを選び、［F6］（LOAD）ボタンを押します。**

インストゥルメント・エクスパンションのロードが実行されます。

※ すでに別のインストゥルメント・エクスパンションがロードされているスロットを選んだ場合は、確認画面が表示されます。上書きしてもよい場合は「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

※ 1つのインストゥルメント・エクスパンションを複数のスロットにロードすることはできません。すでにインストゥルメント・エクスパンションが別のスロットにロードされている場合は、ロードされているスロット番号が表示されます。

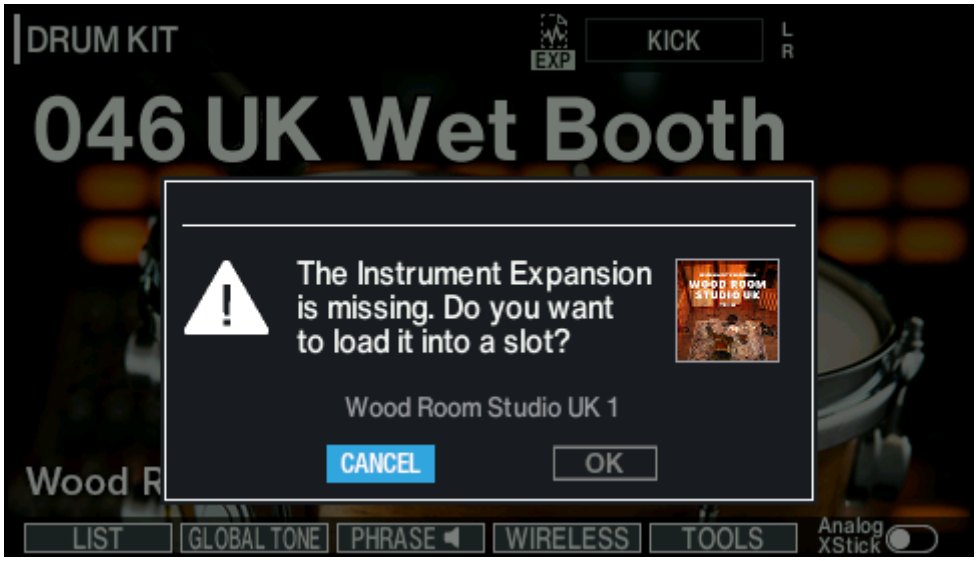
4 ［ENTER］ボタンを押して、操作を終了します。

ドラム・キットに不足しているインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックをロードする

ドラム・キットに不足しているインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックがあると、パッドを叩いたりキット・フレーズを再生したりしたときに以下の確認画面が表示されます。

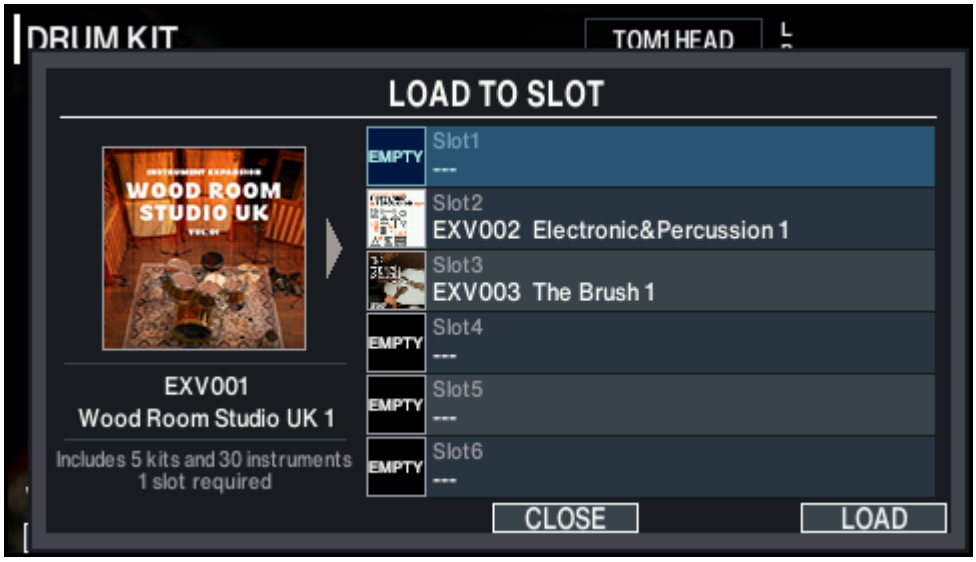
確認画面には、不足しているインストゥルメント・エクスパンション／キット・パック名が表示されます。

必要に応じて、インストゥルメント・エクスパンション／キット・パックをロードし直してください。



1 ［OK］を選び、［ENTER］ボタンを押します。

LOAD TO SLOTウィンドウが表示されます。

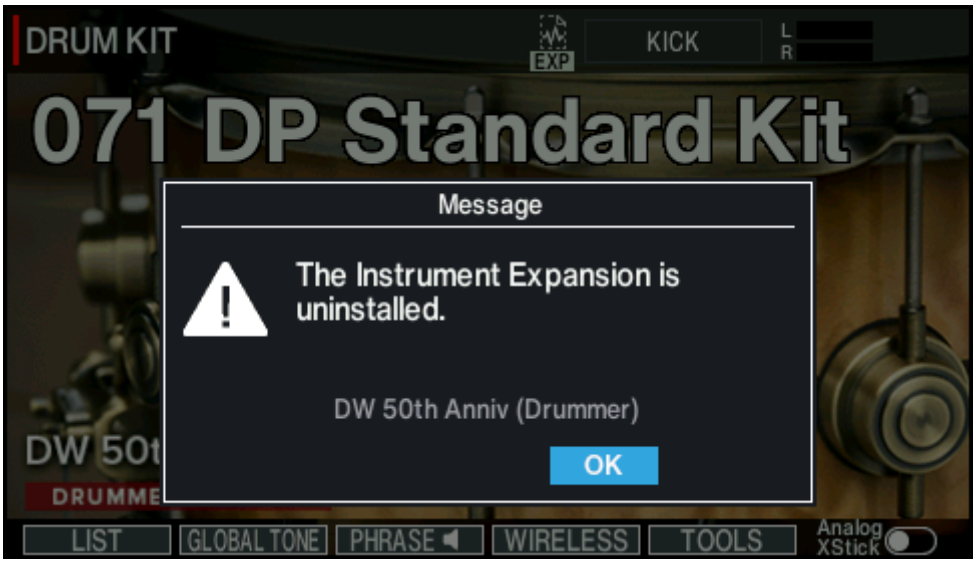


2 ダイヤルを回して、ロード先のスロットを選び、［F6］（LOAD）ボタンを押します。

ドラム・キットで不足しているすべてのインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックがスロットにロードされると、KIT画面のエクスパンション・アイコンが点滅→点灯に変わります。

メモ

ドラム・キットに必要なインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックがラックからアンインストールされている場合は、V31本体の操作で元に戻すことができません。Membership（サブスクリプション）をご利用の場合はRoland Cloud Connect、Lifetime Key（ライセンス購入）をご利用の場合はRoland Cloud Managerを使って、必要なインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックをラックに再インストールしてからスロットにロードしてください。



インストゥルメント・エクスパンション／キット・パックの割り当てを解除する（REMOVE）

スロットにロードしたインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックを解除します。

ここでは、インストゥルメント・エクスパンションを解除する手順を例に説明します。

キット・パックのドラム・キットも同じ手順で解除することができます。

注意

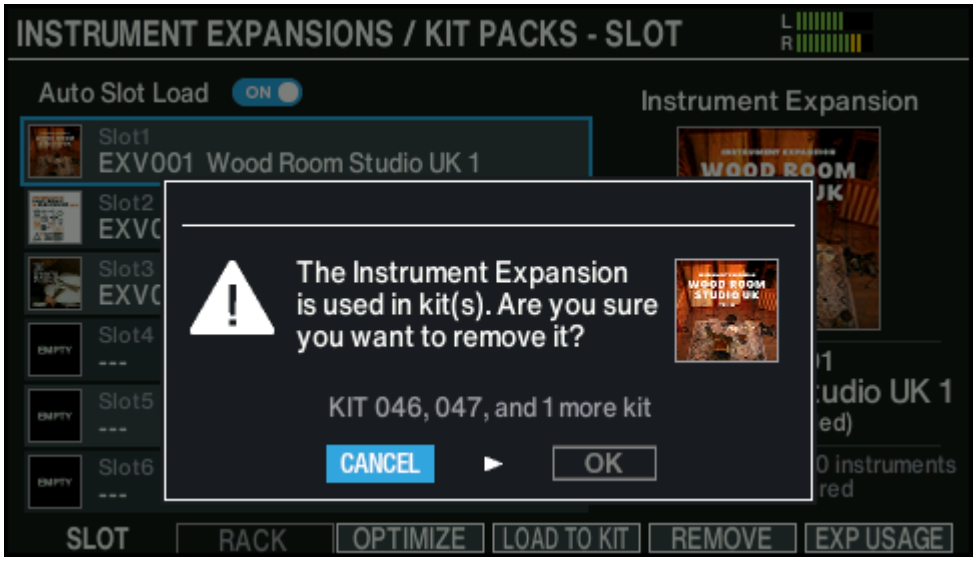
インストゥルメント・エクスパンション／キット・パックを解除すると、解除したインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックを含むドラム・キットは正しく再現されなくなります。

ドラム・キットを再現したい場合は、必要なインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックをもう一度スロットにロードしてください。

1 **SLOT画面（P.8）で、スロットから解除するインストゥルメント・エクスパンションを選びます。**

2 ［F5］（REMOVE）ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは、「CANCEL」を選んで［ENTER］ボタンを押します。

3 「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

スロットからインストゥルメント・エクスパンションが解除されます。

4 ［ENTER］ボタンを押して、操作を終了します。

インストゥルメント・エクスパンション／キット・パックを使っているキットを表示する

スロットのインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックを入れ替えるときに、影響を受けるキットを確認するのに便利です。

1 SLOT画面（P.8）で、［F6］（EXP USAGE）ボタンを押します。

各スロットで、インストゥルメント・エクスパンション／キット・パックが使われているキットがリスト表示されます。

［►］ボタンを押してカーソルをキットのリストに移動させてから、［F5］（SELECT）ボタンを押すと、キットを切り替えることができます。

スロットの領域を最適化する（OPTIMIZE）

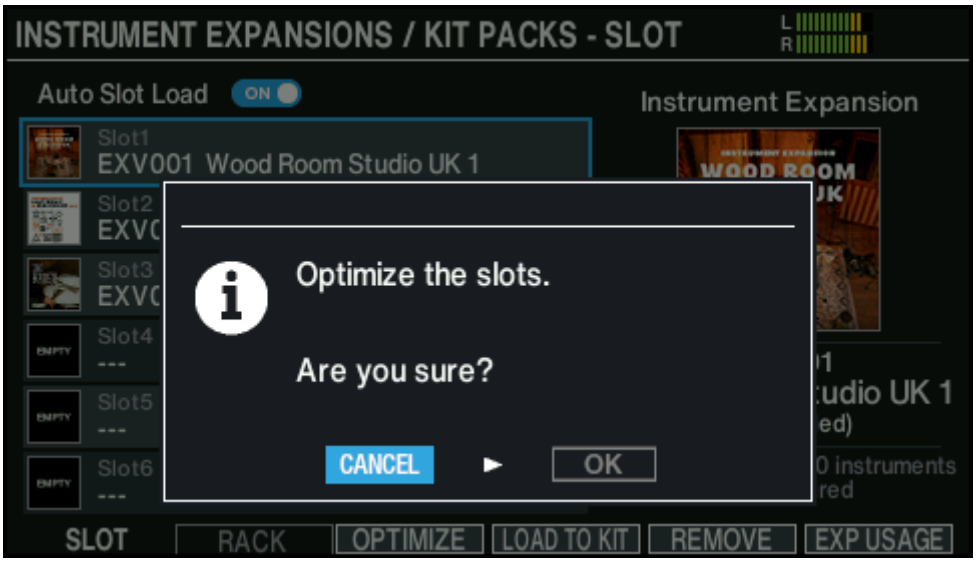
インストゥルメント・エクスパンション／キット・パックのロードやリムーブを繰り返すと、スロット領域が断片化し、取り込めるインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックが少なくなることがあります。

この機能を使うと、領域を最適化して、インストゥルメント・エクスパンション／キット・パックを取り込めるようにします。

※ 最適化しても、効果がない場合があります。

1 SLOT画面（P.8）で、［F3］（OPTIMIZE）ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは、「CANCEL」を選んで［ENTER］ボタンを押します。

2 「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

スロット領域が最適化されます。

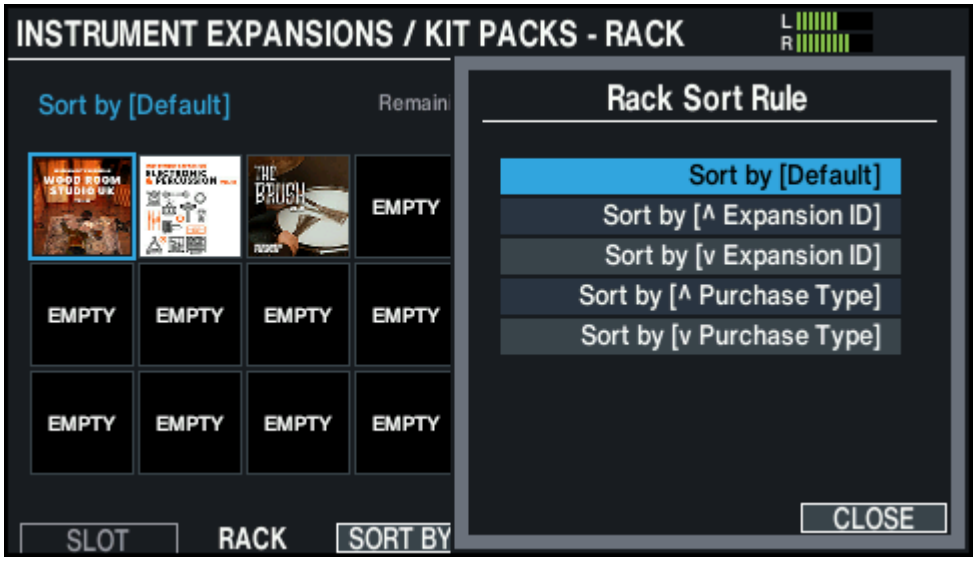
インストゥルメント・エクスパンション／キット・パックの並び順を変える（SORT BY...）

RACK画面に表示されるインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックの並び順を変更することができます。

※ 並び順の設定はユーザー・メモリーに保存されません。

1 RACK画面（P.8）で、［F3］（SORT BY...）ボタンを押します。

Rack Sort Ruleウィンドウが表示されます。



2 カーソル・ボタンまたはダイヤルで、並び順を選びます。

設定値	説明
Default	ラック番号順に並びます。
∧ **Expansion ID**	Expansion ID順（昇順）に並びます。
∨ **Expansion ID**	Expansion ID順（降順）に並びます。
∧ **Purchase Type**	インストゥルメント・エクスパンション／キット・パックの購入形式順（プリインストール→LifetimeKeyで購入→サブスクリプションで購入）に並びます。
∨ **Purchase Type**	インストゥルメント・エクスパンション／キット・パックの購入形式順（サブスクリプションで購入→LifetimeKeyで購入→プリインストール）に並びます。

3 ［F6］（CLOSE）ボタンを押して、RACK画面に戻ります。

インストゥルメント・エクスパンション／キット・パックをアンインストールする（UNINSTALL）

ラックにインストールしたインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックをアンインストールします。

※工場出荷時にインストールされている（プリインストールされている）インストゥルメント・エクスパンションはアンインストールできません。

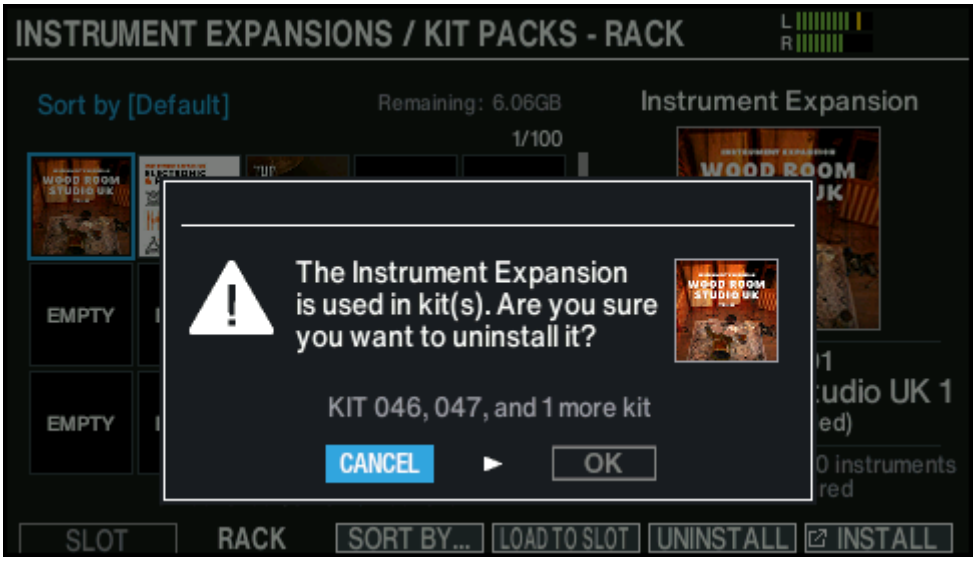
注意

インストゥルメント・エクスパンション／キット・パックをアンインストールすると、アンインストールしたインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックを含むドラム・キットは正しく再現されなくなります。

1 RACK画面（P.8）で、アンインストールするインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックを選びます。

2 [F5] （UNINSTALL）ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは、「CANCEL」を選んで［ENTER］ボタンを押します。

3 「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

ラックからインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックがアンインストールされます。

4 ［ENTER］ボタンを押して、操作を終了します。

オーディオ・ファイルを取り込む／鳴らす（USER SAMPLE）

パソコンで作成したオーディオ・ファイルを、SDカードからV31に取り込み、インストゥルメントとして鳴らすことができます（ユーザー・サンプル機能）。ユーザー・サンプルは、他のインストと同じように、音色を調節したり、エフェクトをかけたりできます。

V31に取り込めるオーディオ・ファイル

	WAVファイル
形式（拡張子）	WAV（.wav）
サンプル・レート	44.1、48、96kHz
ビット数	16、24、32ビット
時間	最大180秒

※ 16文字以上のファイル名やフォルダー名は、正しく表示されません。また、2バイト文字を使ったファイルやフォルダーには対応していません。

オーディオ・ファイルを取り込む

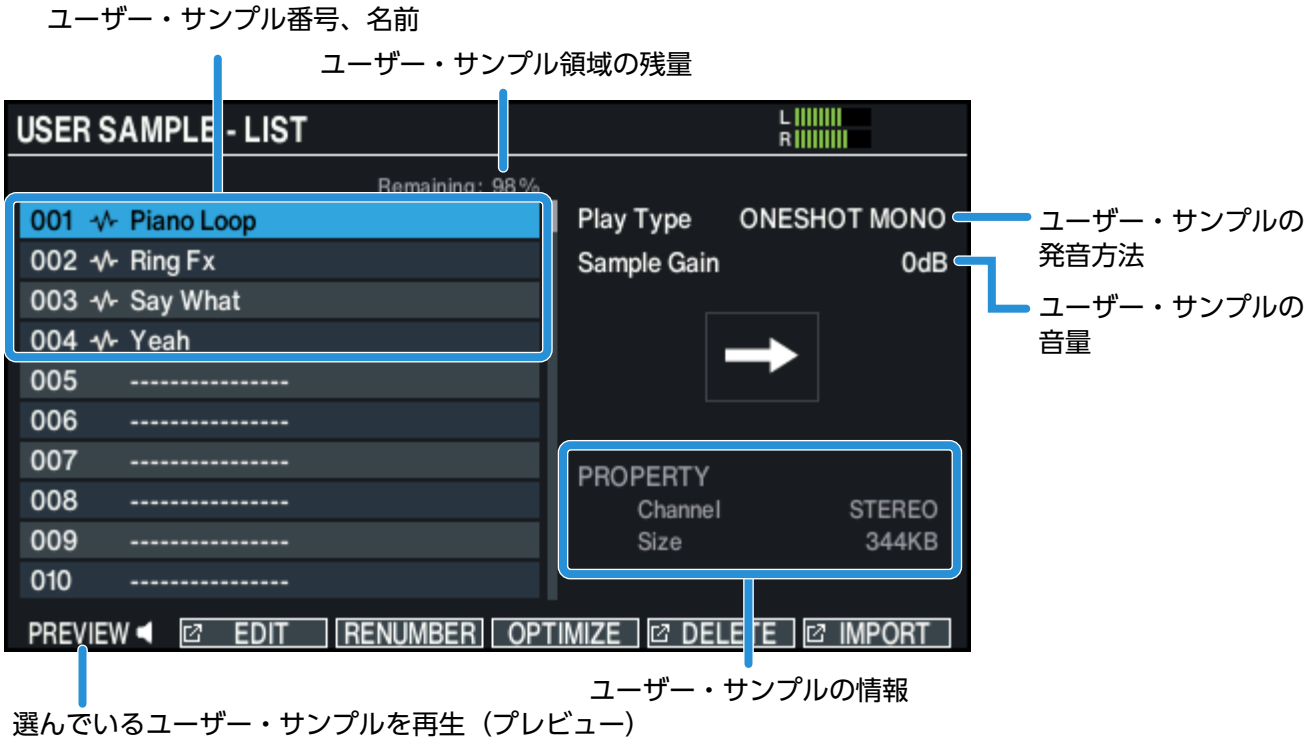
オーディオ・ファイルをユーザー・サンプルとして、V31に取り込みます。

1 SDカードをV31に挿入します。

➡ 「サイド・パネル／フロント・パネル（P.17）」

2 ［SHIFT］ボタンを押しながら［EXPANSION］ボタンを押します。

USER SAMPLE LIST画面が表示されます。



3 カーソル・ボタンでインポート先の番号を選び、［F6］（IMPORT）ボタンを押します。

USER SAMPLE IMPORT画面が表示されます。

※ すでにデータがある番号を選ぶと、「User Sample already exists!」とメッセージが表示されます。データのない番号を選んでください。

4 カーソル・ボタンでオーディオ・ファイルを選び、［F6］（IMPORT）ボタンを押します。

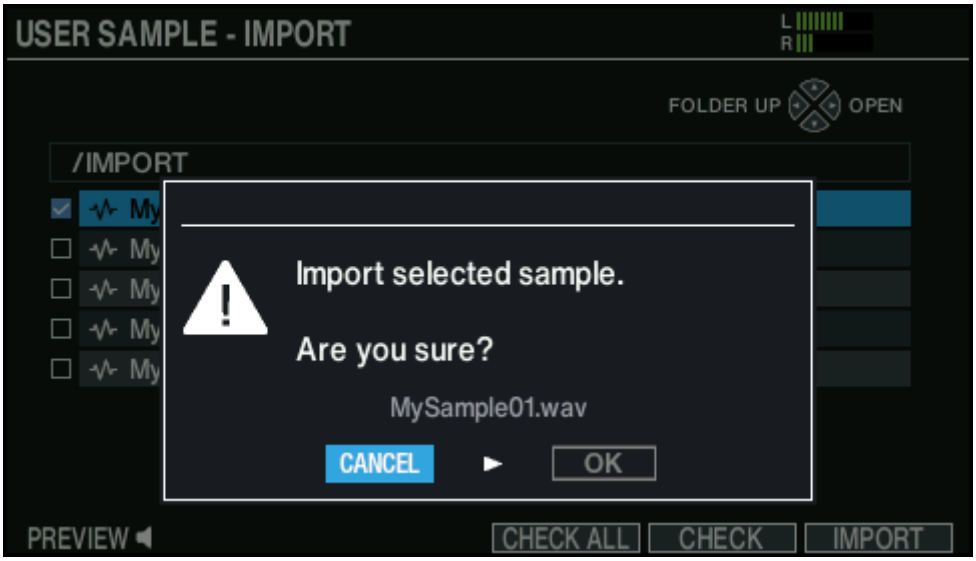
カーソル・ボタン	機能
[▲] ボタン	カーソルの移動（上）
[▼] ボタン	カーソルの移動（下）
[◀] ボタン	フォルダーを抜ける
[▶] ボタン	フォルダーに入る

メモ

- [F1] （PREVIEW）ボタンを押して、選んでいるオーディオ・ファイルをプレビュー再生することができます。44.1kHz、16または24ビットのファイルのみ、プレビュー再生することができます。
- [F5] （CHECK）ボタンでチェックを入れたオーディオ・ファイルをまとめてインポートすることができます。また、 [F4] （CHECK ALL）ボタンを押すと、フォルダーのオーディオ・ファイルをまとめて選ぶことができます。

5 [F6] （IMPORT）ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは、「CANCEL」を選んで［ENTER］ボタンを押します。

6 「OK」を選び、 [ENTER] ボタンを押します。

オーディオ・ファイルが取り込まれます。

ユーザー・サンプルをインストゥルメントに割り当てる／鳴らす

1 [EZ EDIT] ボタンを押します。

2 [F1] （INST）ボタンを押します。

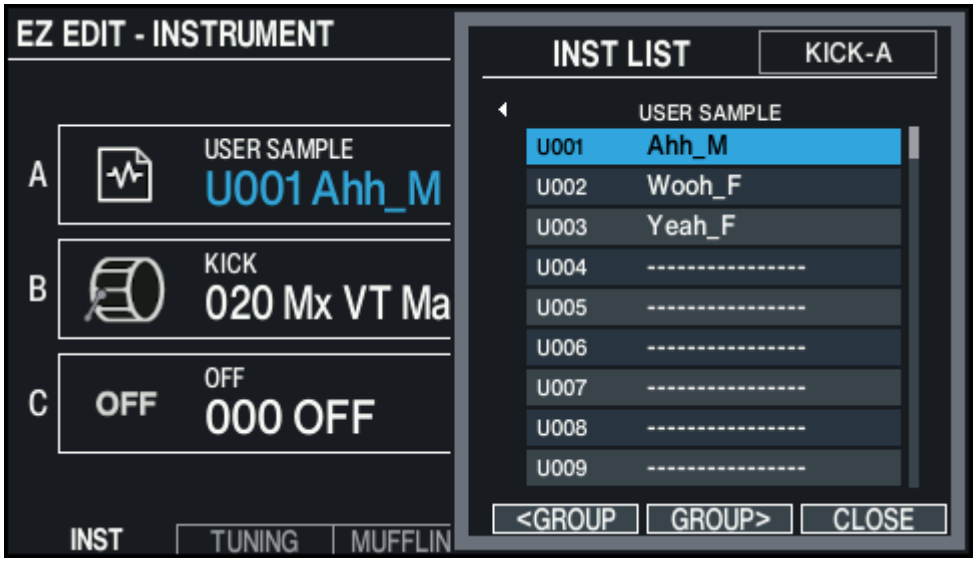
3 設定するパッドを選びます。

➡「設定するパッドを選ぶ（P.72）」

4 [F5] （LIST）ボタンを押します。

INST LISTウィンドウが表示されます。

5 **［F5］（GROUP>）ボタンで「USER SAMPLE」のインストゥルメント・グループを選び、カーソル［▼］［▲］ボタンでユーザー・サンプルを選びます。**



6 **［F6］（CLOSE）ボタンを押します。**

7 **［KIT］ボタンを押して、KIT画面に戻ります。**

ユーザー・サンプルを割り当てたパッドを叩くと、ユーザー・サンプルが鳴ります。

ユーザー・サンプルの発音方法を設定する

パッドを叩いたときに、ユーザー・サンプルを1回だけ鳴らすか、繰り返し鳴らすかなど、発音方法を設定することができます。

1 **USER SAMPLE LIST画面（P.124）で、設定するユーザー・サンプルを選びます。**

2 **カーソル・ボタンでPlay TypeまたはSample Gainにカーソルを合わせ、ダイヤルで値を変更します。**

パラメーター	設定値	説明
Play Type	ONESHOT MONO	パッドを叩いたとき、鳴っている音を消してから発音します。音を重ねずに発音します。
	ONESHOT POLY	同じパッドを連打したとき、音が重なって発音します。
	LOOP ALT	ユーザー・サンプルを繰り返し鳴らします（ループ）。 パッドを叩くたびに、発音と停止を交互に繰り返します。
Sample Gain	-12～+12dB	ユーザー・サンプルの音量を調節します。

メモ

発音したままのユーザー・サンプルを止める場合は、ALL SOUND OFFで発音を止めることができます。

➡「鳴っている演奏音をすべて停止する（ALL SOUND OFF）（P.33）」

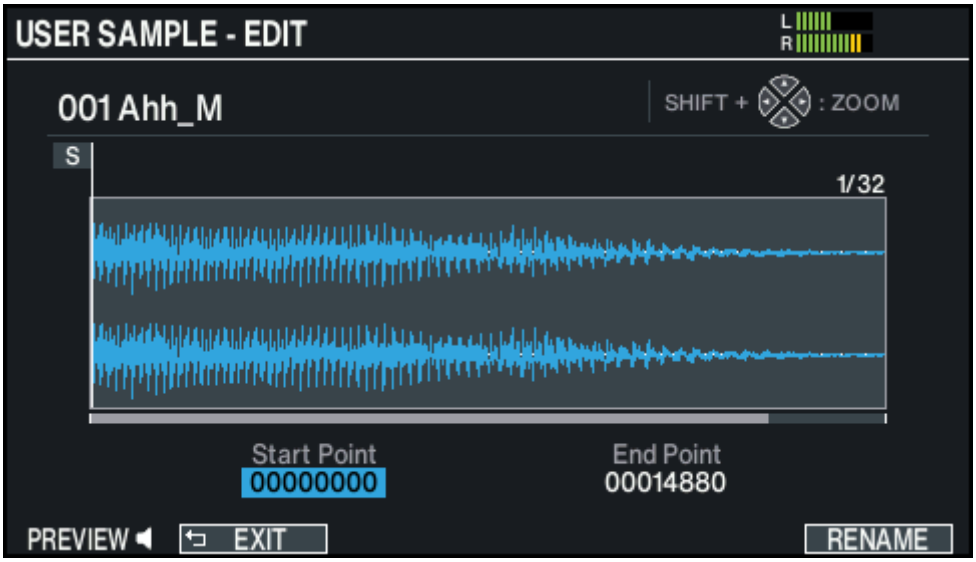
ユーザー・サンプルを編集する（EDIT）

ユーザー・サンプルの発音範囲の設定や名前を変更することができます。

1 **USER SAMPLE LIST画面（P.124）で、設定するユーザー・サンプルを選びます。**

2 **［F2］（EDIT）ボタンを押します。**

USER SAMPLE - EDIT画面が表示されます。



3 **カーソル・ボタンでパラメーターを選び、ダイヤルで値を変更します。**

パラメーター	説明
ZOOM	波形表示をズーム・イン／アウトします。 ［SHIFT］ボタンを押しながらカーソル［◀］［▶］ボタンを押すと、横軸方向でズーム・イン／アウトします。 ［SHIFT］ボタンを押しながらカーソル［▲］［▼］ボタンを押すと、縦軸方向でズーム・イン／アウトします。
Start Point	スタート・ポイント（ユーザー・サンプルの発音を始める位置）を調節します。
End Point	エンド・ポイント（ユーザー・サンプルの発音を終える位置）を調節します。
RENAME	［F6］（RENAME）ボタンを押して、ユーザー・サンプルの名前を変更します。

メモ

［F1］（PREVIEW）ボタンを押して、編集中のユーザー・サンプルをプレビュー再生することができます。

ユーザー・サンプルを整理する

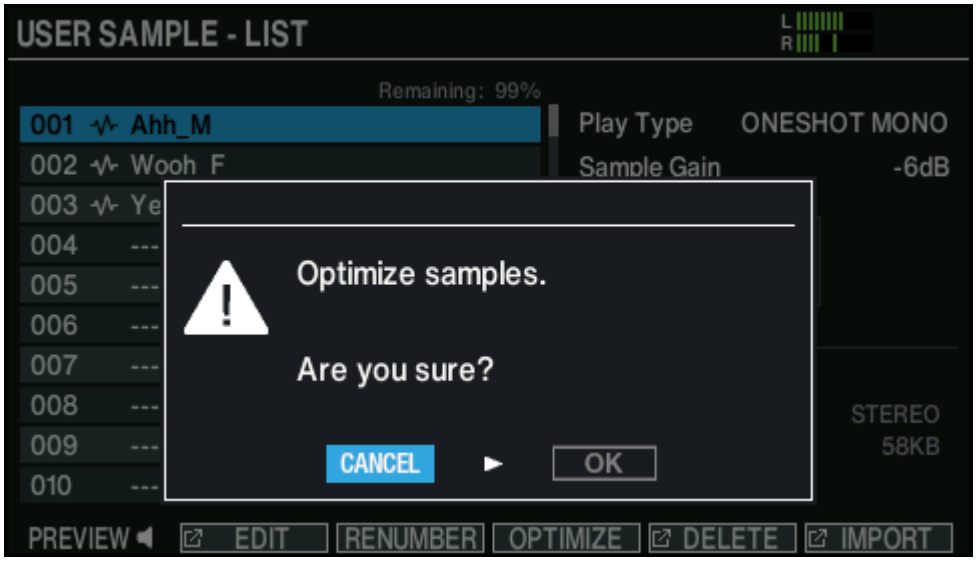
ユーザー・サンプルの番号を整理したり、ユーザー・サンプル領域を最適化したりすることができます。

1 **USER SAMPLE LIST画面（P.124）でファンクション・ボタンを押して、設定画面を表示させます。**

ボタン	説明
[F3] （RENUMBER）ボタン	**ユーザー・サンプルの番号を前に詰める（RENUMBER）** ユーザー・サンプルの取り込みと削除を繰り返すと、番号がとびとびになります。 この機能を使うと、ユーザー・サンプルを前詰めに整理できます。ドラム・キットに割り当てたユーザー・サンプルも、正しく鳴るように更新されます。 ※RENUMBERを実行すると、これまでに保存したバックアップ・データやキット・バックアップ・データ（ユーザー・サンプルを含まないもの）を読み込んだとき、ドラム・キットに割り当てられたユーザー・サンプルが正しく再現されなくなります。
[F4] （OPTIMIZE）ボタン	**ユーザー・サンプル領域を最適化する（OPTIMIZE）** ユーザー・サンプルの取り込みと削除を繰り返すと、ユーザー・サンプル領域が断片化し、取り込めるユーザー・サンプルが少なくなることがあります。 この機能を使うと、領域を最適化して、ユーザー・サンプルを取り込めるようにします。 **注意** • 実行前に必ずバックアップをしてください。 ➡「データをバックアップする（BACKUP） （P.203）」 • この処理は、1時間以上かかることがあります（ユーザー・サンプルの数やサイズにより変動します）。 • 処理中は、絶対に電源を切らないでください。ユーザー・サンプルが失われる恐れがあります。 • 最適化しても、効果がない場合があります。
[F5] （DELETE）ボタン	**ユーザー・サンプルを削除する（DELETE）** ユーザー・メモリー内のサンプルを削除します。 [F5] （CHECK）ボタンを押して、削除したいユーザー・サンプルにチェックを入れます。 [F4] （CHECK ALL）ボタンを押すと、すべてのユーザー・サンプルにチェックが入ります。 [F6] （DELETE）ボタンを押すと、削除を実行します。 **注意** ドラム・キットで使われているユーザー・サンプルもすべて削除されます。ユーザー・サンプルを割り当てているパッドは、音が鳴らなくなります。

確認画面が表示されます。

例）OPTIMIZEのとき



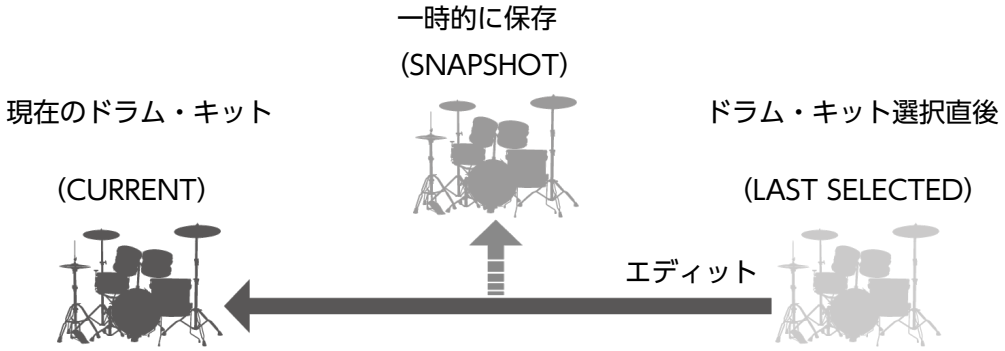
中止するときは、「CANCEL」を選んで［ENTER］ボタンを押します。

2 「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

選んだ機能が実行されます。

エディット前のドラム・キットと聴き比べをする／エディット前に戻す（SNAPSHOT）

エディット中のドラム・キットを一時的に保存しておき、現在の設定と聴き比べたり設定を戻したりすることができます（スナップショット）。



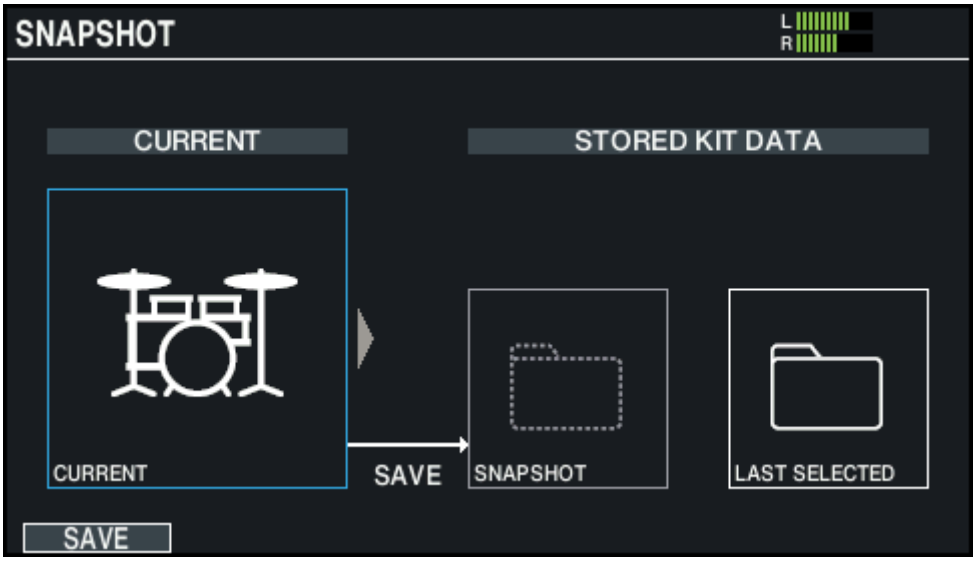
1 エディットするドラム・キットを選びます。

ドラム・キットを選んだ時点で、選ばれたドラム・キットの情報がLAST SELECTEDに保存されます。

2 KIT画面（P.27）で、［F5］（TOOLS）ボタンを押します。

3 カーソル・ボタンまたはダイヤルで「SNAPSHOT」を選び、［F6］（SELECT）ボタンを押します。

SNAPSHOT画面が表示されます。



4 ［F1］（SAVE）ボタンを押します。

現在のドラム・キットの設定が、SNAPSHOTに保存されます。

5 ［EXIT］ボタンを押してSNAPSHOT画面を抜けて、ドラム・キットをエディットします。

※ ドラム・キットを変えると、SNAPSHOTに保存されている設定は消去されます。
※ スナップショット機能は、キット・イメージのエディットは対象外です。

6 エディットをしたら、手順2、3の操作でSNAPSHOT画面を表示させます。

7 カーソル・ボタンまたはダイヤルで保存されたドラム・キットを切り替えながら演奏し、聴き比べをします。

ボタン	説明
CURRENT	現在のドラム・キットの設定
SNAPSHOT	SNAPSHOTに保存したドラム・キットの設定
LAST SELECTED	ドラム・キット選択直後の設定

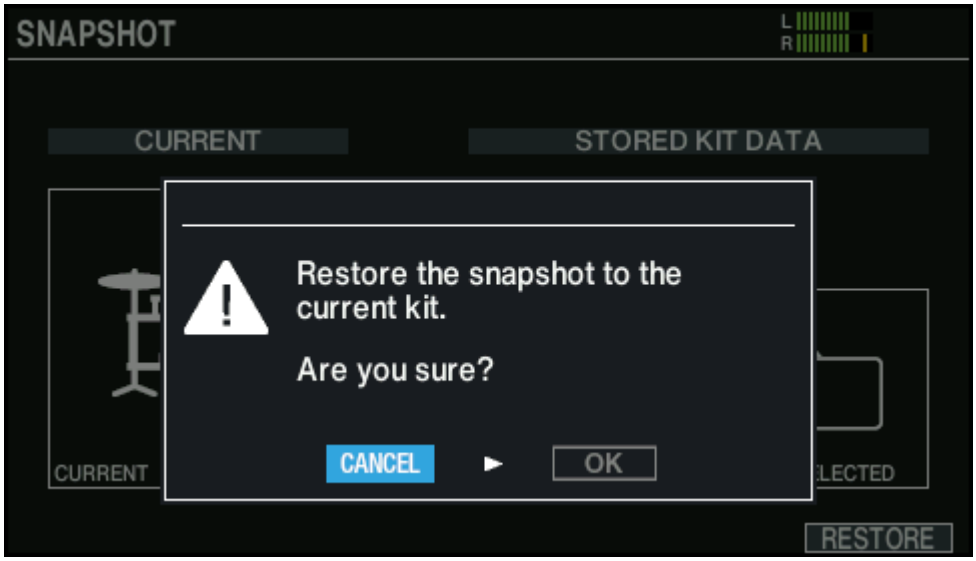
現在のドラム・キットの設定をSNAPSHOTやドラム・キット選択直後の設定に戻すとき

8 カーソル・ボタンまたはダイヤルで、戻すドラム・キットの設定を選びます。

現在のドラム・キットの設定のままにするときは、手順11に移ります。

9 ［F6］（RESTORE）ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは、「CANCEL」を選んで［ENTER］ボタンを押します。

10 「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

現在のドラム・キットの設定が、手順8で選んだドラム・キットの設定に戻ります。

11 ［KIT］ボタンを押して、DRUM KIT画面に戻ります。

バーチャル・パッドを使う

V31には、TRIGGER IN端子に接続したパッド以外に、MIDIノート・ナンバーを受信することで音色を鳴らすことができる「バーチャル・パッド」があります。

バーチャル・パッドを画面に表示させることで、バーチャル・パッドの設定をエディットすることができます。

メモ

- バーチャル・パッドは、AUX/TOM4（*1）とAUX2〜4のパッドに割り当てられています。
  *1：Trigger Input AUX/TOM4 Select（P.165）の設定が「AUX」のときはTOM4、「TOM4」のときはAUXがバーチャル・パッドになります。
- MIDIノート・ナンバーはKIT MIDIで設定することができます。
  ➡「パッドごとにMIDI送受信の設定をする（KIT MIDI）（P.113）」
- バーチャル・パッドで設定したパラメーターはキット・バックアップ・データに含まれます。V71やV51で読み込むことができます。

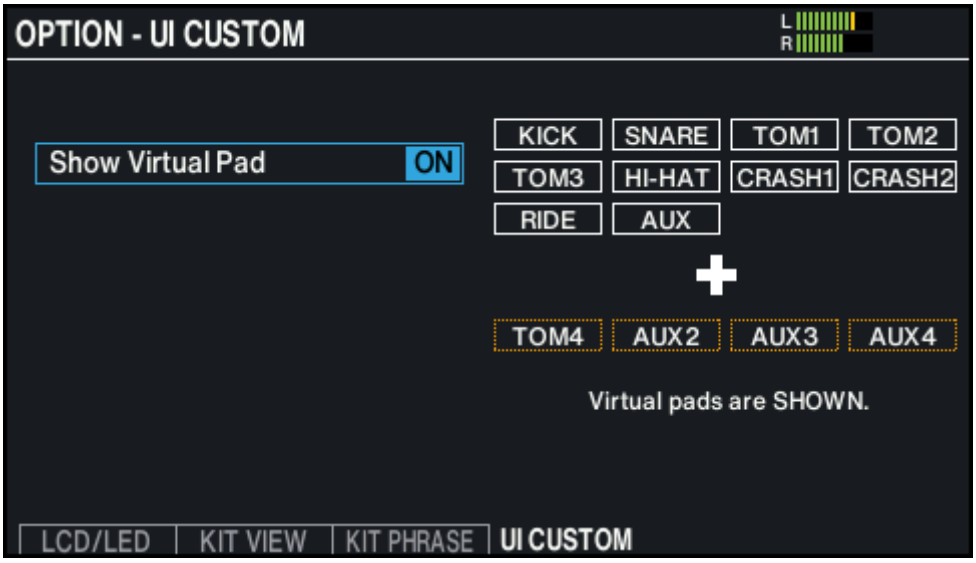
1 ［MENU］ボタンを押します。

2 カーソル・ボタンで「SYSTEM」→「OPTION」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

OPTION画面が表示されます。

3 ［F4］（UI CUSTOM）ボタンを押します。

OPTION - UI CUSTOM画面が表示されます。



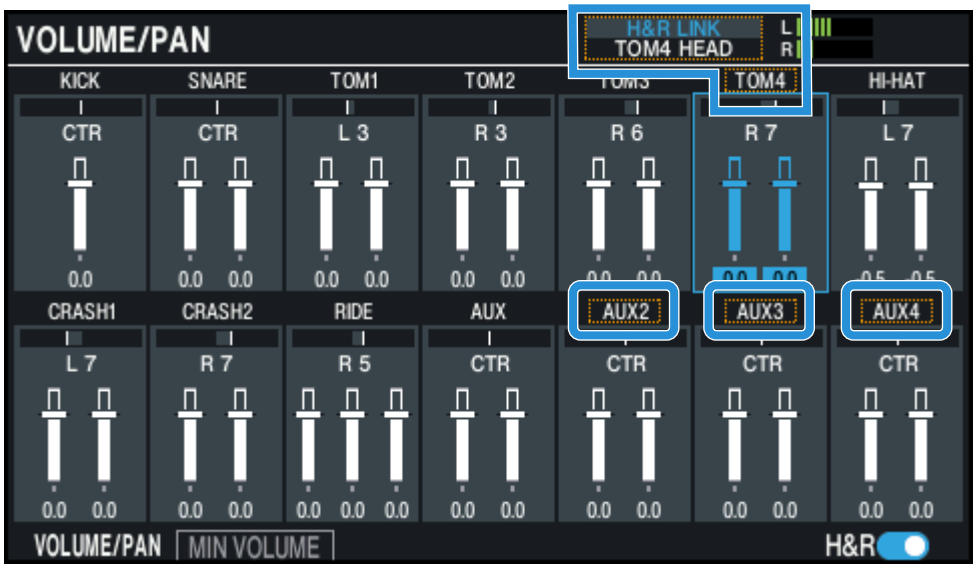
4 ダイヤルで「ON」にします。

バーチャル・パッドの画面表示がオンになります。

5 KIT EDITでバーチャル・パッドの設定をします。

例）バーチャル・パッドをオンにしたときのVOLUME/PAN画面

各種設定画面のバーチャル・パッドは、オレンジ色の枠で表示されます。

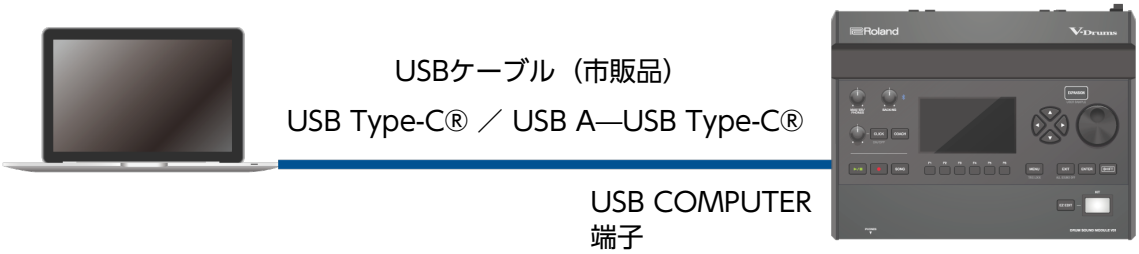

VOLUME/PAN
H&R LINK
TOM4 HEAD
L
R
KICK
SNARE
TOM1
TOM2
TOM3
TOM4
HI-HAT
CTR
CTR
L 3
R 3
R 6
R 7
L 7
0.0
0.0 0.0
0.0 0.0
0.0 0.0
CRASH1
CRASH2
RIDE
AUX
AUX2
AUX3
AUX4
L 7
R 7
R 5
CTR
CTR
CTR
CTR
0.0 0.0
0.0 0.0
0.0 0.0 0.0
0.0 0.0
0.0 0.0
0.0 0.0
0.0 0.0
VOLUME/PAN
MIN VOLUME
H&R

パソコンやスマートフォンと接続して使う

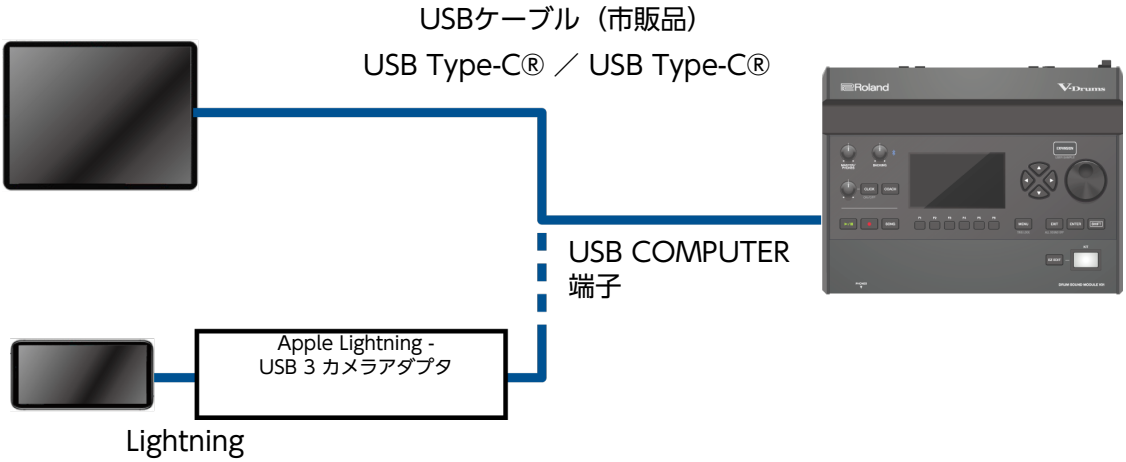
V31では、パソコンやスマートフォンと接続して以下のことができます。

- パソコン（Windows／Mac）と接続し、DAWへ30chのマルチ・トラックでオーディオ録音したり、MIDI録音したりすることができます（VENDOR）。
- iPhone／iPadと直接オーディオ／MIDI通信することができます（GENERIC）。

パソコン（Mac／Windows）と接続



iPhone／iPadと接続



※一部のLightning端子仕様のApple製品と「Lightning - USBカメラアダプタ」を利用した接続で、オーディオにノイズが発生することが確認されています。
この症状は、「Lightning - USB 3カメラアダプタ」を使用すると改善する場合があります。
詳細と最新の対応情報は、「V31サポート情報」をご確認ください。

※「Lightning - USBカメラアダプタ」と「Lightning - USB 3カメラアダプタ」の違いについては、Apple社の製品情報でご確認ください。

注意

- パソコンの機種によっては、正しく動作しないことがあります。対応OSについては、ローランドのホームページをご覧ください。
- USBケーブルは付属していません。ご購入の際には、V31をお求めになった販売店にお問い合わせください。
- USB2.0ケーブルをお使いください。
- パソコンのUSB端子は、USB2.0 Hi-Speed対応のものをお使いください。

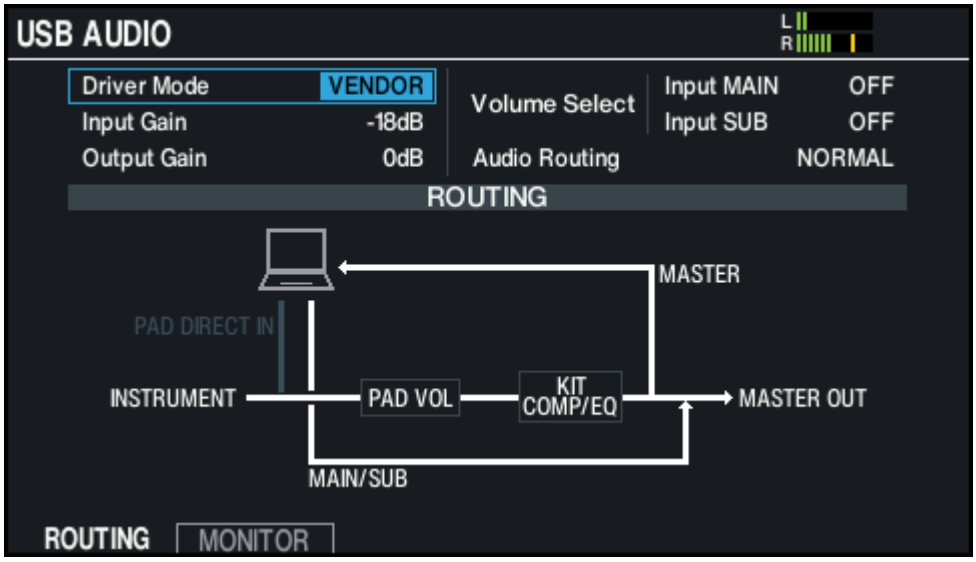
USBドライバーの設定をする

V31専用USBドライバー（VENDOR）と、OS標準のドライバー（GENERIC）を切り替えます。

1 **［MENU］ボタンを押します。**

2 カーソル・ボタンで「SYSTEM」→「USB AUDIO」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

USB AUDIO画面が表示されます。



3 Driver Modeにカーソルを合わせ、ダイヤルで値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
Driver Mode	GENERIC	OS標準のドライバーを使用します。USB MIDIとUSBオーディオ（2ch録音／再生）が使用できます。
	VENDOR	ローランドが提供しているV31専用のドライバーを使用します。USB MIDIとUSBオーディオ（30ch録音／32ch再生）が使用できます。

4 電源を入れ直します。

本体の電源を入れ直すと有効になります。

メモ

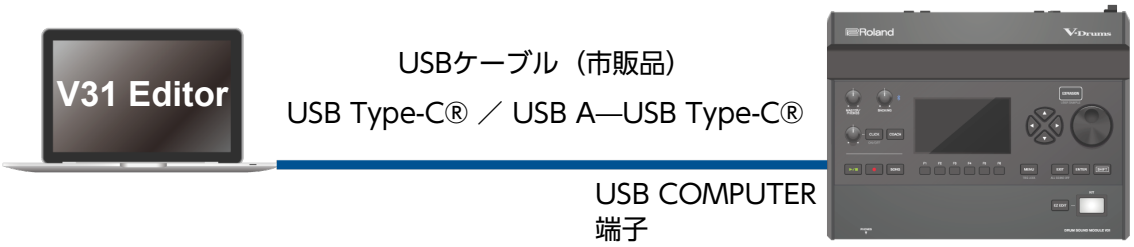
USBドライバーのダウンロードとインストール手順について詳しくは、ローランドのホームページをご覧ください。

https://www.roland.com/jp/support/

パソコンでエディター・アプリ「V31 Editor」を使う

エディター・アプリ「V31 Editor」を使うことで、パソコン（Windows／Mac）でV31のキット・パラメーターのエディット、ユーザー・サンプルのインポート、キット・イメージの取り込みなどができます。パソコンの大きな画面で音色をエディットすることができるため便利です。

詳しくは、『V31 Editor取扱説明書』（Web）をご覧ください。



USBオーディオの出力を設定する

USB COMPUTER端子から出力される、USBオーディオの出力先を設定します。

USBオーディオの出力音を、30chのマルチ・トラックでパソコン上のDAWなどに録音することができます。

※USBオーディオの出力では、LOW CUTの効果はかかりません。パラメーターについて詳しくは、『データ・リスト』（Web）をご覧ください。

メモ

DAW側の設定については、お使いのDAWの取扱説明書をご覧ください。

USBオーディオの出力先を設定する

USBオーディオの出力先の設定は合計30chから選ぶことができます。

- MASTER OUT端子
- 各パッドからの直接出力
- KICK、SNARE、TOM1、TOM2、TOM3、HI-HAT、CRASH1、CRASH2、RIDE、AUX

メモ

出力先の設定については、「音の出力先を設定する（OUTPUT）（P.220）」をご覧ください。

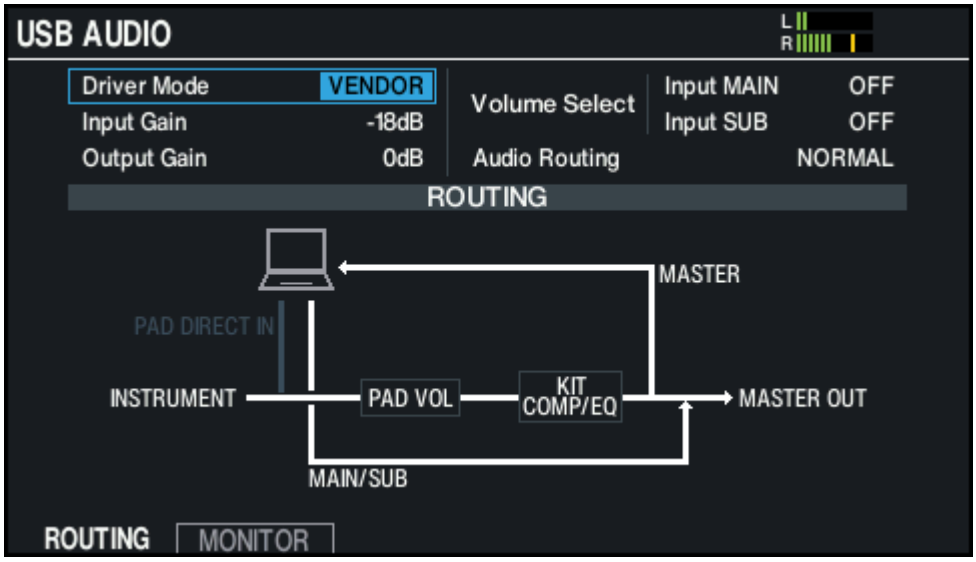
USBオーディオの出力先の設定表

Ch1-2	MASTER
Ch3-4	KICK
Ch5-6	SNARE
Ch7-8	TOM1
Ch9-10	TOM2
Ch11-12	TOM3
Ch13-14	TOM4
Ch15-16	HI-HAT
Ch17-18	CRASH1
Ch19-20	CRASH2
Ch21-22	RIDE
Ch23-24	AUX1
Ch25-26	AUX2
Ch27-28	AUX3
Ch29-30	AUX4

Windowsをお使いの場合は、ASIOのみ対応しています。

USBオーディオの出力レベルを調節する

1 **USB AUDIO画面（P.134）を表示させます。**



2 **Output Gainにカーソルを合わせ、ダイヤルで値を変更します。**

パラメーター	設定値	説明
Output Gain	-24～+24dB	出力レベルの調節 USB COMPUTER端子から出力される、すべてのUSBオーディオの出力に有効です。

USBオーディオの入力を設定する

USB COMPUTER端子に入力される、USBオーディオの入力を設定します。

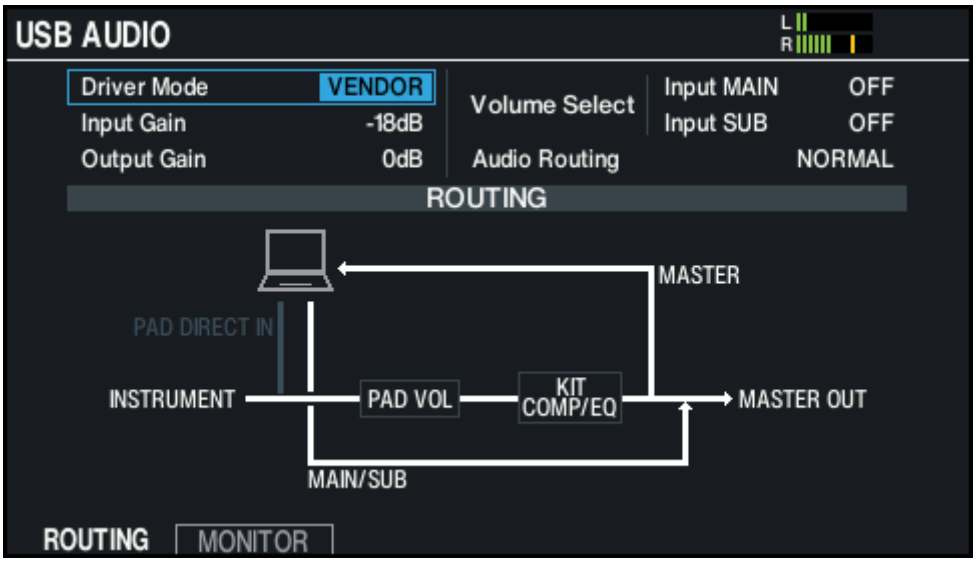
パソコンで再生したオーディオを、V31で鳴らすことができます。

USBオーディオの入力先の設定表

Ch1-2	MAIN
Ch3-4	SUB
Ch5-6	KICK
Ch7-8	SNARE
Ch9-10	TOM1
Ch11-12	TOM2
Ch13-14	TOM3
Ch15-16	TOM4
Ch17-18	HI-HAT
Ch19-20	CRASH1
Ch21-22	CRASH2
Ch23-24	RIDE
Ch25-26	AUX1

Ch27-28	AUX2
Ch29-30	AUX3
Ch31-32	AUX4

1 USB AUDIO画面（P.134）を表示させます。

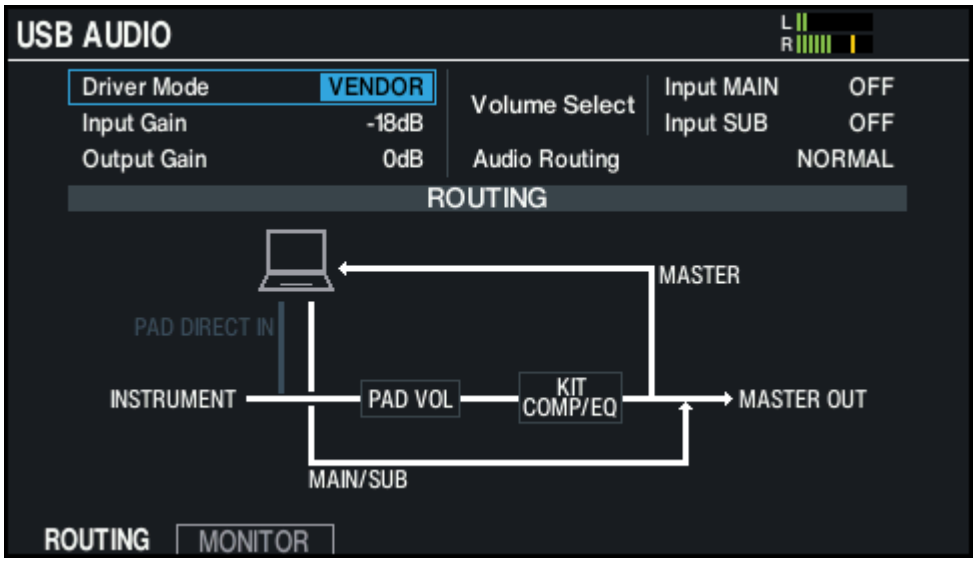


2 カーソル・ボタンでパラメーターを選び、ダイヤルで値を変更します。

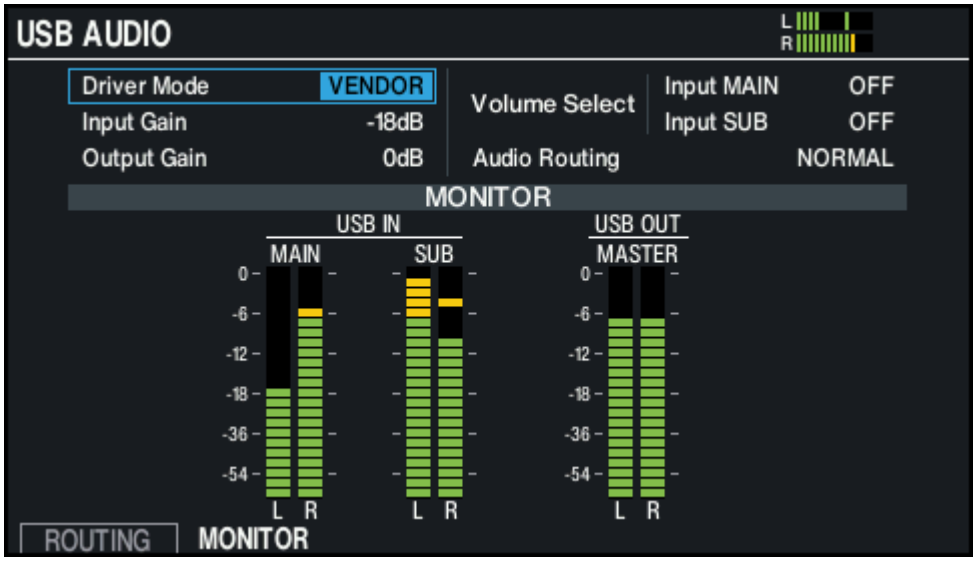
パラメーター	設定値	説明
Input Gain	-36〜+12dB	入力レベルの調節

パラメーター	設定値	説明
Volume Select Input MAIN、Input SUB	USBオーディオ（Input MAIN、SUB）の入力音量を調節するつまみを設定します。	
	OFF	つまみで音量を調節しません。
	BACKING	［BACKING］つまみで音量を調節します。
	CLICK	［CLICK］つまみで音量を調節します。

［F1］（ROUTING）：USBオーディオのルーティングを確認できます。



［F2］（MONITOR）：USB AUDIOのレベル・メーターを表示します。



メモ

USBオーディオの入力音のうちINPUT MAIN、INPUT SUBの出力先を設定することができます。

➡「音の出力先を設定する（OUTPUT）（P.220）」

USBオーディオの経路を設定する（ROUTING）

USBオーディオの入出力の経路を設定します。

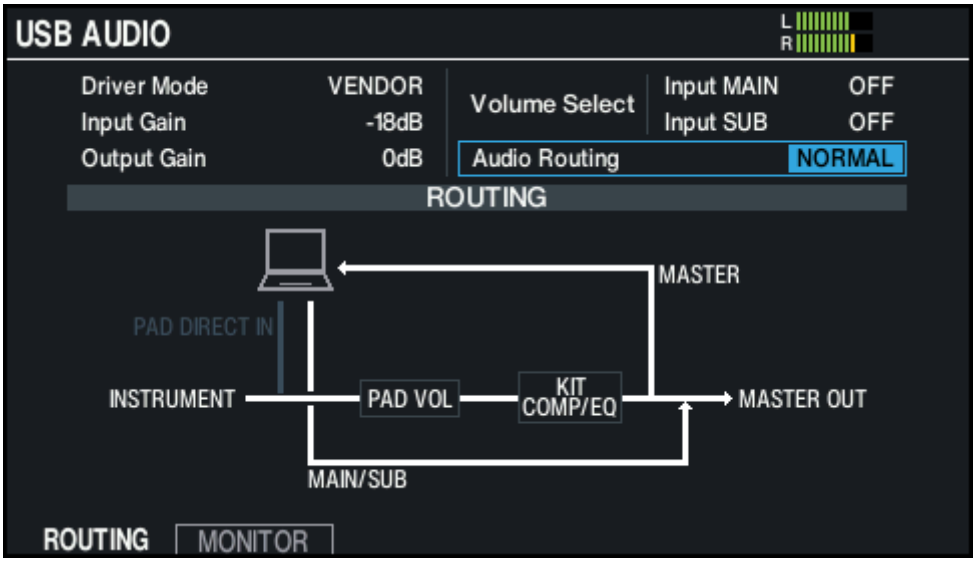
パソコンからV31のパッドの入力に直接音を入れたり、V31からパソコンに送る音を制限したりできます。

通常は「NORMAL」を選びます。

メモ

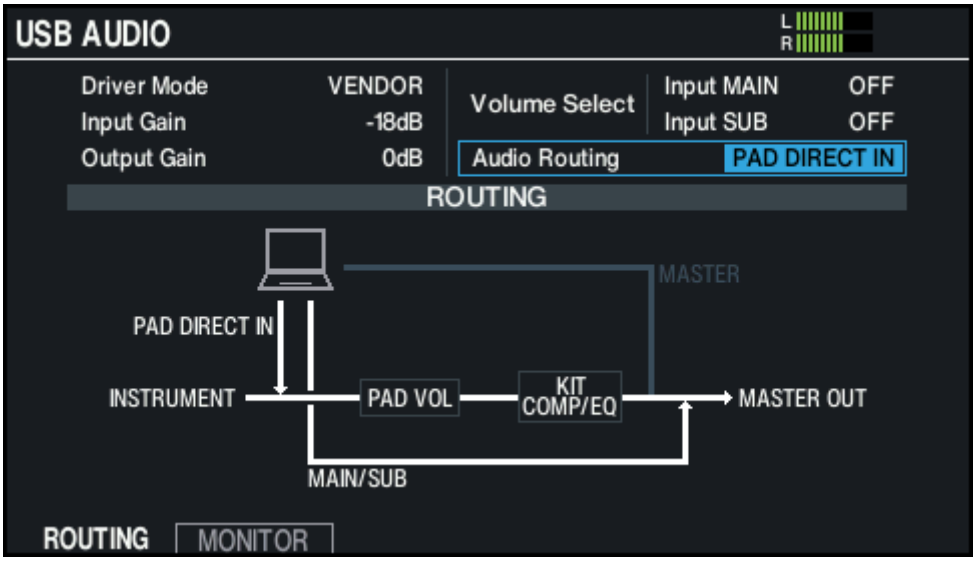
Driver ModeがVENDORのときに有効になります。

NORMAL



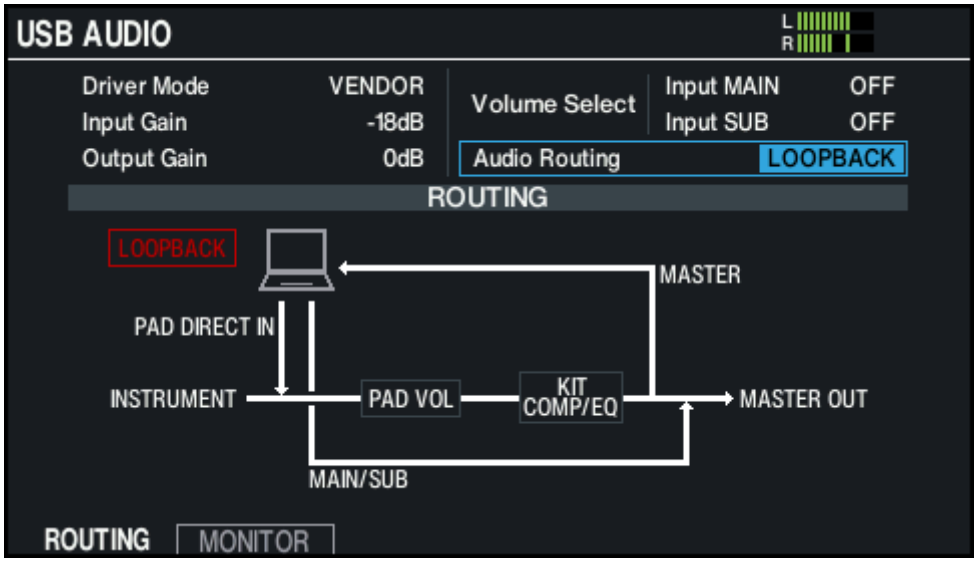
V31 → パソコン：MASTER OUT、各パッドのダイレクト出力
パソコン → V31：MAIN、SUB

PAD DIRECT IN



V31 → パソコン：V31からのUSBオーディオの出力はすべてミュート（消音）されます。
パソコン → V31：MAIN、SUB、各パッドへの直接の入力

LOOPBACK



V31 → パソコン：MASTER OUT、各パッドのダイレクト出力

パソコン → V31：MAIN、SUB、各パッドへの直接の入力

※「LOOPBACK」に設定すると、ダイアログが表示されます。

注意

「LOOPBACK」に設定すると、パソコンや接続先のDAW、V31それぞれの設定によっては、USBオーディオの入力と出力が短絡され、意図せず大きな音が出ることがあります（ループ・バック）ので、十分ご注意ください。

オーディオ・ルーティング入出力対応表

	Audio Routing		
	NORMAL	PAD DIRECT IN	LOOPBACK
V31→パソコン			
MASTER OUT	○	ミュート	○
各パッドのダイレクト出力	○	ミュート	○
パソコン→V31			
INPUT MAIN/SUB	○	○	○
PAD DIRECT IN	ミュート	○	○

設定をコピーする（COPY）

V31では、各種設定を本体やSDカードにコピーすることができます。また、コピー元とコピー先の設定を入れ替えることもできます。

注意

コピーを実行すると、コピーする先の内容は上書きされます。
設定を残しておきたいときは、SDカードにバックアップしてください。

➡「データをバックアップする（BACKUP）（P.203）」

1 **［MENU］ボタンを押します。**

2 カーソル・ボタンで「COPY」を選びます。

COPY画面が表示されます。

3 カーソル・ボタンまたはダイヤルで設定したいメニューを選び、［ENTER］ボタンを押します。

メニュー	説明
KIT	ドラム・キットをコピーします。 ➡「ドラム・キットを選ぶ（P.27）」
PAD INST	パッドのインストゥルメントをコピーします。 ➡「インストゥルメントをエディットする（INSTRUMENT）（P.75）」
INST SET	複数のインストゥルメントをセットでコピーします。
VOL/PAN	VOLUME/PANの設定をコピーします。 ➡「パッドの音量やパンを設定する（PAD VOL）（P.88）」
AMBIENCE	アンビエンスの設定をコピーします。 ➡「演奏する場所の残響を再現する（AMBIENCE）（P.91）」
BUS FX	BUS FXの設定をコピーします。 ➡「エフェクトをかける（BUS FX）（P.96）」
OUTPUT	アウトプットの設定をコピーします。 ➡「音の出力先を設定する（OUTPUT）（P.220）」
SET LIST	セット・リストをコピーします。 ➡「ドラム・キットを順番に呼び出す（SET LIST）（P.149）」
TRIG BANK	トリガー・バンクの設定をコピーします。 ➡「トリガーの設定（P.154）」
TRIG PRM	トリガー・パラメーターの設定をコピーします。 ➡「パッドの感度を個別に調整する（P.161）」

4 選んだメニューに応じて、設定をコピーします。

例1）ドラム・キットをコピーする（KIT）

1 **［MENU］ボタンを押します。**

2 **カーソル・ボタンで「COPY」→「KIT」を選び、［ENTER］ボタンを押します。**

COPY KIT画面が表示されます。

3 **［F1］（USER）～［F3］（SD CARD）ボタンを押して、機能を選びます。**

ボタン	説明
［F1］（USER）ボタン	ユーザー・メモリーからコピーします。コピー元がユーザーの場合のみ、コピー元とコピー先を入れ替える（エクスチェンジ）ことができます。
［F2］（PRESET）ボタン	プリセット・メモリーのドラム・キットをコピーします。工場出荷時のドラム・キットの設定に戻したいときに選びます。 ※工場出荷時のドラム・キットに割り当てられているユーザー・サンプルは、コピーできません。
［F3］（SD CARD）ボタン	SDカードに保存されたバックアップ・データからドラム・キットをコピーします。

4 カーソル・ボタンでパラメーターを選び、ダイヤルでコピーの設定をします。

USER

PRESET

SD CARD

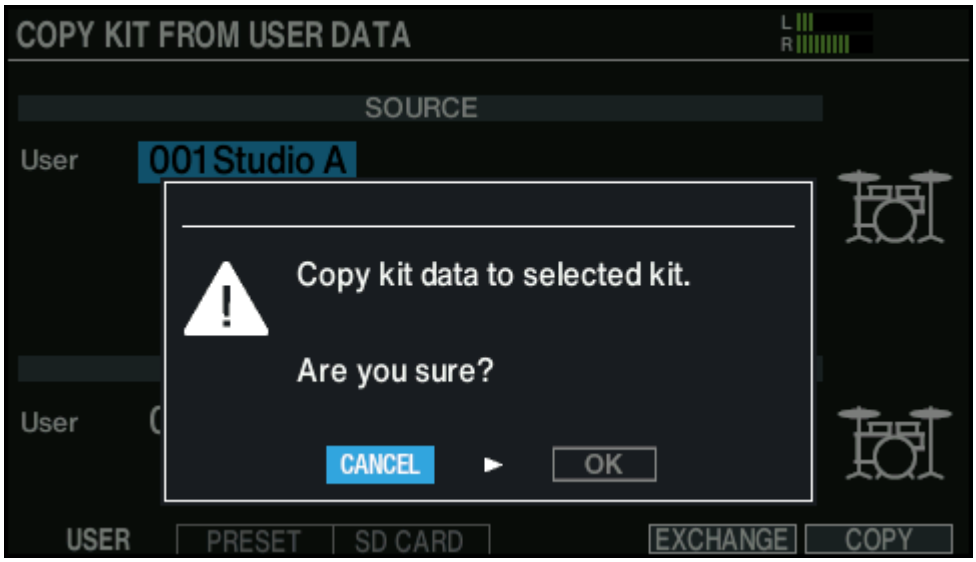
メモ

ユーザー・サンプルが含まれていないバックアップ・データをコピーする場合、「With User Samples」にチェックを入れることはできません。

5 ［F6］（COPY）ボタンを押します。

［F5］（EXCHANGE）ボタンを押すと、ユーザー・メモリーを入れ替えることができます（USERのみ）。

確認画面が表示されます。



中止するときは、「CANCEL」を選んで［ENTER］ボタンを押します。

6 「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

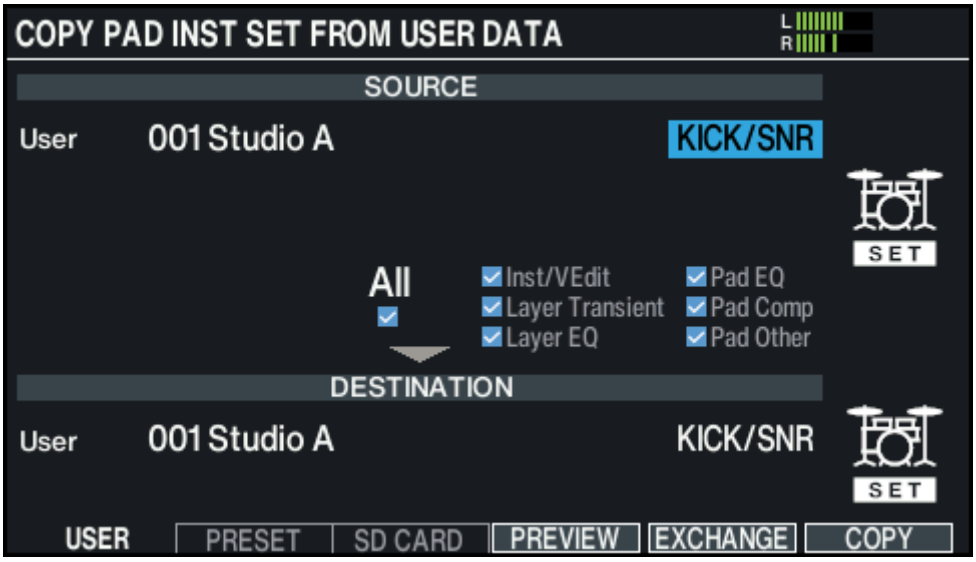
ドラム・キットがコピーされます。

例2）複数のインストゥルメントをセットでコピーする（INST SET）

1 ［MENU］ボタンを押します。

2 カーソル・ボタンで「COPY」→「INST SET」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

COPY PAD INST SET画面が表示されます。

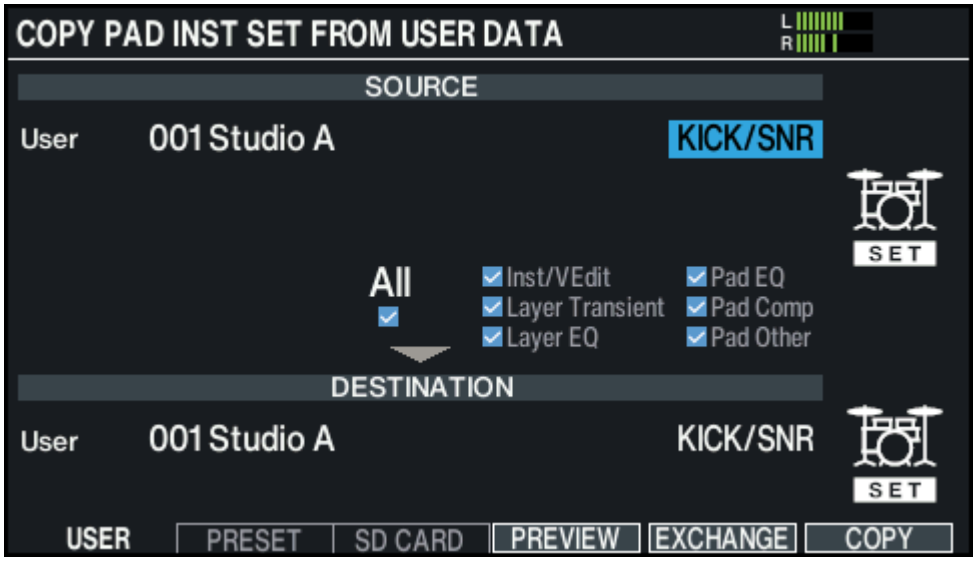


3 ［F1］（USER）～［F3］（SD CARD）ボタンを押して、機能を選びます。

ボタン	説明
［F1］（USER）ボタン	ユーザー・メモリーからコピーします。コピー元がユーザーの場合のみ、コピー元とコピー先を入れ替える（エクスチェンジ）ことができます。
［F2］（PRESET）ボタン	プリセット・メモリーのインストゥルメントをコピーします。工場出荷時のドラム・キットの設定に戻したいときに選びます。 ※工場出荷時のドラム・キットに割り当てられているユーザー・サンプルは、コピーできません。
［F3］（SD CARD）ボタン	SDカードに保存されたバックアップ・データからインストゥルメントをコピーします。

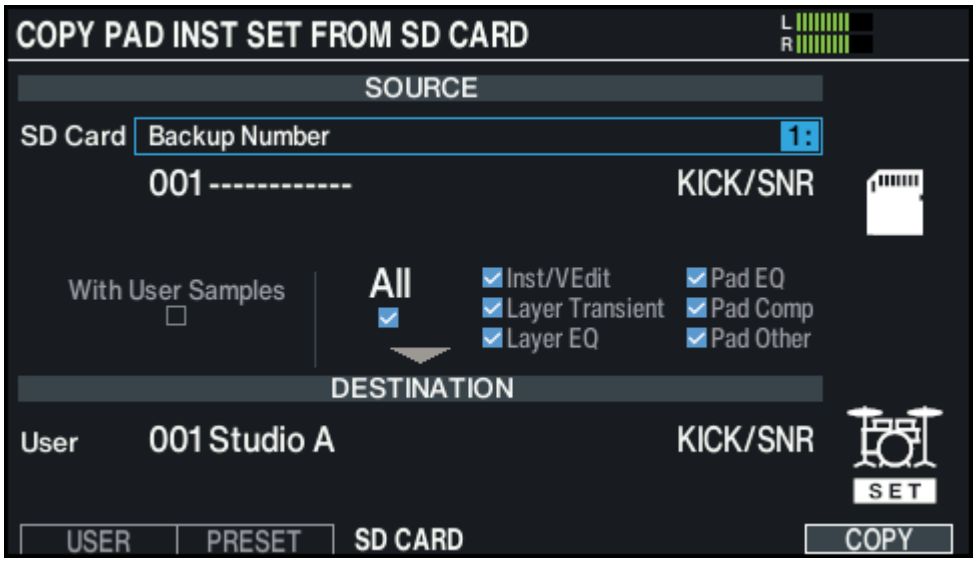
4 カーソル・ボタンでパラメーターを選び、ダイヤルでコピーの設定をします。

USER



PRESET

SD CARD



メモ

ユーザー・サンプルが含まれていないバックアップ・データをコピーする場合、「With User Samples」にチェックを入れることはできません。

コピーするインストゥルメントのセット

設定値	説明
KICK/SNR	KICKとSNAREをコピーします。
ALL TOMS	TOM1～3をコピーします。
CYM SET	HI-HAT、CRASH1、2、RIDEをコピーします。
ALL AUX	AUXをコピーします。

コピー内容（Copy Target）

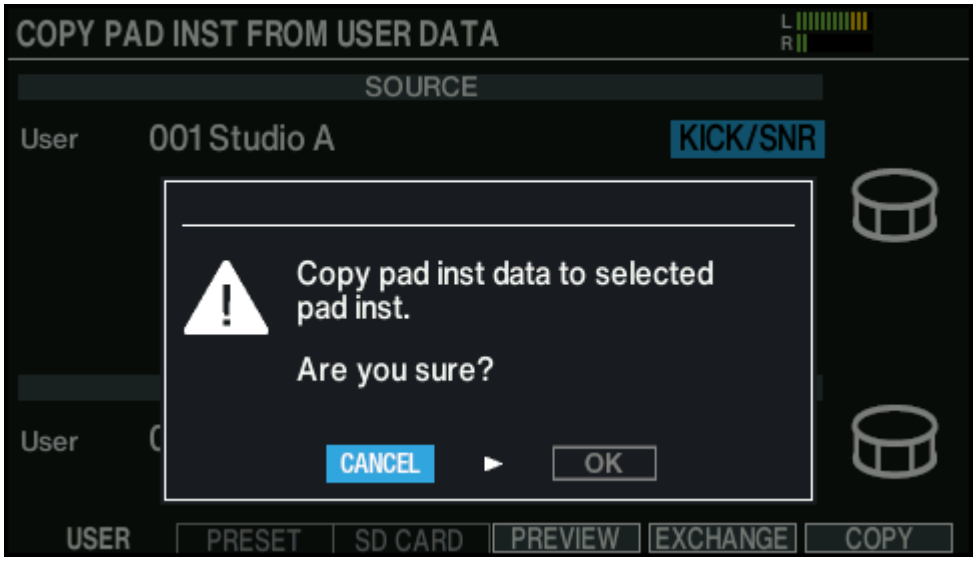
設定値	説明
Inst/VEdit	インストゥルメントの設定（インストゥルメント、V-EDITなど）、ボリューム、アンビエンスのセンドなどをコピーします。
Layer Transient	インストゥルメントのアタックやリリースの設定をコピーします。 ➡「アタックやリリースを調節する（TRANSIENT）（P.81）」
Layer EQ	インストゥルメントのイコライザーの設定をコピーします。 ➡「インストゥルメントの音質を調節する（EQ）（P.82）」
Pad EQ	パッド・イコライザーの設定をコピーします。 ➡「パッドの音質を調節する（PAD EQ）（P.90）」
Pad Comp	パッド・コンプレッサーの設定をコピーします。 ➡「パッドの音量変化を調節する（PAD COMP）（P.91）」
Pad Other	パッドの設定のうち、BUS FXのセンド・レベルやルーティングの設定をコピーします。 ➡「エフェクトをかける（BUS FX）（P.96）」

メモ

- すべての設定をコピーするときは、「All」にチェックを入れます。
- ［F4］（PREVIEW）ボタンを押すと、Previewウィンドウが表示されます。Previewウィンドウが表示されている状態で演奏すると、コピー後の設定で演奏音を確認することができます（USERのみ）。「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押すと、そのままコピーが実行されます。
- ［F5］（EXCHANGE）ボタンを押すと、ユーザー・メモリーを入れ替えることができます（USERのみ）。

5 ［F6］（COPY）ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは、「CANCEL」を選んで［ENTER］ボタンを押します。

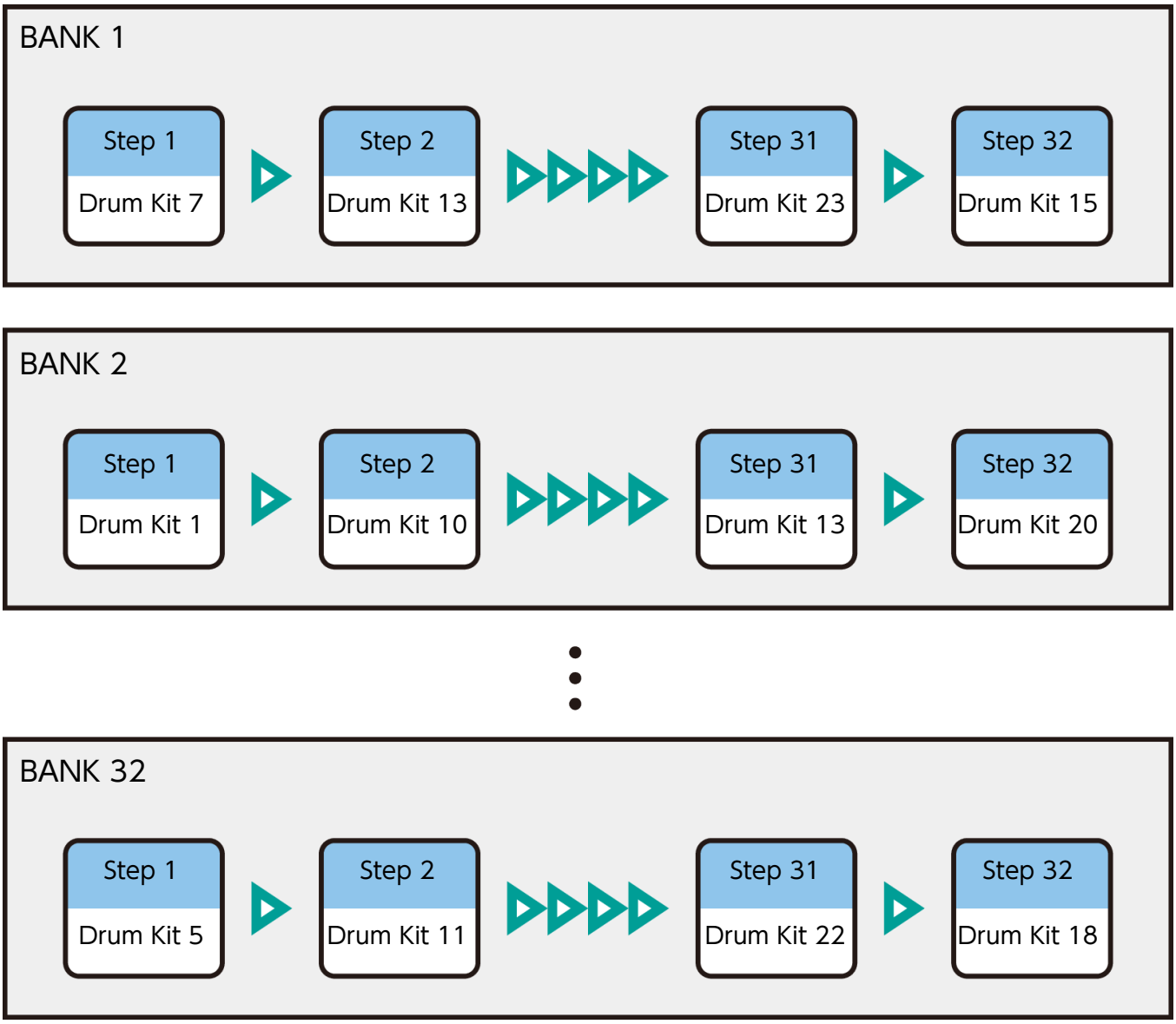
6 「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

インストゥルメントがコピーされます。

ドラム・キットを順番に呼び出す（SET LIST）

ドラム・キットを呼び出す順序を、1から32番目（32ステップ）まで設定できます。これを「セット・リスト」といい、セット・リストは32バンク作成できます。

ライブで使う順番に設定しておけば、次に使うドラム・キットをすぐに呼び出すことができます。



セット・リストを作る

1 **KIT画面（P.27）で、［F5］（TOOLS）ボタンを押します。**

2 カーソル・ボタンまたはダイヤルで「SET LIST」を選び、［F6］（SELECT）ボタンを押します。

SET LIST画面が表示され、セット・リストがオンになります。

ボタン	説明
［F2］（<BANK）ボタン	セット・リストのバンクを選びます。
［F3］（BANK>）ボタン	
［F5］（SETUP）ボタン	セット・リストの作成／変更や名前を付けます。

3 ［F5］（SETUP）ボタンを押します。

SET LIST SETUP画面が表示されます。

ボタン	説明
［F2］（NAME）ボタン	カーソル位置のセット・リストのバンク名を変更します。 ➡「ドラム・キットの名前を変更する（KIT NAME）（P.106）」
［F3］（STEP EDIT）ボタン	カーソル位置のセット・リストのバンクのステップをエディットします。

セット・リストのステップをエディットする

4 **[F3] （STEP EDIT）ボタンを押します。**

5 **カーソル・ボタンで各ステップのドラム・キットを選び、ダイヤルで設定を変更します。**

ボタン	説明
[F5] （INSERT）ボタン	カーソル位置に同じドラム・キットを挿入し、以降のステップを1つ後ろにずらします。
[F6] （DELETE）ボタン	カーソル位置のドラム・キットを削除し、以降のステップを1つ前にずらします。

メモ

セット・リストが空の場合は、「END」にカーソルを合わせ、ダイヤルでドラム・キットを設定します。

6 **[KIT] ボタンを押して、SET LIST画面に戻ります。**

セット・リストを使う

セット・リストを選ぶ

1 **KIT画面（P.27）で、[F5] （TOOLS）ボタンを押します。**

2 **カーソル・ボタンまたはダイヤルで「SET LIST」を選び、[F6] （SELECT）ボタンを押します。**

SET LIST画面が表示され、セット・リストがオンになります。

3 **［F2］（<BANK）ボタンまたは［F3］（BANK>）ボタンを押して、使用するセット・リストを選びます。**

ドラム・キットを切り替える

1 **ダイヤルを回して、設定したステップの順にドラム・キットを呼び出します。**

2 **演奏が終わったら、［KIT］ボタンまたは［EXIT］ボタンを押します。**

セット・リストがオフになります。

メモ

- 各ドラム・キットの音量にばらつきがある場合は、Kit Volume（ドラム・キット全体の音量）を調節してください。
  ➡「ドラム・キットの音量を設定する（KIT VOL）（P.94）」

トリガーの設定

パッドからの信号をV31が確実に処理できるように、トリガーを設定します。

パッドの種類を設定する

トリガー・バンクで使用するパッドの種類（トリガー・タイプ）を、トリガー・インプットごとに指定します。

トリガー・タイプ

トリガー・タイプは、さまざまなトリガーのパラメーターを、各パッドに適した値に調整し、ひとまとめにしたものです。各トリガー・インプットで使っているパッドに最適な設定をするために、接続しているパッドの型番（タイプ）を指定します。

トリガー・バンク

トリガー・バンクは10個のトリガーの設定を1つにまとめたものです。

1 **［MENU］ボタンを押します。**

2 **カーソル・ボタンで［SYSTEM］→［TRIGGER］を選び、［ENTER］ボタンを押します。**

3 **［F1］（BANK）ボタンを押します。**

TRIGGER - BANK画面が表示されます。

4 **ダイヤルでトリガー・バンクを設定します。**

5 **設定するパッドを選びます。**

➡「設定するパッドを選ぶ（P.72）」

6 **ダイヤルでトリガー・タイプを設定します。**

※ デジタル接続対応のパッドが割り当てられているトリガー・インプットは、トリガー・タイプを変更することはできません。

メモ

- ［SHIFT］ボタンを押しながら［F6］（DEFAULT）ボタンを押すと、選んでいるトリガー・バンクを工場出荷時の設定に戻すことができます。
- トリガー・タイプを設定すると、一部のパラメーター（クロストーク・キャンセルなど）を除いたトリガー・パラメーターが、最適値に設定されます。これらは参考値ですので、パッドの取り付けかたや使用状況に合わせて微調整してください。
  詳しくは『データ・リスト』（Web）をご覧ください。
- Global Sensでは、すべてのパッドの感度をまとめて調整することができます。弱打から強打までのダイナミクスをより重視したい場合は「LOW」に、軽い力で演奏したい場合は「HIGH」に設定します。この設定はトリガー・バンクごとに有効です。

デジタル接続対応パッド（別売）の設定をする

DIGITAL TRIGGER IN端子に、別売りのデジタル接続対応パッドを初めて接続すると、以下の画面が表示されます。

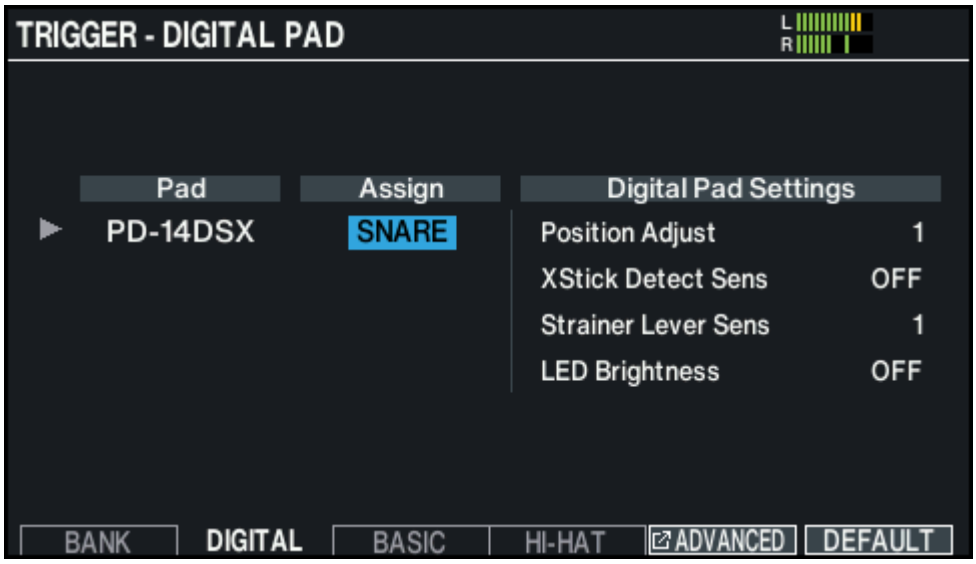
画面に従って、接続したパッドをどのトリガー・インプットに割り当てるか設定します。

※ TRIGGER INPUT端子に接続したパッドと同じトリガー・インプットに割り当てると、TRIGGER INPUT端子に接続したパッドの音は出力されません。

※ ファクトリー・リセットを実行すると、デジタル接続対応パッドの接続履歴や設定は初期化されます。

1 「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

TRIGGER - DIGITAL PAD画面が表示されます。



2 ダイヤルでアサインを設定します。

パッドを叩いて選ぶこともできます。
どのトリガー・インプットにもアサインしない場合は、「N/A」を選びます。
パッドを選ぶと、選んだパッドのボタンまたはインジケーターが点滅します。
設定例：

Pad（パッド）	Assign（アサイン）
PD-14DSX、PD-140DS	SNARE
CY-18DR	RIDE
VH-14D	HI-HAT

3 ［KIT］ボタンを押して、KIT画面に戻ります。

メモ

設定後に割り当て先（アサイン）を変更する場合は、TRIGGER - DIGITAL PAD画面で設定します（TRIGGER - BANK画面で［F2］（DIGITAL）ボタンを押す）。

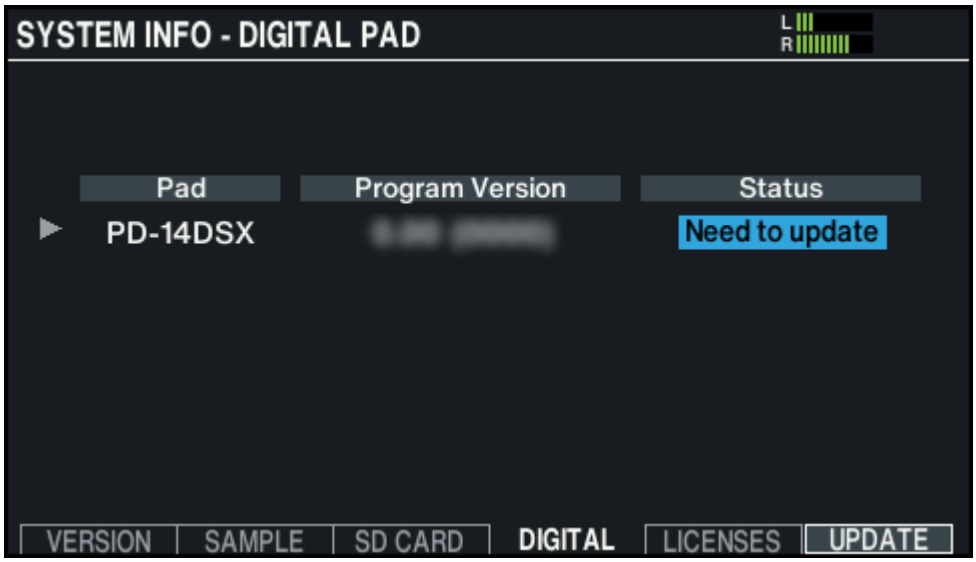
バージョンの古いデジタル・パッドを接続すると、以下の画面が表示されます。パッドをアップデートしてください

以下の画面が表示されたら、パッドをアップデートしないとV31で正常に使用できない場合があります。以下の手順に従いパッドをアップデートしてください。

※パソコンとパッドを接続してアップデートすることもできます。詳しくは、各パッドのサポート・ページをご覧ください。

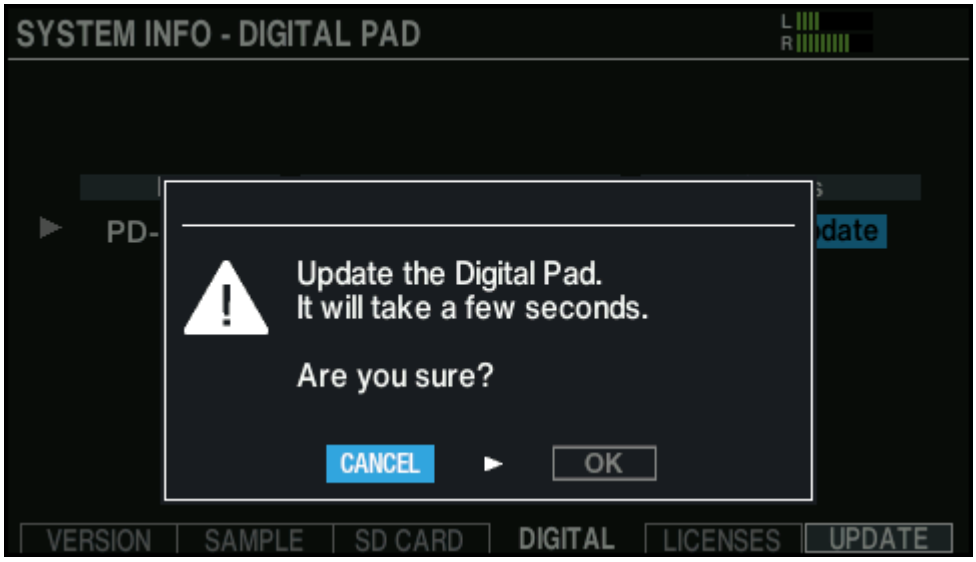
1 「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

SYSTEM INFO - DIGITAL PAD画面が表示されます。



2 Need to updateにカーソルを合わせ、［F6］（UPDATE）ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは、「CANCEL」を選んで［ENTER］ボタンを押します。

3 「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

パッドのアップデートが始まります。

「Complete!」と表示され、Statusが「OK」になったらアップデート完了です。

メモ

- アップデートには数分かかることがあります。
- 画面に「Processing...」と表示されている間は、絶対にデジタル・パッドの接続をはずしたり電源を切ったりしないでください。

- アップデート中にデジタル・パッドを抜いたり、V31の電源が落ちたりしてアップデートが失敗すると、V31 がデジタル・パッドを認識できなくなる場合があります。対処方法について、詳しくは「V31がデジタル・パッドを認識できなくなったときは（P.158）」をご覧ください。

4 **［KIT］ボタンを押して、KIT画面に戻ります。**

V31がデジタル・パッドを認識できなくなったときは

アップデート中にデジタル・パッドを抜いたり、V31の電源が落ちたりしてアップデートが失敗すると、V31がデジタル・パッドを認識できなくなる場合があります。

以下の手順でデジタル・パッドをアップデートし直すことができます。

1 **［MENU］ボタンを押します。**

2 **カーソル・ボタンで「SYSTEM」→「INFO」を選び、［ENTER］ボタンを押します。**

3 **［F4］（DIGITAL）ボタンを押します。**

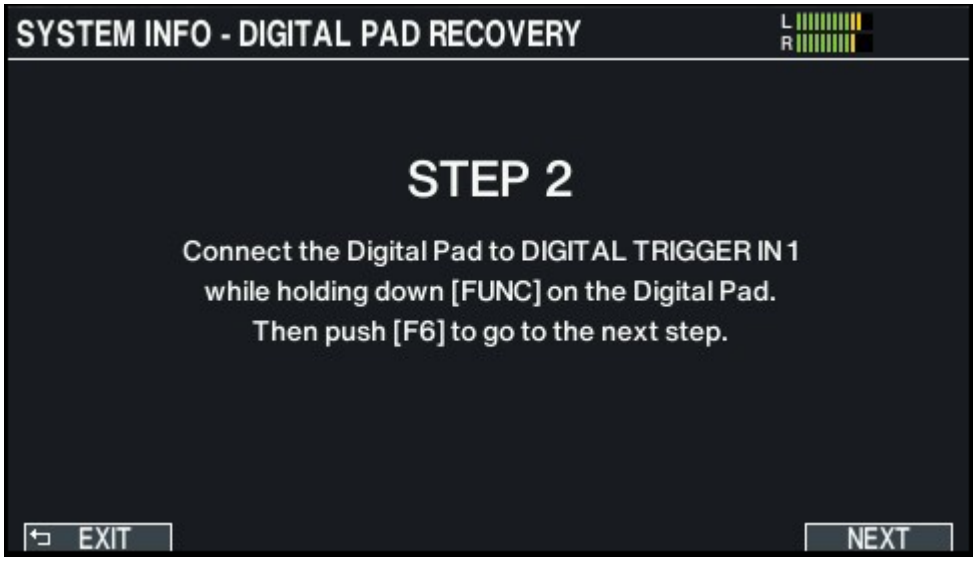
SYSTEM INFO - DIGITAL PAD画面が表示されます。

4 ［SHIFT］ボタンを押しながら［F6］（RECOVER）ボタンを押します。

DIGITAL PAD RECOVERY画面が表示されます。

5 DIGITAL TRIGGER IN端子に接続されているデジタル・パッドをはずします。

6 ［F6］（NEXT）ボタンを押します。

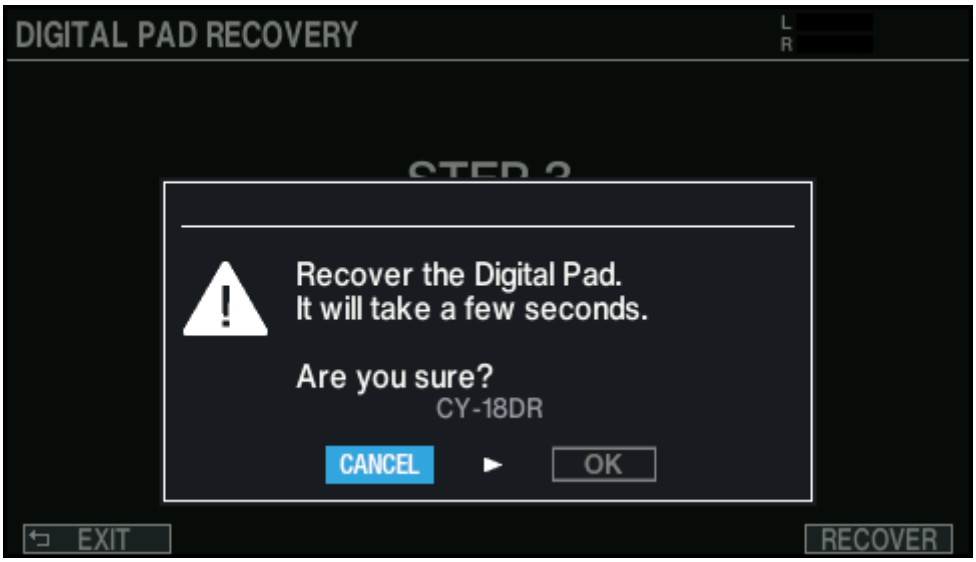


7 認識されなくなったデジタル・パッドの［FUNC］ボタンを押しながらデジタル・パッドをV31のDIGITAL TRIGGER IN端子に接続します。

8 ［F6］（NEXT）ボタンを押します。

9 認識されなくなったデジタル・パッドを選び、［F6］（RECOVER）ボタンを押します。

確認画面が表示されます。

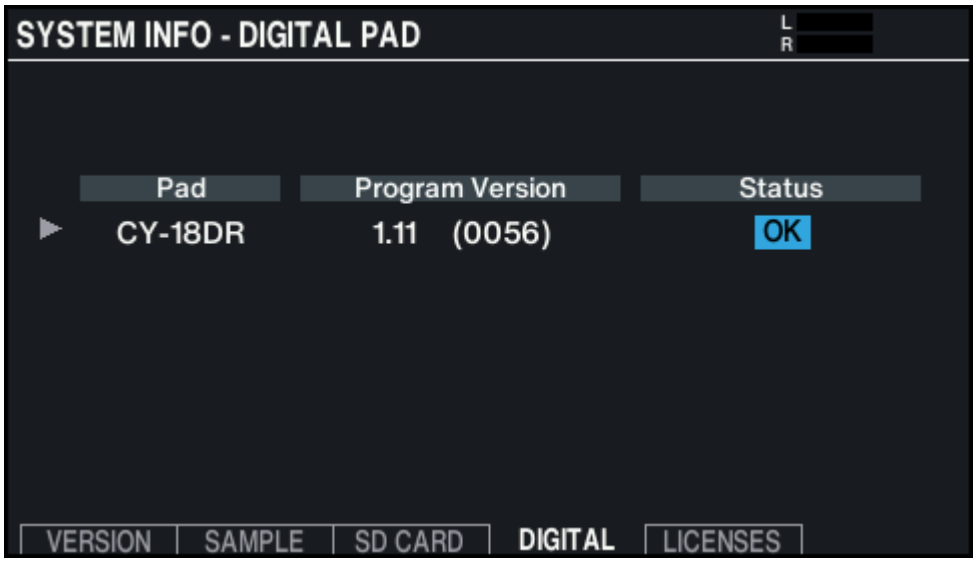


中止するときは、「CANCEL」を選んで［ENTER］ボタンを押します。

10 「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

デジタル・パッドのアップデートが始まります。

「Complete!」と表示され、Statusが「OK」になったらアップデート完了です。



※アップデートには数分かかることがあります。

※画面に「Processing...」と表示されている間は、絶対にデジタル・パッドの接続をはずしたり電源を切ったりしないでください。

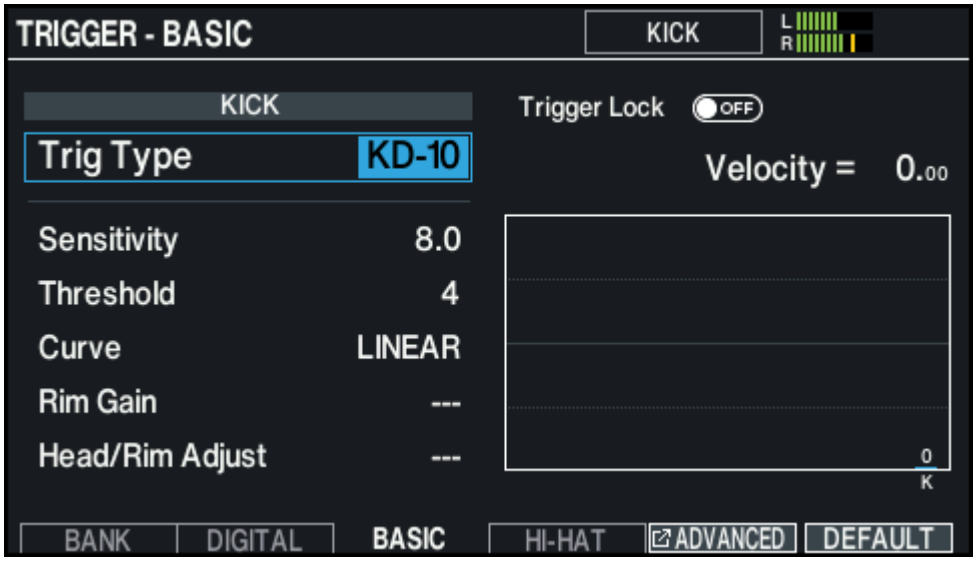
パッドの感度を個別に調整する

次の設定は、トリガー・タイプを設定すると自動的に各パッドに適した値に変更されるため、通常設定する必要はありません。

より細かい設定をするときや、アコースティック・ドラム・トリガーを使うときに調節します。

1 TRIGGER - BANK画面（P.154）で、［F3］（BASIC）ボタンを押します。

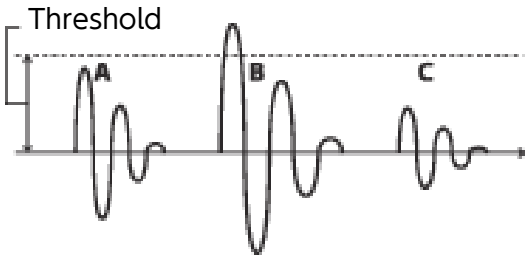
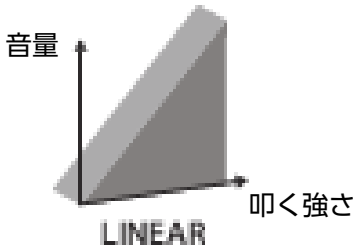
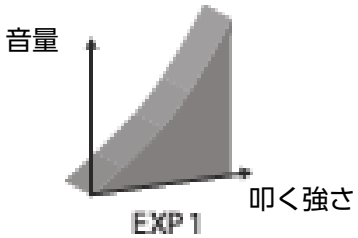
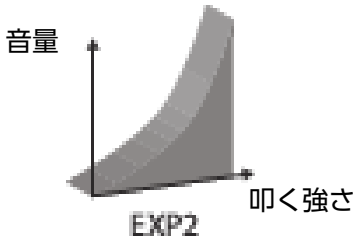
TRIGGER - BASIC画面が表示されます。

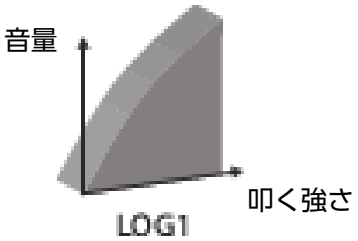
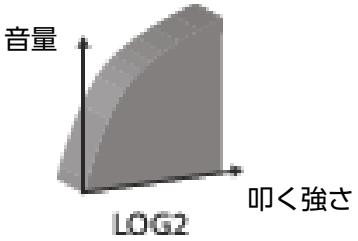
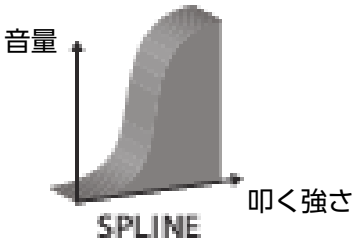
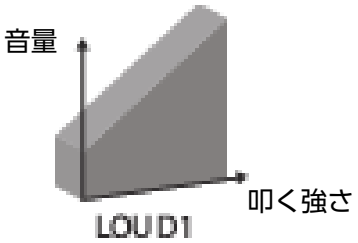
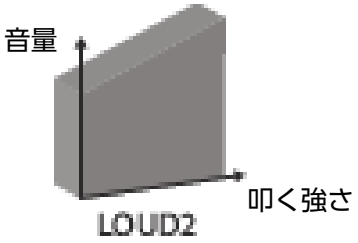


2 設定するパッドを選びます。

➡「設定するパッドを選ぶ（P.72）」

カーソル・ボタンでパラメーターを選び、ダイヤルで値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
Sensitivity	1.0〜32.0	パッドの感度を調節し、叩く強さと音量のバランスを調節します。 値を大きくすると感度が高くなり、パッドを弱く叩いても大きな音量で鳴ります。値を小さくすると感度が低くなり、パッドを強く叩いても小さな音量で鳴ります。
Threshold	0〜31	パッドの最低感度を調節します。 ある一定以上の強さで叩いたときだけトリガー信号を読み込むように設定します。これにより、パッドが周囲の振動を拾うのを防ぐことができます。次の図で、Bの信号は鳴りますがAとCは鳴りません。 パッドを叩きながらスレッショルドの値を徐々に上げていきます。パッドを弱めに叩いて、音が欠けるようであれば少し値を下げます。これを繰り返してちょうどよい設定にします。 
Curve	パッドの叩く強さに対する音量変化を設定します。	
	LINEAR	標準的な設定です。叩く強さと音量の変化が最も自然になります。 
	EXP1、EXP2	「LINEAR」に比べ、強めに叩くときの音量変化が大きくなります。  
	LOG1、LOG2	「LINEAR」に比べ、弱めに叩くときの音量変化が大きくなります。

パラメーター	設定値	説明
		 
	SPLINE	叩く強さによる音量変化が極端につきます。 
	LOUD1、LOUD2	叩く強さによる音量変化が少なく、演奏しやすい音量が保てます。ドラム・トリガーを利用するときなど、安定した発音が得られます。  
Rim Gain（*1）	0〜3.2	リムやエッジを叩く強さと音の大きさのバランスを調節します。 値を大きくすると、リムを弱く叩いても大きな音量で鳴ります。値を小さくすると、リムを強く叩いても小さな音量で鳴ります。 リム・ショット奏法に対応したパッドで有効です。
Head/Rim Adjust（*1）	0〜80	ヘッド・ショットとリム・ショットの鳴りやすさを調節します。 ヘッドを強打したときにリムの音が鳴ってしまう場合は、値を大きくします。 オープン・リム・ショットをしたときにヘッドの音が鳴ってしまう場合は、値を小さくします。 弱打でリム・ショットをしたときにヘッドの音が鳴ってしまう場合は、値を小さくします。

パラメーター	設定値	説明
		メモ ヘッド・ショットをしたときにリム・ショットの音が鳴る場合や、リム・ショットをしたときにヘッド・ショットの音が鳴る場合は、Head/Rim Adjustの値を少しずつ変更し、効果を確認しながら値を設定してください。極端な値に設定すると、ヘッド・ショット時にリム・ショットの音が出るなど、演奏とは異なる音が鳴ってしまいます。

*1：トリガー・タイプによっては設定できません。

メモ

- 初期値に戻すときは、［F6］（DEFAULT）ボタンを押します。一部のパラメーター（クロストーク・キャンセルなど）を除いたトリガー・パラメーターが、初期値に設定されます。詳しくは『データ・リスト』（Web）をご覧ください。
- ベロシティーの値は、TRIGGER IN端子に接続したパッドは1〜127、DIGITAL TRIGGER IN端子に接続したデジタル接続対応のパッド（HI-Reso Velocity対応パッド）は1.00〜127.00（MIDI CONTROLのHI-Reso Velocityが「ON」のとき）で表示されます。詳しくは『データ・リスト』（Web）をご覧ください。
- ［SHIFT］ボタンを押しながら［F6］（CLEAR LOG）ボタンを押すと、モニターの履歴を消去することができます。

ハイハットの設定をする

Vハイハットを使うときは、V31でオフセットの調整をしてください。

オープン、クローズやペダルの動きを正しく検出するために必要です。

メモ

- オフセットの調整方法について、詳しくは「ハイハットの設定をする（P.22）」をご覧ください。
- 必要に応じて、パラメーターを微調整します。詳しくは『データ・リスト』（Web）をご覧ください。

トリガーを細かく設定する

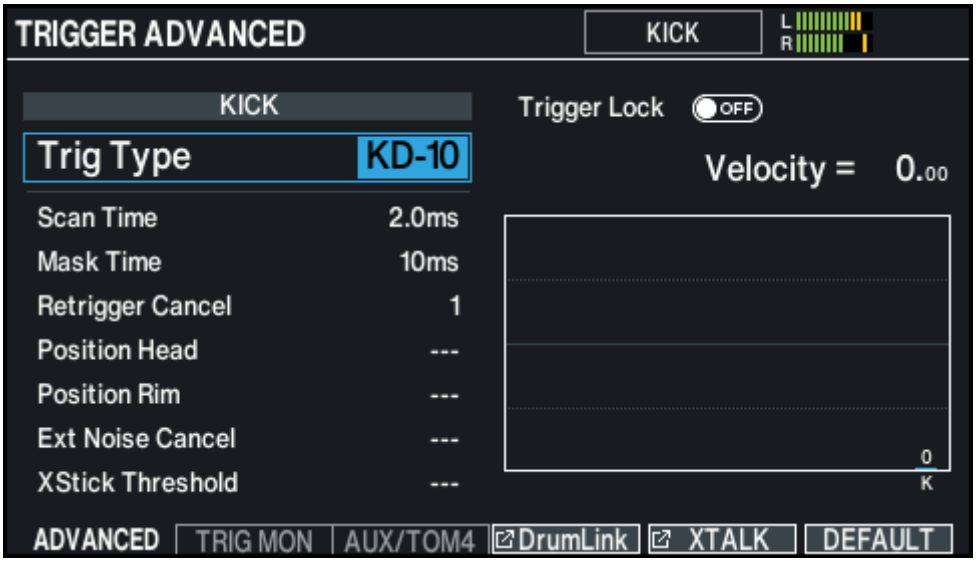
次の設定は、トリガー・タイプを設定すると自動的に各パッドに適した値に変更されるため、通常設定する必要はありません。

パッドの信号の検出、打点位置の検出など、より細かい調節をするときにだけ設定してください。

➡ 設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』（Web）をご覧ください。

1 TRIGGER - BANK画面（P.154）で、［F5］（ADVANCED）ボタンを押します。

TRIGGER ADVANCED画面が表示されます。



2 設定するパッドを選びます。

➡「設定するパッドを選ぶ（P.72）」

3 カーソル・ボタンでパラメーターを選び、ダイヤルで値を変更します。

メモ

初期値に戻すときは、［F6］（DEFAULT）ボタンを押します。
一部のパラメーター（クロストーク・キャンセルなど）を除いたトリガー・パラメーターが、初期値に設定されます。
詳しくは『データ・リスト』（Web）をご覧ください。

TRIGGER IN端子（AUX/TOM4）の設定をする

TRIGGER IN端子（AUX/TOM4）に接続したパッドを、AUXまたはTOM4のどちらで鳴らすか設定することができます。

1 TRIGGER - BANK画面（P.154）で、［F5］（ADVANCED）ボタンを押します。

2 ［F3］（AUX/TOM4）ボタンを押します。

3 ダイヤルで値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
Trigger Input AUX/TOM4 Select	AUX	AUX/TOM4に接続したパッドをAUXで鳴らします。
	TOM4	AUX/TOM4に接続したパッドをTOM4で鳴らします。

メモ

このパラメーターの設定によって、各設定画面のエディットできるパッドもAUXとTOM4が切り替わります。

デジタル接続対応パッドを細かく設定する

この設定は、デジタル接続対応パッドの初回接続時に自動的に各パッドに適した値に設定されるため、通常は設定する必要はありません。より細かい調節をするときにだけ設定してください。

➡ 設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』（Web）をご覧ください。

1 TRIGGER - DIGITAL PAD画面（P.155）を表示します。

2 パッドを叩くかカーソル・ボタンを押して、設定するパッドを選びます。

3 カーソル［▶］ボタンを押して、Digital Pad Settingsのパラメーターにカーソルを合わせます。

4 カーソル・ボタンでパラメーターを選び、ダイヤルで値を変更します。

※ パッドによって、設定できるパラメーターが異なります。

メモ

初期値に戻すときは、［F6］（DEFAULT）ボタンを押します。
一部のパラメーター（クロストーク・キャンセルなど）を除いたトリガー・パラメーターが、初期値に設定されます。
詳しくは『データ・リスト』（Web）をご覧ください。

各パッドのトリガー情報を見る

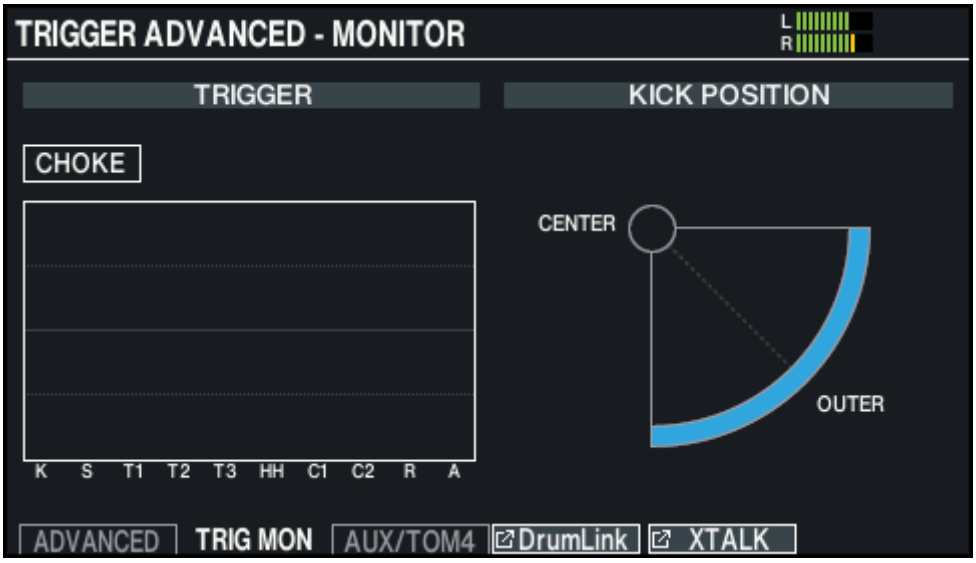
各パッドの叩く強さ（ベロシティー）や、スネア、タム、ハイハット、ライド・シンバル、AUXの打点位置をリアルタイムに表示させることができます。

メモ

MIDI IN端子から受信した演奏情報も表示されます。

1 TRIGGER - ADVANCED画面（P.164）で、［F2］（TRIG MON）ボタンを押します。

TRIGGER ADVANCED - MONITOR画面が表示されます。



2 パッドを叩きます。

画面のメーター表示がリアルタイムに変化し、パッドの叩く強さや打点位置を確認することができます。

他のパッドの振動による誤発音を防ぐ（クロストーク・キャンセル）

同じドラム・スタンドに2つのパッドを取り付けている場合に、一方のパッドを叩いたときの振動で、もう一方のパッドの音が発音してしまうことがあります。この現象を「クロストーク」といいます。クロストーク・キャンセルは、このようなクロストークを防ぐための設定です。

※工場出荷時の設定では、別売りのドラム・スタンド（MDSシリーズ、DCSシリーズ、DBSシリーズ）を使った場合に最適な設定がされているため、通常は設定を変更する必要はありません。以下の場合には、クロストーク・キャンセルの設定をする必要があります。
以下の場合には、クロストーク・キャンセルの設定をする必要があります。

- トリガー・バンク（P.154）の設定にないパッド構成で使用する場合
- 別売りのドラム・スタンド（MDSシリーズ、DCSシリーズ、DBSシリーズ）以外のドラム・スタンドを使用する場合
- ドラム・トリガー（別売）を使用する場合

※アコースティック・ドラムの生音やモニター・スピーカーからの音の影響で、パッドが発音してしまうことがあります。この場合、クロストーク・キャンセルを設定しても解決できません。以下に注意してセッティングしてください。

- パッドをスピーカーから離して設置する
- パッドに角度をつけて、音の影響を受けにくい場所にセッティングする
- パッドのThresholdの値を大きくする
  ➡ 『データ・リスト』（Web）

パッドのセッティングのポイント

外部からの振動が伝わりにくくなるようにパッドをセッティングすることで、クロストークを最小限に防ぐことができます。

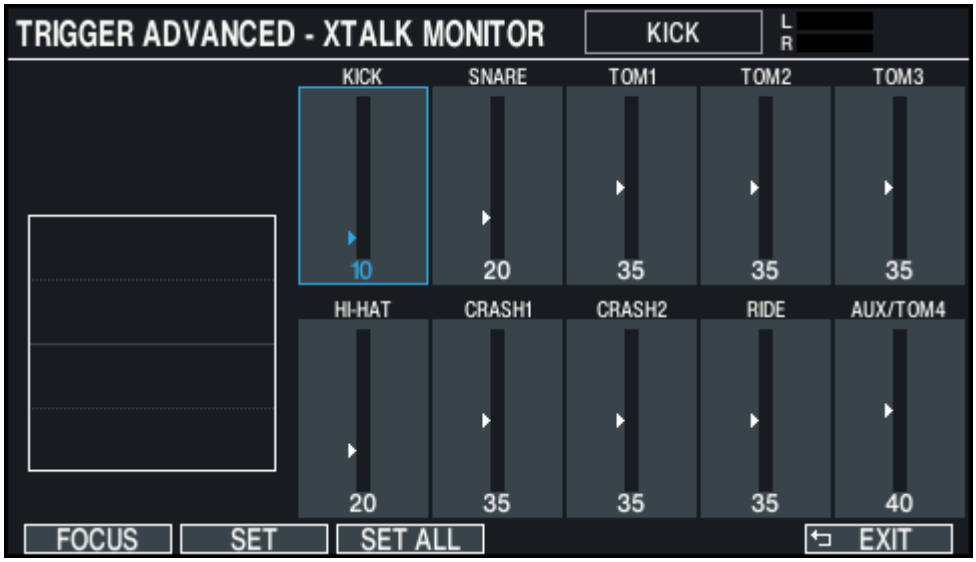
クロストーク・キャンセルの設定をする前に、以下に注意してセッティングしてください。

- パッド同士がぶつからないようにセッティングしてください。
- 複数のパッドを同じドラム・スタンドに取り付ける場合、距離を離してセッティングしてください。
- パッドの取り付けノブをしっかりと締め付けて、ドラム・スタンドに取り付けてください。

例）タム1のパッドを叩いたときに、クラッシュ1の音が鳴ってしまう

1 TRIGGER ADVANCED画面（P.166）で、［F5］（XTALK）ボタンを押します。

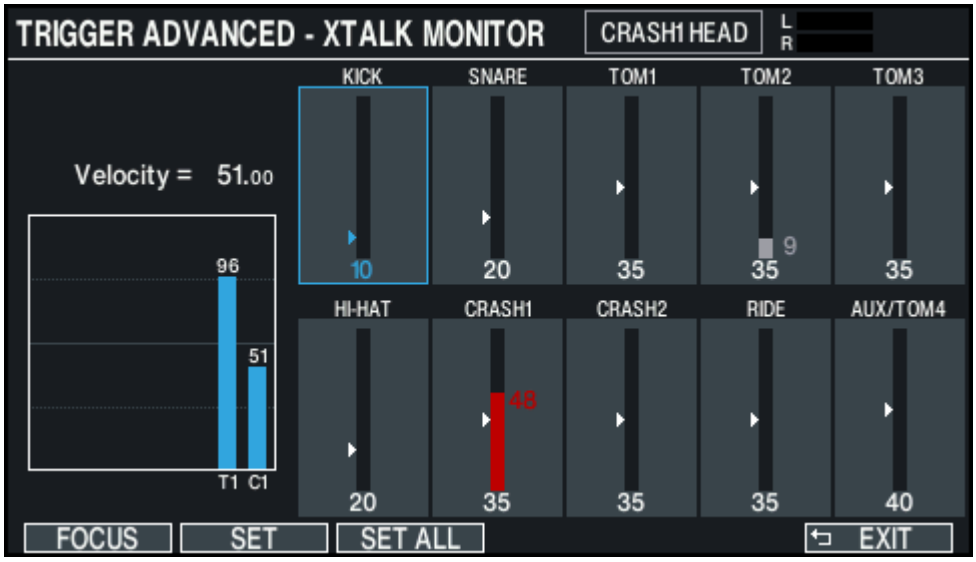
TRIGGER ADVANCED - XTALK MONITOR画面が表示されます。



2 タム1（TOM1）のパッドを叩きます。

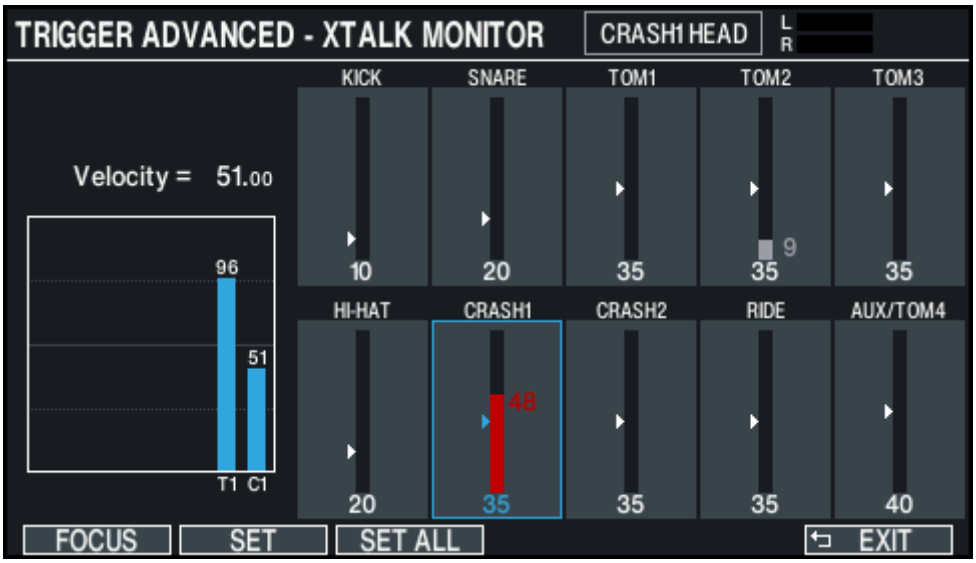
TRIGGER XTALK MONITOR画面に、クロストークの検出状況が表示されます。

下の図では、タム1（TOM1）を叩いたときに、タム2（TOM2）とクラッシュ1（CRASH1）が振動を検出したことを示しています。



振動を検出したパッド	説明
タム2（TOM2）	クロストーク・キャンセルが効いているため、発音しません。
クラッシュ1（CRASH1）	クロストークしています。 クロストーク・キャンセルの値を調整することで、発音しないようにすることができます。

3 ［F1］（FOCUS）ボタンを押して、CRASH1にカーソルを合わせます。



複数のパッドがクロストークしている場合は、［F1］（FOCUS）ボタンを押すたびに、クロストークしている別のパッドにカーソルが移動します。

4 ［F2］（SET）ボタンを押します。

この例では、クラッシュ1の発音をキャンセルできる最小値「48」が自動設定されます。

設定値	説明
0〜80	クロストーク・キャンセル処理の強さ

5 手順3、4を繰り返して、クロストーク・キャンセルの設定をします。

メモ

カーソル［◀］［▶］ボタン／ダイヤルを使って、手動でクロストーク・キャンセルの値を設定することもできます。

V31とV-Drumsパッドをワイヤレス接続する

DH-10WT-10（Wireless Trigger Adapter）を使って、V-Drumsパッド／シンバルをV31にワイヤレス接続することができます。

DH-10とWT-10をペアリングする

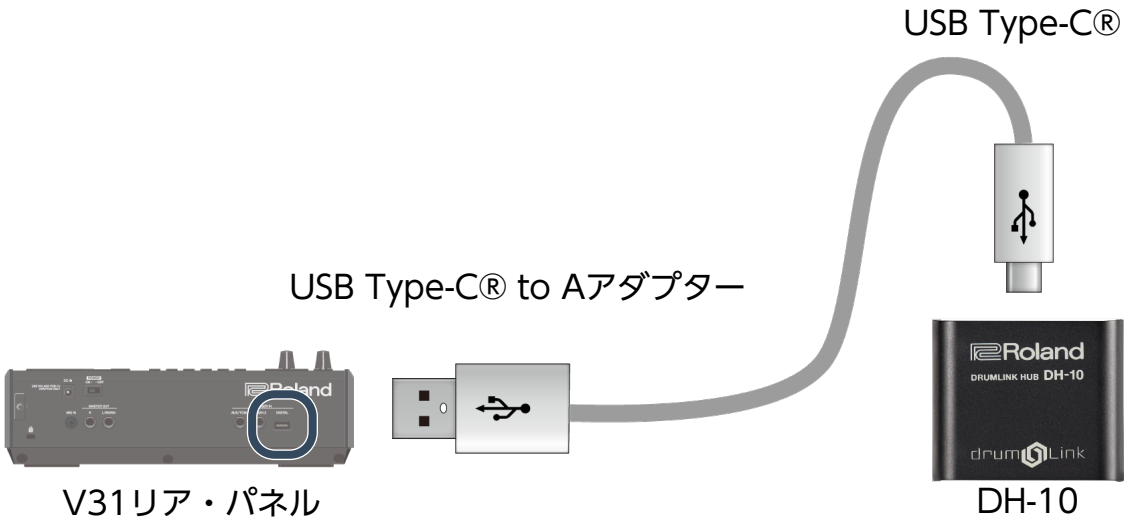
V31に接続したDH-10と、V-Drumsパッドを接続したWT-10をペアリングします。

※一度ペアリングをしたDH-10とWT-10は、再度ペアリングする必要はありません。WT-10に接続したパッドを叩くと、ペアリングされた状態になります。

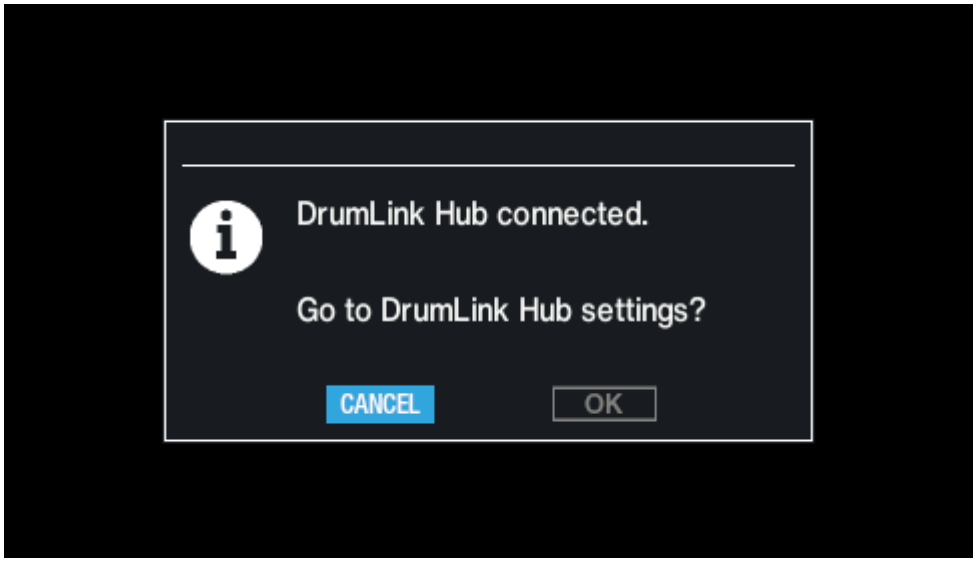
DH-10（DrumLink Hub）をV31に接続する

1 DH-10に付属のUSB Type-C®ケーブルとUSB Type-C® to Aアダプターを使って、DH-10をV31に接続します。

最初に青色インジケーターが複数回点滅し、次に青と赤のインジケーターが点灯した状態なります。



DH-10を接続すると、以下のメッセージが表示されます。



2 カーソル・ボタンで「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

DrumLink - HUB画面へ移動します。

WT-10（Wireless Trigger Adapter）をドラム・パッド／シンバルに接続する

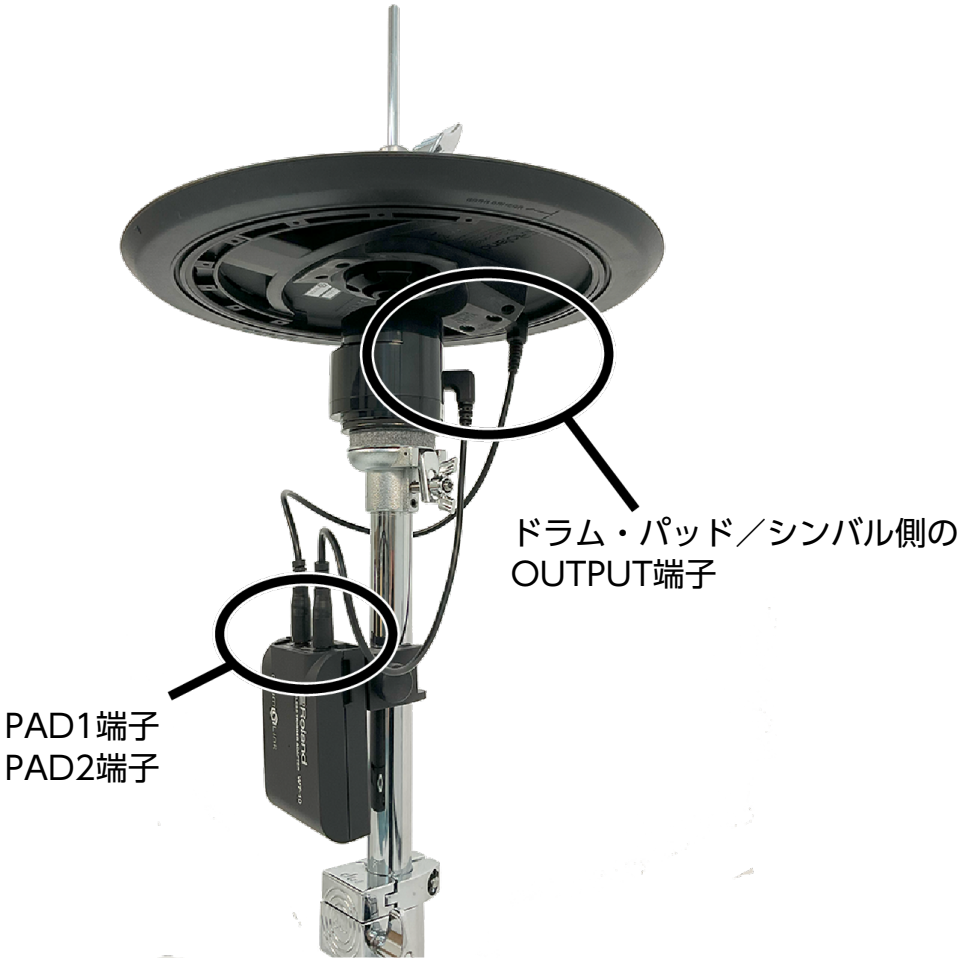
1 WT-10に付属のケーブルで、WT-10のPAD1、PAD2端子とドラム・パッド／シンバルの端子を接続します。

PAD1端子にプラグを接続すると、WT-10の電源が入ります（インジケーターが短く青点灯後に消灯）。

注意

WT-10にケーブルを接続するときは、WT-10本体をしっかり持って接続してください。

WT-10とハイハットVH-10の取り付け例



※WT-10にドラム・パッドやシンバルを1つだけ接続するときは、PAD1端子に接続します。PAD1端子は電源スイッチも兼ねています。

※RolandのハイハットVH-10（別売）やシンバルCY-16R-T（別売）などを接続するときは、PAD1/PAD2両方の端子を使用します。

DH-10とWT-10をペアリングする

ここでは、例としてV31に接続したDH-10に、シンバルを接続したWT-10をペアリングするときの手順を説明します。

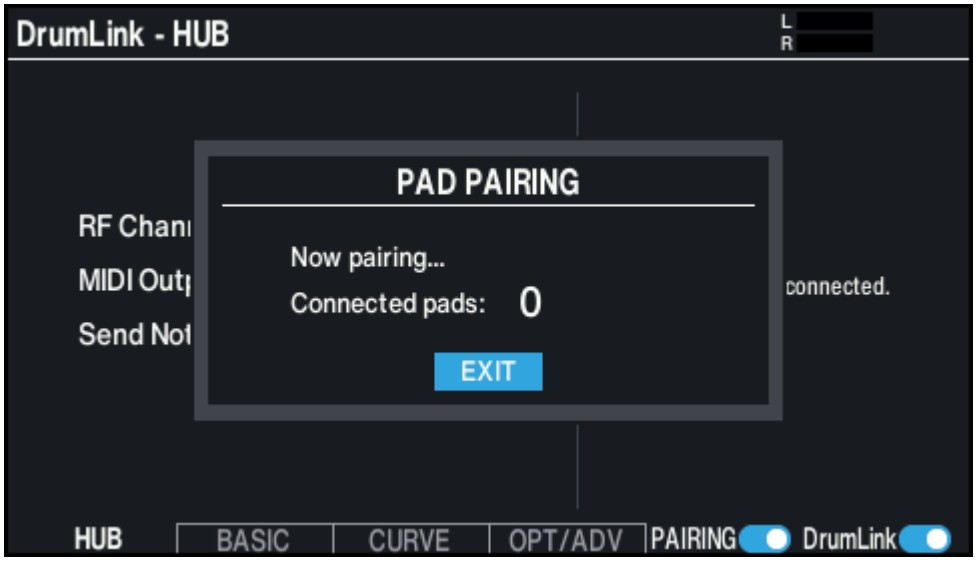
1 **TRIGGER ADVANCED画面（P.164）で、［F4］（DrumLink）ボタンを押します。**

2 **［F1］（HUB）ボタンを押します。**

DrumLink - HUB画面が表示されます。

3 ［F5］（PAIRING）ボタンを押します。

ペアリング・モードがオンになります。



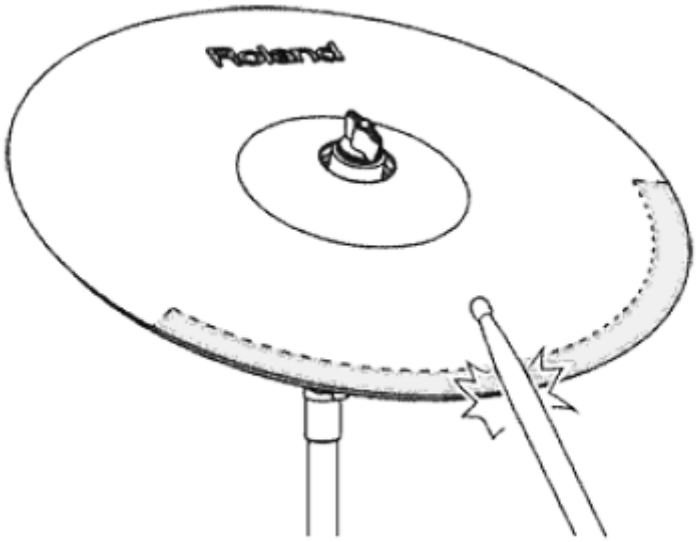
メモ

ペアリング・モードは、オンになってから15秒経過するとオフになります。

4 シンバルを1回叩きます。

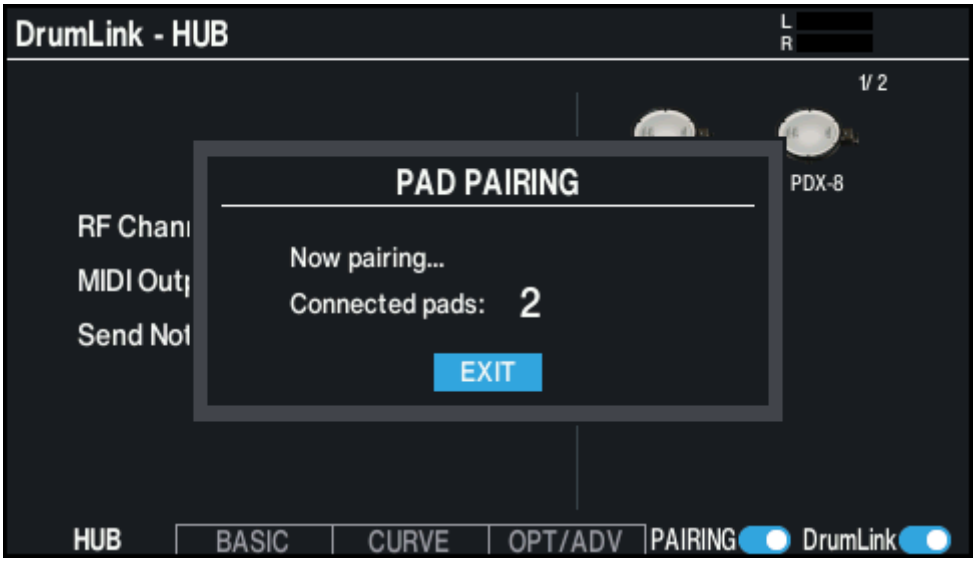
メモ

ペアリングするときは、スティックを使ってやや強めに叩いてください。また、シンバルとペアリングするときは、エッジを叩くと感度が高くペアリングしやすくなります。



ペアリングが開始されます。

V31とパッド（シンバル）のペアリングが完了すると、DrumLink - HUB画面の右側にパッドの画像（初期設定：ドラム・パッドPDX-8）が表示されます。



5 ペアリング完了後パッドの設定画面に移動したい場合は、［EXIT］ボタンを押したあと［F2］（BASIC）～［F4］（OPT/ADV）ボタンのいずれかを押します。

注意

各パッドのパラメーターについては、V31本体には保存されず、WT-10（Wireless Trigger Adapter）に保存されます。また、パラメーターを変更しただけではWT-10に設定が反映されないので、対象のパッドを叩いて設定を反映させてください。

メモ

- ペアリングをすると、DH-10（DrumLink Hub）に各WT-10（Wireless Trigger Adapter）とのペアリング情報が保存されます。V31の再起動時や、別のV31にDrumLink™ハブを接続した場合でも自動でペアリングが実行されるため、手動でのペアリング操作は不要です。
- 再起動後のペアリングは不要ですが、パッド設定画面に対象のパッドを表示させるには、設定したいパッドを1度叩く必要があります。
- V31 V31では最大10パッドの接続に対応しています。

パッドのトリガーを設定する

パッドからの信号をWT-10が確実に処理できるように、トリガーを設定します。

メモ

設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』（Web）をご覧ください。

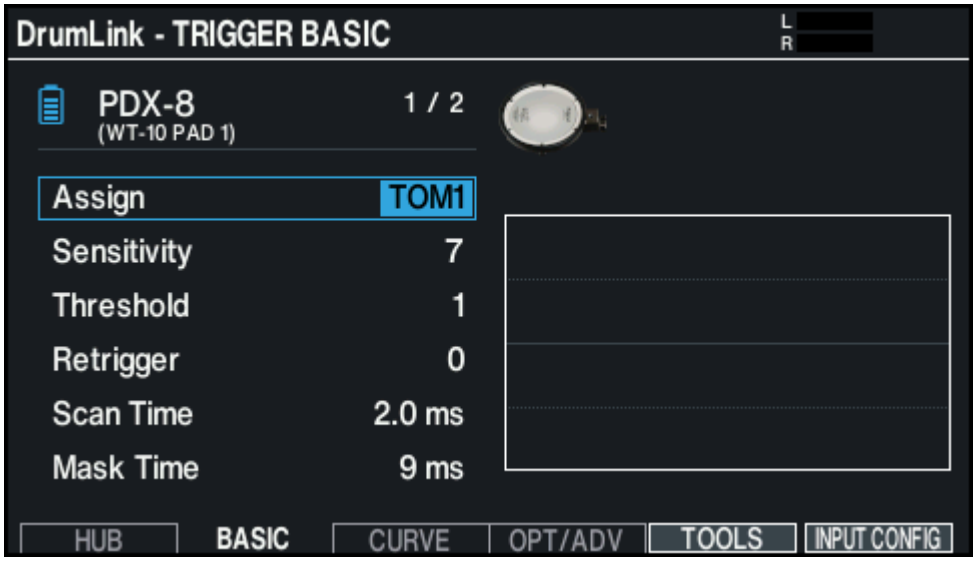
WT-10に接続したパッドの種類を選ぶ（INPUT CONFIGURATION）

V31でパッドの種類を選びます（トリガー設定）。

ここでは、例としてシンバル「CY-16R-T」を選ぶときの手順を説明します。

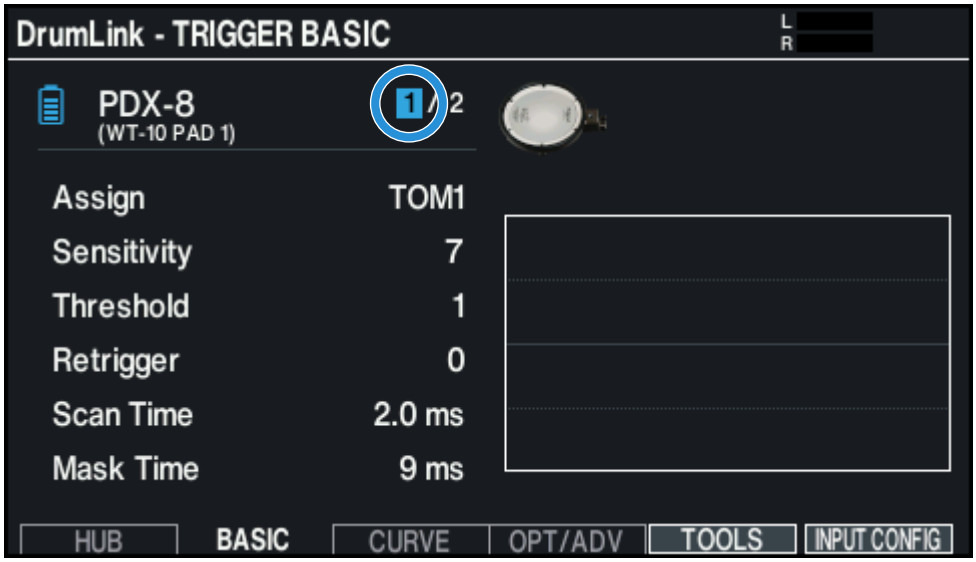
1 **TRIGGER ADVANCED画面（P.164）で、［F4］（DrumLink）ボタンを押します。**

2 **［F2］（BASIC）タブを開きます。**



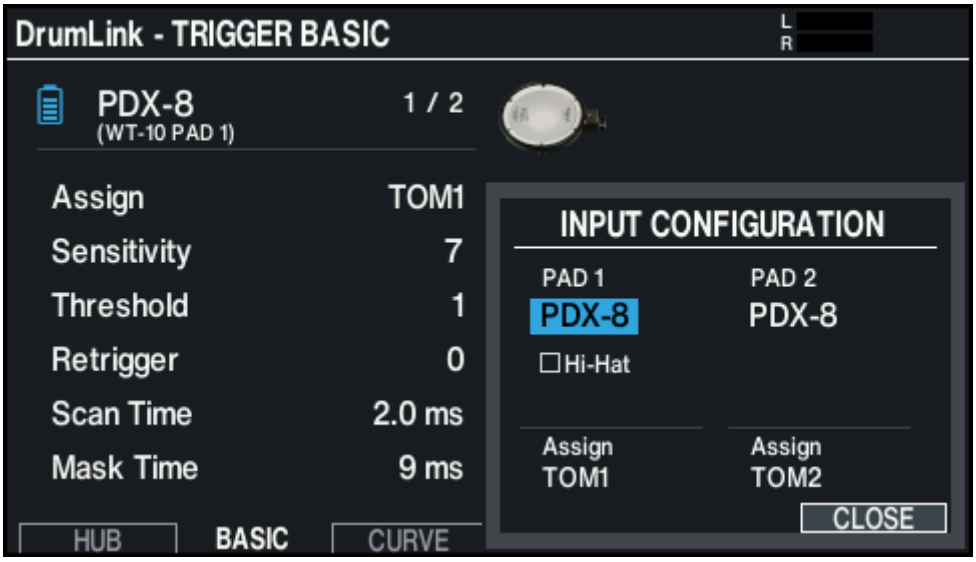
3 **設定するパッドを叩いて選びます。**

設定するパッドは、カーソル・ボタンでカーソルを図の位置に移動させ、ダイヤルを使って選ぶこともできます。

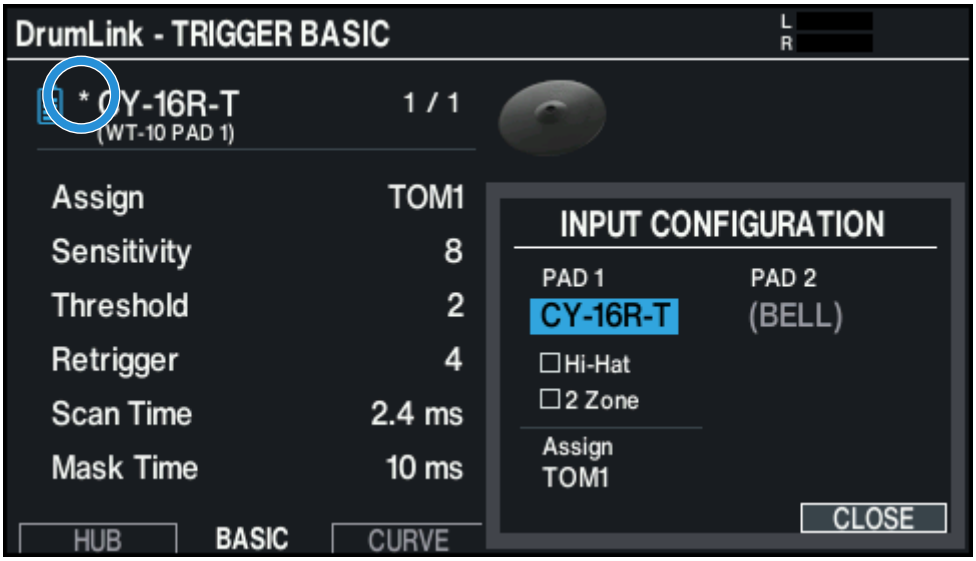


4 ［F6］（INPUT CONFIG）ボタンを押します。

INPUT CONFIGURATION画面が表示されます。



5 画面上のPAD1に「CY-16R-T」を選びます。



パッド名（CY-16R-T）の左にアスタリスクが付きます（アスタリスクは、内部設定がまだ同期されていないことを示しています）。

メモ

- パッドの種類を変更すると、Assign以外のパッド・パラメーターが最適値に設定されます。パッドの取り付けかたや使用状況に合わせて微調整してください。
- ［ENTER］ボタンを押して表示されるリストからも、パッドの種類を選ぶことができます。

6 シンバルを1回叩きます。

内部設定が同期され、パッド名（CY-16R-T）の左のアスタリスクが消えます。

メモ

［F5］（TOOLS）ボタンから「INPUT CONFIG」を選んで、INPUT CONFIGURATION画面を表示することもできます。

WT-10に接続しているパッドのトリガー・インプットのアサインを設定する

接続しているパッドを、どのトリガー・インプットに割り当てるかを設定します。

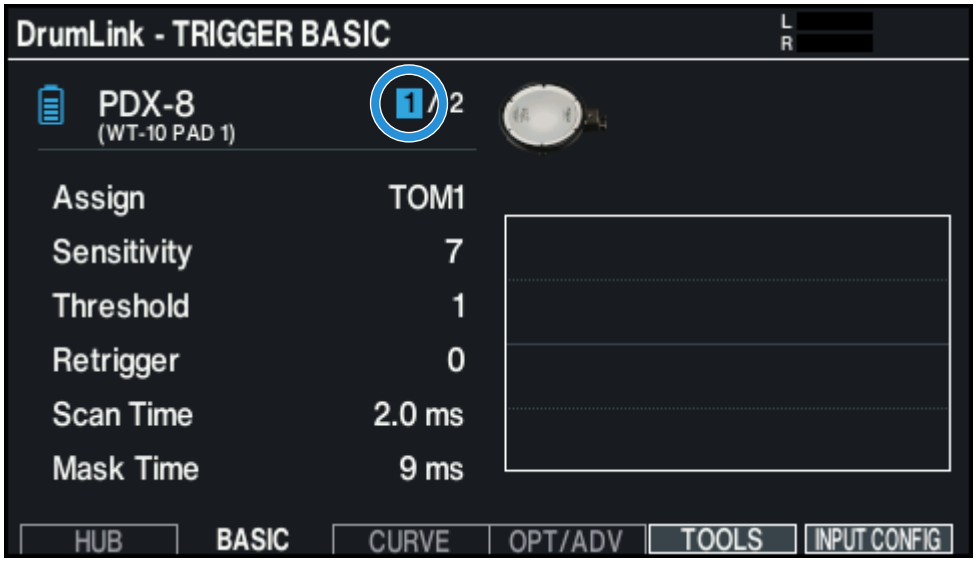
初めて接続する場合は、各パッドに最適なアサインが設定されています。ここでは、割り当て先（アサイン）を変更するときの操作について説明します。

1 **TRIGGER ADVANCED画面（P.164）で、［F4］（DrumLink）ボタンを押します。**

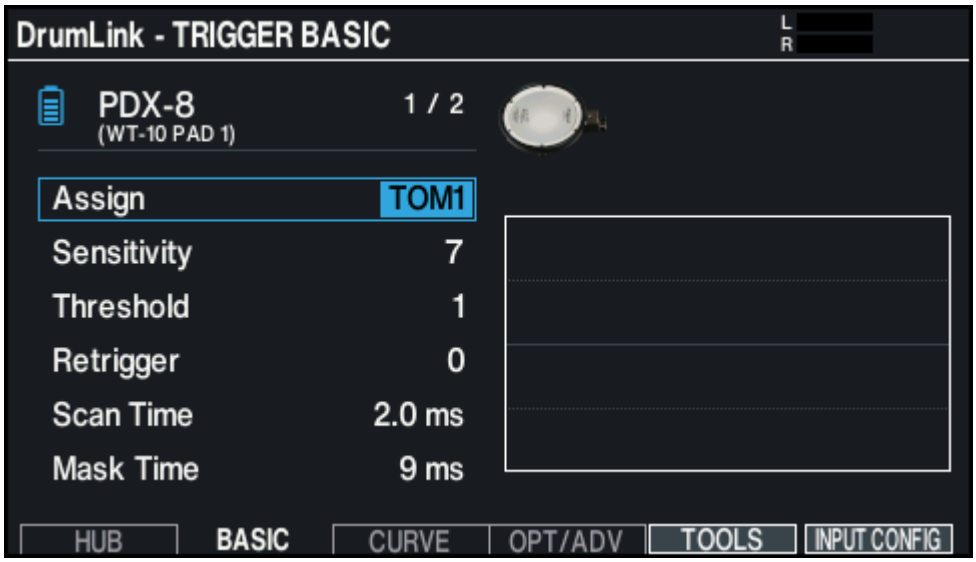
2 **［F2］（BASIC）ボタンを押して、DrumLink - TRIGGER BASIC画面を表示させます。**

3 **設定するパッドを叩いて選びます。**

設定するパッドは、カーソル・ボタンでカーソルを図の位置に移動させてダイヤルを使って選ぶこともできます。



4 **カーソル・ボタンで、Assignパラメーターを選びます。**



5 **ダイヤルでトリガー・インプットのアサインを変更します。**

ハイハットと接続するときは（Hi-Hat Calibration）

WT-10のPAD1端子にハイハットを接続するときは、「WT-10に接続したパッドの種類を選ぶ（INPUT CONFIGURATION）（P.173）」の設定をしたあと、キャリブレーションを設定します。

※キャリブレーションは、ハイハットのオープン、クローズの動きを正しく検出するために必要な設定です。

1 **TRIGGER ADVANCED画面（P.164）で、［F4］（DrumLink）ボタンを押します。**

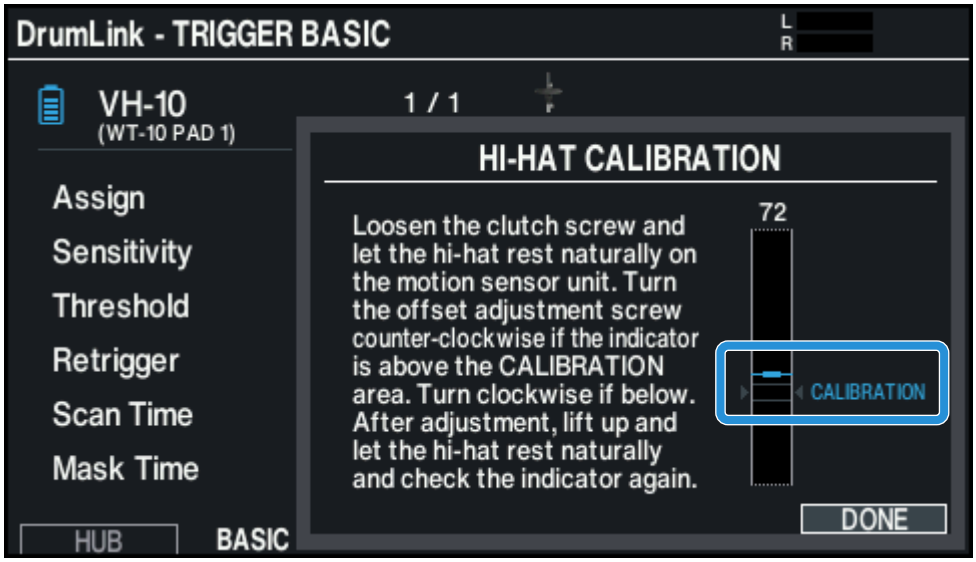
2 **［F2］（BASIC）タブを開きます。**

3 **［F5］（TOOLS）ボタンを押します。**

4 **カーソル・ボタンで「CALIBRATE PEDAL」を選びます。**

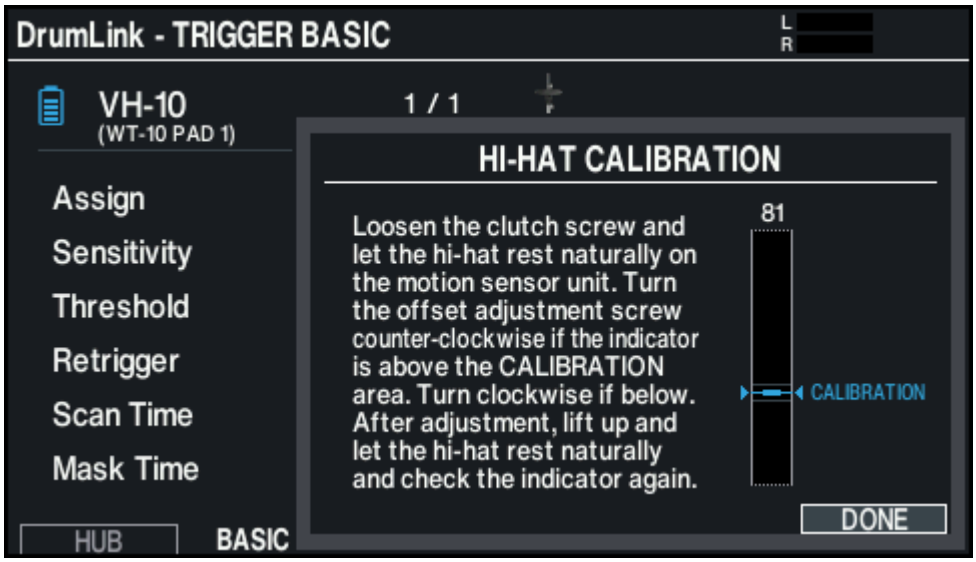
5 **ハイハットのクラッチ・スクリューを緩め、ハイハットをモーション・センサー・ユニットの上に自然に置いた状態にします。**

6 画面右下に表示されているインジケーターを確認します。



CALIBRATIONエリア内の値を示しているとき

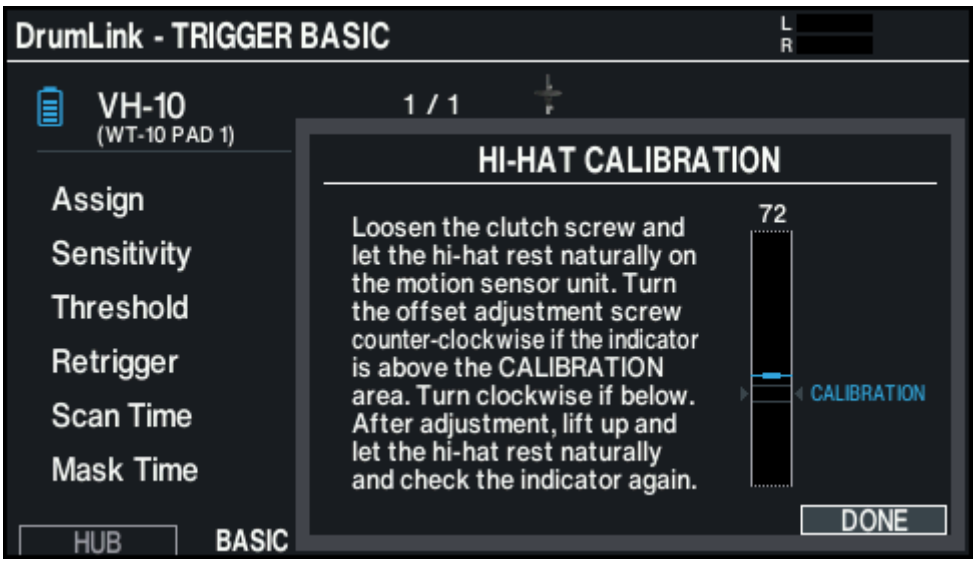
調整はこれで完了です。



CALIBRATIONエリアの上にあるとき

オフセット調整ネジを反時計回りに回します。

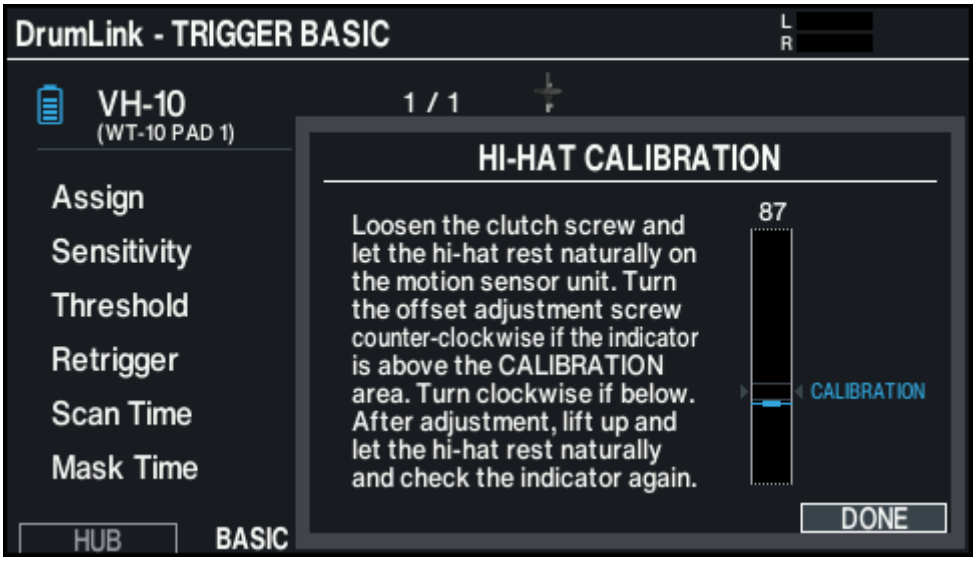
ハイハットを持ち上げて自然に下ろし、インジケーターがCALIBRATIONエリア内にあることを確認します。



CALIBRATIONエリアの下にあるとき

オフセット調整ネジを時計回りに回します。

ハイハットを持ち上げて自然に下ろし、インジケーターがCALIBRATIONエリア内にあることを確認します。



7 **[F6] （DONE）ボタンをクリックして、キャリブレーションを終了します。**

8 **叩いたときにハイハットが自然に揺れる位置で、クラッチ・スクリューを止めます。**

パッドを認識しないときは

ペアリング済みのDH-10を接続してもパッドが認識されない場合は、以下の操作をしてください。

1 **TRIGGER ADVANCED画面（P.164）で、 [F4] （DrumLink）ボタンを押します。**

2 **[F1] （HUB）ボタンを押して、DrumLink - HUB画面を表示させます。**

3 ［F6］（DrumLink）ボタンを押して、DrumLink OFFの状態にします。

［F6］（DrumLink）ボタンが表示されない場合は、［◀］ボタンを何度か押して「RF Channel」にカーソルを移動させてください。

4 もう一度［F6］（DrumLink）ボタンを押して、DrumLink ONの状態にします。

上記の手順を実行しても認識されない場合は、V31とDH-10の接続をはずしたあと、再度接続してください。

パッドとの接続が不安定なときは

V31とパッドの接続が不安定になると、以下のような症状が出ることがあります。

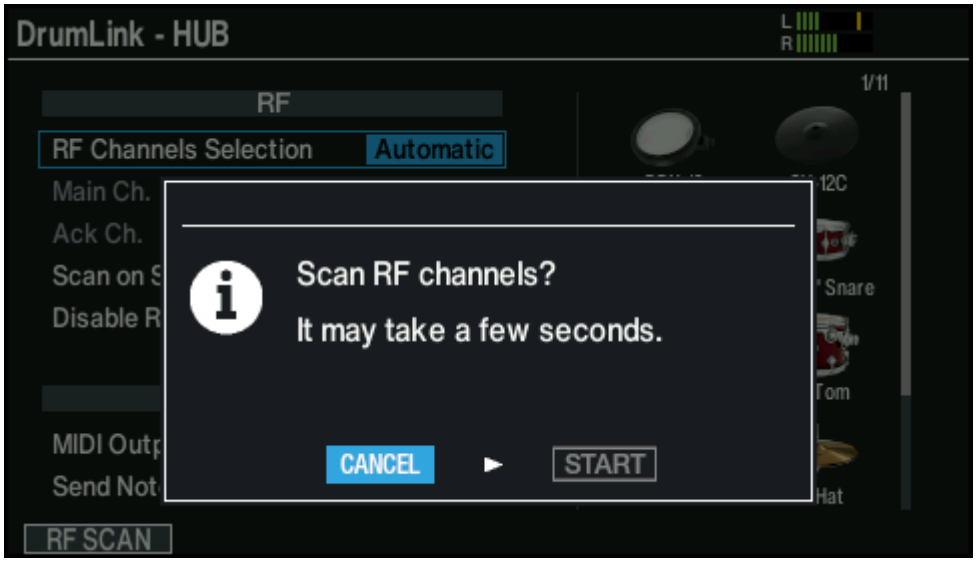
- V31とパッドをペアリングできない
- 発音が遅れる／途切れる
- 変更したパッドの設定が反映されない

このようなときは、接続時に使用するチャンネルを設定し直してください。

1 DrumLink - HUB画面（P.170）を表示させます。

2 ［SHIFT］ボタンを押しながら［F1］（RF SCAN）ボタンを押します。

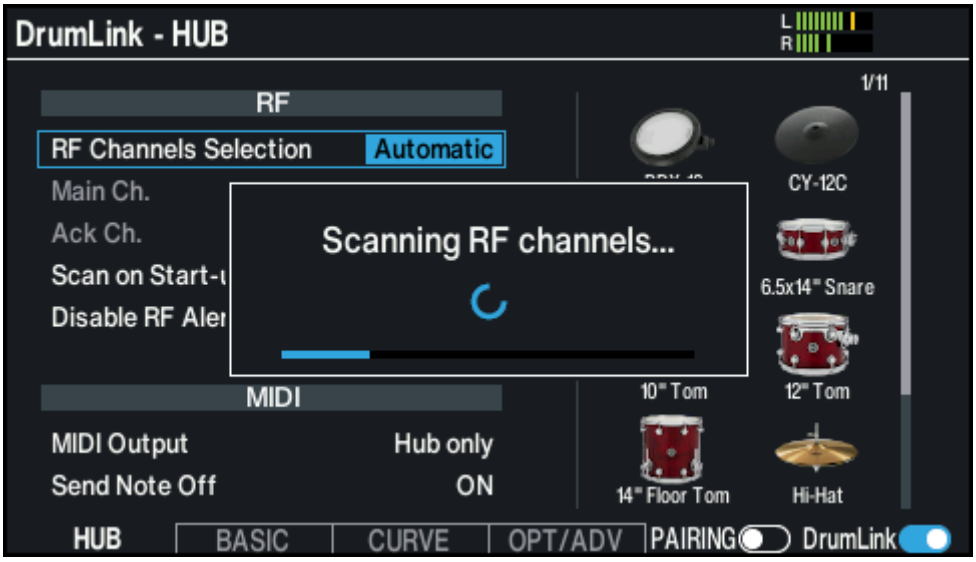
チャンネルのスキャンを実行するかのメッセージが表示されます。



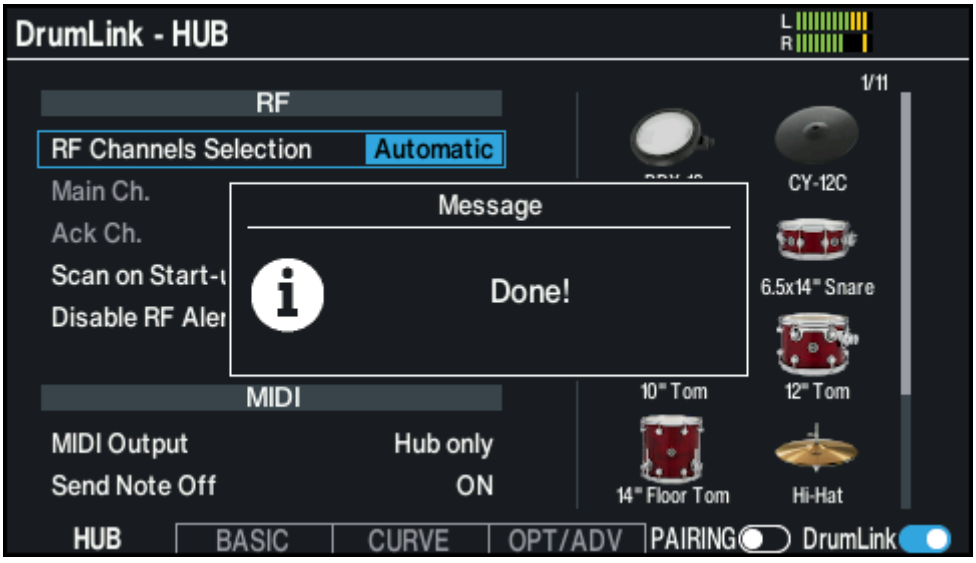
※［F1］（RF SCAN）ボタンが表示されない場合は、RF Channels Selectionを「Automatic」に設定してください。

3 カーソル・ボタンで［START］を選び、［ENTER］ボタンを押します。

チャンネルのスキャンが始まります。



スキャンが完了すると自動で適切なチャンネルに設定され、以下のメッセージが表示されます。

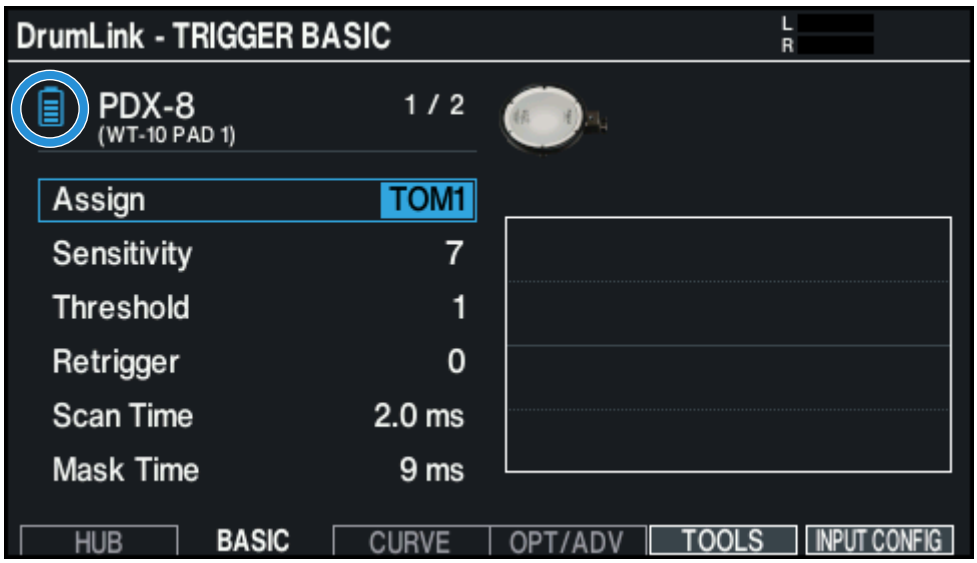


メモ

手動でチャンネルを設定することもできます。設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』（Web）をご覧ください。

電池の残量を確認する

各パッドの電池の残量は、DrumLink - TRIGGER BASICタブ、Drum Link - TRIGGER CURVEタブ、DrumLink - TRIGGER OPTIONS／ADVANCEDタブで確認することができます。



パッドを叩くと、WT-10に搭載されているLEDが点灯します。
パッドを叩いても点灯しない場合は、電池を交換してください。

注意

- 電池はアルカリ電池（単三型）を使用してください。
- 電池残量が少なくなると、液漏れする恐れがあります。できるだけ早めに電池を交換してください。
- 長時間使用しないときは、パッドから電池を取り出しておいてください。

V31とパッドのペアリングを解除する（アンペアリング）

V31とパッドのペアリングを解除します。

1 TRIGGER ADVANCED画面（P.164）で、［F4］（DrumLink）ボタンを押します。

2 ［F2］（BASIC）～［F4］（OPT/ADV）ボタンのいずれかを押します。

3 ［F5］（TOOLS）ボタンを押して、TOOLSウィンドウを表示させます。

4 パッドを叩いて、ペアリングを解除するパッドを選びます。

［ENTER］ボタンを押しながら［◀］［▶］ボタンを押して、パッドを選ぶこともできます。

5 カーソル・ボタンで「UNPAIR」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

6 カーソル・ボタンで「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

メッセージが表示されたあと、選んだパッドを叩くと、パッドのペアリングが解除されます。

メモ

DrumLink - HUB画面でペアリング済みのパッドにカーソルがあるときは、［SHIFT］ボタンを押しながら［F6］（UNPAIR）を押してパッドのペアリングを解除することもできます。

DH-10やWT-10のファームウェア・アップデート

DH-10やWT-10のファームウェア・アップデートをする場合は、パソコンとDH-10を接続し、DWe Controlアプリケーションを使用して、アップデートをしてください。

アップデート方法は、DH-10、WT-10の製品サポート・ページをご覧ください。

https://roland.cm/dh-10_om

V31でDWeパッドを使う

V31にDWe DrumLink™ハブを接続すると、DWeパッドでV31のサウンドを鳴らすことができます。

例1）DWeを使っている場合

V31をドラム音源として使用することができます。

例2）V31を使っている場合

DWeパッドの追加ができます。

セットアップ手順

各DWeパッドの組み立て方法や演奏方法については、DWeに付属している「クイック・スタート・ガイド」をご覧ください。

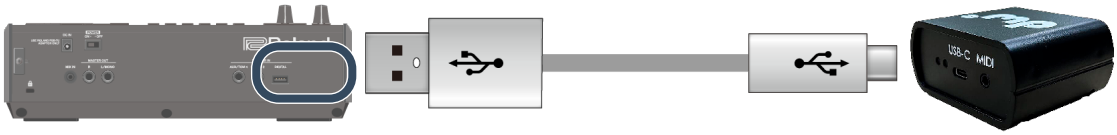
注意

以下の各DWeパッドの演奏方法については、V31は対応していません。

DWeスネア	ピッチ・ベンド
DWeタム／フロア・タム	ピッチ・ベンド、チョーク
DWeハイハット	ベル・ゾーンの演奏
DWeクラッシュ	ベル・ゾーンの演奏

1. V31にDWe DrumLink™ハブを接続する

1 V31のDIGITAL TRIGGER INにDWe DrumLink™ハブをUSBケーブル（市販品）で接続します。

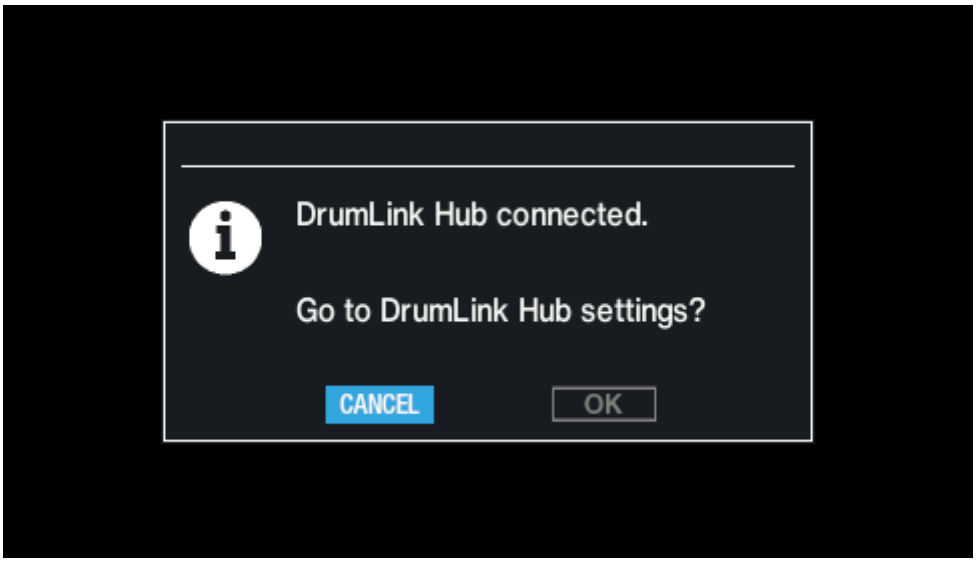


V31リア・パネル

注意

DrumLink™ハブは、音源の上には置かずに近くの机や床に置いてお使いください。接続には、必要な長さのUSBケーブル（市販品）をお使いください。

DrumLink™ハブ接続すると、以下のメッセージが表示されます。



2 カーソル・ボタンで「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

DrumLink - HUB画面へ移動します。

2. DrumLink™ハブとDWeパッドをペアリングする

DrumLink™ハブとDWeパッドを初めて接続する場合は、ペアリングの操作が必要です。すでにDrumLink™ハブとDWeパッドがペアリングされている場合は、この操作は不要になります。

※すでに「1. V31にDWe DrumLink™ハブを接続する（P.184）」でDrumLink - HUB画面が表示されている場合は、手順4から操作してください。

1 TRIGGER ADVANCED画面（P.164）で、［F4］（DrumLink）ボタンを押します。

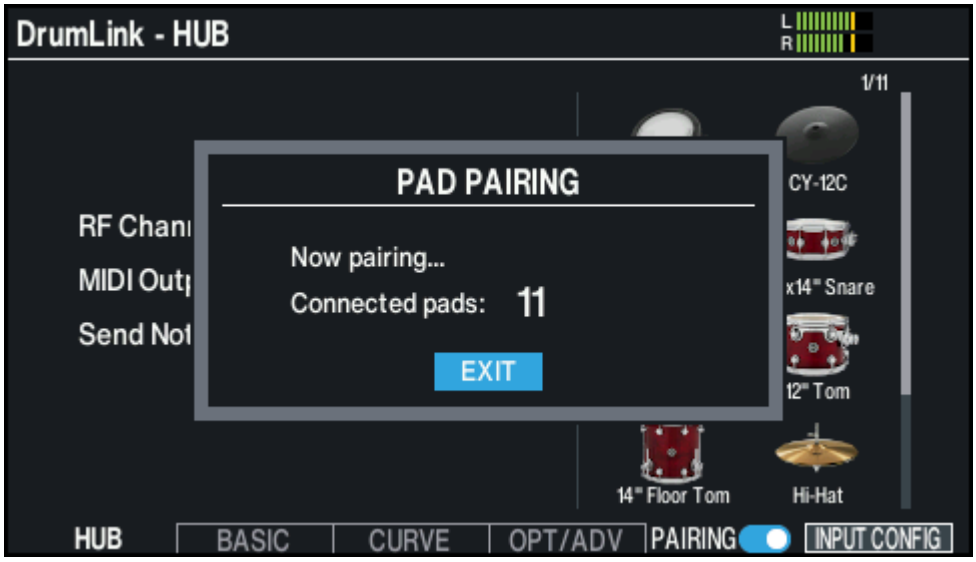
2 ［F1］（HUB）ボタンを押して、DrumLink - HUB画面を表示させます。

［F6］（DrumLink）ボタンがオフになっているときは、［F6］（DrumLink）ボタンを押してオンにしてください。

［F6］（DrumLink）ボタンが表示されない場合は、［◀］ボタンを何度か押して「RF Channel」にカーソルを移動させてください。

3 ［F5］（PAIRING）ボタンを押して、ペアリングする各DWeパッドを1回叩きます。

パッドやシンバルのペアリングが完了すると、以下のようなメッセージが表示されます。



複数回叩く必要はありません。

4 ペアリング完了後DWeパッドの設定画面に移動したい場合は、［EXIT］ボタンを押したあと［F2］（BASIC）～［F4］（OPT/ADV）ボタンのいずれかを押します。

注意

各DWeパッドのパラメーターについては、V31本体には保存されず、各DWeパッドに保存されます。また、パラメーターを変更しただけではパッドに設定が反映されないので、対象のパッドを叩いて設定を反映させてください。詳しくは「5. DWeパッドの感度を調節する（P.194）」をご覧ください。

メモ

- ペアリングをすると、DrumLink™ハブに各DWeパッドの情報が保存されます。V31の再起動時や、別のV31にDrumLink™ハブを接続した場合でも自動でペアリングが実行されるため、手動でのペアリング操作は不要です。
- 再起動後のペアリングは不要ですが、パッド設定画面に対象のパッドを表示させるには、設定したいパッドを1度叩く必要があります。
- DWeパッドを交換するときは、不要になったパッドのペアリングを解除してから、新しいパッドをペアリングしてください。
- V31では最大10パッドの接続に対応しています。

3. DWeパッドのアサインを設定する

接続しているDWeパッドを、どのトリガー・インプットに割り当てるかを設定します。

初めて接続する場合は、各パッドに最適なアサインが設定されています。ここでは、割り当て先（アサイン）を変更するときの操作について説明します。

1 DrumLink - HUB画面（P.184）を表示させます。

2 [F2] （BASIC）ボタンを押して、DrumLink - TRIGGER BASIC画面を表示させます。

3 DWeパッドを叩いて、設定するパッドを選びます。

設定するDWeパッドは、カーソル・ボタンでカーソルを図の位置に移動させ、ダイヤルを使って選ぶこともできます。

4 カーソル・ボタンで、Assignパラメーターを選びます。

5 ダイヤルでアサインを変更します。

4. DWeパッドのキャリブレーションをする

ご使用の前に、各DWeパッドに搭載されているセンサーの調整（キャリブレーション）をします。

1 DrumLink - HUB画面（P.184）を表示させます。

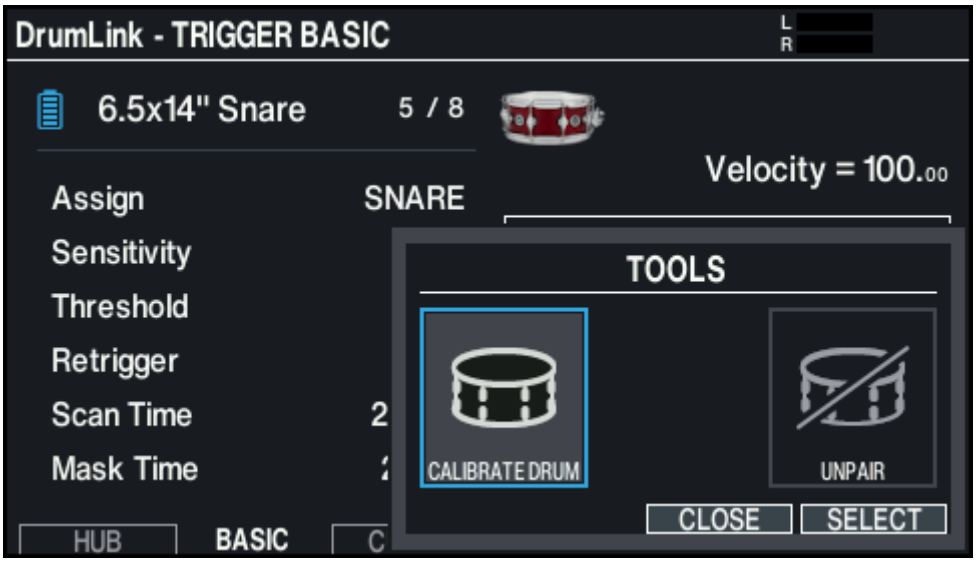
2 [F2] （BASIC）～ [F4] （OPT/ADV）ボタンのいずれかを押します。

3 ［F5］（TOOLS）ボタンを押して、TOOLSウィンドウを表示させます。

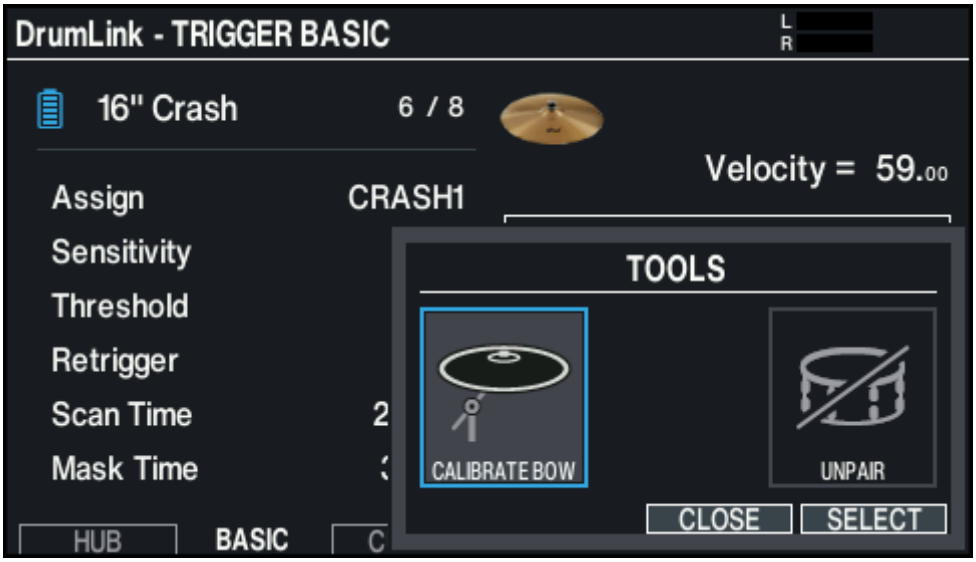
4 DWeパッドを叩いて、キャリブレーションするパッドを選びます。

［ENTER］ボタンを押しながら［◀］［▶］ボタンを押して、DWeパッドを選ぶこともできます。

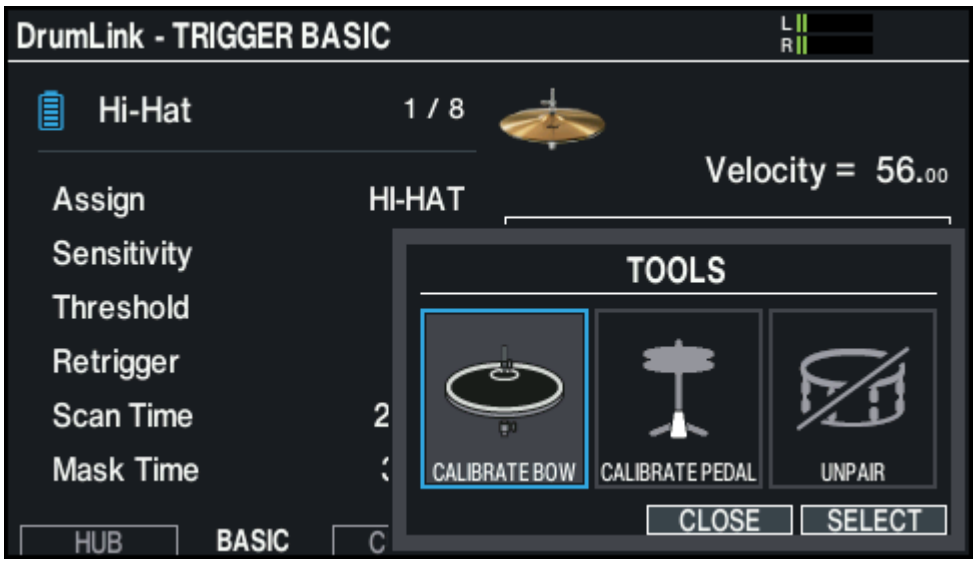
DWeスネア選択時



DWeクラッシュ／ライド・シンバル選択時



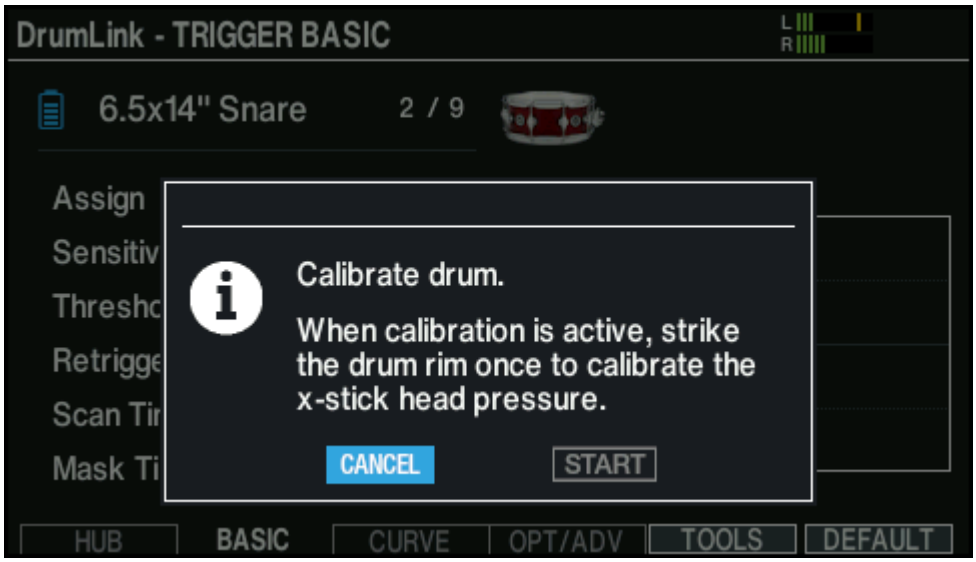
DWeハイハット選択時



5 **カーソル・ボタンで［CALIBRATE DRUM］、［CALIBRATE BOW］、［CALIBRATE PEDAL］を選び、［ENTER］ボタンを押してキャリブレーションをします。**

DWeスネア：ヘッドのキャリブレーション

1 **カーソル・ボタンで「START」を選び、［ENTER］ボタンを押します。**

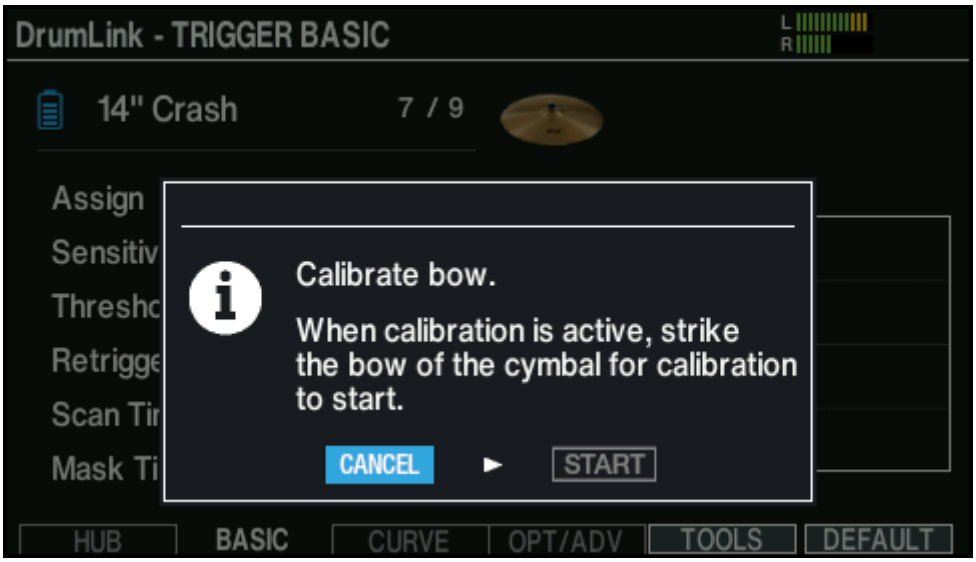


2 **次のメッセージが表示されたら、スネアのリムを叩きます。**

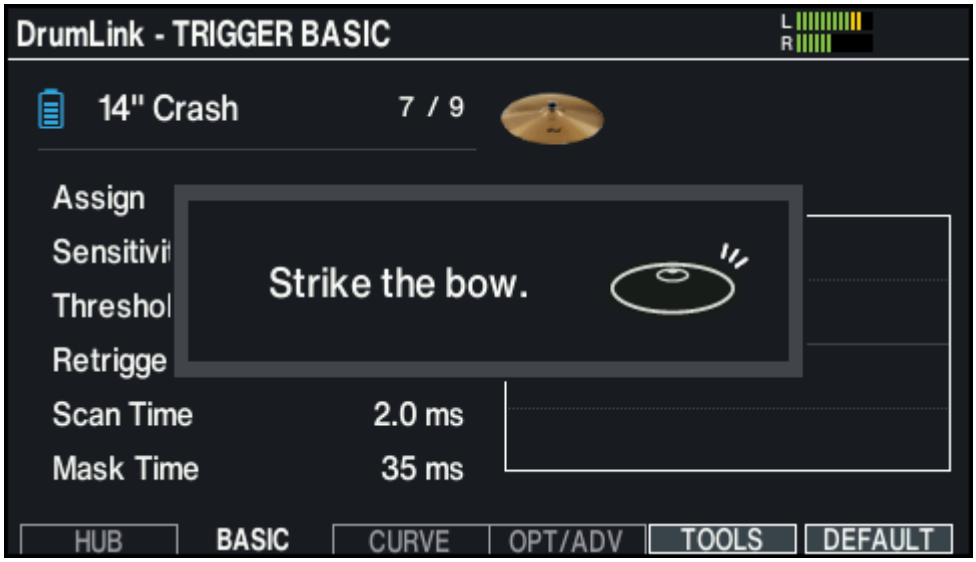
キャリブレーション完了です。

DWeクラッシュ／ライド／ハイハット：ボウのキャリブレーション

1 **カーソル・ボタンで「START」を選び、［ENTER］ボタンを押します。**



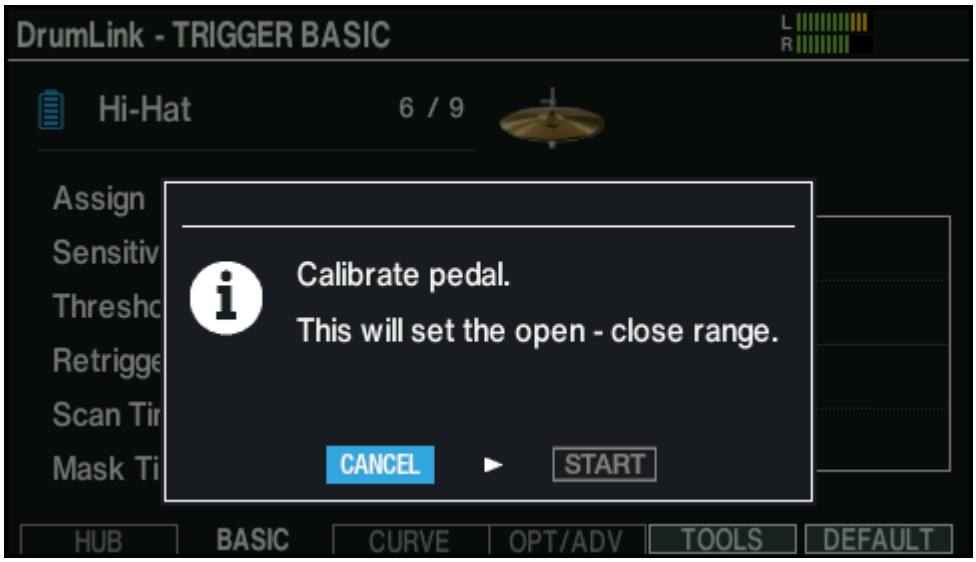
2 **次のメッセージが表示されたらシンバルのボウを叩きます。**



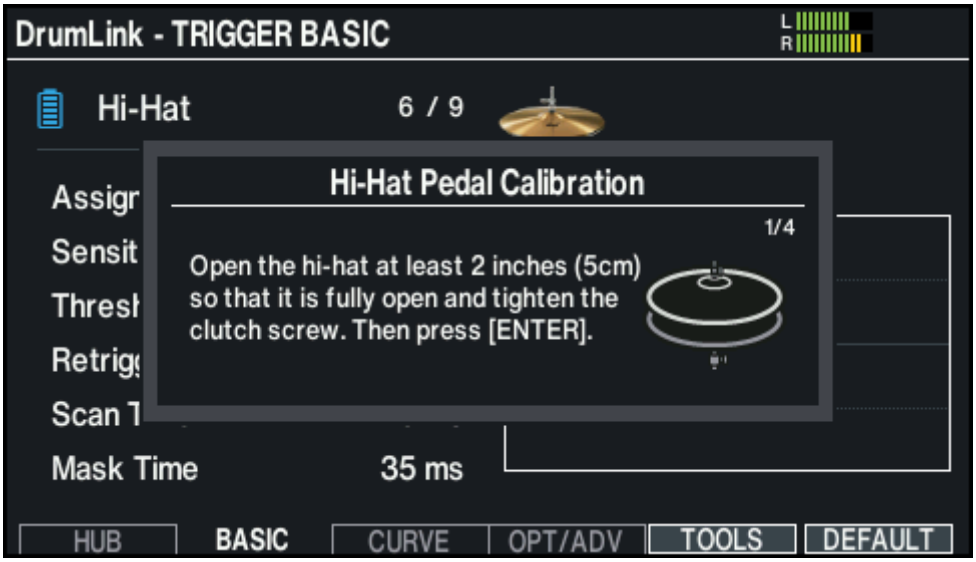
キャリブレーション完了です。

DWeハイハット：ペダルのキャリブレーション

1 **カーソル・ボタンで［START］を選び、［ENTER］ボタンを押します。**

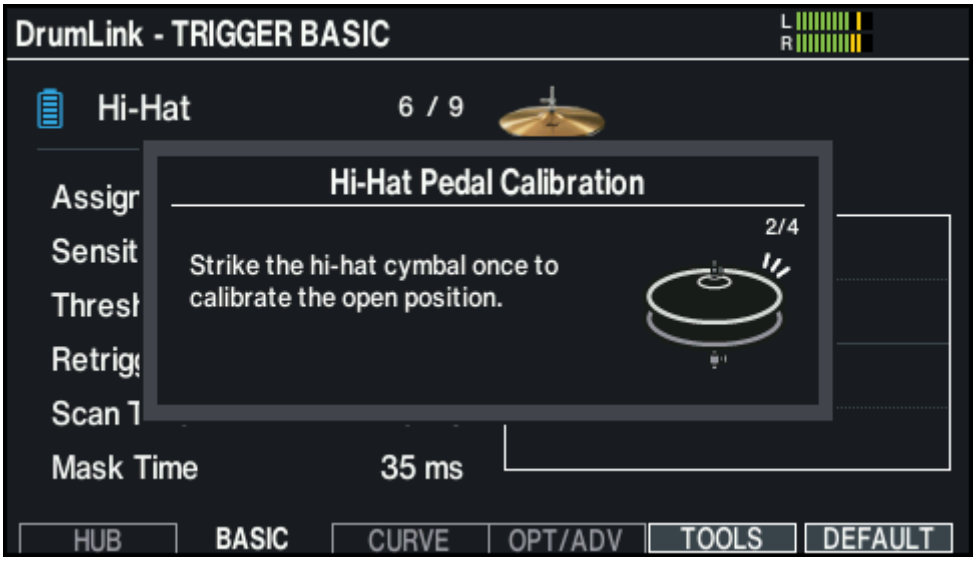


2 次のメッセージが表示されたら、DWeハイハットのクラッチ・スクリューを緩めます。

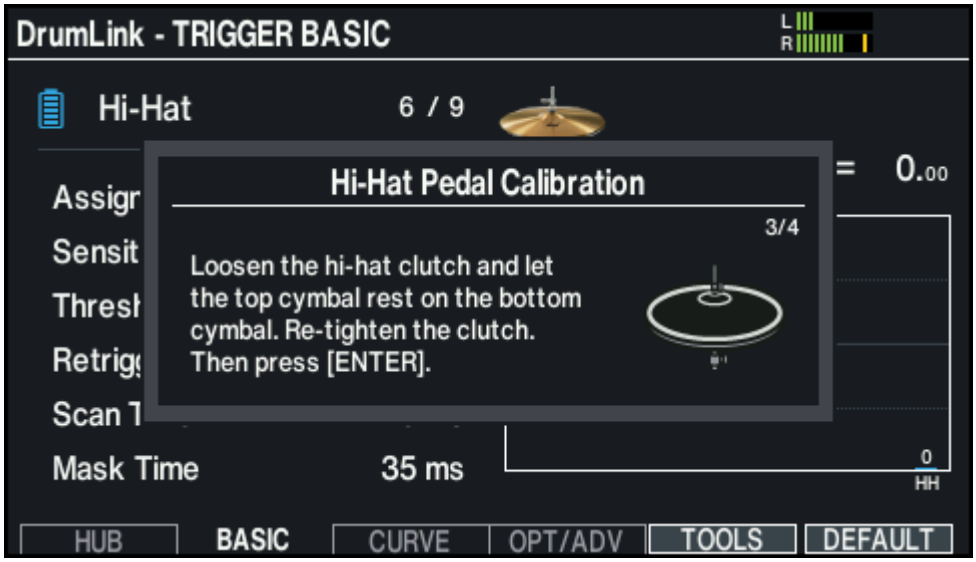


3 トップ・シンバルとボトム・シンバルを5cm以上開けた状態でスクリューを締め直し、［ENTER］ボタンを押します。

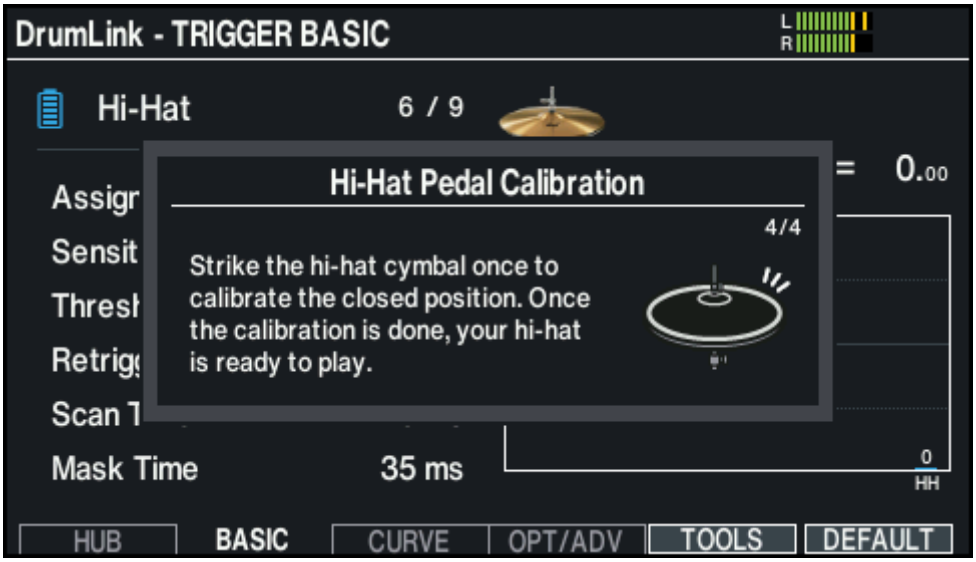
4 次のメッセージが表示されたら、DWeハイハット・シンバルを叩いてオープン位置のキャリブレーションをします。



5 DWeハイハットのクラッチ・スクリューを再び緩め、ハイハットを閉じた状態でスクリューを締め直し［ENTER］ボタンを押します。



6 **次のメッセージが表示されたら、DWeハイハット・シンバルを叩いてクローズ位置のキャリブレーションをします。**



次のメッセージが表示されたらキャリブレーションは完了です。

メモ

- 使用中の環境（温度など）によって、DWeパッドの挙動が変化する場合があります。使用前にキャリブレーションをすることをおすすめします。
- DWeスネアのヘッドのテンションを調節したときは、必ずキャリブレーションをしてください。

5. DWeパッドの感度を調節する

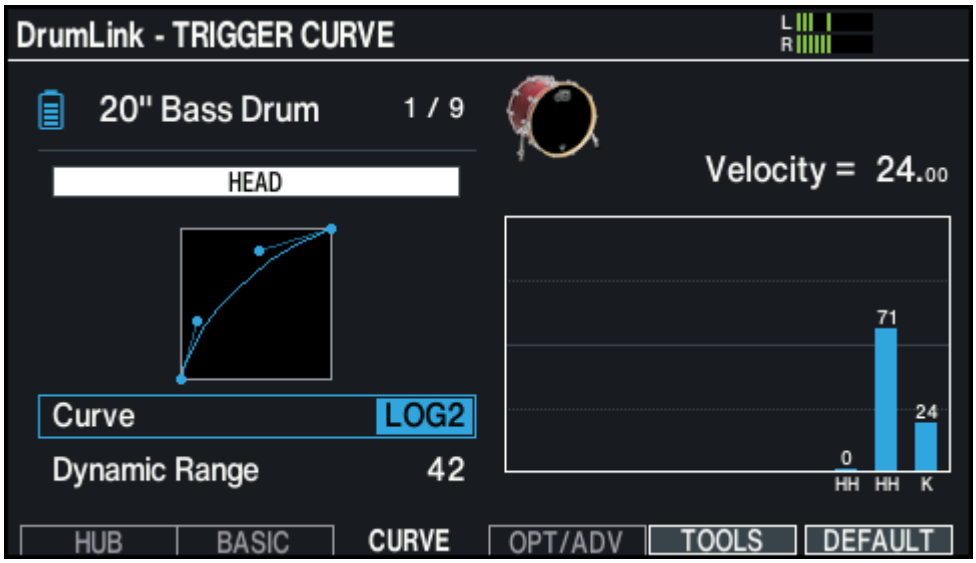
各DWeパッドは、工場出荷時に最適な感度に設定されています。より細かい設定をするときや、ローランドのパッドと組み合わせて使用するときは、DWeパッドの感度を調節します。

メモ

設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』（Web）をご覧ください。

1 **DrumLink - HUB画面（P.184）を表示させます。**

2 ［F2］（BASIC）ボタンまたは［F3］（CURVE）ボタンを押して、DrumLink - TRIGGER BASIC画面またはDrumLink - TRIGGER CURVE画面を表示させます。



3 DWeパッドを叩いて、設定するパッドを選びます。

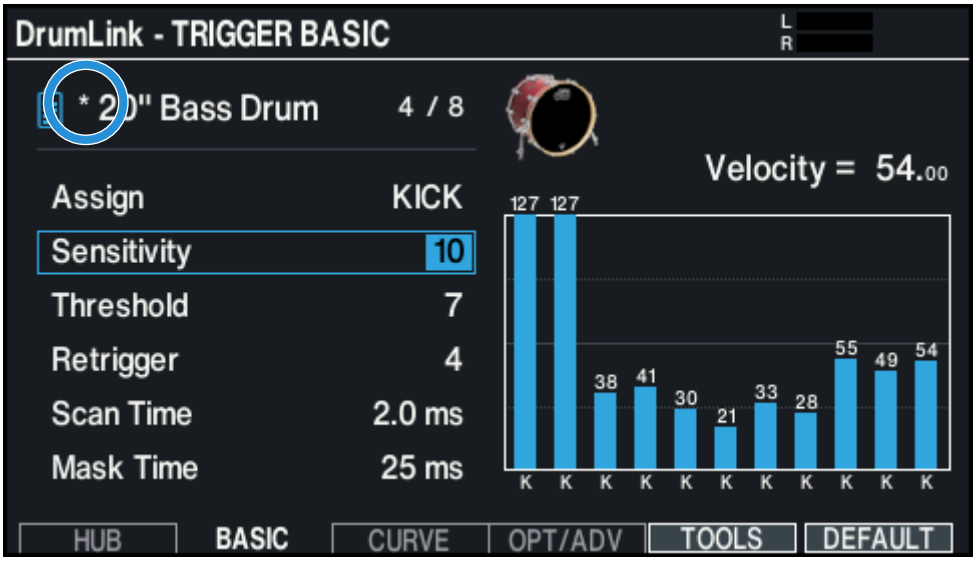
設定するDWeパッドは、カーソル・ボタンでカーソルを図の位置に移動させ、ダイヤルを使って選ぶこともできます。

4 カーソル・ボタンでパラメーターを選び、ダイヤルで値を変更します。

5 選択中のパッドを1回叩いて、パラメーターを反映させます。

パラメーターを変更しただけでは、パッドにはその設定が反映されません。以下のような「*」表示がある場合は、パッドに設定が反映されていない状態になります。

対象のパッドを叩いて、設定を反映させてください。パッドに設定が反映されると、「*」表示がなくなります。

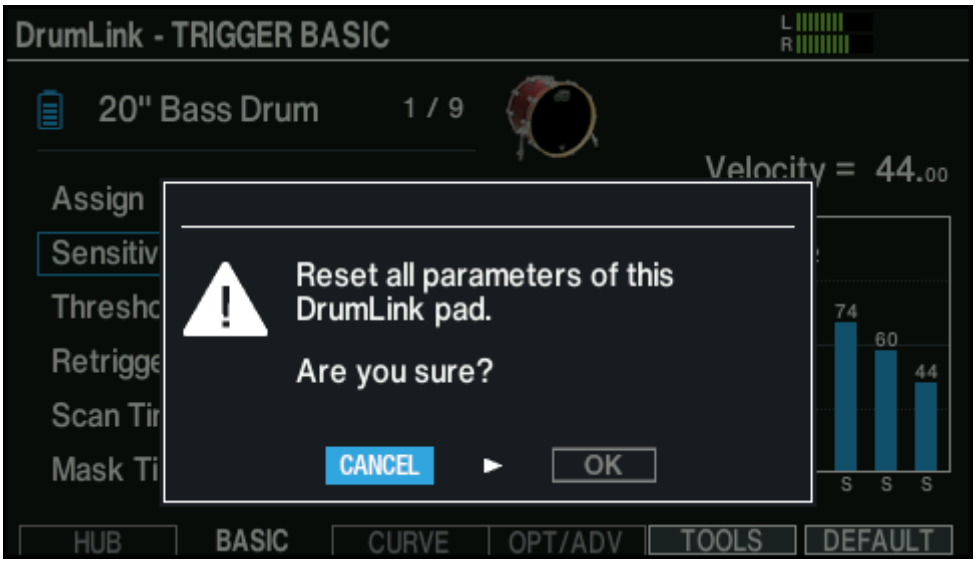


メモ

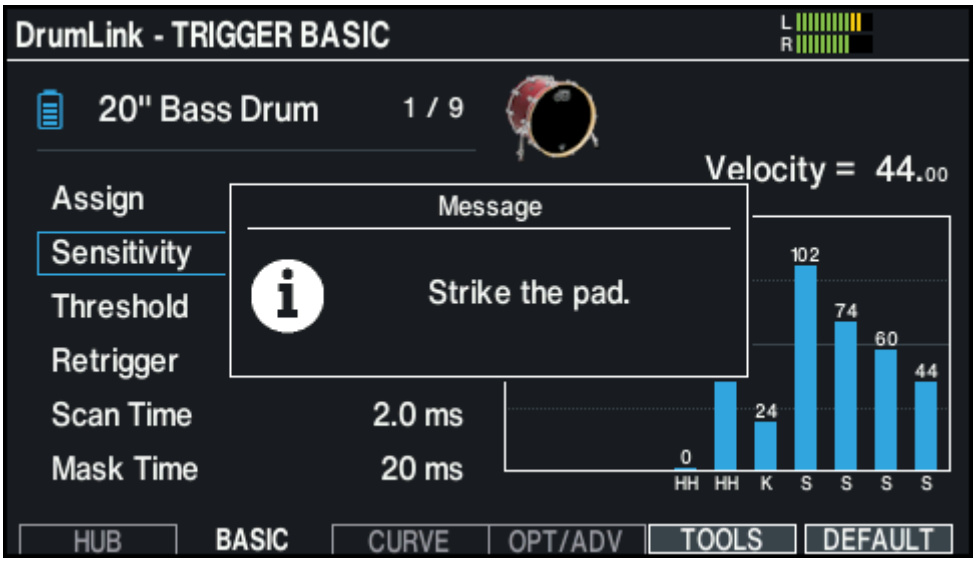
- Rolandのパッドと組み合わせて使用する場合、RolandのパッドとDWeパッドの感度が異なる場合があります。その場合は、DWeパッド・パラメーターの「Sensitivity」、「Curve」、「Dynamic Range」を主に調節することで、感度を近づけることができます。
- パラメーターを工場出荷時の状態に戻すときは、以下の操作をします。

1. ［F6］（DEFAULT）ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



2. カーソル・ボタンで「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押して初期化を開始します。
3. 次のメッセージが表示されたら、パッドを叩きます。



DWeパッドを認識しないときは

ペアリング済みのDrumLink™ハブを接続してもDWeパッドが認識されない場合は、以下の操作をしてください。

1 DrumLink - HUB画面（P.184）を表示させます。

2 ［F6］（DrumLink）ボタンを押します。

［F6］（DrumLink）ボタンが表示されない場合は、［◀］ボタンを何度か押して「RF Channel」にカーソルを移動させてください。

3 もう一度［F6］（DrumLink）ボタンを押して、RF ONの状態にします。

上記の手順を実行しても認識されない場合は、V31とDrumLink™ハブの接続をはずしたあと、再度接続してください。

DWeパッドとの接続が不安定なときは

V31とDWeパッドの接続が不安定になると、以下のような症状が出ることがあります。

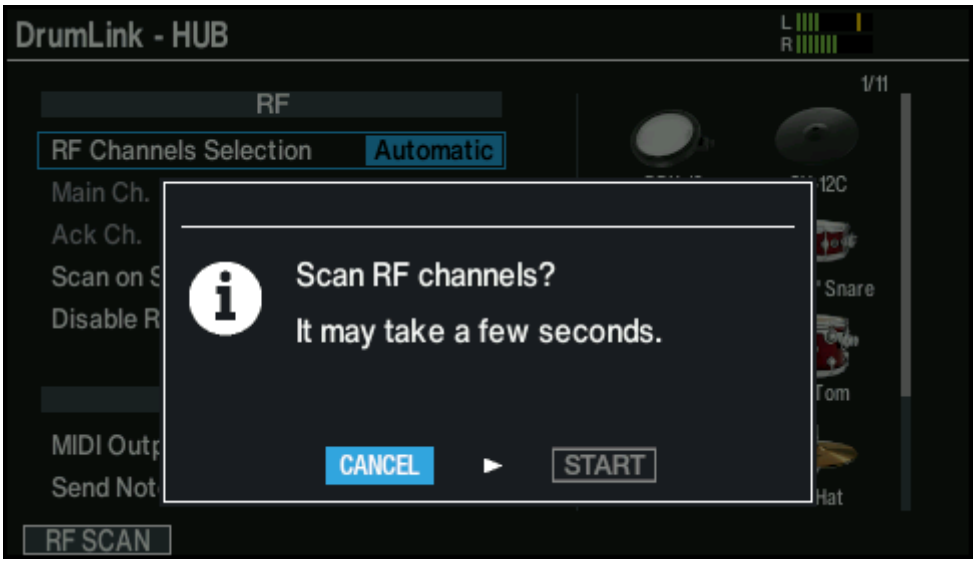
- V31とDWeパッドをペアリングできない
- 発音が遅れる／途切れる
- 変更したDWeパッドの設定が反映されない

このようなときは、接続時に使用するチャンネルを設定し直してください。

1 **DrumLink – HUB画面（P.184）を表示させます。**

2 **［SHIFT］ボタンを押しながら［F1］（RF SCAN）ボタンを押します。**

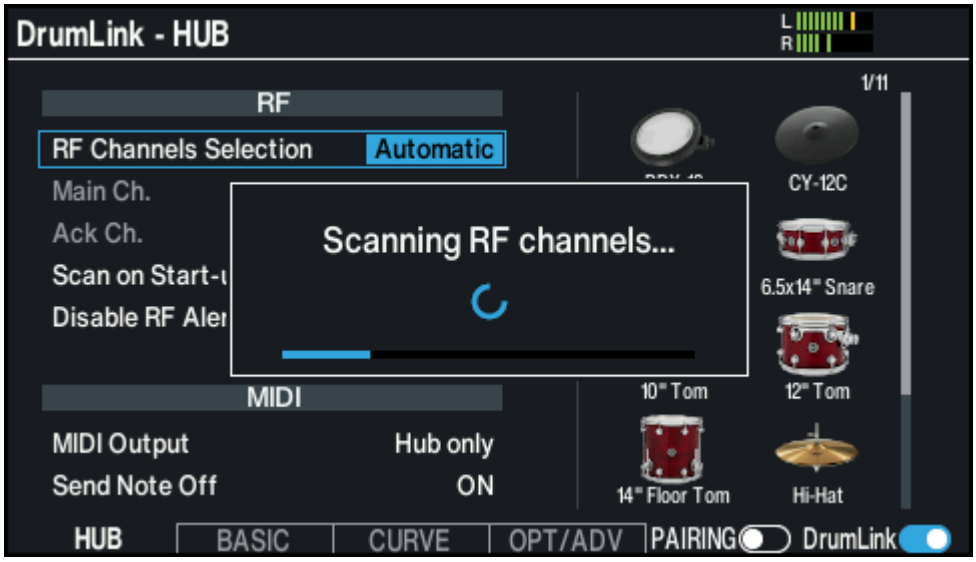
チャンネルのスキャンを実行するかのメッセージが表示されます。



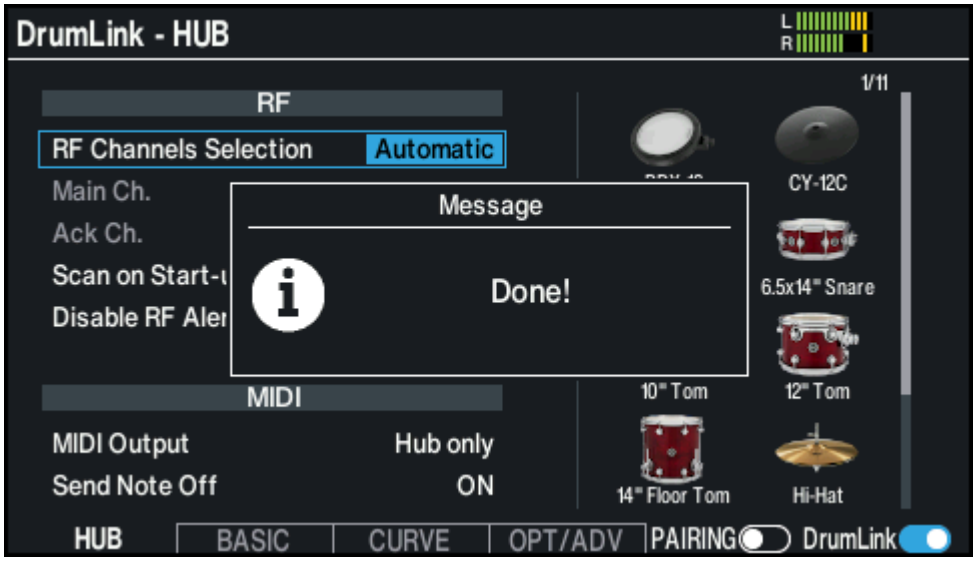
※［F1］（RF SCAN）ボタンが表示されない場合は、RF Channels Selectionを「Automatic」に設定してください。

3 カーソル・ボタンで「START」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

チャンネルのスキャンが始まります。



スキャンが完了すると自動で適切なチャンネルに設定され、以下のメッセージが表示されます。



メモ

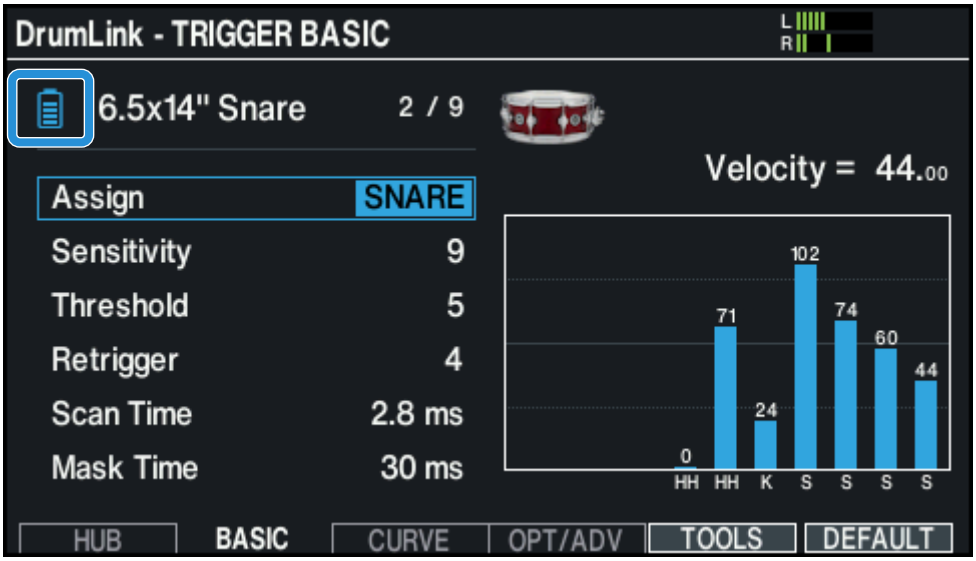
手動でチャンネルを設定することもできます。設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』（Web）をご覧ください。

クロストークの低減

パッドを叩いたとき、叩いていない別のパッドが反応する場合や、スピーカーなどの外部からの音や振動によりパッドが反応する場合は、パッドのセッティング位置を調整したり、誤って反応するパッドの「Threshold」パラメーターの値を上げたりすることで改善します。

電池の残量を確認する

各パッドの電池の残量は、DrumLink - TRIGGER BASICタブ、Drum Link - TRIGGER CURVEタブ、DrumLink - TRIGGER OPTIONS／ADVANCEDタブで確認することができます。



パッドを叩くと、パッドに搭載されているLEDが点灯します。
パッドを叩いても点灯しない場合は、電池を交換してください。

注意

- 電池はアルカリ電池（単三型）を使用してください。
- 電池残量が少なくなると、液漏れする恐れがあります。できるだけ早めに電池を交換してください。
- 長時間使用しないときは、パッドから電池を取り出しておいてください。

V31とDWeパッドのペアリングを解除する（アンペアリング）

V31とDWeパッドのペアリングを解除します。

1 **DrumLink - HUB画面（P.184）を表示させます。**

2 **[F2]（BASIC）～[F4]（OPT/ADV）ボタンのいずれかを押します。**

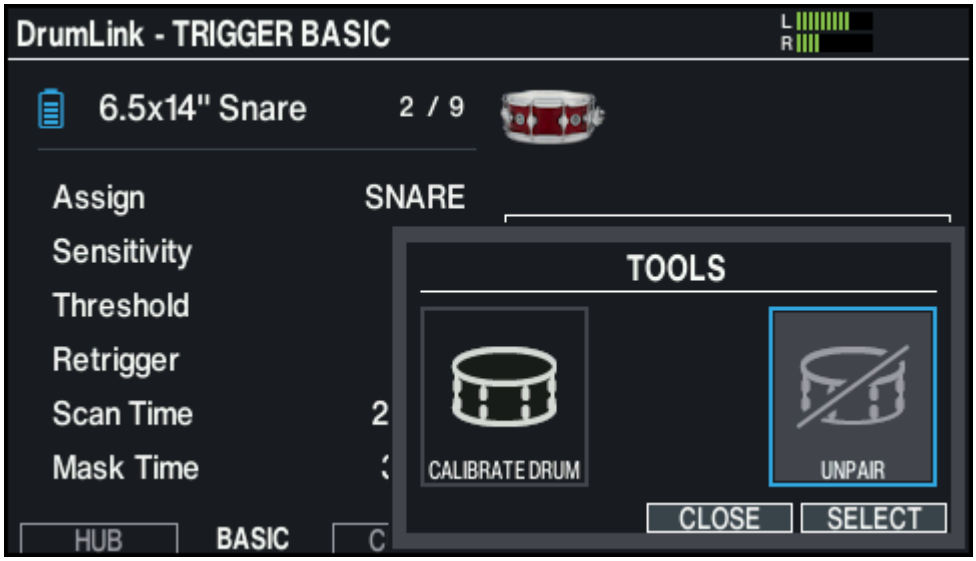
3 **[F5]（TOOLS）ボタンを押して、TOOLSウィンドウを表示させます。**

4 DWeパッドを叩いて、ペアリングを解除するパッドを選びます。

［ENTER］ボタンを押しながら［◀］［▶］ボタンを押して、DWeパッドを選ぶこともできます。

例）DWeスネア選択時

5 カーソル・ボタンで「UNPAIR」を選び、［ENTER］ボタンを押します。



6 カーソル・ボタンで「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

メッセージが表示されたあと、選んだパッドを叩くと、パッドのペアリングが解除されます。

メモ

DrumLink - HUB画面でペアリング済みのDWeパッドにカーソルがあるときは、［SHIFT］ボタンを押しながら［F6］（UNPAIR）を押してDWeパッドのペアリングを解除することもできます。

DWe DrumLink™ハブや各パッドのファームウェア・アップデート

DWe DrumLink™ハブや各パッドのファームウェア・アップデートをする場合は、パソコンとDWeを接続し、DWe Controlアプリケーションを使用して、アップデートをしてください。

アップデート方法は、DWeの製品サポート・ページをご覧ください。

www.dwdrums.com/DWe/support

SDカードを初期化する

SDカードを初期化（フォーマット）します。

※初めてV31でSDカードを使うときは、SDカードをフォーマットしてください。

注意

SDカードを初期化すると、SDカード内のデータはすべて消去されます。

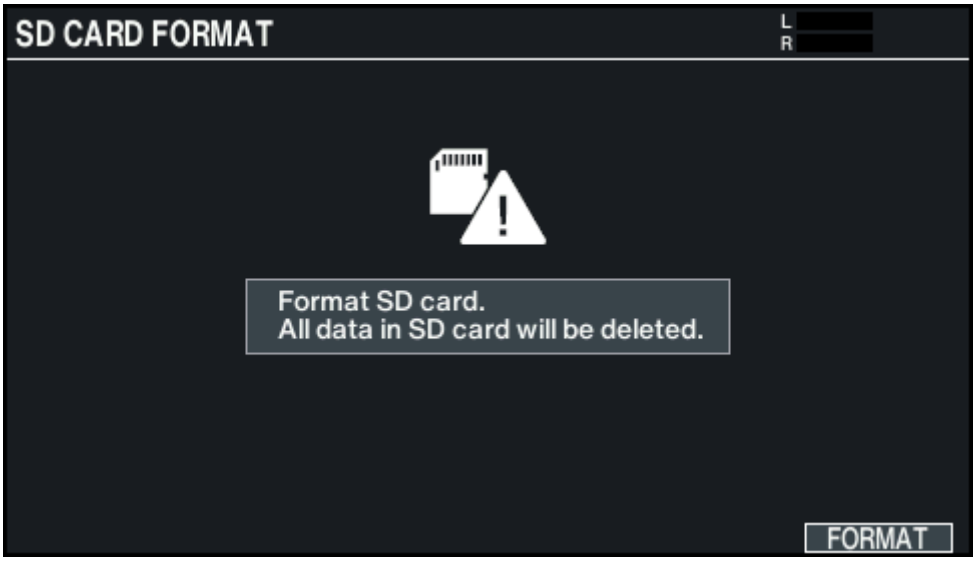
1 SDカードをV31に挿入します。

➡「サイド・パネル／フロント・パネル（P.17）」

2 ［MENU］ボタンを押します。

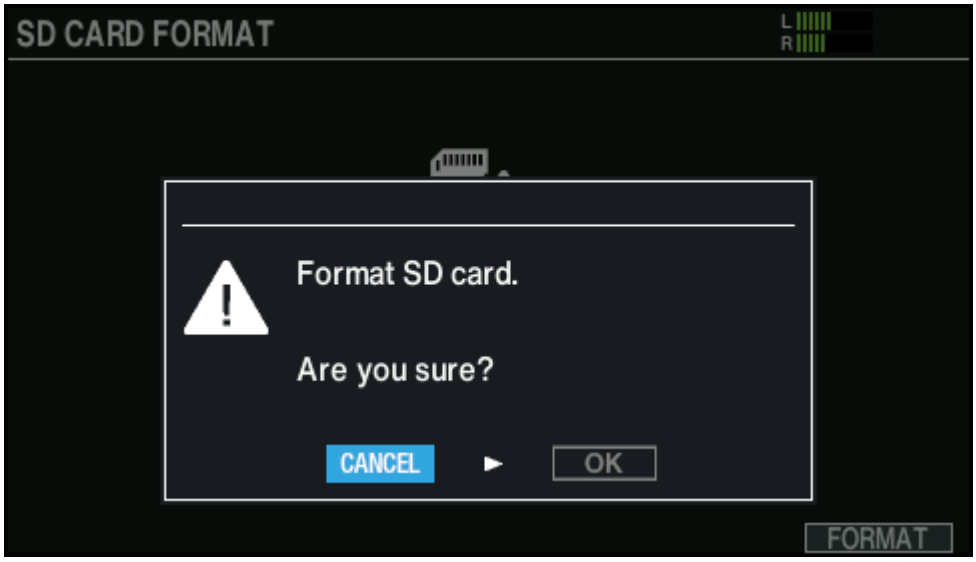
3 カーソル・ボタンで「BACKUP」→「FORMAT」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

SD CARD FORMAT画面が表示されます。



4 ［F6］（FORMAT）ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは、「CANCEL」を選んで［ENTER］ボタンを押します。

5 「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

SDカードが初期化されます。

6 ［ENTER］ボタンを押して、操作を終了します。

データをバックアップする（BACKUP）

V31に記憶されているすべての設定を、SDカードに保存（バックアップ）したり、V31に書き戻しをしたり（ロード）することができます。

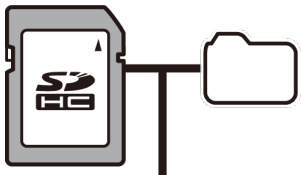
※SDカードにデータをバックアップするときは、あらかじめSDカードを挿入しておきます。
➡「サイド・パネル／フロント・パネル（P.17）」

メモ

ドラム・キットごとにバックアップ／ロードすることもできます。

➡「SDカードにドラム・キットをバックアップする（SAVE 1 KIT）（P.210）」
➡「キット・バックアップ・データをSDカードから読み込む（LOAD 1 KIT）（P.211）」

SDカードのフォルダー構成



EXPORTフォルダー

エクスポートした録音データ（DRUM REC（MIDI）の録音データ）が保存されます。

IMPORTフォルダー

Roland Cloud Managerからダウンロードしたインストゥルメント・エクスパンション、ユーザー・サンプルとしてインポートするオーディオ・ファイル、キット・イメージとしてインポートする画像ファイルは、このフォルダーに保存します。

Rolandフォルダー

V31のソングやバックアップ・データが保存されます。

V31フォルダー

Backupフォルダー

バックアップ・データが保存されます。

Kitフォルダー

ドラム・キットのバックアップ・データが保存されます。

SONGフォルダー

DRUM REC（MIDI）の録音データが保存されます。

RECフォルダー

AUDIO REC（WAV）の録音データが保存されます。

SDカードにバックアップする（SAVE）

V31に記憶されているすべての設定を保存します（最大99セット）。

1 SDカードをV31に挿入します。

➡「サイド・パネル／フロント・パネル（P.17）」

2 ［MENU］ボタンを押します。

3 カーソル・ボタンで［BACKUP］→［SAVE］を選び、［ENTER］ボタンを押します。

SD CARD SAVE ALL画面が表示されます。

4 バックアップの設定をします。

パラメーターの選択：カーソル・ボタン

値の選択：ダイヤル

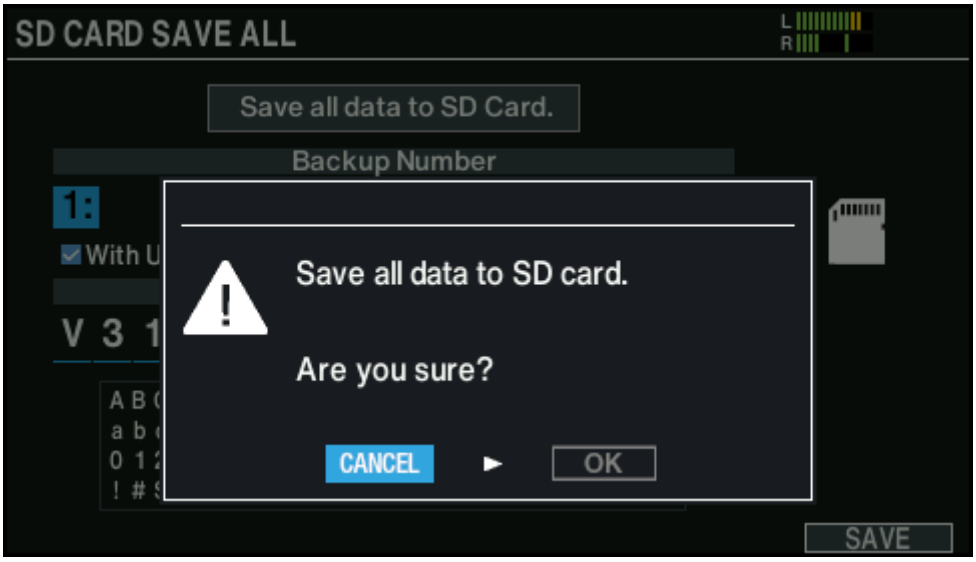
パラメーター	説明
Backup Number	バックアップ番号を選びます。
With User Samples	ユーザー・サンプルをバックアップするか選びます。
Backup Name	バックアップ・データの名前を付けます。

※ ユーザー・サンプルもバックアップする場合、ユーザー・サンプルのサイズによっては、保存に数分かかることがあります。

※ ユーザー・サンプルをバックアップせずに、本体内のユーザー・サンプルを削除したり、リナンバー（RENUMBER）したりすると、バックアップを読み込んでも、ドラム・キットは正しく再現されません。

5 ［F6］（SAVE）ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは、「CANCEL」を選んで［ENTER］ボタンを押します。

6 「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

SDカードに設定が保存されます。

7 ［ENTER］ボタンを押して、操作を終了します。

バックアップ・データをSDカードから読み込む（LOAD）

SDカードに保存したバックアップ・データをV31に読み込みます（ロード）。

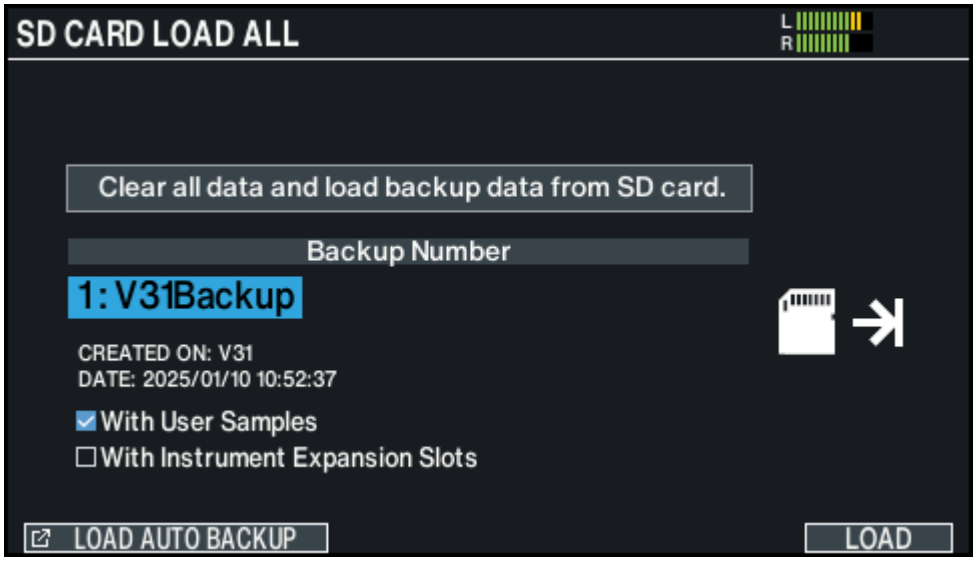
1 SDカードをV31に挿入します

➡「サイド・パネル／フロント・パネル（P.17）」

2 ［MENU］ボタンを押します。

3 カーソル・ボタンで［BACKUP］→［LOAD］を選び、［ENTER］ボタンを押します。

SD CARD LOAD ALL画面が表示されます。



4 ロードの設定をします。

パラメーターの選択：カーソル・ボタン

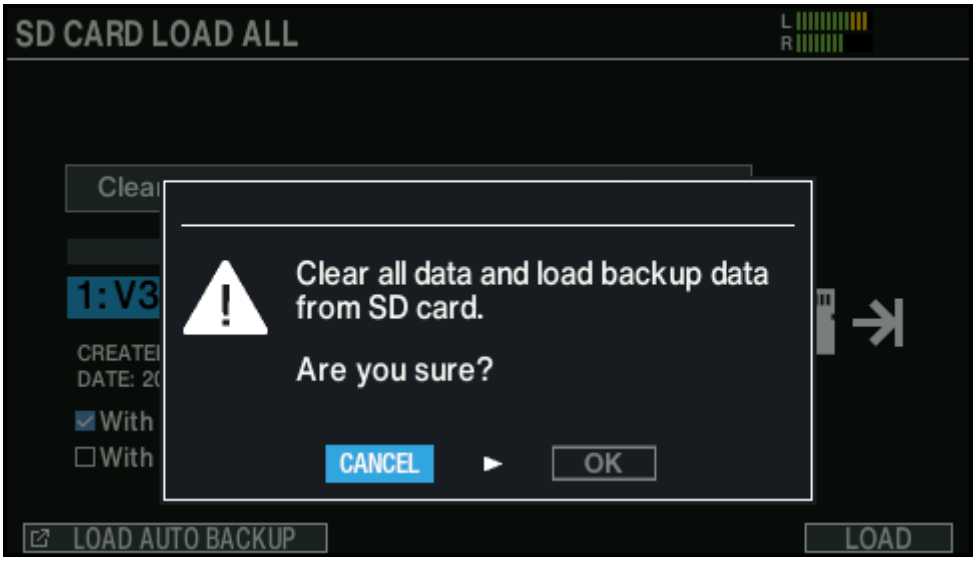
値の選択：ダイヤル

パラメーター	説明
Backup Number	バックアップ番号を選びます。
With User Samples	ユーザー・サンプルをロードするか選びます。
With Expansion Slots	インストゥルメント・エクスパンション／キット・パックをロードするか選びます。 ※インストゥルメント・エクスパンション／キット・パックがラックにインストールされていない場合は、スロットへはロードされません。 ➡ 「ラックとスロット（P.6）」

※ユーザー・サンプルを読み込むと、本体内のユーザー・サンプルはすべて消去されます。また、ユーザー・サンプルのサイズによっては、読み込みに10分以上かかることがあります。

5 ［F6］（LOAD）ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは、「CANCEL」を選んで［ENTER］ボタンを押します。

6 「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

SDカードからバックアップ・データが読み込まれます。

7 ［ENTER］ボタンを押して、操作を終了します。

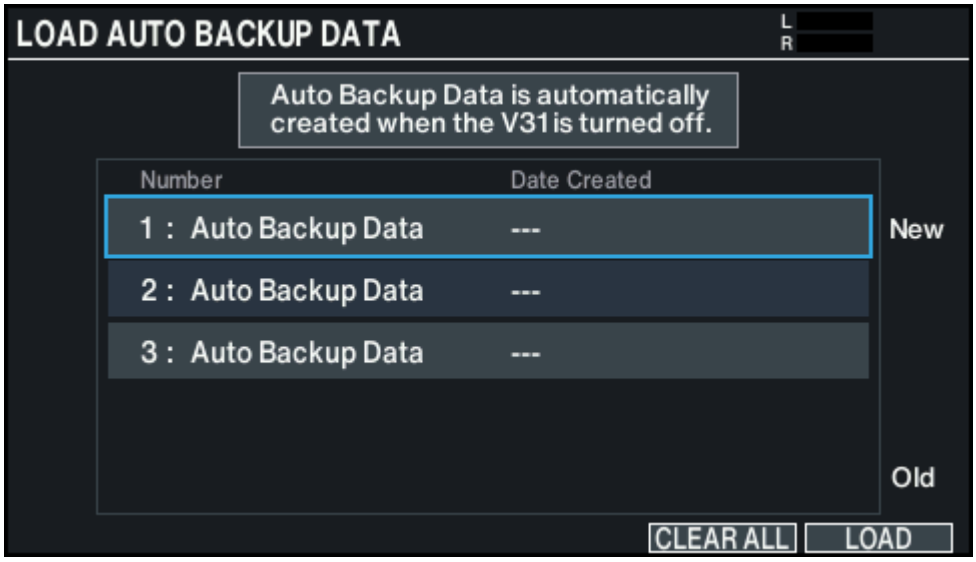
自動でバックアップされたバックアップ・データを読み込む

V31は、電源を切ったときの状態を自動でバックアップします（最新を5つまで）。
自動でバックアップされたバックアップ・データを読み込みます。
※電源を切って新しく自動バックアップされると、古いバックアップ・データから削除されます。
※キット・イメージとユーザー・サンプルはバックアップされません。

1 SD CARD LOAD ALL画面（P.206）を表示します。

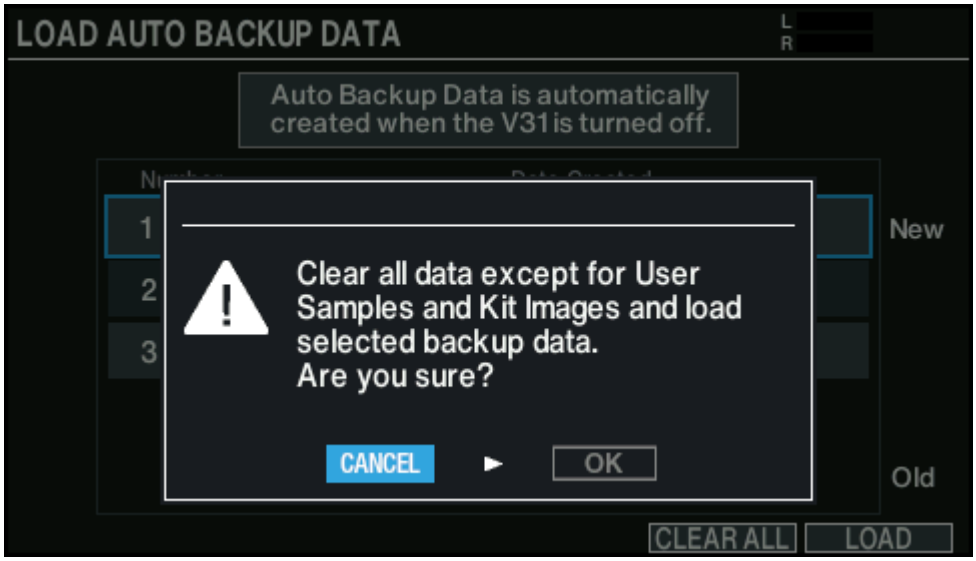
2 ［F1］（LOAD AUTO BACKUP）ボタンを押します。

LOAD AUTO BACKUP DATA画面が表示されます。



3 カーソル・ボタンまたはダイヤルでバックアップ・データを選び、［F6］（LOAD）ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは、「CANCEL」を選んで［ENTER］ボタンを押します。

メモ

［F5］（CLEAR ALL）ボタンを押して、自動でバックアップされたすべてのバックアップ・データを消去することができます。

4 「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

バックアップ・データが読み込まれます。

5 ［ENTER］ボタンを押して、操作を終了します。

SDカードにドラム・キットをバックアップする（SAVE 1 KIT）

V31に記憶されているドラム・キット単体の設定を、SDカードにバックアップします（最大999個）。

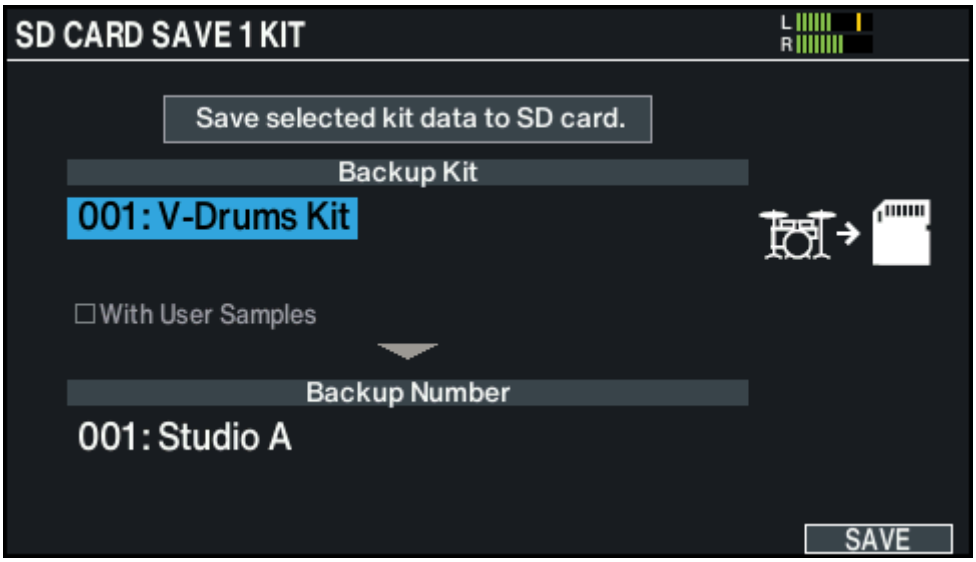
1 SDカードをV31に挿入します

➡「サイド・パネル／フロント・パネル（P.17）」

2 ［MENU］ボタンを押します。

3 カーソル・ボタンで「BACKUP」→「SAVE 1 KIT」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

SD CARD SAVE 1 KIT画面が表示されます。



4 バックアップの設定をします。

パラメーターの選択：カーソル・ボタン
値の選択：ダイヤル

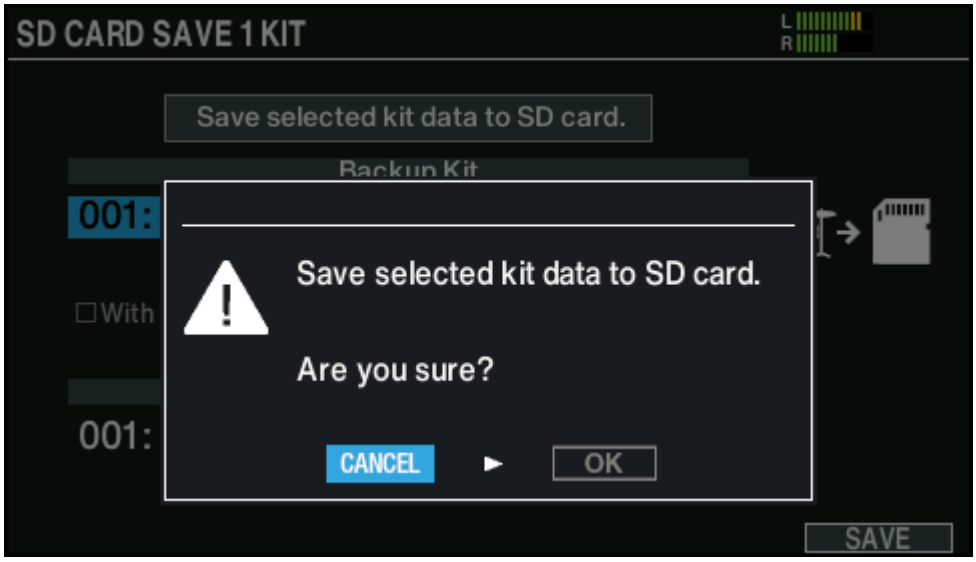
パラメーター	説明
Backup Kit	バックアップするドラム・キットを選びます。
With User Samples	ユーザー・サンプルをバックアップするか選びます。
Backup Number	バックアップ番号を選びます。

※ユーザー・サンプルもバックアップする場合、ユーザー・サンプルのサイズによっては、保存に数分かかることがあります。

※ユーザー・サンプルをバックアップせずに、本体内のユーザー・サンプルを削除したり、リナンバー（RENUMBER）したりすると、バックアップを読み込んでも、ドラム・キットは正しく再現されません。

5 ［F6］（SAVE）ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは、「CANCEL」を選んで［ENTER］ボタンを押します。

6 「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

SDカードにキット・バックアップ・データが保存されます。

7 ［ENTER］ボタンを押して、操作を終了します。

キット・バックアップ・データをSDカードから読み込む（LOAD 1 KIT）

SDカードに保存したキット・バックアップ・データをV31にロードします。

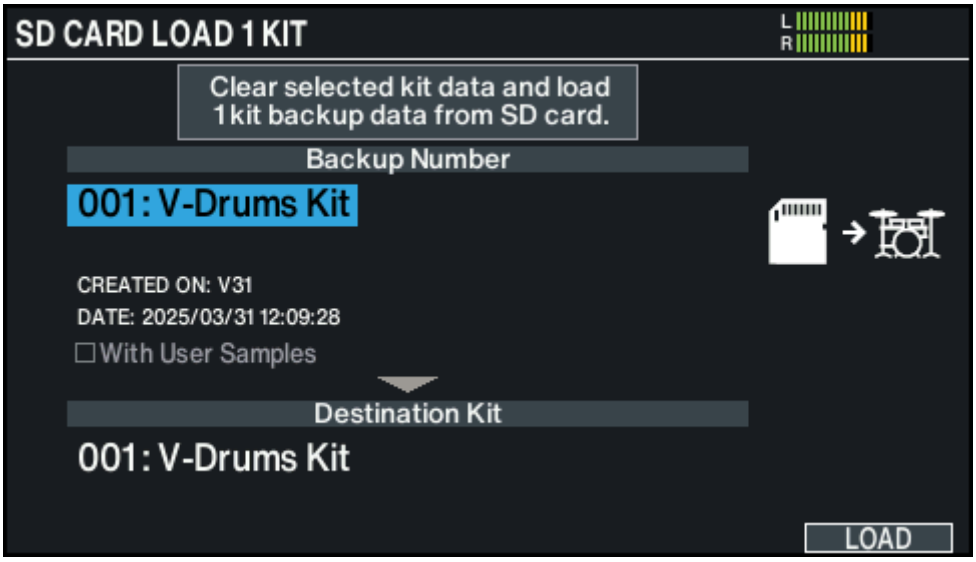
1 SDカードをV31に挿入します。

➡「サイド・パネル／フロント・パネル（P.17）」

2 ［MENU］ボタンを押します。

3 カーソル・ボタンで「BACKUP」→「LOAD 1 KIT」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

SD CARD LOAD 1 KIT画面が表示されます。



4 ロードの設定をします。

パラメーターの選択：カーソル・ボタン
値の選択：ダイヤル

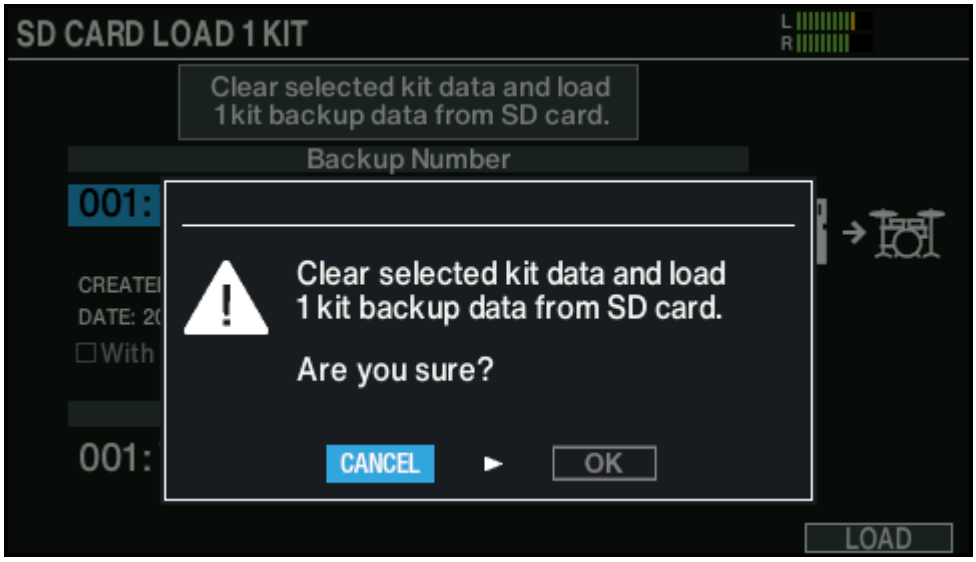
パラメーター	説明
Backup Number	バックアップ番号を選びます。 バックアップを作成した製品名と日時（*1）が表示されます。
With User Samples	ユーザー・サンプルをロードするか選びます。
Destination Kit	ロード先のドラム・キットを選びます。

*1：Wi-Fi接続時にバックアップしたデータのみ

※ ユーザー・サンプルを読み込むと、読み込みに10分以上かかることがあります。

5 ［F6］（LOAD）ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは、「CANCEL」を選んで［ENTER］ボタンを押します。

6 「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

SDカードからバックアップ・データが読み込まれます。

7 ［ENTER］ボタンを押して、操作を終了します。

V71やV51のキット・バックアップ・データをロードする

1 パソコンを使って、ロードしたいV71またはV51のキット・バックアップ・データを、SDカードのKitフォルダーに保存します。

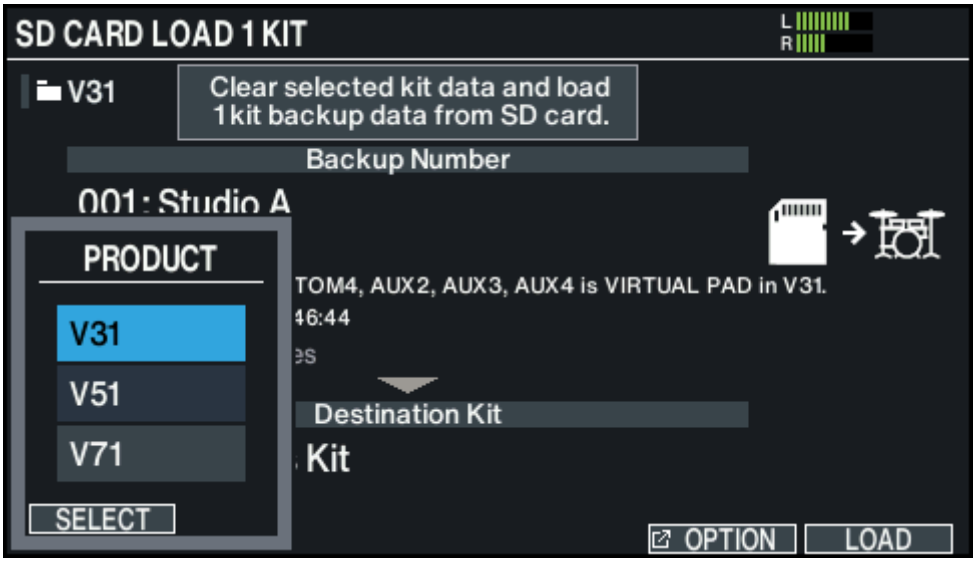
➡「SDカードのフォルダー構成（P.204）」

2 SDカードをV31に挿入します。

➡「サイド・パネル／フロント・パネル（P.17）」

3 SD CARD LOAD 1 KIT画面（P.211）で、［F1］（PRODUCT）ボタンを押します。

4 カーソル［▼］［▲］ボタンまたはダイヤルで、ロードするキット・バックアップ・データの製品名を選び、［F1］（SELECT）ボタンを押します。



5 ロードの設定をします。

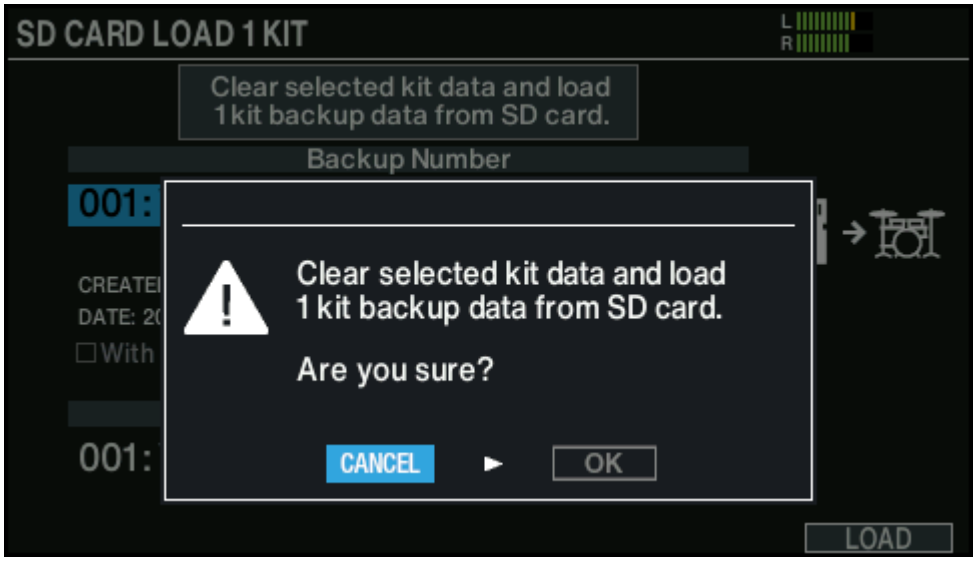
パラメーターの選択：カーソル・ボタン
値の選択：ダイヤル

パラメーター	説明
Backup Number	バックアップ番号を選びます。 バックアップを作成した製品名と日時（*1）が表示されます。
With User Samples	ユーザー・サンプルをロードするか選びます。
Destination Kit	ロード先のドラム・キットを選びます。

*1：Wi-Fi接続時にバックアップしたデータのみ
※ユーザー・サンプルを読み込むと、読み込みに10分以上かかることがあります。

6 ［F6］（LOAD）ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは、「CANCEL」を選んで［ENTER］ボタンを押します。

7 「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

SDカードからバックアップ・データが読み込まれます。

8 ［ENTER］ボタンを押して、操作を終了します。

バックアップ・データをSDカードから削除する（DELETE／DEL 1 KIT）

不要なバックアップ・データ（ユーザー・サンプルを含む）をSDカードから削除します。

1 SDカードをV31に挿入します

➡「サイド・パネル／フロント・パネル（P.17）」

2 ［MENU］ボタンを押します。

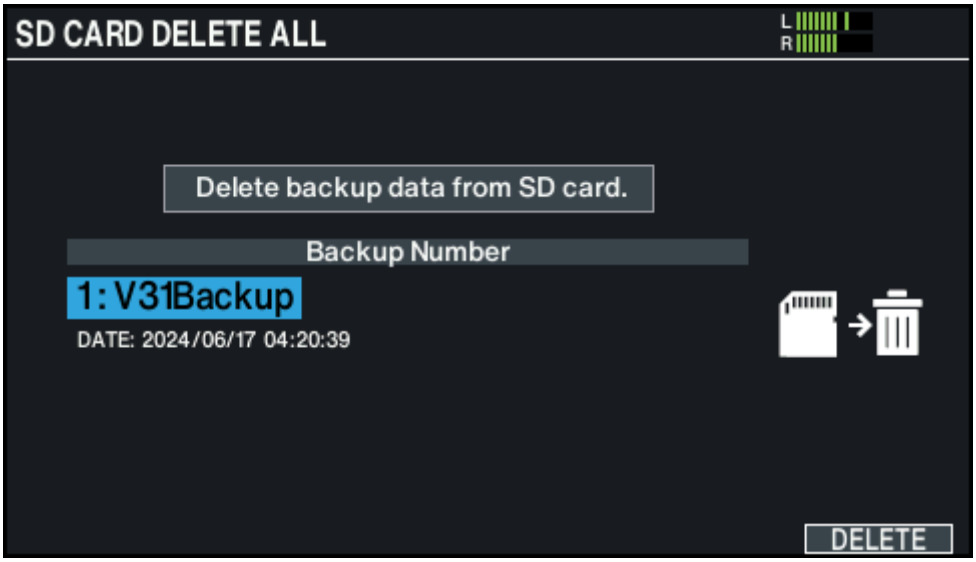
3 カーソル・ボタンで「BACKUP」を選びます。

4 カーソル・ボタンまたはダイヤルでバックアップ・メニューを選び、［ENTER］ボタンを押します。

バックアップ・メニュー	説明
DELETE	バックアップ・データを削除します。

バックアップ・メニュー	説明
DEL 1 KIT	キット・バックアップ・データを削除します。

例）DELETEのとき



5 削除の設定をします。

パラメーター	説明
DELETE	削除するバックアップ番号を選びます。
DEL 1 KIT	削除するキット・バックアップ番号を選びます。

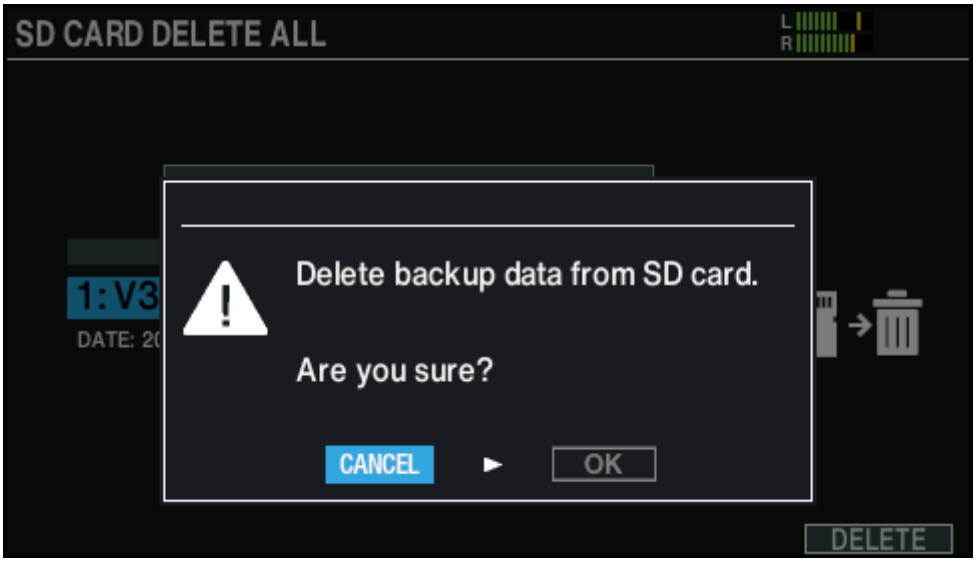
メモ

Wi-Fi接続時に保存したバックアップ・データには、バックアップした日時が表示されます。

6 ［F6］（DELETE）ボタンを押します。

確認画面が表示されます。

例）DELETEのとき



中止するときは、「CANCEL」を選んで［ENTER］ボタンを押します。

7 「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

SDカードからバックアップ・データが削除されます。

8 ［ENTER］ボタンを押して、操作を終了します。

SDカードの使用状況を確認する（INFO）

SDカードに保存されている設定の数などを確認することができます。

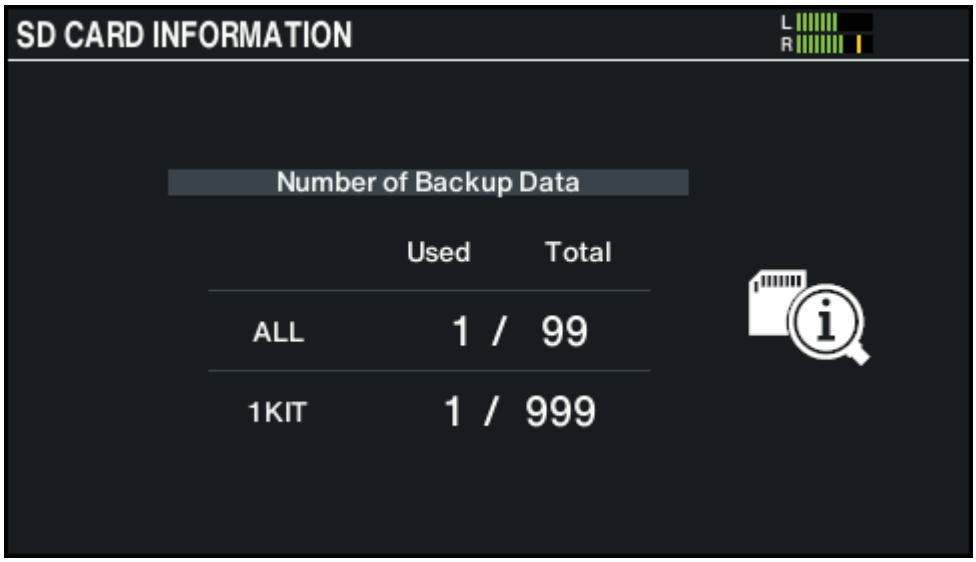
1 SDカードをV31に挿入します

➡「サイド・パネル／フロント・パネル（P.17）」

2 ［MENU］ボタンを押します。

3 カーソル・ボタンで「BACKUP」→「INFO」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

SD CARD INFORMATION画面が表示されます。



パラメーター	説明
ALL	保存されているバックアップ・データの数
1 KIT	保存されているキット・バックアップ・データの数

4 ［KIT］ボタンを押して、KIT画面に戻ります。

V31全体の設定をする（SYSTEM）

V31の出力先の設定やトリガーの設定など、V31全体で共通の設定をします。

1 ［MENU］ボタンを押します。

2 カーソル・ボタンで「SYSTEM」を選びます。

SETUP画面が表示されます。

3 カーソル・ボタンまたはダイヤルで設定したいメニューを選び、［ENTER］ボタンを押します。

メニュー	説明
Wi-Fi	V31をWi-Fiに接続し、「Roland Cloud Connect」アプリと接続することができます。 ➡別紙『Roland Cloud Connectセットアップ・ガイド』をご覧ください。
Bluetooth	Bluetoothの設定をします。 ➡「スマートフォンとBluetooth接続する（P.47）」
AUDIO IN	MIX IN端子とBluetoothオーディオの入力音量を設定します。
TRIGGER	トリガーの設定をします。 ➡「トリガーの設定（P.154）」
MIDI	V31全体のMIDI設定をします。
OUTPUT	音の出力先を設定します。
USB AUDIO	USBオーディオを設定します。 ➡「パソコンやスマートフォンと接続して使う（P.134）」
AUTO OFF	オート・オフの設定を設定します。 ➡「一定時間が経つと自動で電源が切れるようにする（AUTO OFF）（P.22）」
OPTION	ディスプレイ、キット・フレーズなどの設定をします。
INFO	本体メモリーの残量やシステム・プログラムのバージョンを確認します。
FACTORY RESET	工場出荷時の設定に戻します。 ➡「工場出荷時の設定に戻す（P.228）」

4 選んだメニューに応じて、設定を変更します。

Roland Cloud ConnectアプリとWi-Fiで接続する（Wi-Fi）

V31をWi-Fiに接続し、「Roland Cloud Connect」アプリと接続することができます。

V31とWi-Fiとの接続方法について、詳しくは別紙『Roland Cloud Connectセットアップ・ガイド』をご覧ください。

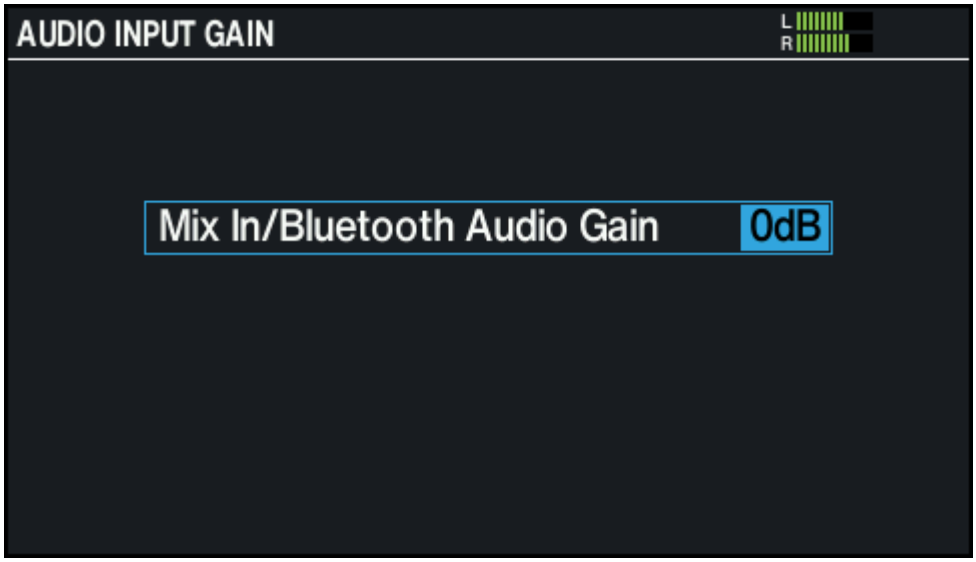
MIX IN端子とBluetoothオーディオの入力音量を設定する（AUDIO IN）

MIX IN端子とBluetoothオーディオの入力音量を設定します。

1 **［MENU］ボタンを押します。**

2 **カーソル・ボタンで「SYSTEM」→「AUDIO IN」を選び、［ENTER］ボタンを押します。**

AUDIO INPUT GAIN画面が表示されます。



3 **ダイヤルで値を変更します。**

設定値	説明
0、+6、+12dB	MIX IN端子とBluetoothオーディオの入力音量を設定します。

4 **［KIT］ボタンを押して、KIT画面に戻ります。**

MIDIの設定をする（MIDI）

V31全体のMIDIを設定します。

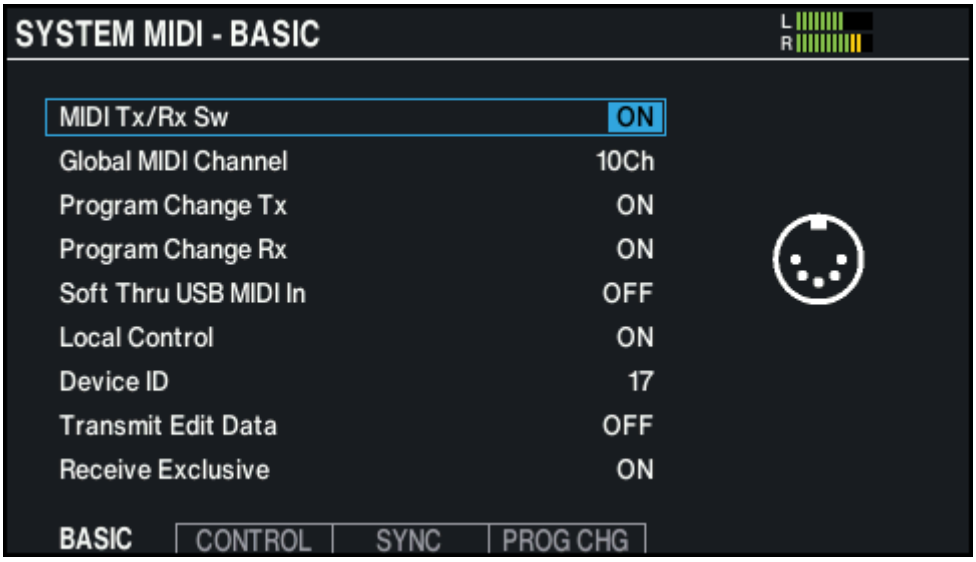
メモ

設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』（Web）をご覧ください。

1 **［MENU］ボタンを押します。**

2 カーソル・ボタンで［SYSTEM］→［MIDI］を選び、［ENTER］ボタンを押します。

SYSTEM MIDI画面が表示されます。



3 ［F1］（BASIC）～［F4］（PROG CHG）ボタンを押して、設定する項目を選びます。

ボタン	説明
［F1］（BASIC）ボタン	V31がMIDIデータを送受信するチャンネルの設定など、MIDIの基本的な設定をします。
［F2］（CONTROL）ボタン	パッドの打点位置やハイハットの踏み込む深さなどに合わせて送受信する、MIDIメッセージを設定します。 メモ 初期値に戻すときは、［F6］（DEFAULT）ボタンを押します。
［F3］（SYNC）ボタン	MIDIの同期に関する設定をします。
［F4］（PROG CHG）ボタン	ドラム・キットと送受信されるプログラム・チェンジとの対応を、自由に設定することができます。

4 カーソル・ボタンでパラメーターを選び、ダイヤルで値を変更します。

5 ［KIT］ボタンを押して、KIT画面に戻ります。

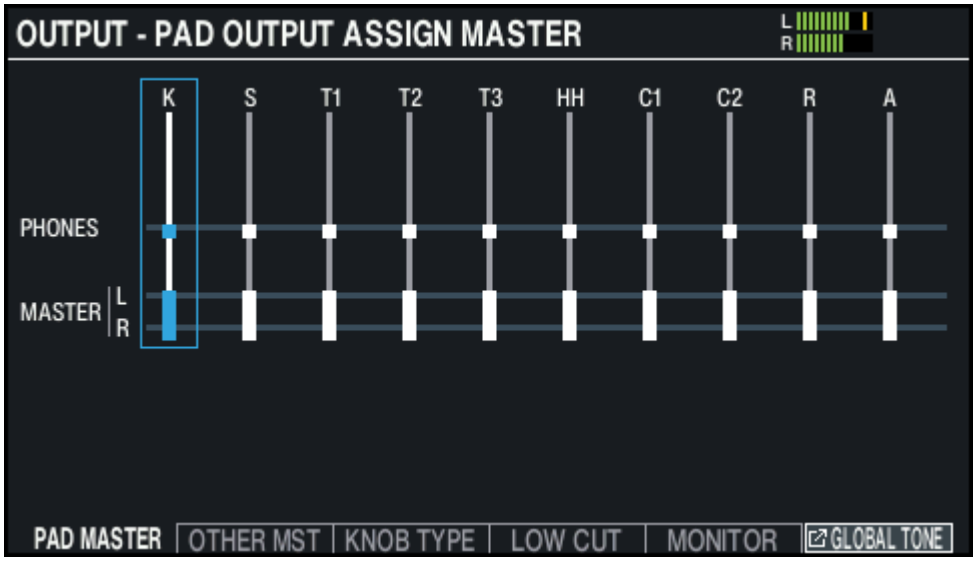
音の出力先を設定する（OUTPUT）

MASTER OUT端子とPHONES端子からの出力を設定します。

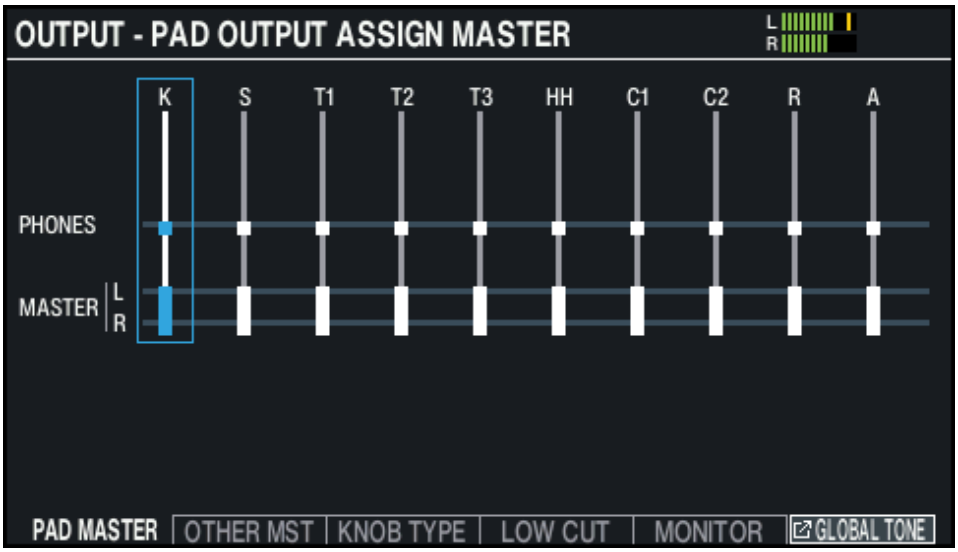
1 ［MENU］ボタンを押します。

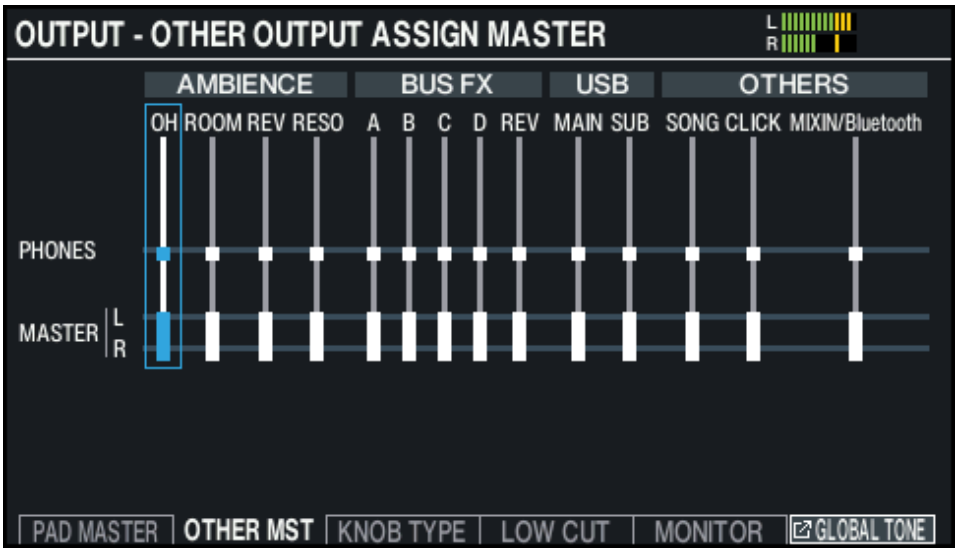
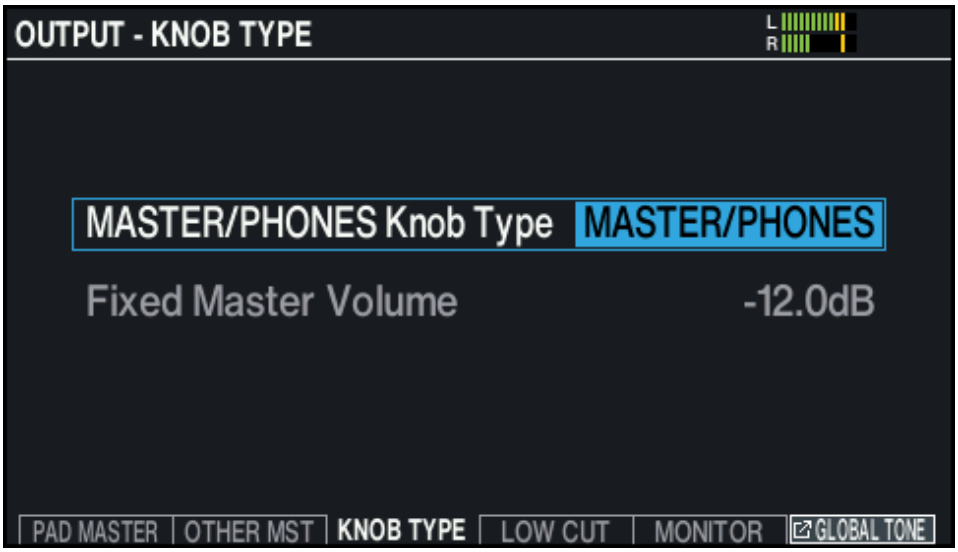
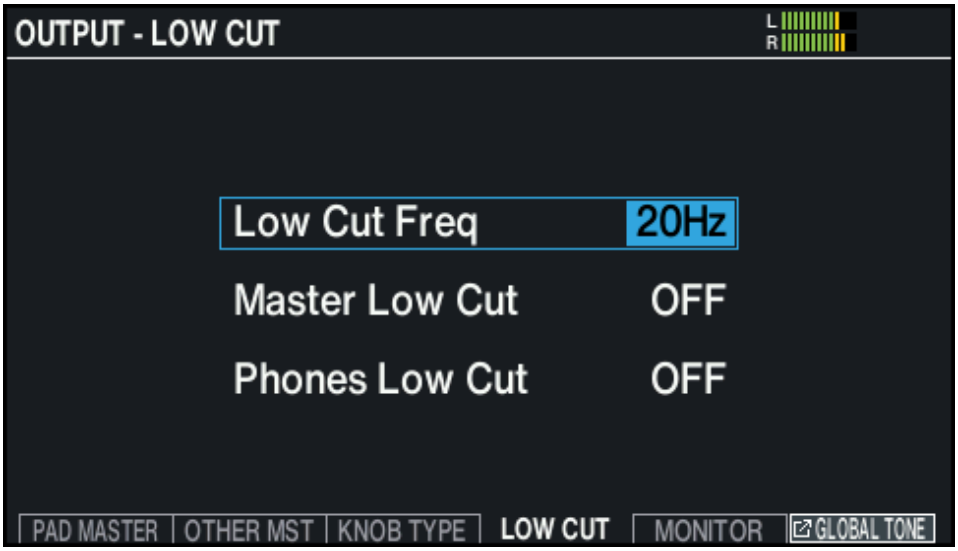
2 カーソル・ボタンで「SYSTEM」→「OUTPUT」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

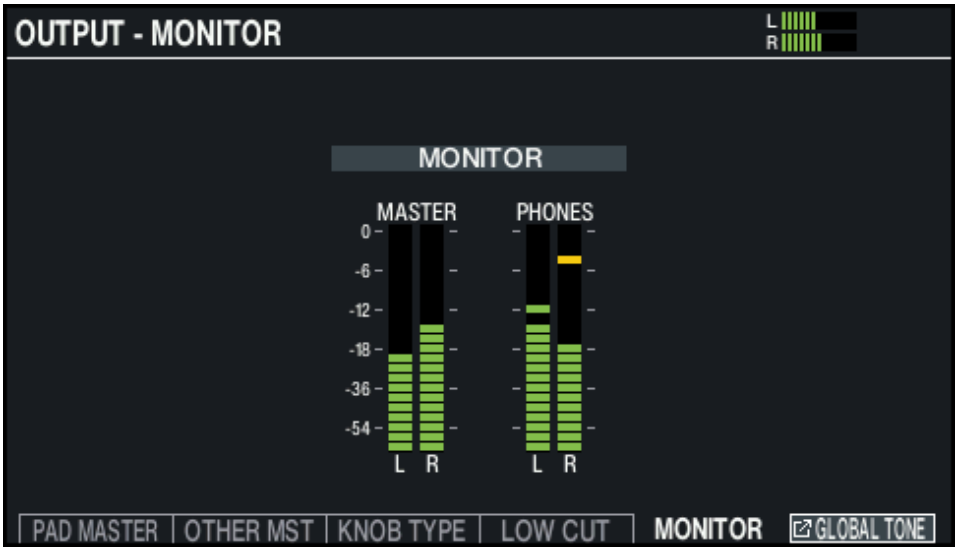
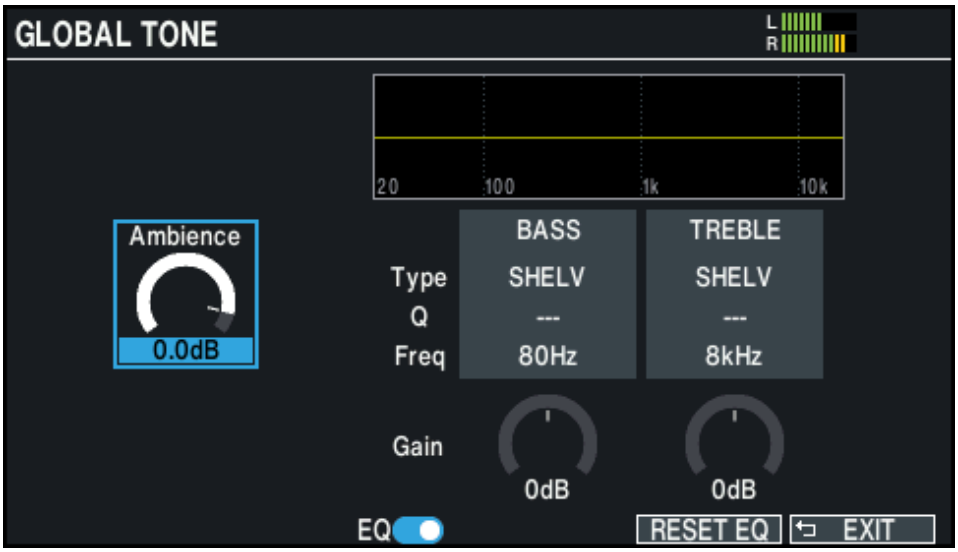
OUTPUT画面が表示されます。



3 ファンクション・ボタンで、設定したい機能を選びます。

ボタン	説明
［F1］（PAD MASTER）ボタン	各パッドのPHONES端子、MASTER OUT端子からの出力を設定します。 

ボタン	説明
[F2] （OTHER MST）ボタン	アンビエンス、BUS FX、USBオーディオ、ソングなどの、PHONES端子、MASTER OUT端子からの出力を設定します。 
[F3] （KNOB TYPE）ボタン	[MASTER/PHONES] つまみの設定をします。 
[F4] （LOW CUT）ボタン	設定した周波数より低い周波数成分をカットします（ロー・カット）。 すべての出力端子で共通の設定になります。 

ボタン	説明
[F5] （MONITOR）ボタン	PHONES端子とMASTER OUT端子の出力音量を確認することができます。 
[F6] （GLOBAL TONE）ボタン	すべてのドラム・キットにかかる、アンビエンスやイコライザーを調節することができます。 

※OUTPUTのパラメーターについては、『データ・リスト』（Web）をご覧ください。

4 パッドを叩くかカーソル［◀］［▶］ボタンを押して、設定するパッドまたは機能を選びます。

表示	説明
K	KICK
S	SNARE
T1～3	TOM1～3
HH	HI-HAT
C1、C2	CRASH1、2
R	RIDE
A	AUX

表示	説明
AMBIENCE ➡「演奏する場所の残響を再現する（AMBIENCE）（P.91）」	
OH	オーバーヘッド
ROOM	ルーム
REV	リバーブ
RESO	キット・レゾナンス
BUS FX ➡「エフェクトをかける（BUS FX）（P.96）」	
A～D	BUS-A～D
REV	BUS FXのリバーブ
USB	
MAIN、SUB	USB COMPUTER端子に入力された音 ➡「USBオーディオの入力を設定する（P.137）」
OTHERS	
SONG	ソング ➡「曲に合わせて演奏する（P.47）」
CLICK	クリックと、ソングのクリック・トラックの出力 ➡「クリックを鳴らす（P.34）」 ➡「オーディオ・ファイルをクリックとして再生する（クリック・トラック）（P.54）」
MIXIN/Bluetooth	MIX IN端子に入力された音と、Bluetoothオーディオの音 ➡「リア・パネル（接続する）（P.19）」 ➡「スマートフォンの曲に合わせて演奏する（P.47）」

5 **カーソル［▼］［▲］ボタン／ダイヤルで、出力先を選びます。**

6 **［KIT］ボタンを押して、KIT画面に戻ります。**

その他の設定（OPTION）

ディスプレイやキット・フレーズ機能に関する設定などをします。

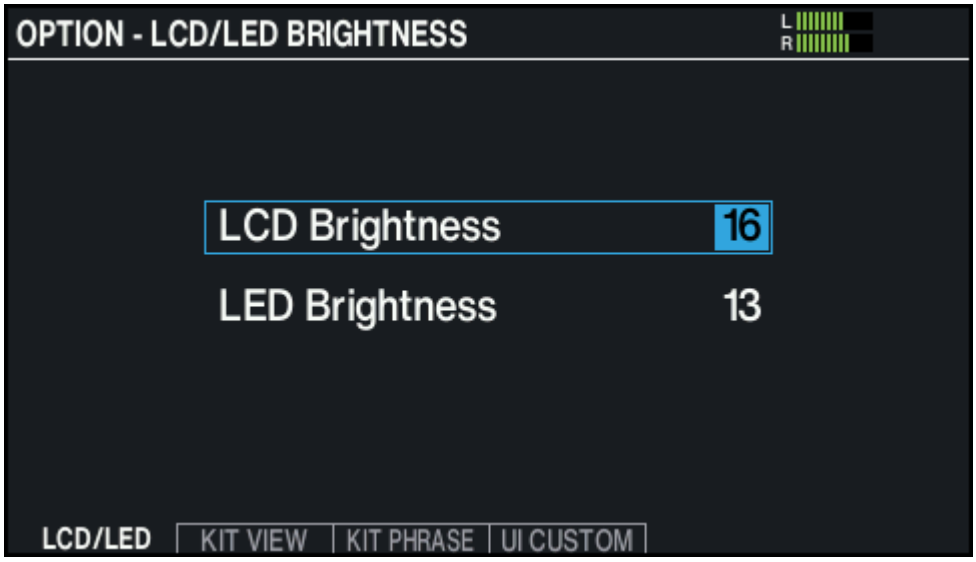
メモ

設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』（Web）をご覧ください。

1 **［MENU］ボタンを押します。**

2 カーソル・ボタンで「SYSTEM」→「OPTION」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

OPTION画面が表示されます。



3 ［F1］（LCD/LED）～［F4］（UI CUSTOM）ボタンを押して、設定する項目を選びます。

ボタン	説明
［F1］（LCD/LED）ボタン	ディスプレイやボタンの明るさを調節します。
［F2］（KIT VIEW）ボタン	KIT画面で表示する背景や文字サイズを設定します。
［F3］（KIT PHRASE）ボタン	キット・フレーズ機能の有効／無効を切り替えます。 ➡「ドラム・キットの音を確認する（キット・フレーズ）（P.29）」
［F4］（UI CUSTOM）ボタン	バーチャル・パッドを画面に表示するかを設定します。 ➡「バーチャル・パッドを使う（P.132）」

4 カーソル・ボタンでパラメーターを選び、ダイヤルで値を変更します。

5 ［KIT］ボタンを押して、KIT画面に戻ります。

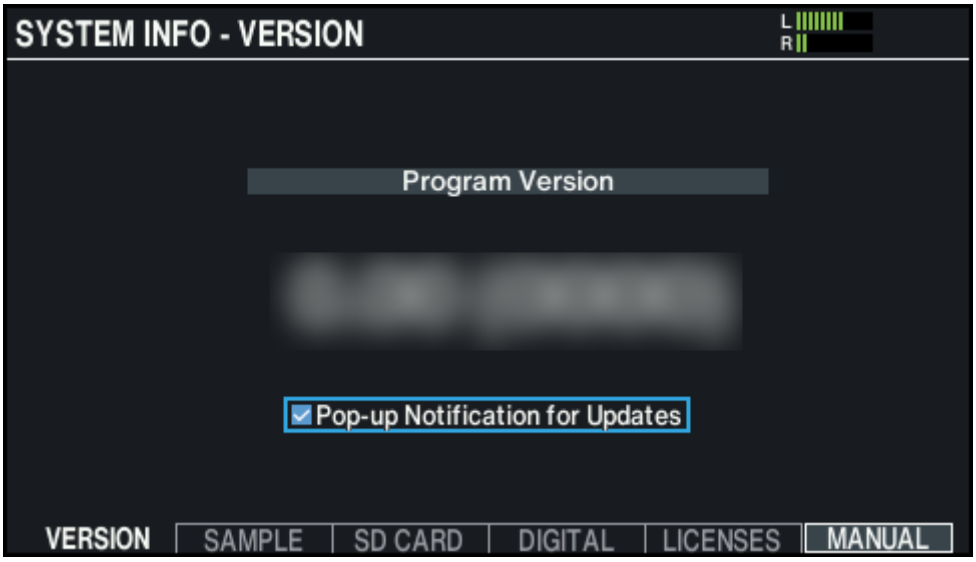
V31本体に関する情報を表示する（INFO）

プログラムのバージョンなど、V31本体に関する情報を表示します。

1 ［MENU］ボタンを押します。

2 カーソル・ボタンで［SYSTEM］→［INFO］を選び、［ENTER］ボタンを押します。

SYSTEM INFO画面が表示されます。



3 ［F1］（VERSION）～［F5］（LICENSES）ボタンを押して、表示する項目を選びます。

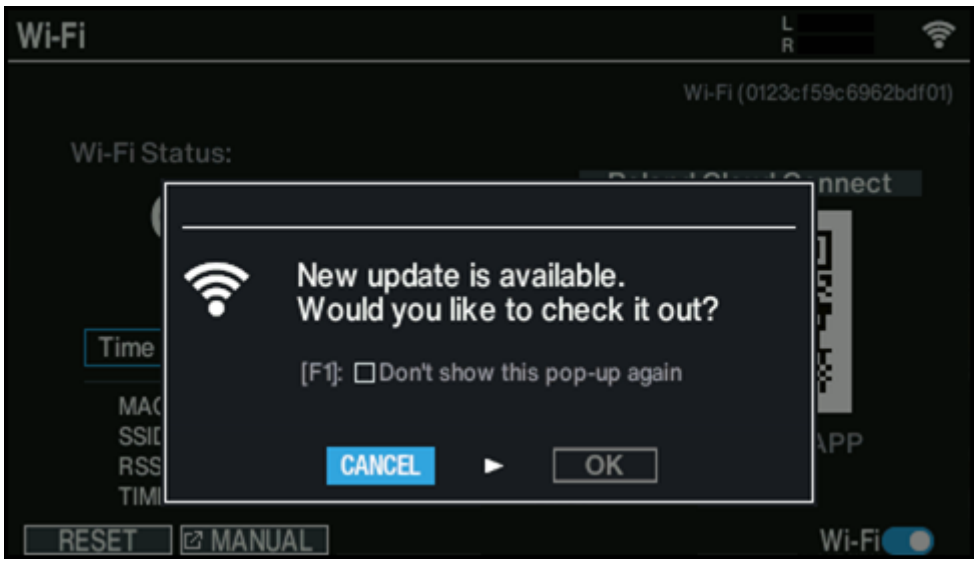
ボタン	説明
［F1］（VERSION）ボタン	プログラムのバージョンを表示します。 「Pop-up Notification for Updates」にチェックを入れると、プログラム更新時にポップアップで通知されます（Wi-Fi接続時のみ）。 VERSIONタブを選んでいるときに［F6］（MANUAL）ボタンを押すと、V31のWebページとサポート・ページにスマートフォンから簡単にアクセスできる2次元コードの画面が表示されます。
［F2］（SAMPLE）ボタン	取り込んだユーザー・サンプル数と、ユーザー・メモリーのユーザー・サンプルの残量を表示します。
［F3］（SD CARD）ボタン	SDカードに保存している、バックアップ・データ、キット・バックアップ・データ数を表示します。
［F4］（DIGITAL）ボタン	V31に接続しているデジタル接続対応パッドのバージョンを表示します。 選ばれているパッドのFUNCボタンが点滅します。
［F5］（LICENSES）ボタン	V31で使用されている技術のライセンス情報が表示されます。

4 ［KIT］ボタンを押して、KIT画面に戻ります。

Wi-Fi経由でV31本体をアップデートする

V31では、Wi-Fi経由で本体をアップデートすることができます。

Wi-Fi接続時、新しいプログラムがあるとアップデートのメッセージが表示されます。



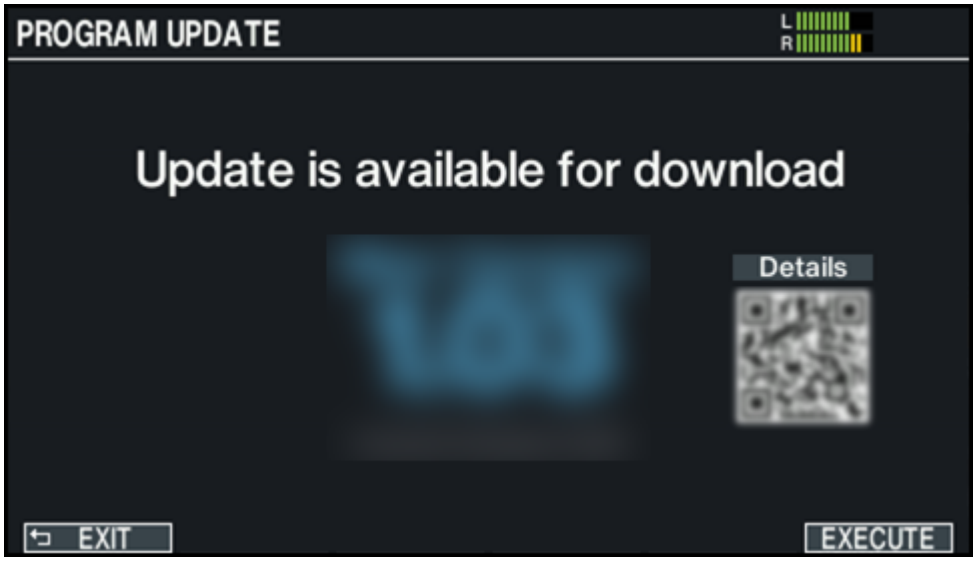
※［F1］ボタンを押すと、今後アップデートのメッセージは表示されません。再びメッセージを表示したい場合は、SYSTEM INFO - VERSION画面（P.225）で「Pop-up Notification for Updates」にチェックを入れてください。

※アップデートのメッセージを閉じたり、メッセージを表示しない設定にしたりしていても、新しいプログラムがある場合はSYSTEM INFO - VERSION画面に「Update Available」と表示されます。［SHIFT］ボタンを押しながら［F1］ボタンを押して、アップデートすることができます。

1 「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

新しいプログラムのバージョンが表示されます。

プログラムの更新内容は、画面に表示されている2次元コードからアクセスして確認することができます。



2 ［F6］（EXECUTE）ボタンを押します。

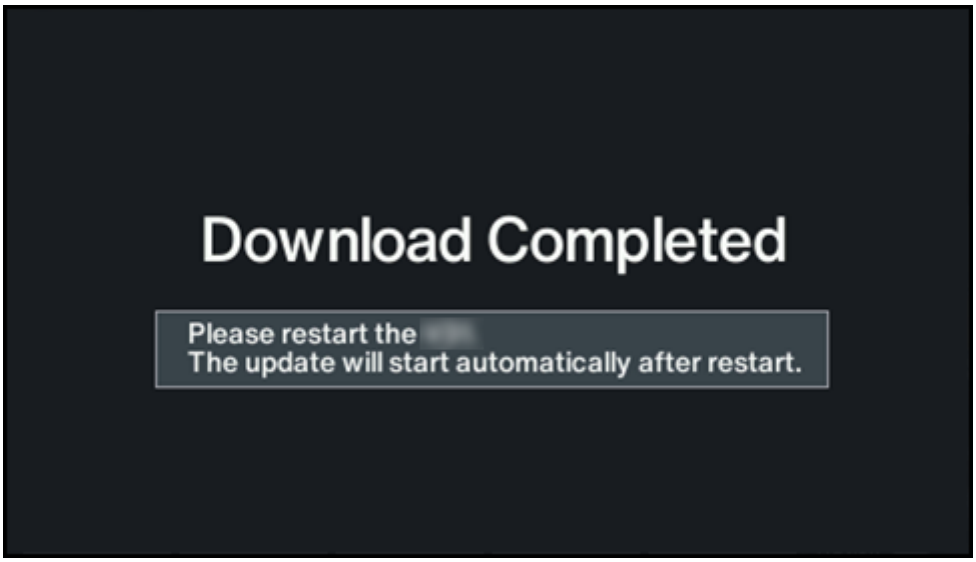
確認画面が表示されます。

中止するときは、「CANCEL」を選んで［ENTER］ボタンを押します。

「OK」を選ぶと、新しいプログラムのダウンロードが始まります。ダウンロードからアップデートが完了するまで15分以上かかる場合があります。

3 「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

プログラムのダウンロードが始まります。
「Download Completed」と表示されたらダウンロード完了です。



4 電源を入れ直します。

電源を入れ直すと、自動でアップデートが始まります。
※ アップデート中は絶対に電源を切らないでください。

工場出荷時の設定に戻す

V31に記憶されている設定値を、工場出荷時の状態に戻します。これをファクトリー・リセットと呼びます。

注意

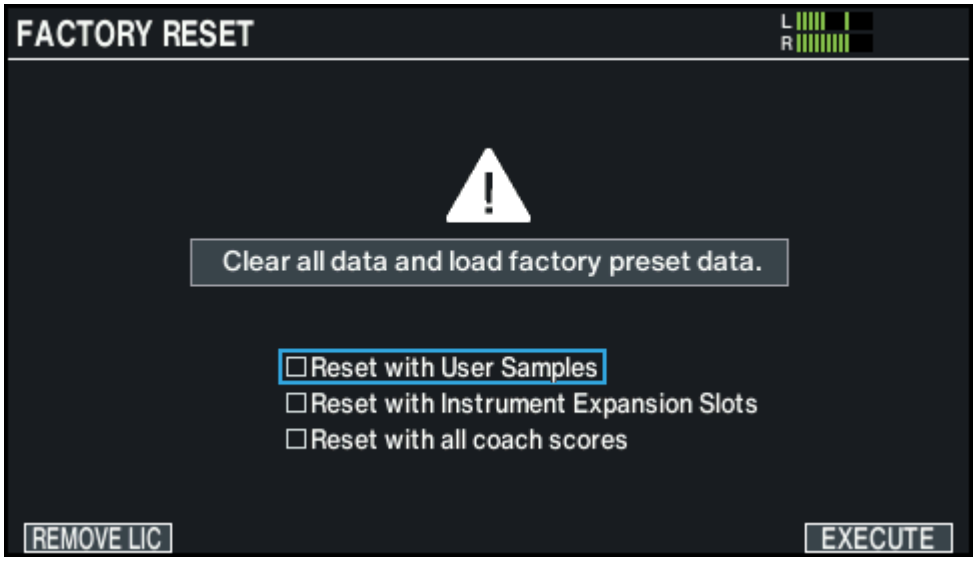
この操作をすると、V31にあるデータや設定がすべて失われます。必要なデータや設定は、SDカードに保存してください。

➡「データをバックアップする（BACKUP）（P.203）」

1 ［MENU］ボタンを押します。

2 カーソル・ボタンで「SYSTEM」→「FACTORY RESET」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

FACTORY RESET画面が表示されます。



パラメーターの選択：カーソル・ボタン

値の選択：ダイヤル

パラメーター	説明
Reset with User Samples	V31に取り込んだすべてのユーザー・サンプルを工場出荷時に戻すか選びます。 ※ユーザー・メモリーのすべてのユーザー・サンプルは、工場出荷時のデータに上書きされます。
Reset with Expansion Slots	スロットにロードしたインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックを工場出荷時に戻すか選びます。
Reset with All Coach Scores	コーチ・モードで記録した得点を消去するか選びます。

3 ［F6］（EXECUTE）ボタンを押します。

確認画面が表示されます。

中止するときは「EXIT」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

4 「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

ファクトリー・リセットが実行されます。

5 ［ENTER］ボタンを押して、操作を終了します。

HI-HAT OFFSET CALIBRATION画面が表示されます。

6 「ハイハットの設定をする」の手順4に従って、ハイハットの設定をしてください。

➡「ハイハットの設定をする（P.22）」

ドラム・キットを工場出荷時の設定に戻す

コピー機能を使って、ドラム・キットごとに工場出荷時の設定（プリセット・キット）に戻すことができます。

1 ［MENU］ボタンを押します。

2 カーソル・ボタンで「COPY」→「KIT」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

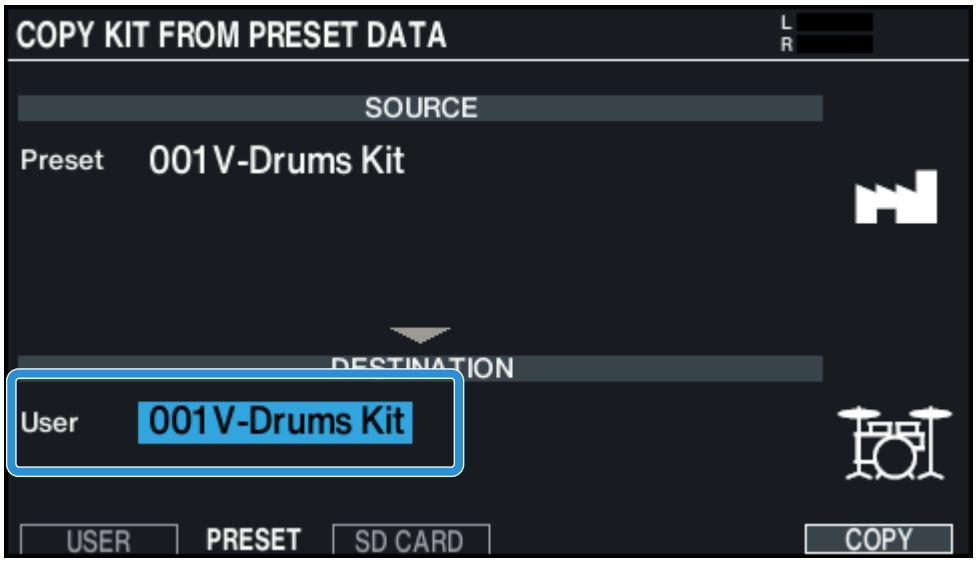
COPY画面が表示されます。

3 ［F2］（PRESET）ボタンを押します。

COPY KIT FROM PRESET DATA画面が表示されます。

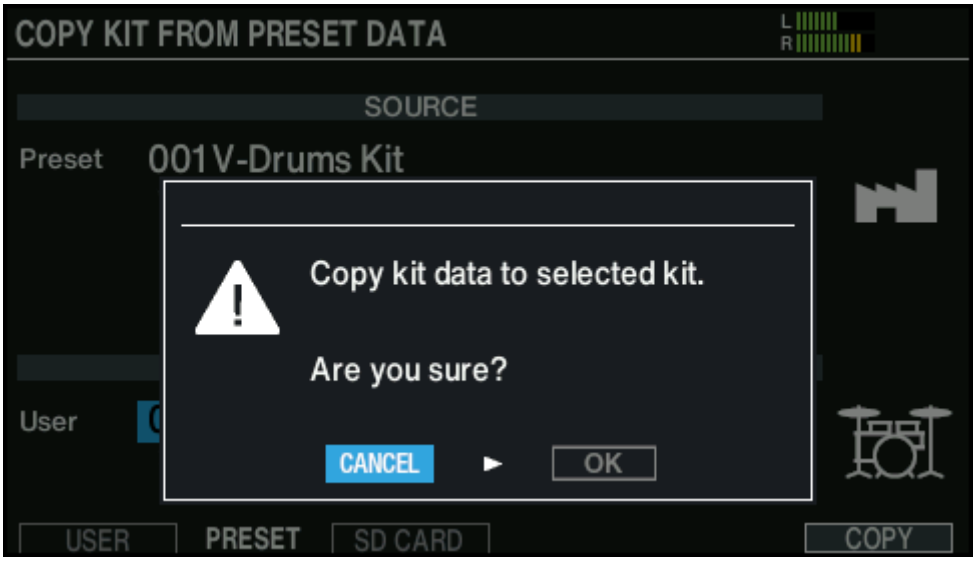
4 プリセット・キットにカーソルを合わせ、ダイヤルで工場出荷時の設定に戻したいキットと同じ番号のプリセット・キットを選びます。

5 ユーザー・ドラム・キットにカーソルを合わせ、ダイヤルでプリセットに戻したいキットを選びます。



6 ［F6］（COPY）ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは、「CANCEL」を選んで［ENTER］ボタンを押します。

7 「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

キットのコピーが実行されます。

Roland Cloudのライセンス情報も含めて工場出荷状態に戻す

Roland CloudからインストゥルメントエクスパンションをV31のラックにインストールすると、V31本体にRoland Cloudのライセンス情報が保存されます。

これらの情報と、本体にロードされたキット・バックアップ・データや、ユーザー・サンプルなどすべてを工場出荷時の状態に戻します。

1 FACTORY RESET画面（P.228）で、［F1］（REMOVE LIC）ボタンを押します。

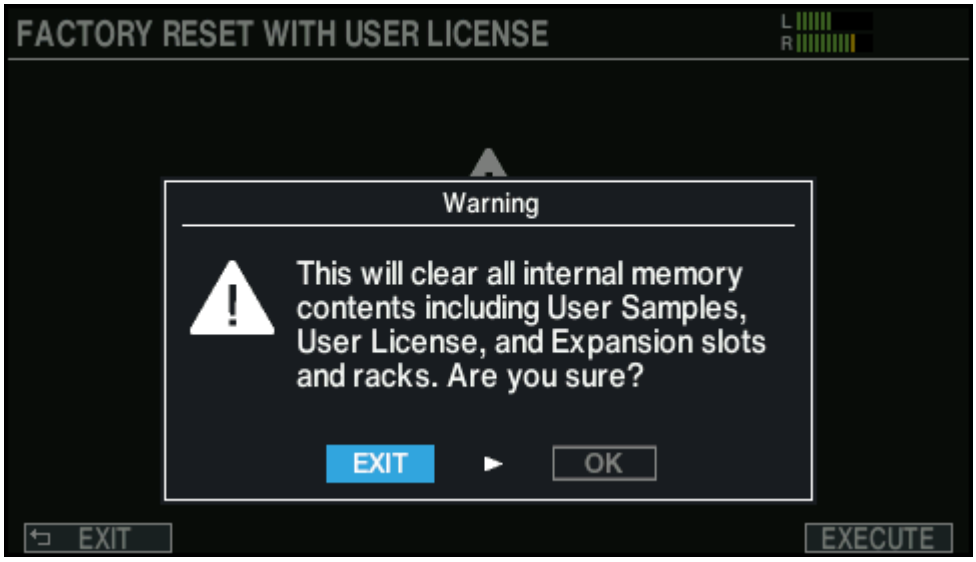
FACTORY RESET WITH USER LICENSE画面が表示されます。

※この画面ではチェックをはずすことはできません。

中止するときは［F1］（EXIT）ボタンを押します。

2 ［F6］（EXECUTE）ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは「EXIT」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

3 「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

ファクトリー・リセットを実行するとともに、本体に記録されたRoland Cloudに関連する情報も削除されます。

4 ［ENTER］ボタンを押して、操作を終了します。

表示されるメッセージ一覧

エラー・メッセージ一覧

メッセージ	意味	対処
SD card format error!	SDカードのフォーマットに失敗しました。	SDカードを正しく挿入してください。 SDカードのロックを解除してください。
Incorrect file!	バックアップ・データまたはキット・バックアップ・データが壊れています。	このデータは使用しないでください。
MIDI buffer full!	大量のMIDIメッセージを短時間の間に受信したため、処理できません。	外部MIDI機器を正しく接続していることを確認してください。それでも直らないときは、V31へ送信するMIDIメッセージの量を少なくしてください。
MIDI offline!	MIDIケーブルが抜けました（または、何らかの原因で外部MIDI機器との通信が途切れました）。	MIDIケーブルの抜けや断線がないことを確認してください。
No backup data!	バックアップ・データがSDカードにありません。	–
No data!	録音データが存在しないソングをエクスポートしようとしました。	録音データが存在するソングをエクスポートしてください。
SD card not inserted!	SDカードがSDカード・スロットに差し込まれていません。	SDカードを正しく挿入してください。
Rec data exists. Change rec number or check overwrite.	選んでいる録音先に録音データが存在します。	録音先を変更するか、録音データを上書きする設定にしてください。 ➡「SMF録音する（DRUM REC）（P.60）」
Rec data full!	ソング・レコーダーの記憶容量がいっぱいになり、録音を停止しました。	–
	1つのソングに録音できる最大録音音数を超えたため、録音を停止しました。	
Rec length too long!	録音できる長さの上限を超えたため、録音を停止しました。	DRUM RECでは、演奏情報を小節単位で録音しています。 DRUM REC録音時のクリック設定で、テンポを下げるか拍子を大きくしてください。 ➡「クリックを鳴らす（P.34）」
		短い曲に変更（編曲）してください。
Song data too long!	最大録音時間の60分を超えたため、録音を停止しました。	–
Temporary memory full!	テンポラリー・メモリーで録音できる時間を超えたため、録音を停止しました。	–
Sample length too long!	オーディオ・ファイルが長すぎるため、取り込みできません。	180秒以上のファイルは取り込めません。
Sample length too short!	オーディオ・ファイルが短すぎるため、取り込みできません。	1秒未満のオーディオ・ファイルは取り込めないことがあります。
SD card is locked!	SDカードがロックされています。	SDカードのロックを解除してください。
	ファイル属性が読み取り専用になっています。	ファイルが書き込み禁止になっていないか確認してください。

メッセージ	意味	対処
SD card media error!	SDカードの内容が壊れています。	SDカード内の必要なデータをコピーしてから、SDカードをV31でフォーマットしてください。それでも改善しない場合は、別のSDカードで試してください。 ➡「SDカードを初期化する（P.202）」
	録音データの保存に失敗しました。	SDカードのロック状態を確認してください。
	ソングのエクスポートに失敗しました。	ファイルが書き込み禁止になっていないか確認してください。
SD card full!	SDカードに空き容量がありません。	不要なデータを削除してください。 ➡「バックアップ・データをSDカードから削除する（DELETE／DEL 1 KIT）（P.215）」
Unsupported format!	本機でサポートされていないフォーマットです。	再生できるファイルのフォーマットかどうか確認してください。 ➡「V31で再生できるオーディオ・ファイル（P.54）」 ➡「オーディオ・ファイルを取り込む／鳴らす（USER SAMPLE）（P.124）オーディオ・ファイルを取り込む／鳴らす（USER SAMPLE）オーディオ・ファイルを取り込む／鳴らす（USER SAMPLE）（P.124）」
User Sample doesn't exist!	ユーザー・サンプルが存在しません。	ユーザー・サンプルが存在する場所を選んでください。
User Sample already exists!	ユーザー・サンプルが存在します。	ユーザー・サンプルを削除するか、空いている場所を選んでください。
User Sample import error!	インポート対象のオーディオ・データが壊れています。	このオーディオ・データは使用しないでください。
	SDカードの内容が壊れています。	このSDカードは使用しないでください。
User Sample memory error!	ユーザー・サンプルを含む、バックアップ・データまたはキット・バックアップ・データが壊れています。	このデータは使用しないでください。
	SDカードの内容が壊れています。	このSDカードは使用しないでください。
	空のユーザー・サンプルが割り当てられています（1 KIT SAVEのときのみ）。	空のユーザー・サンプルが割り当てられているドラム・キットは、1 KIT SAVEできません。
User Sample memory full!	ユーザー・サンプルの空き容量がありません。	不要なユーザー・サンプルを削除してください（P.53）。
User Sample unsupported format!	ユーザー・サンプルとして本機でサポートされていないフォーマットです。	本機でサポートされているフォーマットにしてください。
USB offline!	USBケーブルが抜けました（または、何らかの原因でUSBの通信が途切れました）。	意図せずこのメッセージが表示された場合は、USBケーブルの抜けや断線がないことを確認してください。
Change Audio Routing to LOOPBACK!	Audio RoutingをLOOPBACKに切り替えました。	「LOOPBACK」では、パソコンとV31のそれぞれの設定によっては、USBオーディオの入力と出力が短絡され、意図せず大きな音が出る可能性があります。ご利用される場合は十分ご注意ください。
Change Audio Routing to NORMAL!	Audio RoutingをNORMALに切り替えました。	ー

メッセージ	意味	対処
Incorrect license! Remove the license.	ロードしようとしているデータのライセンス情報と、本機に保存されたライセンス情報が一致しません。	ロードしようとしているデータが正しいものか確認してください。または、Remove Licenseを実行して本機に保存されたラインセンス情報を削除してください。 本機にライセンス情報が保存されている場合、異なるライセンス情報を持つデータをロードすることができません。 ➡「Roland Cloudのライセンス情報も含めて工場出荷状態に戻す（P.232）」
Image import error!	SDカード内の画像ファイルが壊れています。	このデータは使用しないでください。
	SDカード内の画像ファイル形式が本機でサポートされていないフォーマットです。	本機でサポートされているフォーマット（.png）にしてください。 ※ インターレース方式で保存されたPNGファイルには対応していません。
Image size is too large!	画像ファイルが大きすぎるため、取り込みできません。	画像サイズを変更して取り込んでください。
Image size is too small!	画像ファイルが小さすぎるため、取り込みできません。	画像サイズを変更して取り込んでください。
The Expansion rack is full!	インストゥルメント・エクスパンション／キット・パックの空き容量がありません。	不要なインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックをアンインストールしてください。 ※ プリインストールされたインストゥルメント・エクスパンションはアンインストールできません。
This Instrument Expansion has expired!	インストゥルメント・エクスパンション／キット・パックの認証が切れたため、使用できなくなりました。	Roland Cloudのメンバーシップの有効期限が切れたり、途中解約したりした場合は、Roland Cloud Connectからインストールしたインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックは使用できなくなります。 Roland Cloudアカウントのメンバーシップの状態を確認し、本機をWi-Fi接続してください。
This Kit Pack has expired!		
This data cannot be loaded into this module.	本機でロードできないバックアップ・データです。	対応しているデータを選んでください。
This data cannot be loaded with the current firmware version.	現在のプログラムのバージョンではロードできないバックアップ・データです。	本機のプログラムをアップデートしてください。
Wi-Fi Connection Error:Incorrect license! Setup Wi-Fi using the installed license or remove the license.	Wi-Fi設定をしたRolandアカウント情報が、本機にインストールしたコンテンツのユーザー・ライセンスと一致しないため、Wi-Fiに接続できません。	以前にコンテンツをインストールしたアカウントを使用してください。 またはRemove Licenseを実行してください。 ➡「Roland Cloudのライセンス情報も含めて工場出荷状態に戻す（P.232）」 詳しくは、別紙『Roland Cloud Connectセットアップ・ガイド』をご覧ください。
Wi-Fi Connection Error:Unregistered device! Setup Wi-Fi again.	Wi-Fi設定をしたRolandアカウントでデバイス登録が削除されています。	再度Wi-Fiのセットアップをしてください。 詳しくは、別紙『Roland Cloud Connectセットアップ・ガイド』をご覧ください。

その他のメッセージ

メッセージ	意味	対処
USB Driver The modified settings will become effective after restart.	USBドライバーの設定は、本機を再起動すると設定の変更が反映されます。	本機を再起動してください。
Layer Mode: HI-HAT Only available when you assign a Synth Wave or an ONESHOT User Sample to the hi-hat.	Layer Mode「HI-HAT」は、ハイハットのレイヤーにSynth WaveまたはONESHOTのユーザー・サンプルをアサインしたときのみ有効です。	–

トラブルシューティング

症状	確認事項	対処	ページ
音に関するトラブル			
特定のパッドの音が出ない	各パッドやペダルにケーブルが正しく接続されていますか？	接続を確認してください。	➡「リア・パネル（接続する）（P.19）」
	インストゥルメントが「OFF」になっていませんか？	インストゥルメントを割り当ててください。	➡「インストゥルメントをエディットする（INSTRUMENT）（P.75）」
	インストゥルメントの「Volume」が下がっていませんか？	インストゥルメントの「Volume」を調節してください。	➡「パッドの音量やパンを設定する（PAD VOL）（P.88）」
	レイヤー・スイッチ（A～C）がオフになっていませんか？	レイヤー・スイッチをオンにしてください。	➡「インストゥルメントを重ねて鳴らす（レイヤー）（P.83）」
	「OUTPUT」は正しく設定されていますか？	「OUTPUT」の設定を確認してください。	➡「音の出力先を設定する（OUTPUT）（P.220）」
	フェーダーが下がっていませんか？	フェーダーを調節してください。	➡「基本操作（P.25）」
	ユーザー・サンプルが削除されていませんか？	パッドに割り当てられているユーザー・サンプルを削除すると、音が出なくなります。 もう一度ユーザー・サンプルを取り込むか、他のインストゥルメントを割り当ててください。	➡「オーディオ・ファイルを取り込む／鳴らす（USER SAMPLE）（P.124）」
	パッドの「トリガー・タイプ」は正しく設定されていますか？	パッドの「トリガー・タイプ」を設定してください。	➡「トリガーの設定（P.154）」
	TRIGGER IN端子またはDIGITAL TRIGGER IN端子に、接続ケーブルが正しく接続されていますか？	接続を確認してください。	➡「リア・パネル（接続する）（P.19）」
音が出ない／音が小さい	本機と外部機器が正しく接続されていますか？	接続を確認してください。	➡「リア・パネル（接続する）（P.19）」
	本機の音量が下がっていませんか？	適正なレベルに調節してください。	➡「基本操作（P.25）」
	接続しているアンプ内蔵スピーカーのボリュームが下がっていませんか？		–
	オーディオ・システムの入力切り替えは正しいですか？	オーディオ・システムを確認してください。	–
	MIX IN端子に接続した機器のボリュームは下がっていませんか？	適正なレベルに調節してください。	–
	本機の入力レベルが下がっていませんか？	［BACKING］つまみを回して適正なレベルに調節してください。	➡「トップ・パネル（P.15）」

症状	確認事項	対処	ページ
	「Local Control」が「OFF」になっていませんか？	通常は「ON」に設定します。	(*1)
TRIGGER IN端子に接続したパッドを叩いても音が出ない／トリガーが反応しない	DIGITAL TRIGGER IN端子に接続したパッドを、TRIGGER IN端子に接続したパッドと同じトリガー・インプットに割り当てると、TRIGGER IN端子に接続したパッドの音は出力されません。	DIGITAL TRIGGER IN端子からパッドの接続ケーブルを抜いてください。	➡「リア・パネル（接続する）（P.19）」
DIGITAL TRIGGER IN端子に接続したパッドを叩いても音が出ない／トリガーが反応しない	トリガー・インプットを正しく設定していますか？	パッドを接続したら、どのトリガー・インプットで鳴らすか設定してください。	➡「トリガーの設定（P.154）」
	カーボン製や金属製のスティックを使っていませんか？	木製や樹脂製のスティックをお使いください。カーボン製や金属製のスティックを使うと、センサーが誤動作することがあります。	–
	金属製のブラシを使っていませんか？	ナイロン製のブラシをお使いください。金属製のブラシを使うと、センサーが誤動作したりパッドを傷付けたりすることがあります。	–
SDカードに関するトラブル			
SDカードを挿入しても認識されない／データが見えない	正しくフォーマットされていますか？	本機でSDカードをフォーマットしてください。	➡「SDカードを初期化する（P.202）」
	本機に対応しているSDカードを使用していますか？	本機に対応したSDカードをご使用ください。	➡「サイド・パネル／フロント・パネル（P.17）」
MP3／WAVファイルが再生できない	MP3ファイルのサンプル・レート、ビット・レート、WAVファイルのサンプル・レート、量子化ビット数は本機に対応していますか？	本機に対応したMP3／WAVファイルをご使用ください。	➡「V31で再生できるオーディオ・ファイル（P.54）」
	高いビット・レートのMP3で再生速度を上げると、再生が間に合わない場合があります。	–	–
A-Bリピートの時刻設定が正しくできない	MP3ではA-Bリピート区間を正しく再生することができない場合があります。	–	–
オーディオ･ファイルが鳴らない／取り込めない	オーディオ・ファイルの形式は正しいですか？	オーディオ・ファイルの形式、ファイル名、拡張子を確認してください。	➡「V31で再生できるオーディオ・ファイル（P.54）」
	オーディオ･ファイルの置き場所は正しいですか？	オーディオ･ファイルの置き場所を確認してください。	➡「パソコンからSDカードにオーディオ・ファイルを保存するときは（P.53）」
	多数のオーディオ・ファイルをフォルダー内に置いていませんか？	フォルダー内のオーディオ･ファイルは、200個以下にしてください。	–
USBに関するトラブル			
パソコンと接続できない	USBケーブルが正しく接続されていますか？	接続を確認してください。	➡「リア・パネル（接続する）（P.19）」
	3ch以上のUSBオーディオを送受信しようとしていませんか？	3ch以上のUSBオーディオを送受信するには、USBドライバーのインストールが必要です。 パソコンにUSBドライバーをインストールしてください。	➡「USBドライバーの設定をする（P.134）」
	USB 2.0対応のケーブルを使用していますか？	USB 3.0対応のケーブルは使用できません。USB 2.0対応のケーブルを使用してください。	–

症状	確認事項	対処	ページ
	「Driver Mode」は正しく設定されていますか？	使いかたに応じて変更してください。	➡「USBドライバーの設定をする（P.134）」
MIDIに関するトラブル			
音が出ない	MIDIケーブルが正しく接続されていますか？	接続を確認してください。	➡「リア・パネル（接続する）（P.19）」
	MIDIチャンネルは合っていますか？	本機と外部MIDI機器のMIDIチャンネルを合わせてください。	（*1）
	ノート・ナンバーは合っていますか？	パッドの「NOTE NO.」を設定してください。	（*1）
その他のトラブル			
オート・オフ機能を設定していても、自動で電源が切れない	パソコン／スマートフォンと本機をUSBで接続していませんか？ パソコン／スマートフォンと本機をUSBで接続していると、自動で電源は切れません。	–	–

*1：『データ・リスト』（Web）をご覧ください。

主な仕様

ドラム・キット数	200（プリセット：70以上）
音色数	1,000以上
エフェクト	レイヤー・トランジェント：レイヤーごと レイヤー・イコライザー：レイヤーごと パッド・イコライザー：パッドごと（Head、Rim別） パッド・コンプレッサー：パッドごと（Head、Rim共通） オーバーヘッド・マイク・シミュレーター ルーム／リバーブ／キット・レゾナンス バス・エフェクト：4系統（1系統につき2つ同時使用可／サイド・チェイン機能付）、94種類 バス・リバーブ マスター・コンプレッサー マスター・イコライザー
ユーザー・サンプル	ユーザー・サンプル数：最大500（製品出荷時のユーザー・サンプルを含む） 音の長さ（合計）：モノ24分、ステレオ12分 取り込み可能なファイル形式：WAV（44.1kHz、16／24ビット）
ソング・プレーヤー（SDカード）	オーディオ・ファイル：WAV（44.1kHz、16／24ビット）、MP3
レコーダー	**DRUM REC** レコーディング方法：リアルタイム 最大記憶音数：約40,000音 書き出しファイル形式：WAV（44.1kHz、16ビット）、SMF **AUDIO REC** レコーディング方法：リアルタイム、最大録音時間＝60分（一時録音：1分）（*1） ファイル形式：WAV（44.1kHz、16ビット） （*1）録音には、SDカードが必要です。SDカードがない場合、約1分間の一時録音はできますが、本体への保存はできません。
ディスプレイ	グラフィック・カラーLCD 4.3インチ

外部メモリー	SDカード（SDHC対応）
接続端子	TRIGGER INPUT端子×1（キック、スネア、タム1、タム2、タム3、ハイハット、クラッシュ1、ライド、ライド・ベル、ハイハット・コントロール）（25ピンD-subタイプ）（デジタル接続対応パッドと排他利用） TRIGGER IN端子×2（CRASH 2、AUX/TOM 4）：TRS標準タイプ DIGITAL TRIGGER IN端子×1：USB A MASTER OUT端子（L/MONO、R）：TRS標準タイプ（アンバランス） PHONES端子×1：ステレオ・ミニ・タイプ MIX IN端子×1：ステレオ・ミニ・タイプ MIDI OUT端子 USB COMPUTER端子：USB Type-C（R）（クラス・コンプライアントによるオーディオ、MIDI通信／Rolandドライバーによるオーディオ、MIDI通信） DC IN端子
USBオーディオ録音再生チャンネル数	**ベンダー・モード** サンプル・レート（オリジナル）：44.1kHz サンプル・レート（サンプリング・レート・コンバーター使用）：96kHz、48kHz 録音：30チャンネル 再生：32チャンネル **ジェネリック・モード** サンプル・レート（オリジナル）：44.1kHz 録音：2チャンネル 再生：2チャンネル
電源	ACアダプター
消費電流	1,100mA
オフ・モード（自動的に電源が切れた状態）の消費電力	0.22W
外形寸法	316（幅）×246（奥行）×97（高さ）mm
質量	2.2kg
付属品	クイック・スタート（保証書含む） Roland Cloud Connectセットアップ・ガイド ACアダプター（PSB-7U） 専用接続ケーブル 音源マウンティング・プレート・セット 「安全上のご注意」チラシ
別売品	パッド：PDシリーズ、PDXシリーズ、PDQシリーズ、BT-1 シンバル：CYシリーズ、CYQシリーズ キック：KDシリーズ、KDQシリーズ、KTシリーズ ハイハット：VHシリーズ ハイハット・コントロール・ペダル：FDシリーズ アコースティック・ドラム・トリガー：RTシリーズ パーソナル・ドラム・モニター：PMシリーズ Vドラム・アクセサリー・パッケージ：DAP-3X Vドラム・マット：TDMシリーズ ノイズ・イーター：NEシリーズ

※ 本書は、発行時点での製品仕様を説明しています。最新情報についてはローランド・ホームページをご覧ください。

使用上のご注意

「使用上のご注意」については、『安全上のご注意』チラシと『クイック・スタート』をご覧ください。

V31

リファレンス・マニュアル

03

ローランド株式会社

〒431-2103 静岡県浜松市浜名区新都田1-6-4

© 2025 Roland Corporation